怒。元載怡然。朝恩曰。怒者常情。笑者不可測也。朝政有不預者。輒怒曰。天下事有不由我者邪。上聞之。不懌。載乘間奏其專恣不軌。遂誅之。○七年。盧龍將殺朱希彩。而以朱泚領鎮。詔因授之。○九年。朱泚以弟滔領鎮。而入朝。○十二年。有告元載圖不軌者。案問賜死。籍其家。胡椒至八百斛。他物稱是。○以楊綰常亮同平章事。綰素清儉。制下。郭子儀方宴。減坐中聲樂五分之四。京兆尹黎幹。騶從甚盛。即日省之。止存十騎。綰相三月而卒。上痛悼之。曰。天乎。不欲朕致太平。何奪朕楊綰之速也。○十四年。田承嗣卒。姪悅代之。○淮西將李希烈逐節度使。詔因以鎮授希烈。○上在位十八年。改元者三。曰。廣德。永泰。大曆。崩。太子立。是爲德宗皇帝。〔字解〕（觀軍容使）軍の標子を觀る役なり（相州之敗）肅宗の時なり（鼎覆餗）易の語にて鼎の足が折れて其中にある君のこながきを覆へすとて大臣が任にたへざるを云ふ言葉なりとす（恬然）笑ふ樣子（不軌）道ならぬこと（竊）沒入なり（胡椒）藥味にて用ゆること至て些少なるものとす（清儉）心清く財を儉約するなり（騶從）供廻り（節度使）〔講義〕大曆の三年に幽州の大將なる朱希彩は李懷仙を殺したれば詔して希彩を以て鎮を領させたり同じ五年に宦者李忠臣丸節度使が相州にて敗軍せしは丁度此時なりさて廣德の初に至り天下の觀軍容宣慰處置使となり專一に近衛の總督となり朝恩の權勢は朝廷及び地方をも押し傾ける計りなりさて又大曆の初めに國子監と云ふ役となり講坐に上り易の中なる鼎の足が折れて君の食物を覆へすと云ふ處を講義し時の大臣が其職に任ずるに堪へざることを謗れり此時の大臣なる王縉は立腹せしに元載の方は笑へり因て朝恩はさて立腹するハ常鬼みの人情なるが笑ふ者の心は測られざるなりと云へりさて朝廷の政事にて朝恩に關係せず行ふことあれば朝恩ハいつも立腹し天下の事柄にて我れに由らぬものあらんやと云へりさて帝は此事を聞き喜ばざりしが載は隙を見合せて朝恩が我儘にて道ならぬことを奏上せしゆへとうどう殺されたり同じ七年に盧龍の大將が朱希彩を殺し朱泚を以て鎮

を領せさせたれば詔して節度使を授けたり同じ九年に朱泚が弟なる滔を以て鎮を領せさせ自分は入朝せり同じ十二年に元載が道ならぬことを企つを密告する者ありたれば取り調へて元載を殺し其家財を沒收せしに些少づゝ藥味に仕ふ胡椒さへも八百石ありて其他の器物食物は皆此胡椒に對し相當するだけ多くありたりさて楊綰と常袞とを以て同平章事となせり綰ハ元より心清く儉約なれば任命の令が下りたるとき丁度郭子儀は酒宴せしに俄かに坐中の音樂方の五分の四を減少せり又京兆の尹なる黎幹は供廻りが甚だ盛んなりしが其日より減少して只十騎の供人を殘せり綰ハ大臣たること三ケ月にて死去せり帝は惜み歎き天なるかな我れが太平をなすを望まれぬか何とて我楊綰を奪はるゝの速なるやと云へり同じ十四年に田承嗣が死去し姪なる悅が代り節度使となれり又淮西の大將なる李希烈は節度使を追ひ出したれば詔し鎮を以て希烈に授けりさて帝は在位十八年にて改元するものは三つ廣德永泰大曆と云ふ帝死去し太子が立てり是れを德宗皇帝と云へり

〔德宗皇帝〕名适。自雍王爲太子。至是卽位。○常袞以欺罔貶。崔祐甫同平章事。祐甫欲收時望。未二百日。除官八百人。上曰。人謗卿所用多涉親故。何也。對曰。臣爲陛下擇人。不敢不愼。非親非故。何以諳其才行而用之。○淄青李正己畏上威名。表獻錢三十萬緡。崔祐甫請遣使慰勞淄青將士。因以賜之。正己慚服。天下以爲太平庶幾可望。○上方勵精求治。不次用人。祐甫薦楊炎。自司馬除爲同平章事。既而祐甫病。不視事。○建中元年。始作兩稅法。唐初賦斂之法。有田則有租。有身則有庸。有戶則有調。玄宗之末。版籍寖壞。至德兵起。所在賦斂。迫趣取辦。無復常準。下戶不勝困弊。率皆逃徙。至是楊炎建議。先計州縣每歲所用及上供之數。而賦於人。量出以制入。戶無主客。以見居爲簿。人無丁中。以

貧富。爲差。爲行商者。在所州縣。稅三十之一。居人之稅。秋夏兩徵之。其租庸調雜徭。悉省。○崔祐甫卒。○殺忠州刺史劉晏。晏善治財計。自肅宗代宗以來。領戶部度支鑄錢鹽鐵轉運等事。以同平章事充使。通漕運。斡鹽利。制百貨之低昂。軍國之用。賴以充足。然久典利權。衆頗疾之。又與楊炎不相悅。竟貶忠州。人希炎旨。告晏怨望。上遣人縊之。○二年成德李寶臣卒。子惟嶽自領軍務。後王武俊斬而代之。○楊炎盧杞同平章事。炎未幾罷。杞藍面鬼色。口辯。上悅之。○尙父大尉中書令汾陽忠武王郭子儀卒。子儀以身爲天下安危者三十年。功蓋天下。而主不疑。位極人臣。而衆不疾。嘗遣使至魏博。田承嗣西望拜之。曰。茲膝不屈於人久矣。今爲公拜。校中書令。凡二十四考。家人三千人。八子七壻皆顯。諸孫數十人。每問安。不能盡辨。頷之而已。年八十三而終。〔字解〕

(歎問)おざなきくらます(涉親故)親類や故人に係ること(勗猜)精を勵むこと(不次)次第に拘はらぬこと(兩稅)夏秋に二度に收むること(賦斂)分つけ取立るを云ふ(至德)肅宗の年號(迫趣)せまりうながすこと(上供)貢ぎもの(見居)現在の住者(雜徭)雜稅(稅なり(斡)しんとなること(藍面鬼色)青く死人の樣なる顏色なり(尙父)父と尊敬すること(二十四考)一考は一年にて官吏の手柄を考へ上下の區別を付け進退するを云ふ(頷)孫が多く雖の子やら分らぬゆへ只うなづく計りにて語もせぬこと

〔講義〕德宗皇帝は名を迫と云ひ雅王より太子となり茲に至りて位に即けり常袞は欺き督ますにより落され崔祐甫が同平章事となれり祐甫は一時の人望を取らんと思ひまだ二百日もならぬに人を役に付けること八百人なり因て帝は世の人は皆多くは君の親類故人に係ると謗るが如何なるやと云へば祐甫は私は陛下の爲めに人物を撰ぶことゆへ十分に氣を付けねばならず因ては親類故人にわらざれば何とて其人の才能と品行とを詳にて知り用ゆるなと出來んやと云へりさて淄青なる李正巳は帝の威名を恐れ上表して錢三十万貫を獻上せり因て崔祐甫は帝に乞ひ使をやりて淄青の大將士共を慰勞し又世万貫を下賜したれば正巳は大ひに耻ぢて心服せり因て天下の人民は斯る賢才が大臣となるゆへ太平は望まれるに近きしと思へりさて帝は丁度精神を勵みて政治をなし次第に拘はらず人物を登用せり因て祐甫は楊炎を薦舉し司馬と云ふ役より同平章事に上げられたり其後祐甫は病氣にて事務を執らざりし建中の元年に始めて夏秋兩稅の法を行へり全体唐の初めの割付け取立ての法は田地があれば租があり人身があれば賦役があり人戶があれば戶稅がありしが玄宗の末年に戶籍が紊々と不明瞭になり又至德の時には軍が起り所々の取立て は只せまり督促して一時の都合を合せ又常に一定の規則なく小民は困窮塗炭にしんぼうすること出來ず大体皆逃亡したり引落りたり因て茲に至り楊炎は建白して先づ州や縣の年々の入用及び上に差出す貢きもの數を勘定し其金高を本として人民に割り付けせまり入用を見積りて取立ての數を定めり其法は人戶があれば戶主と客との區別なく現在の住人を以て戶籍に書き上げ人民は丁年と中男との區別なく只貧乏と富有とを以て等級を付く旅ひ商人は行く先きの州縣にて三十分の一の所得稅を取り又定住者の稅は夏秋の兩度に取り立て是れまでの田租賦役戶稅雜種稅を皆止めたりさて崔祐甫は死去せり此年忠州の刺史なる劉晏を殺せり晏は能く財產の會計を治め肅宗代宗の時より以來戶部度支鑄錢鹽鐵轉運などの事を支配し同平章事の格にて前の各使の長となり舟運漕を通し食鹽の利を本となりて取扱ひ百物の直段の高低を制定し軍事政事の入用も此晏の手柄により十分なりし然るに久しき間斯る利益の本を支配せしことゆへ大勢の苦に大增そねみ惡まれ又楊炎と不中なるゆへつまり忠州の刺史に落されしが又入あり て炎の怒嫌を取らんと思ひ晏は大ひに怨みを懷くと讒言せしに帝は信用し人をやりて晏を絞り殺させたり同じ二年に成德の李寶臣が死去し子なる惟嶽が自分にて軍務を領せしが後に王武俊が切り殺して代れり楊炎と盧杞とが同平章事となりまだ何程もなく炎は止めたり杞は藍面にて鬼色なるが辯舌ありて帝は大ひに氣に入れりさて尙父の太尉中書令の汾陽忠武王なる郭子儀は死去せり子儀は一身を以て天下の安きと危きとをなすこと三十年にて手柄は天下を覆ひそうして天子も疑はず位は人臣の極度に上りそうして大勢も惡まず或る時使をやりて魏博に至りたれば其節度使なる田承嗣は西の方を望みて拜禮し此膝は人に向ひて屈めざること久しきが今は公の爲めに拜禮するなりと云へり子儀は中書令となり官吏の功績を考へ調へること二十四年にて家族は三千人もあり八人の子と七人の壻の夫は皆世に顯はれ諸の孫は數十人ありたれば孫が機嫌を伺う毎に悉く誰の子と云ふことが分らざるゆへ子儀は只うなづく計りなりしさて子儀は年が八十三にて終りたり

○平盧李正巳卒。子納自領鎭。朱滔田悅王武俊。李納。先後皆反。○三年。四人皆自稱王。○李希烈反。○兩河用兵。府庫不支數月。先括富商錢。增諸道稅。四年。行稅間架除陌錢等法。○李希

烈寇襄城。詔發涇原等道兵。救之。涇原節度使姚令言。將兵過京師。犒師。惟糲食菜飯。衆怒。作亂入城。上出奔。亂兵奉太尉朱泚爲主。司農卿段秀實謀誅泚。不克。泚召衆議稱帝。秀實唾其面。大罵。以笏擊泚額。血濺地。泚殺之。遂僭號大秦皇帝。先是有術士桑道茂。言數年後有離宮之厄。奉天有天子氣。宜高大其城。以備非常。上從之。至是遂奔奉天。泚犯奉天。李晟率兵赴援。渾瑊擊泚破之。奉天圍解。李懷光赴難。亦破泚兵。至奉天。欲入白盧杞之姦。杞隔之。不得入見。而行。上表暴杞惡。衆論亦喧騰。咎杞。上不得已。遠貶之。○興元元年。大赦。陸贄勸上罪己以謝天下。奉天所下書詔。驕將悍卒。聞之無感激揮涕。王武俊。田悅。李納。上表謝罪。○李希烈僭號大楚皇帝。○置瓊林大盈庫於行宮。陸贄諫去其榜。○李懷光反。上奔梁州。○魏博田緒。殺田悅。自領軍府。○李晟克復長安。朱泚走。其將斬之以降。晟露布至行在。曰。臣已肅清宮禁。祇謁寢園。鐘虡不移。廟貌如故。上覽之泣。曰。天生李晟。以爲社稷。非爲朕也。○車駕還長安。○顏眞卿爲李希烈所殺。先是眞卿爲盧杞所陷。遣奉使希烈所。人言失一元老。爲國家羞。至賊中。留之。將二歲。不屈。竟爲賊所縊。○貞元元年。盧杞量移。將再入而卒。○幽州朱滔卒。○馬燧及諸軍平河中。李懷光縊死。○二年。淮西將陳仙奇。殺李希烈。以降。吳少誠殺仙奇。朝廷因以少誠領鎮。〔字解〕（四人）滔と悅と武俊と納となり（府庫不支）金庫の金錢にて持ちてたへられぬを云ふ（括）調へ取り立つること（稅間架）家の柱の間を架となす是れを間と云ふ上月の一間架に付き錢二千中戶の一間架に付き錢一千下戶の一間架に付き錢五百の稅を取るなり（除陌錢）我國德川の時九十六文を以て百文とするの類にて唐は始め九十八文とし又九十五文とせしなり（犒）軍人に食物をあたへること（糲食）くろ米の飯（菜餚）菜と溫飩なり（離宮之厄）天子が宮を出るの禍なり（喧騰）わき立つこと（瓊林大盈）二つの倉の名とす（榜）札なり（其將）麾庭芳なり（露布）戰勝の次第を帛に書し竿に付け公やけに示し報告するもの（祇謁）離んで拜謁するの意（寢園）陵なり（鐘虡）廟處の鐘や鐘掛け（廟貌）廟所の樣子とす（元老）大老にて國家の老成の名臣なり（量移）一旦謫流したる者の罪を量り免して或は近く召し歸し又京都に呼び戻すなど總て謫所より移すを云ふ

〔講義〕さて平盧の節度使なる李正己は死去したれば子なる納が自分にて鎭を支配せり此時朱滔と田悅と王武俊と李納との四節度は皆反し同じ三年に此四人は皆自分にて王と稱せり此時李希烈も亦謀反せり斯く河南河北の地に軍起りたれば朝廷の金庫の金にて不足することを數月に及びたれば先づ第一に大ひなる富有商人の金錢を調へて取り立て又諸道の稅を增加せり同じ四年に家の間口稅と九五錢の法とを行へりさて李希烈は襄城を攻めたれば詔して涇原節度使なる姚令言は兵を引き連れて京師を過ぎしが軍人を驕走するに只黑米飯と菜と溫飩と計りなれば大勢は立腹して亂を起し城に入りたれば帝は出奔せりさて亂兵は太尉なる朱泚を立て、主となしたるが司農卿なる段秀實は泚を殺さんと企てしが成らざりし泚は大勢を召して帝と稱するを評議せしに秀實は泚の顏に唾を吐き掛け大ひに罵り笏を以て泚の額を打ちたれば血は流れて地に注げり因て泚は秀實を殺しとうとう大秦皇帝と僭號せり是れより以前に道術の士なる桑道茂は數年の後に天子が宮を出るの禍あり又奉天には天子の城を高く大ひになして非常の時の用心とせられよと云へり因て帝は其言葉に從ひたりさて此度に及びとうとう奉天に出奔せしに泚は奉天を攻めたり時に李晟は兵を引き拔ひに來り渾瑊も泚を打て破り奉天の圍みも解けたり李懷光も雜に赴き又泚の兵を破り奉天に至り入りて盧杞の姦邪なることを奏上せんと思ひしに杞は知りて隔て入見することを許さぬゆへ立ち去り上書して杞の惡事を云ひ露はし衆論も亦頗ぶ立ちて杞を咎めたれば帝も己むを得ずして遠く流せり興元の元年に大赦を行へり此時陸贄は帝に勸めて自分を罪に行ひて天下に謝罪せよと云へりさて奉天より下したる詔書は高振りたる大膽も氣强き兵卒も感激して涙を流さぬはなかりし因て王武俊田悅李納は上表して罪を詫びたりさて李希烈は大楚皇帝と僭號せり帝は瓊林大盈と云ふ庫を行宮に建てたるが陸贄は諫めて其札を取り去りたり又李懷光は謀反せしゆへ帝ハ又梁州に出奔せり魏博の田緒は田悅を殺し自分にて軍府を支配せ

りさて李晟は長安に歸ちて取戻したれば朱泚は逃げ走り其大將に切られ其將梁庭芬は降參せり因て晟の公示上表が行在所に來り其言葉は私は謹んで宮禁を清よめ謹んで陵園に謁せり因ては鎧冑も移り替らず廟の樣子も元の通りなりと云へり帝に見て涙を流し天は李晟を生みて國家の爲めにし我れ計りの爲めにするにわらずと云へり是れより車駕は長安に歸れりさて顏眞卿は李希烈の爲めに殺されたり是れより以前に眞卿は盧杞の爲めに禍に落され李希烈の處に使にやられたり此時世の人は國の大老を失ひ國家の爲めに恥づるなりと云へりさて眞卿は賊中に至りしに留められるゝ事二年程なりしも屈從せざるゆへどうせう賊の爲めに絞り殺されたり貞元の元年に盧杞は罪を免し謫所を移り再び宗に入らんとせしに丁度死去せり又幽州の朱滔は死去せり馬燧及び諸軍は河中を平げたれば李懷光を絞死せり同じ二年に淮西の大將なる陳仙奇は李希烈を殺して降參せしに吳少誠は又仙奇を殺せり因て朝廷は少誠に鎮を支配させたり

○三年。張延賞同平章事。先是吐蕃尙結贊。據鹽夏州。李晟嘗破其一堡。渾瑊。馬燧。各舉兵臨之。懼而請和。卑辭厚禮。求於馬燧。燧信而請於朝。晟曰。戎狄無信。不如擊之。延賞與晟有隙。數言和便。遣渾瑊。與吐蕃盟。於平涼。吐蕃刼盟。瑊走免。吐蕃畏晟燧瑊。曰。去此三人。則唐可圖也。於是離間晟。因燧以求盟。欲執瑊以賣燧。使併得罪。因縱兵直犯長安。會失瑊而止。○李泌同平章事。上與泌從容論。卽位以來宰相。人言盧杞姦邪。朕殊不覺。泌曰。此乃所以爲姦邪也。倘覺之。豈有建中之亂乎。泌有謀畧。而好談神仙詭誕。故爲世所輕。爲相未三歲而卒。

○八年。陸贄同平章事。○九年。大尉中書令西平忠武王李晟卒。○十年。陸贄罷。○十一年。貶贄忠州別駕。贄自奉天以來。宣力最多。隨事論諫。剴切百奏。帝追仇盡言。又被譖。故貶。初夏縣陽城以處士徵。爲諫議大夫。皆想望風采。在職七年而不諫。韓愈作爭臣論譏之。至是判度支裴延齡譖贄。城率諸諫官守闕。論延齡姦佞。贄無罪。時朝夕且相延齡。城曰。脫以延齡爲相。當取白麻壞之。慟哭於庭。遂沮。城左遷國子司業。後又貶道州刺史。治民如治家。自書其考曰。撫字心勞。催科政拙。考下下。○十四年淮西吳少誠叛。○二十一年上崩。在位二十七年。改元者三。曰。建中。興元。貞元。初政淸明者二歲而盧杞用矣。叛亂相尋。末年姑息而已。太子立。是爲順宗皇帝。〔字解〕(堡)取りで(勘盟)盟ひの場所に兵を伏して渾瑊を生け取りにせんとせしなり(贄燧)燧によりて盟を乞ひ因て瑊を生取りにせば燧は自ら罪せらるゝを云ふなり(從容)ゆつたりとすること(倘)若しもなり(建中)德宗の奉天に走る時の年號なり(詭誕)いつはり大增に云ふこと(宣)伸なり(剴切)きびしくすること(追仇)跡より仇とするゝことにて其時は夫れにて濟し議言なをより古きことを皆め立てするなり(風采)樣子なり(白麻)辭令書なり(左遷)役を落すこと(撫字)字は養ふなり(催科)取り立て(姑息)一時安んじにて後の害を顧ぎず其時に事なきをよしとすること

〔講義〕同じ三年に張延賞は同平章事たり是れより以前に吐蕃の大將なる尙結贊は鹽夏州に據り時に事なきをよしとすること籠りたり李晟は或る時其一つの取手を破りたり渾瑊馬燧も夫れ夫れ兵を擧げて攻め向ひたれば結贊は恐れて和睦を乞ひ言葉を下だし禮を手厚くして馬燧に求めたれば燧は信用して朝廷に乞ひたり此時晟は爽は信義なきゆへ打つに越すことなしと云へり然るに同平章事なる延賞は晟と不中ゆへ度々和睦の便利を云ひ渾瑊をやりて吐蕃と平涼にて盟はせしに吐蕃は盟を劫かしたれば瑊は逃げて免かれたりさて吐蕃ハ晟と燧と瑊とを恐れ此三人を殺さバ唐は取ること出來んと云ひ因て晟を中違ひさせ燧に因りて盟ひを求め瑊を生け取りて燧を罪に落し夫れより兵を出して直ぐに長安を攻めんとせしが瑊を取り逃せしゆへ其事を止めたりさて李泌は同平章事となれり帝は泌と從容として卽位より以來の宰相の人物を論じさて人は虛杞は姦邪なりと云ふが我れい殊に其姦邪の處を悟らずと云へば泌は是れが乃ち姦邪なる所にて陛下が若しも姦邪を悟られなば何とて建中の亂はあらんやと云へり泌は謀計衆策ありしが好んで神仙宗敎の詭誕を物語りたるゆへ世の人に輕しめられたりさて宰相となりまだ三年にならずして死去せり同じ八年に陸贄は同平章事となりたり同じ九年に太尉中書令なる西平忠武王の李晟は死去せり同じ十年に陸贄は止め同じ十一年に贄を忠州の別駕に落せり贄ハ奉天より以來力を伸ぶる最も多く事々に付て論し諫め

又諸の奏上を繁しく取讀へたるが帝は以前に飽まで云ひ盡くしたるを跡より皆め又議言せられたるゆへ落されたるなり是れより以前に耳縣の陽城なる人は處士なりしが召されて諫議大夫となれり人々は皆其樣子を思ひ望みしが在職七年に及びても一度も諫めざりし因て諫愈は爭臣論と云ふ文を作りて陽城を謗れりさて此時判度支なる裴延齡は贊を議言せしかば城は諸の諫官を引き連れて宮門に詰め寄せ延齡の姦佞なること〻贊の無罪なること〻を論したり此時今夕か明朝には延齡を宰相とする場合なれば城は若しも延齡を以て宰相とせらる〻ならば我は辭令を裂き破りて朝廷の庭にて慟み泣くなりと云ひとうとう延齡の宰相となるを邪魔せり然るに城は國子司業と云ふ役に落され後又道州の刺史に落されたりさて城は民を治むるは我が家を治むる樣にて或る時自分にて自分の職務の考課を書き人民を安んし養ふことには心を辛勞するも年貢を取り立てる政事は甚だ拙なり故に考課は下の下なりと云へり同し十四年に淮西の吳少誠ハ謀反せり同し二十一年に帝は死去せり在位は二十七年にて改元するものハ三つ建中興元貞元と云へり即位の初めの時政事が清く明かなることは二年にて盧杞が用ひられ夫れより叛亂が相續き末年には只其時安んしの事計りなり太子が立ち是れを順宗皇帝と云へり

〔順宗皇帝〕名誦。方爲太子時。有善書者王伾。善棋者王叔文。俱出入娛侍。因言某可相。某可將。幸異日用之。密詰學士韋執誼。及朝士有名而求速進者。陸淳。呂溫。李景儉。韓曄。韓泰。陳諫。柳宗元。劉禹錫等。定爲死交。日與游處。蹤跡詭秘。莫有知其端倪者。德宗崩。太子即位。先是有風疾失音。五閱月矣。伾。叔文等用事。追陸贄陽城赴京。未至卒。○上在位。改元曰永貞。僅八月。自稱太上皇。傳位於太子。是爲憲宗章武皇帝。字叔文賜死。其黨皆遠貶。○元和元年。西川節度使劉闢反。同平章事杜黃裳薦高崇文討之。○夏州留後楊惠琳。拒朝命。詔討之。爲兵馬使所斬。○高崇文克成都。擒劉闢。送京師斬之。○二年。鎮海節度使李錡反。詔討之。兵馬使執錡送京師斬之。○三年。沙陀朱邪盡忠。與其子執宜來降。沙陀勁勇冠諸胡。吐蕃每戰以爲前鋒。後疑其貳。於回鶻。欲遷之河外。懼而歸唐。詣之靈州。用以征討。皆捷。○自杜黃裳以後。相繼爲相者。武元衡。李吉甫。裴垍。李藩。李絳。皆賢相。垍嘗爲李吉甫。疏人才三十餘。數月用盡。翕然稱爲得人。垍器局峻整。人人不敢干以私。藩嘗爲給事中。制敕有不可者。即批之。吏請更連素紙。藩曰。如此則狀也。何名批敕。垍薦之爲相。知無不言。絳鯁直。吉甫善逢迎。絳每與爭論於上前。上多直絳。時在朝如崔群。白居易等。皆讜讜直。元和之世。朝廷清明以此。○七年。魏博兵馬使田興。請吏奉貢。詔以爲節度使。遣裴度宣慰。賜錢

〔順宗皇帝〕名誦。方爲太子時。有善書者王伾。善棋者王叔文。俱出入娛侍。因言某可相。某可將。幸異日用之。密詰學士韋執誼。及朝士有名而求速進者。陸淳。呂溫。李景儉。韓曄。韓泰。陳諫。柳宗元。劉禹錫等。定爲死交。日與游處。蹤跡詭秘。莫有知其端倪者。德宗崩。太子即位。先是有風疾失音。五閱月矣。伾。叔文等用事。追陸贄陽城赴京。未至卒。○上在位。改元曰永貞。僅八月。自稱太上皇。傳位於太子。是爲憲宗章武皇帝。字叔文賜死。其黨皆遠貶。○元和元年。西川節度使劉闢反。同平章事杜黃裳薦高崇文討之。○夏州留後楊惠琳。拒朝命。詔討之。爲兵馬使所斬。○高崇文克成都。擒劉闢。送京師斬之。○二年。鎮海節度使李錡反。詔討之。兵馬使執錡送京師斬之。○三年。沙陀朱邪盡忠。與其子執宜來降。沙陀勁勇冠諸胡。吐蕃每戰以爲前鋒。後疑其貳。於回鶻。欲遷之河外。懼而歸唐。詣之靈州。用以征討。皆捷。○自杜黃裳以後。相繼爲相者。武元衡。李吉甫。裴垍。李藩。李絳。皆賢相。垍嘗爲李吉甫。疏人才三十餘。數月用盡。翕然稱爲得人。垍器局峻整。人人不敢干以私。藩嘗爲給事中。制敕有不可者。即批之。吏請更連素紙。藩曰。如此則狀也。何名批敕。垍薦之爲相。知無不言。絳鯁直。吉甫善逢迎。絳每與爭論於上前。上多直絳。時在朝如崔群。白居易等。皆讜讜直。元和之世。朝廷清明以此。○七年。魏博兵馬使田興。請吏奉貢。詔以爲節度使。遣裴度宣慰。賜錢

〔講義〕順宗皇帝ハ名は誦と云ひ太子たる時に當り書を能くする者王伾と恭を能くする者王叔文とありて共に東宮に出入し太子に樂みに付き從へり因ては誰は大臣にすること出來き誰は大將にすること出來るゆへ後日位に即かれたるとき採用ありたしと云ひ伾叔文は內々學士なる韋執誼及び朝士の中にて有名にて早く出世を望む者なる陸淳と呂溫と李景儉と韓曄と韓泰と陳諫と柳宗元と劉禹錫などに心を結び日々に相共に游び居り其事の跡はいつはりかくし誰れも其事のはしをも知る者なかりし扨て德宗が死去し太子が位に即きたり是れより以前に帝は風疾ありて聲の出ぬ樣になり五ヶ月なりさて伾と叔文などは政事をなし陰謀と陽城との流されたるをまだ其に來らずして死去せりさて帝は在位中改元して永貞と云ひ僅かに八月にして自分にて太上皇と稱し位を太子に傳へり是れを憲宗章武皇帝と云へり

百五十萬緡。犒其軍。六州百姓皆給復一年。軍受賜。歡聲如雷。成德亮鄆諸鎮使者見之相顧失色。歎曰。倔强者果何益乎。賜興名弘正。〔字解〕（注疏）章執誼陸淳以下（西川）蜀郡なり（沙陀）夷の名（回鶻）回紇と同し（疏）書面にて意味を通ずるもの（得人）吉甫を指すなり（器局）人の器量なり（峻整）さかしくしてと、のうこと（批）批離すること（狀）上書の名（顧直）骨ぐいにして正直なること（逢迎）君の意を先きに迎へ取ること（藹々）直き言葉（宦官）詔をのべて先（講義）憲宗皇帝は名は純と云ひ年二十八にて太子となり國政をきの心をなぐさめるなり（給復）免除なり（倔强）つよばること（講義）監督し何程もなく位に即き王伾王叔文を落せり伾い病死し叔文ハ死を賜ひ其黨類は皆遠く流されたり元和元年に西川の節度使なる劉闢は謀反せり時に同平章事なる杜黃裳は高崇文を薦擧して征伐させたり又夏州の僧後なる楊惠琳は朝廷の命令をこばみたれば詔りして征伐させて高崇文は成都に勝ち闢劉を生け取り京師に送りて切りたり同し二年に鎮海の節度使なる李錡は謀反したれば詔りして征伐させしに兵馬使なる張子良なとは錡を執へて京都に送りて切りたり同し三年に沙陀の朱邪盡忠は其子なる執宜と來り降參せりさて沙陀の强く勇なることハ諸の夷の第一なり因て吐蕃ハ戰爭の度び毎に沙陀を以て先き手となしたるが其後沙陀が回鶻に二た心あるかと疑ひ河外の地に移さんとしたれば恐れて唐に歸服せしゆへ靈州に置き用ひて征伐せしが皆勝ちたりさて杜黃裳より以後に相續て宰相となるものは武元衡と李吉甫と裴均と李藩と李絳とにて皆賢明なる宰相なり埴は或る時李吉甫の爲めに人材を云ひ立ること三十餘人なりしが數月の中に皆用ひたれど人材寄り集りて世の人は實に朝廷ハ賢才あり斯く人材を手に入れたりと云へりさて埴は器量がけはしくして調ひたれば人々は押て私事にて犯し求むるなとなかりき又藩は以前に給事中となりしが敕令中によからぬものれば直ぐに其紙に批離の次第を書きたるに下役人ハ是れは敕書ゆへ別に白紙を續ぎ足して其紙（認めよと乞へば藩はさすれば夫れは上書となるなり何とて批敕と云ふことあらんと云へり埴は藩を薦惡して宰相とせしが藩ハ知りながら云はぬはなかりきさて絳は骨ぐいにて正しく吉甫は帝の前にて事を論じ爭ふ度び毎に帝は多くは絳を直とせり此時朝廷にある淮群白居易なとの如きは皆正しくして直言せり和元の時に朝廷の清く明らかなるは是れが爲めなりし同し七年に勢博の回鶻なる田興は朝廷より地方を治むる役人を出すを乞ひ貢を奉りたれば詔りして田興を節度使となし裴度をやりて宣慰させ錢百五十万貫を賜ひて軍人をねぎらひ其上に六州の人民は皆賦役を一年間免したりさて軍人は下されもの受け歡ぶ聲は雷の樣なり。此時成德李鄆の諸鎮の使者が來り此樣子を見て互に顏見合せ顏色を容へて歎息し强張りたるも何の益あらんやと云へりさて田興に改めて名を弘正と賜へり

○初彰義節度使吳少誠死。弟少陽自領軍府。少陽陰養亡命。少陽死。子元濟自領軍府。縱兵侵掠。及東畿。詔發十六道兵討之。平盧節度使李師道請赦元濟。不許。裴度宣慰淮西行營。還言。淮西可決取。上悉以兵事委同平章事武元衡。師道素養刺客姦人。客請密往刺元衡。則他相必爭勸天子罷兵矣。元衡入朝。賊暗射殺之。又擊傷首。上怒。討賊愈急。以度同平章事。上曰。吾倚度一人。足破賊。命度兼彰義節度使。充淮西宣慰招討使。督諸軍進討。唐鄧節度使李愬先擒賊將丁志良。吳秀琳。李祐。釋而用之。用祐計。雪夜七十里。引兵入蔡州城。擊鵝鴨池。混軍聲。鷄鳴入。據元濟之外宅。元濟登牙城拒戰。已而就擒。檻送京師。斬之。自叛及誅。凡用兵二歲。時元和十二年也。淮西既平。上浸驕侈。先是二歲。已用李逢吉同平章事。至十三年。又用度支使皇甫鎛。鹽鐵使程异進羨餘。有寵。並同平章事。朝野駭愕。元和之政非矣。○十四年。迎鳳翔法門寺塔佛指骨。至京師。留禁中三日。歷送諸寺。王公士民。嚮奉捨施。惟恐不及。侍郎韓愈。上表極諫。乞以投之水火。上大怒。貶潮州刺史。○平盧將執斬李師道。○裴度罷。○十五年。上暴崩。上服金丹多躁。左右獲罪。有死者。人人自危。宦者陳弘志弑逆。其黨諱之。但

言藥發。在位十六年。改元者一。曰元和。太子立。是爲穆宗皇帝。〔字解〕

(彰義)淮西軍の名なり(侯琮)攻略し強奪するなり(東畿)洛陽なり(刺客姦人)人を暗殺さす廻し人なり(鵝鴨池)かもなと が下り居る池なり(混)まぎらすこと(外宅)別邸なり(樞)をり(羨餘)定額のあまりなり(非)悪しくなりたること(嗾奪)わをきわがめるなり(平盧將)田弘正の大將なる劉悟とす(金丹)神仙宗教の調藥

〔講義〕初め彰義の節度使なる吳少誠が死去し弟なる少陽が自分に の名(多躁)心が躁急になること(藥發)藥毒が出たるを云ふ

少陽が死去し其子なる元濟が自分にて軍府を領し兵を放ちて攻め奪ひ洛陽にまで至れり因て詔して十六道の兵を起して征伐せり然るに平盧の節度使なる李師道は元濟を救さんと乞ひしも許さゞりし此時裴度は淮西の行營に宣慰し歸りて上言し淮西は十分に取ること出來ると云ひたれば帝は悉く軍事を以て同平章事なる武元衡に委任せり扨て李師道は元とより人を暗殺する爲めに廻し者を抱へ置きしが彼の暗殺者が内々往て元衡を殺せば他の大臣は屹度天子に勸めて軍を止めんと云へば師道は此事を聞入れたり扨て元衡が入朝のとき賊が暗中より射殺し又裴度を打て首を疵付けたり帝は大ひに立腹し賊を征伐すること一層きびしくなり扨て裴度を以て同平章事となせり帝は我れは度一人により賊を破るに十分なりと云ひ度に命し彰義の節度使を兼ねさせ又淮西宣慰招討使に當て諸軍を都督して進み打ちたり時に唐鄧の節度使なる李愬は先きに賊の大將なる丁志良吳秀琳李祐を生け取り赦して又用ひ祐の計畧を用ひ雪の夜に七十里進み兵を引きて蔡州城に入り鵝鴨の下り居る池を打て鵝鴨をさはがせ其聲にて軍行の音をまぎらせ雞鳴の頃に進んで元濟の別邸に幅龍りたれば元濟は本丸に上りて防き戰ひしが終に生け取りとなり京都に送りて切られたり謀反より殺さるゝまで凡そ兵を用ゆること二年にて此時は元和の十二年なり扨て淮西が已に平らきたれば帝は益々と高振り奢れり是れより二年前に已に李逢吉を用ひて同平章事となし又同じ十三年に至り度支使なる皇甫鎛を用ひたり驕鈇使なる程昇は羨餘を献上して氣に入りたれば此二人は一處に同平章事となりたり因て朝廷も地方も皆大ひに驚き元和の政事も是れより悪しくなりたり同じ十四年に風翔なる法門寺の塔にある佛の指骨を迎へて京都に來り宮禁中に留め置くこと三日にて夫れより諸の寺へ順次ぎに送りたれば王公より士民に至るまで仰ぎ崇び我れをくれしと金錢を施したり此時侍郎なる韓愈は上表して極めて其非を異見し佛骨を水か火の中へ投げ入れんと乞ひたれば帝は大ひに立腹し愈を潮州の刺史に落せり扨て平盧の大將い捕へて李師道を切れり此時裴度は止めたり同じ十五年に帝は俄に死去せり帝は金丹を飲みて心が躁敷なり左右の者が罪せられ殺さるゝ者ありて人々は皆危ぶみたるが宦者の陳弘志はとうとう帝を殺したるに其徒黨の者共は其事を忌み隱し只金丹の藥毒の爲め死去せらると云へり在位は十六年にて改元するものハ一つにて元和と云へり扨て太子が位に即き是れを穆宗皇帝と云へり

〔穆宗皇帝〕名恒。即位。改元曰長慶。四年崩。太子立。是爲敬宗皇帝。〔講義〕

穆宗皇帝の名は恒と云ひ位に即き改元して長慶と云へり四年にして死去し太子が立てり是れを敬宗皇帝と云へり

〔敬宗皇帝〕名湛。即位。荒淫。嬖倖用事。○李德裕獻丹扆。六箴。一曰。宵衣。二曰。正服。三曰。罷獻。四曰。納誨。五曰。辨邪。六曰。防微。○上遊戲無度。性復褊急。宦官動遭捶撻。皆怨。夜獵還宮。酒酣。爲宦者劉克明所弑。在位三年。改元者一。曰寶曆。江王立。是爲文宗皇帝。〔字解〕

(荒淫)品行がわれ淫乱なること(丹扆)赤き小屏風の樣なるものにて帝坐の後に置くもの(箴)いましめの言葉なり(宵衣)夜るまで朝政を聞く時の禮服を着るとて夜も政事を聞くことなり(諫)教なり(褊急)氣の短か

〔講義〕裕は丹扆に記むる六ケ條の戒を献上せり其一は夜るまで朝服を着ること其二ハ衣服を正しきこと(捶撻)打ち叩くこと

くすること其三は献上物を差し止めること其四ハ教へ諫めを受け入れること其五は邪まなる者を見分けること其六は些少なることに心を付け禍を防ぐこと云へり扨て帝は遊び戯れること常の定まりなり生れ付き氣短にて宦者ハ少しのことより打ち叩かれ皆總みたり或る時夜中に獵より歸り酒の中は過ぎなるとき宦者なる劉克明の爲めに殺されたり在位は三年にて改元するものは一つ寶曆と云へり江王が立てり是れを文宗皇帝と云へり

〔文宗皇帝〕名涵。穆宗子也。爲宦者王守澄所立。後改名昂。太和二年。親策制舉人。宦者益橫。建置天子。在其掌握。權出二人主之右。無人敢言。賢良方正劉蕡。對策極言之。考官皆歎服。而不敢取。中第者。裴休。李郃。杜牧。崔愼由等二十二人。皆除官。物論囂然。稱屈。郃曰。劉蕡下第。我輩登科。能無顏厚。上疏乞回所授官於蕡。不報。○太和五年。上與同平章事宋申錫謀誅宦官。不克。申錫貶死。○九年。上與李訓鄭注等謀誅宦官

不克。注本宦者王守澄所引。訓本名仲言。又爲注所引。得見守澄。守澄薦於上。倜儻尚氣。有文辭口辯。多權數。上悅之。訓注揣知上意。數以微言動上。上意其可謀大事。以誠告之。訓注遂以誅宦官爲己任。訓既與注勢位俱盛。頗忌注。託以中外協勢。出注鎮鳳翔。進擢宦者仇士良。以分王守澄之權。訓同平章事。請除守澄。遣中使鴆殺之。注始與訓謀。至鎮。遣壯士數百。入護守澄葬。仍請令內臣盡送。然後殺之。無遺類。訓心以爲如此則功專歸注。乃謀先發。令人奏金吾廳事後石榴有甘露。宰相帥百官拜賀。後勸上往觀。上令宰相先往視。訓陽言非眞。上顧仇士良。帥諸宦官往視。士良等既至。見風吹幕起。執兵者無數。驚走告變。訓呼金吾衛士等。上殿。僅擊死傷宦者十餘人。知事不濟而走。士良等命神策兵。殺金吾吏卒。執宰相王涯。賈餗。舒元輿等。誣以謀反。腰斬之。訓之謀。惟元輿知之。他相實不知也。自是天下事。皆決於北司。宰相行文書而已。李訓爲人所殺。傳首。鄭注亦爲鳳翔監軍宦者所殺。

（字解）（聚進）手の中（顏厚）顏の皮の厚きこと（倜儻）すぐれて小節を顧ざせぬこと（微言）判然と云ひ切らぬなり（中使）天子の私使にて外にては宦官のことを用ゆ（內臣）宦官（神策）羽林の改めし名（北司）宦官の役所

（講義）文宗皇帝は名を涵と云ひ穆宗の子なり扨て宦官なる王守澄の爲めに立てられ後に名を改めし名なり太和の二年に自分にて薦擧人を試驗せり此時宦者は段々我儘にて天子を立て代へることも皆宦者の手の中にありて宦者の權力が天子の上になりたり因ては人々押て宦者のことを云ふ者なかりし然るに賢良方正の科目にて擧げられたる劉蕡は試驗の答問なる對策中に極めて宦官横逆の事を云ひたれば試驗官は皆感服したれども元とより宦官を恐れて押て及第させざりし因て他の及第したる者なる裴休や李郃や杜牧や崔愼由などの二十二人は皆官に拜せられ失れより世の議論が騷がしく敷くなり劉蕡は實に壓制の甚しきとの輿論より李郃い劉蕡が落第し我單が及第せしゆへ顏の皮の厚きことなりと云ひ上書して自分に授けられたる官を劉蕡に移し授けんと乞ひたれども返報もなかりし太和の五年に帝は同平章事なる宋申錫と宦官を殺すを謀りしが勝たずして申錫は落し殺されたり同じ九年に上は李訓と鄭注なる宦官を殺すを謀り又成らざりしさて注は元と宦者なる王守澄が引く處なり訓い元との名い仲言と云ひ又注が引く所にて守澄に面見することが出來き失れより守澄は帝に薦擧せり訓はすぐれて小節を守らず氣力をたつとび文章も辯舌もあり又權謀術數多ければ帝は大ひに喜びたりさて訓注は帝の心を計り知り度々判然と云はず帝の心を動かしたれば帝も共に大事を謀るに足るを思ひ眞心を以て告げたれば訓注は失れより宦官を誅殺するを自分の任務となしたりさて訓は已に注と位置勢力も共に盛んなれば大ひに注を忌み中と外より勢を合せ事をなさんと云ひ立て注を外に出して鳳翔を鎭めさせ又宦者なる仇士良を拔き出し進めて王守澄の權勢を分てり訓は同平章事となり守澄を殺すを乞ひ天子の私使をやりて藥をやりて殺せりさて注は始め訓と謀り鎭に至りなば壯士數百人をやり京に入りて守澄の葬送を守護させ又帝に乞ひて宦官にい悉く守澄の葬を送らせ因て殺しなば一人も殘らず殺すを得んと云ひしが又訓は斯くていい手柄い注のみに歸することを思ひそこで注より先きに事を起さんと企て因て韓約と云ふ者に云ひ付け金吾の役所の後の石榴の木に甘露が降りたりと上奏させそこで宰相は百官を連れて視ひを申上げ後に帝に往て見物するを勸めたれば帝い先づ宰相に往て實否を見屆けさせたるに訓い僞りて甘露は眞正のものに非らずと云へば帝は仇士良を見廻し諸の宦官を引き連れ往て見屆けさせたるゆへ士良等い已に至りたるに丁度風が吹て幕を上げしに兵器を持ちたる者が多く見へたればさていと驚き走りて變事を告げたり訓は是れまでと思ひ金吾の衛士などを呼ひて殿に登らせ僅かに打て宦官十餘人を殺し傷つけしも事の成らざるを知りて走れり此時士良等は神策軍の兵に云ひ付けて金吾の吏卒を殺し宰相なる王涯や賈餗や舒元輿などを捕へ謀反と云ひ僞りて腰切りにしたり初るに訓の謀計は只元輿たけが知り他の宰相は實に知らざることなりし是れより天下の事い皆宦官に決し宰相は只文書を行なふばかりなりしさて訓は人の爲めに殺され首ら京に傳へ注は鳳翔の監軍なる宦者の爲めに殺されたり○開成四年。司徒中書令晉公裴度卒。度自憲宗時。罷相後。無意世事。治園池。有綠野堂。子午橋等別墅之勝。與詩人觴詠自娛。穆宗敬宗時。皆嘗一入輔政。至上之世。亦嘗平章軍國

重事。與時浮沉而已。然四朝將相。威望遠達。四夷。四夷見唐使輒問度安否。以身繫國家輕重。如郭子儀者二十餘年。○五年。上崩。上卽位之初。厲精求治。去奢從儉。中外翕然。謂太平可冀。然制於宦寺。竟不能有爲。嘗問宰相。何時太平。牛僧孺答以太平無象。末年嘗問近臣。朕何如周赧漢獻。對者憮然。上曰。赧獻受制强臣。今朕受制家奴。殆不如也。在位十五年。改元者二。曰。太和。開成。弟潁王立。是爲武宗皇帝。〔字解〕(囿池)(せんざ)(別墅)別莊を云ふ(觴詠)酒宴詩會なり(四朝)憲宗と穆宗と文宗とす(宦寺)宦官なり閹丁閹人寺人內豎內臣內侍とも云ふ(無象)形象なきを云ふ(近臣)學士なる周墀(家奴)宦者なり(强臣)强度や諸侯を云ふ〔講義〕開成の四年に司徒中書令なる晉公の裴度は死去せり度は憲宗の時より宰相たるわりて詩人と酒宴詩を詠して自分の樂みとし穆宗敬宗の時に何れも一度政府に入りて政を助け帝の世に至りても亦或る時平章軍國重事となりしが只時と共に浮き沈みをなす計りなり然れども四朝の大將大臣にて威光人望は遠く四夷にまで達し四夷が唐の使者を見るときはいつも度が平安なるやと問へり度は一身を以て國家を重くなし居り郭子儀の樣なるおと二十餘年なりし同じ五年に帝は死去せり帝が卽位の初めは精神を勵まして國を治むることを求め奢を去り儉約に從ひ中外も一の樣になり太平も望まれると云ひしが去れども宦者に壓制せられらてつまり何事もすること出來ざりし或る時宰相に問ひ何れの時が太平にならんと云へば牛僧儒は太平には形象なしと云へり扨て末年に又時る時近臣に問ひ我れは周の赧王と漢の獻帝とに比すれば如何んと云ひしに二帝とも國を亡ぼしたることゆへ近臣は餘りのことゆへ憮みて返答もせざりしに帝は赧と獻とは强臣の爲めに壓制せられしが今我れは宦官の爲めに制裁せらるゝなり因て赧と獻とにも及ばぬなりと云へり弟なる潁王が立ち是れを武宗皇帝と云へり

〔武宗皇帝〕名瀍。穆宗子也。文宗嘗立敬宗子成美爲太子。臨崩欲以成美監國。宦者以爲立不由己。廢之。而立瀍爲太弟。遂殺成美而卽位。後改名炎。○以李德裕同平章事。德裕在穆宗初爲學士。以李宗閔者嘗對制策譏切其父吉甫。恨之。構貶宗閔。自是各分朋黨。更相排軋者。垂四十年。在文宗時。德裕爲侍郎。裴度薦其可爲相。宗閔有宦官之助。遂相。惡德裕逼己而出之。且引牛僧孺並相。相與排擯德裕之黨。尋以德裕鎭西川。德裕作籌邊樓。圖蜀地形。南入南詔。西達吐蕃。日召老於軍旅。習邊事者。訪以險易遠近。皆若身歷練。士卒葺堡障。以備邊。吐蕃將悉怛謀。以維州來降。維州本漢地。入兵之路。吐蕃得之。號爲無憂城。德裕極以得此州爲便。牛僧孺以爲不可納。以城併叛將歸。吐蕃誅之。境上。極慘酷。牛李之怨。自是愈深。僧孺尋罷。德裕入相。宗閔亦罷。宗閔再相。德裕又罷。二黨互相擠援。文宗每歎曰。去河北賊易。去朝廷朋黨難。德裕連被貶黜。及上立。召德裕相之。德裕言於上曰。正人指邪人爲邪。邪人亦指正人爲邪。在人主辨之。上嘉納。德裕追論維州事。悉怛謀加褒贈。〔字解〕(宦者)土耳(譏切)さびしくそしること(構貶)罪を造り役を落すを云ふ(排軋)押しのけすれ合ふ(出之)辭滯のたり助けたり(褒贈)右衛將軍を追贈するなり〔講義〕武宗皇帝の名は瀍と云ひ穆宗の子なり文宗は以前に敬宗の子なる成美を立てゝ太子となしたるが死去に臨み成美を以て國政を監督させんとせし所宦者は自分なをの立てざる者ゆへ成美を廢して瀍を立てゝ太弟となしとうとう成美を殺して位に卽け後に名を炎と改めたり扨て李德裕を同平章事となせり德裕は穆宗の初

めにありて學士となりしが或る時宗閔と云ふ者が或る時試驗の答錯中にて德裕の父なる吉甫をきびしく謗りたれば德裕は深く怨みて宗閔に賂を遣り付けて役を落せり是れより各の徒黨を分ちて互に押しのけすれ合ひたるうと四十年に及べり扨て文宗の時にありて德裕は侍郎となりしが斐度は德裕を宰相とするを勸めしが又宗閔には宦官の助けありてとうとう宰相となり德裕が自分の跡に迫り來るを惡みて地方に出し其上牛僧儒を引き入れて並びに宰相となり相共に德裕の黨をおしのけ退ぞけたり何程もなく德裕を西州の節度使となせり扨て德裕は邊樓と云ふを遣り其中に蜀地の圖を畫き南は南詔に入り西は吐蕃に達せり因て日々軍事に老練せし者にて國端しの事を慣れ知りたる者を召し土地の險阻平坦より路の遠近を問ひ何れも皆自分が往きし程に地理を知りさて夫れより士卒を練習し城取手を修羅して國端しの備をなしたり此時吐蕃の大將なる悉怛謀は維州を以て來り降參せり維州は元と漢の地にて兵を西戎に入れる要路なりしが吐蕃は此地を取りて大ひに喜び無憂城となせりさて德裕は此地を得るを極めて便益なることゝ云ひしに牛僧儒は受け納れること出來きぬとなし維州城と叛將悉怛謀とを合せて吐蕃に歸したれば吐蕃は悉怛謀を國境にて殺し十分にむごくせりさて牛僧儒と李德裕との怨は是れより彌よ深くなりたり僧儒は何程もなく止め德裕はへて宰相となり宗閔も亦止めたり宗閔は再び宰相となり德裕は又止め二黨は互に相落し合ひ助け合ひたり文宗はいつも歎息し河北の賊を去るは易きことなるが朝廷の徒黨を去るは難きことなりと云へり德裕は樓きに落し退ぞけられしが帝が即位に及び德裕を召して宰相とせり德裕は宰に向ひ正人は邪人を指して邪となし邪人も亦正人を指して邪となせり故に只天子が心に辨別せらるゝにあるなりと云へば帝は嘉しとして聞き入れたりさて德裕は以前の維州の事を追ひ論じ悉怛謀にも追贈ありたり

○昭義節度使劉從諫卒。姪稹自領軍府。德裕謂澤潞事體。與河朔三鎮不同。河朔習亂已久。累朝置之。度外。澤潞近在心腹。若又因而授之。威令不復行於諸鎮矣。上問。何以制之。曰。稹所恃者三鎮。但得鎮魏不與之同。稹無能爲也。遣重臣諭鎮魏。討之。詔曰。澤潞一鎮。與卿事體不同。勿爲子孫之謀。使存輔車之勢。鎮魏悚息聽命。二鎮兵與朝廷所遣行營將王宰石雄。各進討。○河東都將楊弁作亂。逐節度使。遣中使馬元實。曉諭。且覘之。元實受賂。還。於衆中大言。相公須早與之節。自牙門至柳子。列十五里。曳地。光明甲。若之何。取之。德裕詰之。辭屈。奏。微賊決不可恕。如國力不支。寧捨劉稹。河東兵出戍者。聞朝廷令客軍取太原。恐妻孥被屠。乃歸。擒弁送京師。斬之。未幾。劉稹勢窮蹙。潞人殺稹以降。澤潞平。加德裕太尉衛國公。貶牛僧孺爲循州長史。流李宗閔於封州。○削官者仇士良官爵。籍沒其家。先是士良致仕。其黨送歸。士良教之曰。天子不可令閑。常宜以奢靡娛之。使無暇及他事。愼勿使之讀書親近儒生。見前代興亡。心知憂懼。則吾輩疎斥矣。○毀天下佛寺。僧尼勒歸俗。○會昌六年上崩。在位七年。改元者一。

〔講義〕さて昭義の節度使なる劉從諫が死去したれは姪なる稹が自分にて軍府を領せり因て德裕は澤潞の事を追ひ論じ悉怛謀にも追贈ありたり

〔字解〕(三鎮)成德と魏博と幽州となり(鎮魏)成德と魏博となり(輔車)相助くることにて輔と車との意とす(悚息)恐れて息をころすの意(節)節鉞をやり節度使にすること(牙門)城門(柳子列)地名なり(光明甲)磨きたる鉄のよろひ(籍沒)官沒なり(辭)つゐやすこと(疎斥)うとんじ退く(勸)取調べること

〔講義〕は澤潞なる昭義軍の事柄は河北の三鎮と同じからず一々朝廷より人撰して節度使を置くべき筈なり彼の河北は亂に慣るゝこと已に久しく代々朝廷にて度外にせらるゝことなるが澤潞は近く心腹の場所にあり若し自分がなる德に節度使を授けられれば是れより朝廷の威勢命令は又諸鎮にも行はれぬ樣にならんと云へば帝は去れば如何して征伐せんと云へば德裕は去ればなり稹が手賴りにするは河北の三鎮の助けを得ることにあり只成德と魏博とが助けをせざれば稹は何事をもすることは出來きず故に先づ大臣をやり成德と魏博とを諭として征伐させんと云へば詔して澤潞の一鎮は其方等の鎮と事柄が同じからず元とより子孫の爲めの謀とをなし互に相助けるの勢をなすことは出來きずと云へば成德と魏博との二鎮は恐れて息を殺して命令を聞きたり因て二鎮の兵と又朝廷よりやる所の行營の大將なる王宰と石雄とは夫れ夫れ進んで征伐せり此時又河東の都將なる楊弁は亂を起して節度使なる李石を追ひ出したれば先づ中使なる馬元實をやり諭さしたれる上樣子を何ひ見させしに元實は弁の

賄賂を受けて歸り大勢の中にて大壇に飾り宰相公よ早く弁に節度使の官を授けられよ其兵備の盛んなることは城門より柳子列と云ふ處に至るまで十五里の間は光明なる鉄甲を着けたる兵士は地に敷く樣に滿ちたり何として是れを攻め取ること出來んやと云へり然るに德裕は其偽りを察し緊しく問ひ詰めたれば元實は言葉詰りたり因て德裕は帝に奏上し微弱なる賊は決して報すること出來きず若しも兩方を征伐する爲めに國の財力が持ち答へられぬなればいつそ劉稹を捨てゝ楊弁を伐んと云ひ議茲に決定せりさて河東の兵士の出でゝ他を守る者が此度朝廷は他地方の軍勢を以て太原を攻め取ると聞き我が妻子が皆殺しになるを恐れそこで引き返して楊弁を生け取りて京師に送りたれば斬罪に行ひたり又何程もなく劉稹も勢が窮り行き詰まりたれば部人は稹を殺して縣參し澤潞は平定せり因て德裕に大尉衛國公を加へ牛僧儒を落して循州の長史とし李宗閔を封州に流せりさて宦者仇士良の官位を取り上げ其家財を沒收せり是れより以前に士良は隱居せしかば其同類は歸るを送りしに士良は同類に教へ天子は暇にさせてハなちず常に奢り費のことを以て樂しませ他の事を考へる暇のなき樣にし又注意して書物を讀ませたり學者を近づけたりせぬ樣にせよ若しも前代の盛なると衰へるとを見て心に恐れ心配する樣になれば我々は疎んじ退ぞけらるゝなりと云へり又天下の佛寺を毀ち僧と尼とを取調べて俗に歸らせたり會昌の六年に帝が死去せり在位は七年にて改元する者ハ一つ會昌と云ふ光王が立ち是れを宣宗皇帝と云へり

〔宣宗帝皇名怡。憲宗子也。幼號不慧。太和後。益自韜匿。文宗好誘其言。以爲笑。武宗豪邁。尤不禮之。名爲光叔。武宗疾篤。子幼。宦官定策禁中。詔立怡爲皇太叔。更名忱。權勾當軍國事。裁決咸當理。人始知有其隱德焉。尋卽位。○李德裕罷。僧孺宗閔等。北遷。德裕三貶。至崖州。司戶以死。○令狐綯同平章事。先是綯爲學士。上嘗以太宗所撰金鏡錄。授綯使讀之。又書貞觀政要。於屏風。每正色拱手而讀。嘗與學士畢誡論邊事。誡具陳方畧。上悅曰。不意頗牧在吾禁中。卽用爲邊帥。果稱其任。上總察强記。嘗密令學士韋澳纂次州縣境土風物及諸利害。爲一書。號曰處分語。刺史有入謝而出者。曰。上處分本州事。驚人。建州刺史入辭。上問。建州去京師幾何。曰。八千里。上曰。卿到彼爲政。朕皆知之。勿謂遠。此階前則萬里也。令狐綯奏擬李遠杭州刺史。上曰。吾聞遠詩云。長日惟消一局碁。安能理人。綯曰。詩人托此高興。未必實然。嘗詔刺史毋得外徙。必令至京面察。綯嘗徙故人爲隣州。便道之官。上聞之曰。詔命既行。直廢格不用。宰相可謂有權。時方寒。綯汗透重裘。上臨朝對群臣。未嘗有惰容。每宰相奏事。旁無一人。威嚴不可仰視。奏事畢。忽怡然閑語一刻許。徐復整容曰。卿輩善爲之。常恐卿輩負朕。不得再相見。綯嘗謂人曰。吾十年秉政。最承恩遇。每延英奏事。未嘗不汗沾衣也。嘗召學士韋澳。屏左右。問之曰。近日內侍權勢如何。對曰。陛下威斷非前朝比。上閉目搖首曰。全未。全未。尚畏之在。又嘗與綯謀盡誅宦官。恐濫及無辜。綯密奏曰。但有罪勿舍。有缺勿補。自然消耗至盡。宦者竊見其奏。由是益與朝士相惡。南北司如水火。○大中十三年。上崩。在位十四年。改元者一。曰。大中。長子立。是爲懿宗皇帝。〔字解〕韜匿(不慧)あほう(韜匿)才を包み隱すなり(誘)おだて云はすこと(豪邁)すぐれつよきこと(老叔)光王に封ぜらるる叔父は俗に云ふ叔父さんとの意なり(勾當)支配なり處分なり(拱手)手をこまねくなり(頗牧)古の名將なる廉頗と李牧と

にて春秋戰國に出でたり(總察)総べての事に心の行屆くなり(此階前卽万里)管子の語にて反用せるなり原意は階前も心を用ひざれば万里も同し懶なりと云ふ茲にては階前さへ万里と云ふに八千里位は近しの意とす(嚴格)嚴し止めること(閑語)靜かに話すと(遙)妄に同じ(消耗)へりなくなるを云ふ(〔講義〕宣宗皇帝の名は怡と云ひ憲宗の子なり幼にして阿房と云ふ風聞あり太和南北司)南は大臣北は宦官(水火)相爭ふこと❷の後は一層才を包み隱したり文宗は夫れとも知らずおだて愚かなる言葉を云はするを好みて笑ひの種とせり又武宗は生れ付きすぐれつよく尤も丁寧にせず光の叔父と云ひたり扱て武宗が病氣重り子は幼少なるゆへ宦官は禁中にて相談を定め詔を以て怡を立て皇太叔となし名を忱と改め假りに軍事國事を支配させしに其裁決は皆悉く道理に當りたれば人は始めて驚くせる美德あるを知れり夫れより何程もなく位に卽き(李德裕は止め固儲と宗閔は北の方に移され德裕は三度まで落されて崖州の司戶に至りて死去せり扱て令狐綯は同平章事となれ)(是れより以前に綯は學士となりしが帝は或る時太宗の撰ぶ所の金鏡錄と云ふ書を以て綯に授けて讀ませ又貞觀政要と云ふ書を屏風に認めさせいつも顏色を正しくし手を拱し敬ふて讀みたり又學士なる學識と國端しの事を議論したるに誠は一々方法策略を述べたれば帝は喜び廉頗李牧なる名將が世が禁中にあらうとは思はざりしと云ひ直ぐに用ひて誠を國端しの大將とせしに帝の考へ通り其役目に協ひたり扱て帝は總べての事に能く心が付き物覺へがよきなり或る時學士の章澳に州縣の境界土地より風土人物及び諸の利害得失を編纂させて一つの書物となし名づけて處分語と云ひ凡そ刺史が入て拜謁し恩を謝し出づるときは帝はいつも其州の事を處分し眞に人を落かしたり扱て雄州の刺史なる于越陵が入謁して去るとき帝は雄州は京都を去ること幾何なるやと問へば八千里なりと云へり帝は若が彼の州に至り政をなすを我れは皆知ることとなり決して遠しと思ふことなかれよ此階前さへ万里と云へば八千里位ひは實に目の先きも同樣なりと云へり又令狐綯が奏上し李濟を杭州の刺史とせんとせしに帝は我れが聞くに遠の詩に永の日も只一番の碁にて送ると云へり斯ることにて何とて能く人を治むること出來んやと云へり又或る時詔りして刺史は外より移り行くべきとは出來ず屹度京都に來らせ帝が自分にて面會して人物の樣子を察せんと云ひしに綯は或る時故人を移して隣州の刺史となし近道より任所にやりたれば帝は綯に向ひ詔命が已に行はるゝに直ぐに廢し止めて用ひず宰相は權力あるものと云ふなりと云へり此時は丁度寒中なるが綯は汗が流れて厚き毛織物の衣服に通りたり帝は朝廷に出で群臣に對するときまだ少しも怠る樣子あらず宰相が事を奏上する每に其側らには一人もなく威光嚴重にて顏を上げて見ることハ出來ざりし扱て事を奏上し終れば直ぐに和らかなる樣子にて靜かに物語りすること二時間計りなり帝は靜かに容を正し其方達は善く事を成せよ我れは常に其方なとか我れに負き再ひ相ひ面會の出來ぬ樣になるを恐るゝなりと云へり綯は或る時人に向ひ我れハ十年政事を取り一番恩を受け丁寧にせらるゝも延英殿にて事を奏する每にまだ汗の衣をぬらさぬことはなきなりと云へり帝は或るとき學士章澳を召し左右の者を退ぞけさて近日宦官の權力威勢は如何んと云へは澳は陛下の威勢決斷は前朝の比にあらずと云へは帝は目を閉ち首をうつむかし全くはまたなり全くはまたなり我れはまた彼の

權力あるを恐ると云へり又或る時綯と憑く宦官を殺すを相談せしが密りに罪なき者を殺すを恐れしが綯は內々上書し只此上は彼れに罪あらで殺すことなく人員に不足あるも又入れることなき樣にせは自然とへりなくなるに至らんと云ひしに宦者は又內々其上書を見て是れより段々朝士と不中にあり南北の間は水火の如くなりたり大中の十三年に帝は死去せり在位は十四年にて改元するものは一つ大中と云へり長子か立ち是れを懿宗皇帝と云へり

〔懿宗皇帝〕初名温。封鄆王。以無寵不得爲太子。宣宗崩。宦者立之。更名漼。○浙東賊裘甫起。聲振中原。觀察使王式討斬之。○咸通九年。徐州賊龐勛起。先是南詔稱大理皇帝。擧兵入寇。陷播邕交趾。敕徐泗兵戍桂州。過期不代。遂作亂。勛爲糧料判官。戍卒推以爲主。擁兵北還。所過剽掠。至徐州。因殺節度使。陷諸郡。招討使康承訓擊之。以沙陀朱邪赤心爲前鋒。勛敗死。賜赤心姓名李國昌。爲大同軍節度使。尋又爲振武節度使。○十四年。上崩。在位十五年。改元者一。曰咸通。子普王立。是爲僖宗皇帝。〔字解〕(宦者)汪宗實なり(戍)守な〔講義〕懿宗皇帝の初めの名は温と云ひ鄆王に封せられ氣に入りなきゆへり(剽掠)はすかすめること改めたり時に浙東の賊なる裘甫が起れり其賊名は中國にまで振へり然るに觀察使なる王式は打て切れり咸通の九年に徐州の賊なる龐勛が起れり是れより以前に南詔は大理皇帝と稱し兵を擧けて攻め入り播邕と交趾を攻め落したれは徐泗の兵に敕して桂州を守らせしに期限を過きて交代させさるよりとうせう乱を起せり勛は糧料判官なりしが守兵を推して主長となし兵を引て北に歸り通行する處は皆はすかすめ徐州に至り因て節度使を殺し諸郡を落したれは招討使なる康承訓は征伐し沙陀の朱邪赤心を以て先き手とせり勛は破れて死したり因て赤心に姓名を賜ひて李國昌と云ひ大同軍の節度使となし何程もなく又振武の節度使となせり同し十四年に帝は死去せり在位は十五年にて改元するものは一つ咸通と云へり子なる晉王が立ち是れを僖宗皇帝と云へり

〔僖宗皇帝〕名儼。懿宗少子也。年十三。爲宦官所立。自懿宗以來。奢侈日

甚用兵不息賦斂愈急水旱不以實聞百姓流殍無所控訴所在相聚爲盜濮州人王仙芝起曹州寃句人黃巢應之巢善騎射喜任俠嘗舉進士不第與仙芝共販私鹽至是聚衆攻剽州縣窮民歸之數月數萬仙芝攻陷汝鄭唐鄧寇鄂州陷安州寇荊南興招討曾元裕戰於申州而大敗又大敗於黃梅斬之黃巢陷鄆沂濮掠宋汴南渡陷洪虔吉饒信寇宣州入浙東爲鎭海節度使高駢所破遂趍廣南陷廣州出潭州北渡向襄陽敗於荊門復引而南陷宣州自采石渡江已而渡淮陷申州入潁宋徐兗之境陷東都引而西入潼關入長安上出奔蜀巢僭號大齊皇帝諸道發兵赴援先是沙陀李國昌之子克用爲兵馬使戍蔚州大同軍諸將謀曰今天下大亂朝廷號令不復行於四方此乃英雄功名富貴之秋李振武名聞天下其子勇冠諸軍若輔以擧事代北不足平也遣人潛詣蔚州說克用克用趍雲州取之河東招義討之而大敗克用寇忻代逼晉陽已而大爲盧龍兵所破蔚朔兵亦討敗其父國昌及子亡走達旦朝廷赦其罪召其兵討賊克用將沙陀來賊憚之日鴉軍至矣連破賊復長安巢焚宮室而遁至蔡州節度秦宗權降之巢

趍汴州克用等追擊大破之未幾賊黨斬巢以降〔字解〕(宦官)劉文浹(流孚)流は流涙なり孚は音ひよう餓死なり(控訴)告げ申立ること(在俠)男立て(販)あきのう(李振武)振武軍の李國昌なり(其子)克用(不足平)平らくるまてもなきの憑にて易き色(河東昭義)崔季康と李鈞と(達旦)韃靼なり(鴉軍)克用の軍にて皆黑表をきる故なり(賊黨)巢の甥なる林言なり

〔講義〕僖宗皇帝は名を儼と云ひ懿宗の少子なり年十三にて宦官の爲に立てられ扨て懿宗より以來奢りは日々に甚だしく軍事は止まず取り立てものハ彌よ差し急き水害旱魃あるも實狀を上申せさるゆへ人民は流涙餓死し告け申し立つる所もなく所々に相集りて盜賊をなしたり濮州の人なる王仙芝が起り曾州の寃句の人なる黃巢が御方せり巢は騎射を上手にし男立てを喜ひ以前に進士に擧けられて及第せす仙芝と共に私鹽を賣りしが茲に至りて大勢を集めて州縣を攻めはゞ取りたれは貧窮の人民は皆從へり因て數月の中に數万人になりたり仙芝は攻めて汝鄭唐鄧の州を攻め取り鄂州に寇し安州を落して荊南に寇し招討使なる曾元裕と申州に戰ひて大ひに破られ又大ひに黃梅にて破られ元裕に切られたりさて黃巢は鄆沂濮州を落し朱汴をかすめ南に渡りて洪虔吉饒信の州を落し宣州に寇し浙東に入り鎭海の節度使なる高駢の爲めに破られ夫れより廣南に赴ひき廣州を落して潭州に出て北に渡りて襄陽に向ひ荊門にて破れ又引て南に行き宣州を落し采石より江を渡り其後淮を渡りて甲州を落し潁宋徐兗の境に入り東都を落し引て西に進み潼關に入り長安に入りたれは帝は蜀に出奔せり因て巢は大齊皇帝と僭号せり此時諸道は兵を發して援ひに赴けり是れより以前に沙陀の李國昌の子なる克用ハ兵馬使となりて蔚州を守りしが大同軍の諸將は相談し今や天下は大に乱れ朝廷の号令は又四方に行はれす是れ英雄が功名をなし富貴を取るの時なり扨て李振武の名は天下中に聞へ其子なる克用ハ勇氣が諸軍の頭なれは若し李氏を助けて事を起さは代州より北ハ平らくるなてもなきなりと云ひ使を立てゝ內々蔚州に至り克用に說きたれハ克用は雲州に赴きて攻め取りしに河東昭義の兩節度使は克用を打て大に破れたり克用は忻代に寇し晉陽に攻め詰めしが其後盧龍の兵の爲めに大ひに破られ蔚朔の兵も亦克用の父なる國昌を破りたれは父子共に達旦に逃け走れり然るに朝廷は其罪を赦して其兵を召し賊を征伐させたれは克用は沙陀を引き連れて來れり賊は恐れ鴉軍が至ると云へり克用は續きに賊を破り長安を取り戻したるに巢は宮殿を焚て逃け蔡州に至りしに節度使なる宗權は巢に降れり巢は汴州に赴きしに克用なとは追打ちて大ひに黨が巢を切りて降參せり

○克用之至汴州也朱全忠襲之全忠者巢將朱温也先爲巢所遣攻陷同華尋以華州降賜名全忠爲宣武節度使館克用甚恭克用乘酒頗侵之全忠不平發兵圍驛攻之克用醉左右以水沃其面告之克用乃張目援弓起而走會大雷雨晦冥扶醉乘電光縋城

出汴人扼橋從者力戰得度而免克用還晉陽治甲兵表乞討全忠詔和解之不聽○上發成都還長安○秦宗權僭號○上之奔蜀也宦者田令孜實挾之自以爲功權自已出河中王重榮前作亂自立令孜遣朱玫等攻之重榮求救於克用克用方怨朝廷不罪全忠上言玫等與全忠相表裡欲共滅臣引兵赴河中京師震恐令孜刼上奔鳳翔朱玫追逼不及立肅宗玄孫襄王熅爲帝玫將王行瑜斬玫熅奔河中王重榮斬首送行在上還長安上在位十五年改元者五曰乾符廣明中和光啓文德曰與宦官相處而已天下大亂盜賊蠭起豪傑因起其間互相吞噬朝廷不能制上崩壽王立是爲昭宗皇帝〔字解〕(驛)上原驛なり(組)綱に(追逼)追ひ詰めること(表裡)内外より氣を合せ助けるなり(吞噬)のみ合ひかみ合ふ〔講義〕扨て克用は汴州に至りしに朱全忠は不意打ちせり此全忠は巢の大將にて朱溫と云ひしが先にやられて同華を攻め落し何程もなく華州を以て降參せしゆへ名を全忠と賜ひ宣武の節度使となり扨て此時克用の宿をなし蓋だ丁寧なりしに克用は酒の醉に乘りて大ひに犯し辱めたれど全忠は不平にて兵を起して宿所を圍み攻めたり此時克用ハ醉ひ眠りたれば左右の者ハ水を克用の顏に掛け變を告げたれば克用はそれで目を見張り弓を取りて起ち上り走りしが丁度大雷雨にて眞黑になりたり左右は克用の醉を扶け電光によりて城をすがり出でしに汴人は橋を食ひとめたるに從者は力戰して橋を渡り逃げ延びたり扨て克用は晉陽に歸り兵士を治め整へ上表して全忠征伐を乞ひたるに詔りして和解せられしも克用は聞き入れざりき扨て帝は成都を發して長安に歸れり此時秦宗權は僭号して帝と稱せり扨て帝が蜀に走るは宦者なる田令孜が實に連れ行きたるゆへにて夫れゆへ自分が手柄となし朝權は自分の心より出でたりさて又河中王なる重榮は前に亂を起して自立せしかば令孜は朱玫なをやりて攻めさせしに重榮は救ひを克用に乞へり克用は丁度朝廷か全忠を罪せざるを怨み上書し玫なをは全忠と内外より相助け共に私を亡ぼさんとすと云ひ兵を引て河中へ助けに行きたれば京都は震ひ恐れたり因て令孜は帝を强迫して風翔に走れり因て朱玫は追ひ詰めたれども間に合はざりし是に於て嬸の支孫なる襄王の熅を立てゝ帝となせり然るに玫の大將なる王行瑜は玫を切りたれば熅は河中に走れり王重榮は熅の首を切りて行在に送れり帝は又長安に歸れり帝在位十五年にて改元するものは五つ乾符廣明中和光啓文德と云ふ帝は日々宦官と一處に居る計りにて天下い大ひに亂れ盜賊は蜂の如く起り秦檜は因て其間に起り互に相呑み合ひ咬み合ひしも朝廷は制し定めるなると出來ざりし帝は死去し嬸王が立てり是れを昭宗皇帝と云へり

〔昭宗皇帝〕名傑僖宗之弟也僖宗大漸宦者立之爲太弟遂即位後更名曄帝明粹有英氣喜文學以僖宗威令不振朝廷日卑有恢復前烈之志踐祚之始中外忻忻焉然而內制於宦寺外有强鎭初志竟不遂○越州董昌僭號昌先據杭州錢鏐爲兵馬使朝廷命昌師浙東鏐領杭州至是昌稱帝於越詔鏐討之○鳳翔李茂貞華州韓建邠州王行瑜三鎭舉兵犯闕殺宰相謀廢立聞李克用來討乃去克用攻邠州斬行瑜將移兵岐華貴近恐沙陀太盛止之克用自隴西郡王進爵晉王引兵還晉陽○錢鏐克越州董昌伏誅○初李克用屯渭北李茂貞韓建憚之事朝廷甚恭克用去二鎭復驕慢茂貞舉兵犯闕上出奔華州克用遣援又聞朱全忠營洛陽迎駕茂貞與建皆懼奉上還長安先是嘗令諸王將兵巡警又欲使出四方撫慰藩鎭南北司用事者恐其不利於已交諫以爲不可上不得已罷之上在華時宦官劉季述圍殺諸

王十一人。至是季述幽上於少陽院。而立太子裕。同平章事崔胤。說神策將。討誅季述。上復位。宦官謀去胤。時朱全忠有挾天子令諸侯之意。胤以書召之。全忠舉兵來。宦者韓全誨等。奉上還長安。全忠以兵驅宦官。盡殺之。其出使外方者。詔所在誅之。存黃衣幼弱三十人。備洒掃。宦官自文宗已後。廢置在其掌握。至有定策國老。門生天子之號。及是大被誅殺。全忠由東平王。進爵梁王。還汴。〔字解〕（大漸）病の重りたるさと（宦者）楊復恭とす（明粹）知明かに性すぐれたること（前烈）前世の功（將）孫德昭なり（外方）地方なり（洒掃）水打ち掃除すること（定策國老）天子を策立する國家の大老の謂（門生）試驗官が士を取れば是れを門生と云ふ〔講義〕昭宗皇帝は名を傑と云ひ僖宗の弟なり僖宗病氣重りたるとき宦者は立て丶太弟となし遂に位に即き後名を曄と改めたり帝は知明かに性すぐれ秀でたる氣象ありて文學を喜び僖宗の嚴令が振はず朝廷が日々に賤しくなるを以て前世の功業を取り戻すの志わりしかば即位の初めは中外は皆喜びたりしが然れども內は宦者に壓制せられ外は强き節度使わりて初めの志もつまり遂げざりし扨て越州の董昌は僭号して帝と稱せり昌は先きに杭州に橐籠りしが錢鏐は兵馬使となりたり朝廷は昌に命じて浙東の大將とせし鏐は杭州を領せり茲に至り昌は越にて帝と稱せしゆへ鏐に命じて征伐させたり扨て鳳翔の李茂貞と華州の韓建と邠州の王行瑜との三鎭い兵を起して宮闕を犯し宰相を殺して帝を廢するを謀りしが李克用の兵が來り征伐すると聞きそこで立て去りたり克用は邠州を攻めて行瑜を切り夫れより兵を岐華に移さんとせしに貴戚近臣は沙陀の甚だ盛なるを恐れて此事を罷めたり克用隴西郡王より位を晉王に進められ兵を引て晉陽に歸れり扨て錢鏐は越州に勝ちて董昌は殺されたり初め李克用は渭水の北に陣取りしに李茂貞韓建い大ひに恐れ朝廷の氣嫌を取ること甚だ丁寧なりし然るに克用が去りたれば二鎭は又高振り悔り茂貞は兵を起して宮闕を攻めたれば帝い華州に出奔せり因て克用は援兵をやれり又朱全忠が洛陽に陣取り帝を迎ふと聞き茂貞と建とは皆恐れ帝を連れて長安に歸れり是れより以前に諸王に兵を連れて巡りいましめさせ又四方に出して藩鎭を安んじ慰めさせんとせしに南司北司の政事を取る者は其事の自分に不利益なるを恐れ互に代る代る諫めて宜しからずと云へば帝も已むを得ずして其事を罷めたり帝は華州にわる時宦官なる劉季述は諸王十一人を圍みて殺し茲に至りて季述は帝を少陽院に押し込めて太子なる裕を立てしに同平章事なる崔胤は神策軍將に說き打て季述を殺したれば帝い位に戻れり宦官は又胤を去らんと企てしが此時朱全忠は天子を取り込み諸大名に号令するの志わりたれば胤は書面にて召したるゆへ全忠は兵を起して來りたり因て宦官なる韓全誨なとい帝に脅迫して鳳翔に行きしに全忠は取り卷きたり然るに李茂貞はとうとう全誨なとを殺し帝を連れて長安に歸れり全忠は兵を以て宦官を追ひ廻して悉く殺し其地方に出で丶使する者は詔りして其地方に云ひ付けて殺させ宦官は黃衣嚴しき幼少なるもの三十人を殘して水打ち掃除さす用となせり扨て宦官は文宗の時より已後は天子を廢立すること手の中にあり世に天子を策立する國家の大老と宦官の爲めに試驗及第させらるゝ天子とまで云へり然るに茲に至り大ひに誅殺せられたり全忠は東平王より位を進められ梁王となり汴に歸れり

○全忠威震天下。有篡奪之志。胤懼。爲之備。全忠表請除胤。密使其黨殺之。遂請上遷都東京。促百官東行。驅徙士民。上謂侍臣曰。鄙語云。紇干山頭凍殺雀。何不飛去生處樂。朕今漂泊。不知竟落何所。泣下沾巾。上至洛陽。李茂貞等移檄。以興復爲辭。全忠將西討。以上有英氣。恐生變。遣人入洛弑之。○上自即位。非不夢想賢豪。卒不用之。嘗有朝士鄭棨。好恢諧。多爲歇後詩。嘲時事。上意其有所蘊。手注班簿。以爲相。堂吏走告。不信。已而賀客至。棨搔首曰。歇後鄭五作宰相。時事可知矣。○上在位十七年。改元者七。曰。龍紀。大順。景福。乾寧。光化。天復。天祐。子立。是爲哀皇帝。〔字解〕（其黨）朱友謙なり（紇干山）北夷の山の名（漂泊）さまようこと（夢想）夢と（蘊）深くつゝみ持つ也（班簿）官員錄なり（堂吏）役所の番人なり〔講義〕さて全忠の威勢は天下に振ひ因ては帝位を奪ひ取るの心立てわり胤は恐れて其用心をなしたるに全忠は上表し胤を殺すを乞ひ其黨に殺させたり夫れより帝に乞ひ都を洛陽に移し百官を催促して東行し士民をかり移したり此時帝い侍臣に向ひ歎して言葉に紇干山の上は雀を凍り死にさするが何と

て早く飛び去りて生活の出來る處にて樂まざるやと云ふが我は今漂泊しつまり何れの處に落るやを知らぬことなりと云ひ涙を流して辭をねらせりさて帝は洛陽に至りしが李茂貞又もは軍閥れを移し廻し朝廷を興し立てることを名目とせり因て全忠は四に進み征伐せんとせしに帝は秀でたる氣象あることゆへ若し毋事わらんかと心配し朱友恭などをやりて帝を洛陽にて殺せり帝は位に即くより賢才豪傑を夢にまで思ハぬにはあらざるもつまり用ゆることを出來ざりし或る時朝士に鄭棨と云ふ者ありて上段君棄を好み多く歇後格の詩を作り時の事を嘲けりたれば帝は深くつゝむ才能ありと思ひ自筆にて官員錄に書き入れて宰相となせり因て役所の番人は走りて知らせたれども信用せざりしやがて祝ひの客人が來りたれば棨は頭をかき歇後の作者なる鄭五が宰相となれり是れにて時の事は分るなりと云へりさて帝は在位十七年にて改元するものハ七つ龍紀大順景福乾寧光化天復天祐と云へり太子が立ち是れを哀皇帝と云へり

〔哀皇帝〕初名祚。昭宗有廢太子裕。已壯。全忠惡之。祚以幼得立。更名柷。全忠殺裕等九人。皆昭宗子。全忠爲相國。加九錫。帝在位仍稱天祐。不四年。禪于梁。尋被弑。唐自高祖至是。二十世。凡二百九十年。

〔講義〕哀皇帝の初めの名は祚と云ひたりさて昭宗に廢太子なる裕あり年已に三十なりしが全忠は惡みて立てず祚は幼少なるゆへ立つことを得たりさて名を柷と改めり全忠は裕等九人を殺せり乃ち錢王梁王岐王楊王滑王兗王濟王象王鄆王雅王復王にて皆昭宗の子なり全忠ハ相國となり九錫の特許物を許されたり帝は在位中矢張り天祐の年号を用ひ四年に滿たずして位を梁に讓れり後何程もなく殺されたり唐は高祖より立ち玄宗に至るまで二十世にて總て二百九十年なりし

十八史略講義卷之六

浪華　片岡潛夫講述

五代〔字解〕

〔五代〕梁唐晉漢周とて國運短かきものが續きたるゆへ之を總稱して五代の世と云ひ歷史上の便とするなり

梁

〔梁太祖皇帝〕初名溫。姓朱氏。碭山人。朱五經之子也。少無賴。從黃巢爲盜。降唐。賜名全忠。初鎮汴。攻併徐州兗州鄆州。攻河北河東諸郡。屢與李克用交兵。尋取河中晉絳。用兵華岐。東降青州。南取荊襄。橫行諸鎮間。刼遷唐都於洛。遂篡唐。更名晃。封其兄全昱爲王。嘗罵之曰。朱三。汝作天子邪。汝從黃巢作賊。天子用汝爲四鎮節度使。何負於汝。奈何滅唐家三百年社稷。自爲帝王。行當族滅矣。是時李克用王晉。李茂貞王岐。楊行密爲吳王。王淮南。行密已卒。子渥代之。王建王蜀。錢鏐王兩浙。王潮據閩。已卒。弟審知代之。馬殷據湖南。劉隱據廣。皆自唐末以來。割據諸州。○梁主以馬殷爲楚王。○蜀王王建稱帝。○晉王李克用卒。初克用有養子。曰存孝。最驍勇有功。養子存信疾而譖之。存孝懼禍而叛。

克用討獲囚歸。惜其才。意臨刑必有爲之請者。諸將疾其能。竟無一人言。遂死。又有薛阿檀。亦勇。密與存孝通。恐事泄自殺。自是克用兵勢寖弱。唐末數爲汴人所攻。失數州。汴兵直抵晉陽城下。克用登城備禦。不遑寢食。後汴兵再圍晉陽。以疫還。克用幾欲走。會汴兵去而止。克用不能與汴人爭者累年。悒悒以至于卒。子存勗立。時梁兵侵晉。圍潞州。晉李嗣昭閉城固守踰年。梁築夾寨守之。存勗與諸將謀曰。朱温所憚者先王耳。聞吾新立。以爲童子。必有驕怠之心。若簡精兵。倍道趨之。出其不意。取威定霸。在此一舉。不可失也。帥兵發晉陽。伏三垂岡下。且乘大霧。直抵夾寨塡塹鼓譟而入。梁兵大潰。遂解潞圍。〔字解〕（梁）朱温は初め梁王に封せらるゝゆ（國號とする なり（五經）五經を教授す故に號とせり（無賴）惡行恥なきもの（朱三）全忠の配行三なり（四鎭）宣武宣義太平護國（三百年）大數なり（制擄）さきよるなり（能）藝能（嚥）やうやく（嚥食）ねるとくろうと（悒々）憂ふること（夾寨）長圍にて城を取り卷きたる長き城なり（先王）克用（塹）堀りなり音そん〔講義〕梁の太祖皇帝は初めの名は温と云ひ姓は朱氏にて碭山の人なる朱五經の子なり少年のときには無賴にして黃巢に從ふて盜をなし後ち唐に下り名を全忠と賜ひ初め汴を鎭し攻めて徐州泰州鄆州を取り河北河東の諸郡を攻め度々李克用と戰ひ何程もなく河中晉絳を取り兵を潼岐に用ひ東の方青州を降し南の方荊襄を取り諸鎭の間を横行し强迫して唐の都を洛陽に移しとうとう唐の位を奪ひ名を晃と改め其兄なる全昱を封して王と爲せしに昱は或るとき全忠を惡口し朱三よ其方は天子となることか其方ハ黃巢に從ひて賊をなしたるに天子ハ其方を用ひて四鎭の節度使となす何ぞ其方に負かるゝことあらんや夫れに如何んぞ其方は唐家三百年の國家を亡ぼし自分にて天子となる行く行くは三族を亡ぼされんと云へり此時に當り李克用は晉に王たり李茂貞は岐に王たり楊行密は吳王となり淮南に王たりしが行密ハ死去し子なる渥が代れり王建は蜀に王たり錢鏐は阿浙に王たり王潮ハ閩に稱籠り已に死去し弟なる審知が代れり馬殷は湖南に稱籠り劉隱ハ廣に稱籠り皆唐の末

より諸州に割據せり梁主は馬殷を以て楚王となせり蜀王なる王建は帝と稱せりさて晉王なる李克用は死去せり初め克用に嫡子ありて存孝と云ひしが最も膽勇にして手柄わり然るに養子なる存信はそねみて讒言したれば存孝は禍を恐れて謀反せり因て克用は打て生け取り因して歸りしが其才を惜みしが刑に臨み屹度存孝の爲めに命乞ひする者あらんと思ひ先づ斬刑を申付けたり然るに諸大將ハ皆存孝の藝能あるをねたみつまり一人の命乞ひを云ふ者なく存孝はとうとう殺されたり又薛阿檀と云ふ者ありて亦勇なるが内々存孝と謀叛を通じたるが事の發覺するを恐れて自殺せり是れより克用の兵勢は二人なきより段々弱くなり唐の末には度々汴人の爲めに攻められ數州を失ひ汴兵が直ちに晉陽の城下に至りたれば克用は城に上りて備へ防ぎ眠ると食ふとの暇もなかりし後汴兵が再び晉陽を圍みしが流行病の爲めに引き歸れり此時克用は最早や逃げんとせしに汴兵が引き去りたるに逢ひ逃げるを止めたり扨て克用は汴兵と爭ふこと出來ざること數年にて憂ひ心勞して死去するに至れりさて子なる存勗が立ちしが此時汴兵ハ晉を攻めて潞州を圍めり晉の李嗣昭は城を閉ちて固く守り年を越へたれば梁は夾寨を築きて守れりさて存勗は諸將と相談し朱温の恐るゝ所は我が先王たけなり因ては我れが新規に相續すると聞かば子供と思ひ屹度高振り怠るの心あらん因て若し精兵を撰び道を倍して赴き其不意に出ては威勢を立て霸業を定むるハ此度の一戰にあらん此はずみは失ふまとならずと云ひ兵を引き連れて晉陽を發し三垂岡の下に埋伏し明旦大ひなる霧にまぎれ直ちに夾寨に至り塹り埋め太鼓を打ち時の聲を上げて攻め入りたれば梁の兵は大ひに崩れとうとう潞の圍みを解きたり潛夫が云ふに本記は實に歷史たるの体法なし其譯は先づ所記にハ梁に讓ると記しながら本記にハ却て唐を奪ふと書し又全昱の言葉を以て飽まで醜辱し又晉王の事を詳らかにして梁の事を畧せり此等は世家の記法に非す全体五代は偽書の記なれども立て本記とする以上は矢張り法に從はざれば叶はぬなり獨り此處のみならず五代記中斯る不法の處甚だ多し故に一々論說せざるなり

○淮南將張顥徐温弑楊渥。温復殺顥。將吏推立楊隆演。徐温自領昇州。而以養子徐知誥往治之。○梁以王審知爲閩王。○梁以劉守光爲燕王。守光者。盧龍節度使仁恭之子也。先是。因其父。而自領軍府。○梁夏州亂。殺節度李彝昌。以其族父仁福代之。夏州李氏本姓拓跋。上世自唐賜姓。領鎭久矣。○廣州劉隱卒。弟巖代之。○劉守光稱燕帝。○鎭州王鎔。定州王處直。推晉王爲盟主。梁攻鎭州。襲取諸郡。

晉王伐其兵於柏鄉。大破之。晉帥二鎮伐燕。梁主救之。大敗走歸。先是梁主已有疾。至是憤憤曰。我經營天下三十年。不意大原遺孽。更昌熾如此。吾觀其志不小。我死。諸兒非彼敵也。吾無葬地矣。疾愈劇。且加譟怒。愛假子友文之妻。將立友文爲嗣。遂爲其子友珪所弑。在位六年。改元者二。曰開平。乾化。初以汴州爲東都。開封府。洛陽爲西都。遷都洛陽。者凡四年。友珪自立。尋伏誅。均王立。〔字解〕（隆演）温の弟なり（族父）父の從弟（賜姓）貞觀年間なり（二鎮）鎮州定州（遺孽）のこりし子のこと（無藉地）土地を皆取られること（譟）いらち氣短かなること（友文之妻）王氏にて器量よきゆへ氣に入れりたり因て大將役人は推して楊隆演を立てしに徐温は自分にて昇州を領し養子なる徐知誥を以て昇州に往き治めさしたり梁は王審知を以て閩王となし又劉守光を以て燕王となせり守光は盧龍の節度使なる仁恭の子にて是れより以前に其父を捕へて自分が軍府を領せしなりさて梁の夏州は亂れ節度なる李彝昌を殺し其族父なる仁福を以て代り節度使となしたり夏州の李氏ハ本姓は拓跋にて上世に唐より姓を賜ひ鎮を領すること久しきなり廣州の劉隠は死去し弟なる巖が代れり時に劉守光は燕帝と稱せりさて鎮州の王鎔と定州の王處直とは晉王を推して同盟の主長となしたり梁は鎮州を攻めて諸郡を不意取りしたれば晉王ハ其兵を柏鄉にて伐ち大ひに破りたり又晉は二鎮を引き連れて燕を伐ちたれば梁主ハ救ひに引き大ひに敗れて逃げ歸れり是れより以前に梁主は已に病氣にて此時に至り恥ずいきをり我れは天下を取り治むること三十年なりしが太原なる殘りの子供が斯く更に盛んならんとは思はざりし我れが彼れの志を見るに中々小ならず其上我れが死去すれば諸の小供は彼れに敵對すること出來ず去れば我ハ葬むるの土地もなくなるならんと云ひ病氣が彌よ重り其上に氣がいらちて短かくなり事ごとに立腹せりさて義理の子なる友文の妻は器量よく寵愛せしことゆへ友文を立てゝ相續人とせんとせしがとう〻其子なる友珪の爲めに殺されたり在位は六年にて改元するものは二つ開平乾化と云へり初め汴州を以て東都開封府となし洛陽を西都となし都を洛陽に移してより凡そ四年なり友珪は自立せしが何程もなく誅殺せられ均王が立ちたり

均王名友貞。初爲東都指揮使。友珪簒弑。起兵誅之而卽位於汴。更名瑱。○晉王入幽州。執燕劉仁恭及守光。歸斬之。○梁賜荊南節度使高季昌爵爲王。○契丹阿保機稱帝。古東胡種也。國先在橫山南。本鮮卑舊地。元魏時自號契丹。初太賀氏有八子。號八部。太人推一人爲主。三歲一代。唐開元中。有邵固者。統衆。詔許襲王。至是諸部以耶律斡里少子阿保機爲主。幷奚渤海諸國。始建元。不復更代。國人謂之天皇王。○廣州劉巖稱越王。已而稱帝。改國號曰漢。后又更名龔。○吳徐温徙治昇州。以徐知誥入輔吳政。○蜀主王建殂。子宗衍立。○吳主楊隆演卒。弟溥立。○梁以錢鏐爲吳越國王。○晉與梁連歲交兵。梁魏州降于晉。晉王入魏。拔德州澶州。梁劉鄩襲晉陽。不克而還。攻鎮定營。晉師敗之。鄩攻魏州。晉王又敗之。梁又遣兵襲晉陽。晉人擊卻之。晉克衞磁洛邢洺貝州。掠濮鄆。梁人決河以限晉。晉王攻拔其四寨。已而大擧伐梁。戰于胡柳。晉周德威敗死。晉王收兵復戰。大破梁軍。晉築德勝南北兩城。梁攻之不克。梁招討王瓚。爲晉所敗。梁河中降晉。鎮州將弑趙王王鎔。晉王討平之。先是吳蜀屢書勸晉王稱帝。晉王自謂先王有遺言。當務復唐社稷。既而得傳國寶於魏州。將佐皆賀。勸進不已。遂卽帝位

於魏國號唐。遣李嗣源襲取梁鄆州。梁以王彦章爲招討。唐主戒德勝守者曰。王鐵槍勇決。謹之。彦章果拔南城。進拔諸寨。至楊劉力攻不克而退。梁遣彦章攻鄆。唐主救之。梁敗。彦章死。唐以嗣源爲前鋒。五日入大梁。梁主猶慮諸兄弟乘危謀亂。盡殺之。尋命其下殺己。在位十一年。

改元者二。曰貞明。龍德。梁自太祖稱帝。至是二世。一十七年而亡。〔字解〕

（均王）太祖の第三子なり（元魏）魏に元姓と曹姓の異あり曹魏は三國にて元魏は南北朝の時なり（建元）年號を付けること（治）本城なり（鐵槍）彦章の号とす（諸兄弟）友諒友能友雅などなり　〔講義〕均王い名を友貞と云ひ初め東都の指揮使となりしが友珪が即位し名を璋と改めたり晉王ハ幽州に入り莊の劉仁恭及ひ守光を捕へて歸り殺せり梁は荊南節度使なる高季昌に位を賜ひて王となせり契丹の阿保機は帝と稱せり是れは古の東胡の一種なり其國は先きに横山の南にありて元と鮮卑の落地なり元魏のとき自分にて契丹と號せり初め太賀氏に八人の子ありて八部大人と號せりそこで一人を推して主となし三年にて交代せり然るに唐の開元中に邵固と云ふ者ありて部衆を總べしが唐は詔りし交代なく子孫繼で王たることを許せりさて此時に至り諸部は耶律幹里の少子なる阿保機を以て主となし奚渤海の諸國を合せ初めて年號を立てたりし因て國人ハ天皇王と云へり廣州の劉龑は越王と稱し其後又帝と稱し國号を改めて漢と云ひ後又名を鬱と改めり吳の徐溫は移りて昇州を本城とし徐知誥に入りて吳の政事を輔佐させたり蜀主なる王建は死去し子なる宗衍が立てり吳ハ錢鏐を以て吳越國主となせりさて晉は梁と連年軍をなせしが梁の魏州は晉に降りたれば晉王ハ魏に入り魏州を攻め拔きしに梁の劉鄩は晉陽を不意打ちしたるが勝たずして歸り又鎮定の陣營を攻めたれば晉の軍は却て打破れり鄩は又魏州を攻めたれば晉王は又敗りたり梁は再び兵をやりて晉陽を不意打したれば晉人ハ打ち退ぞけたりさて晉は衛磁洛相邢洺貝の地に勝ち濮鄆を掠め因て梁人は河水を切り流して晉の界となせり晉王は又攻めて梁の四城を拔き其後又大軍を起して梁を伐ち胡柳の戰ひしに晉の周德威は敗れて打死せしゆへ晉王は兵を引き上げて又戰ひ天ひに梁の軍を破れりさて晉は德勝に南北の兩[illegible]を築きしに梁は攻め寄せ又勝たず梁の招討なる王瓚は晉の爲めに破られ梁の河中ハ晉に降れり鎮州の大將は趙王なる王[illegible]たれば晉王は打ち平らげたり是れより以前に吳蜀は度々書を以て晉王に帝と稱するを勸めしが晉王は全体先王の遺言ありて殺[illegible]唐の朝廷を再興せんと思ひしが其後唐の國寶を魏州にて手に入れたれば諸大將は皆祝ひて帝と稱するようとを勸めて已まざるゆへとうとう魏にて帝位に上り國を唐と号せりさて李嗣源をやりて梁の鄆州を不意打して取れり因て梁は王彦章を以て招討となしたれば唐主は德勝の守將に告げ王鐵槍は勇にして決斷あれば十分に注意せよと云へり彦章は果して南城を拔き進みて諸寨を拔き楊劉に至り力攻したれども勝たずして退きたり又梁は彦章をやりて鄆を攻めたれば唐主は救ひに至り梁の軍ハ敗れて彦章ハ打死せり唐は嗣源を以て先き手となし五日に大梁に入りたり梁主はまだ諸兄弟が危きに乘じて亂を起すを恐れ悉く兄弟を殺し次ぎに家來に命じて自分を殺させたり梁主ハ在位十一年にて改元するものは二つ貞明龍德と云ふ梁は太祖が帝と稱せしより茲に至るまで二世十七年にて亡びたり

唐

〔唐莊宗皇帝〕名存勗。沙陀人也。本姓朱邪。先世立功賜姓李。父克用有勇略。一目微眇。號獨眼龍。爲唐平黃巢。立大功。王于晉。與朱氏爲仇。暮年頗爲所蹙。憂形於色。存勗幼進言曰。朱氏窮凶極暴。人怨神怒。極將斃矣。吾家世襲忠貞。大人當遵養時晦以待其衰。奈何輕爲沮喪。使群下失望乎。克用說。臨終立爲嗣。謂其下曰。此子志氣遠大。必能成吾事。年十七嗣晉王位。即舉兵破梁。解潞圍。自是連勝。梁祖歎曰。生子當如李亞子。吾兒豚犬耳。存勗東併幽州。北卻契丹。南與梁夾河百戰。先是晉陽監軍故唐官者張承業。爲晉王掊拾財賦。召補兵馬。攻戰連年。接應不乏。皆承業力。承業意在復唐宗社。聞王將稱帝。力諫知不可止。慟哭曰。諸侯血戰。本爲唐家。今王自取之。誤老奴矣。悒悒成疾而卒。王即位。改晉爲唐。奉唐祀。入汴滅梁。都大梁。已而遷雒陽。侍中郭崇韜有謀

畧。佐唐主成業。至是權兼內外。謀猷規益。竭忠無隱。薦引人物。他相受成而已。○荊南高季興入朝。季興者。季昌之改名也。唐以爲南平王。○蜀主王衍。盤遊淫湎。國亂盜起。唐遣皇子繼岌。與郭崇韜伐之。遂滅蜀。衍降。唐亦其族。繼岌信讒。殺崇韜。而還。○唐以孟知祥爲西川節度使。

〔字解〕（唐）唐に續くの意なり（先世）朱邪赤心を指す（微眇）少しくすがめなるなり（西子）存勗の小字（拾拾）收め拾ふなり（財賦）取り立てもあり（遊宴時晦）道に從ひ德を養ひ時を見て才をくらますなり（雖）洛に同し（謀猷）はかりごと（規益）正し益をあたへること（盤）樂なり（淫湎）色に乱れ酒に亂ること（赤）の（宗社）宗廟社稷なり（空）空なり空手を赤手と云ふの類

〔講義〕唐の莊宗は名を存勗と云ふ沙陀の人にて本姓は朱邪なり先代が手柄を立て姓を李と賜へり父なる克用は唐の爲めに黄巢を平らげて大手柄を立て晉に王となり朱氏と仇となり晩年には大ひに朱氏に苦しめられ心配い顏色にあらはれたり因ては存勗は幼少なりしに曾藥を進め朱氏は凶惡暴虐を窮めたれば人も神も怨めり其極るときは斃れんとするなり又我が家は代々忠義と貞實とを續ぎたれば大人は道に從ひ德を養ひ時を見て才を晉まし以て朱氏の衰へを待たるがよし何とて輕々しく氣を落して下々の者に望みを失なはすことのあるべきやと云へば克用は喜び死去の時になりて存勗を立て、相續となして家來に向ひ此子は心立て氣象も遠く大なれば屹度我が事を成就させんと云へり存勗は年十七にて晉王の位を續ぎ直ぐに兵を起して梁を破りて潞の圍みを解き是れより續きに勝ちたれば梁祖は歎息し子を生むなれば李亞子の樣なるべきことにて我が子は豚犬にて仕方なきなりと云へりさて存勗は東は幽州を合せ北は契丹を退ぞけ南は梁と河を中に取りて百戰せり是れより以前に晉陽の監軍なる元の唐の宦官の張承業は晉王の爲めに取り立てものを收拾し兵馬を召し補ひ攻戰年々續きしも續き足して乏しからざるは皆承業の力なりしさて承業は唐の朝廷を再建するの心なりしが晉王が帝と稱せんとすることを聞き勉めて諫めたれども到底止めることの出來ざるを知り痛み泣き請侯が血戰するは元とより唐の朝廷を立てんとする爲めなり然るに今王は自分にて帝位を取らる實に老ひたる我をやりそこなはせたりと云ひ夫れより憂に沈みて病氣となり死去せりさて張承業は宦官中の善良なる者とし世の論說に入れり潛夫が云ふに千万人中に一人の善良なる者あるは却て後世人主が迷ひを引くの種なり然らば此承業は禍の種と云ふも可なり或る一人云ふ多くの輕薄なる妓女の中に一人の誠實にして欺かざる妓女あれば世の子弟は又斯る妓女に逢ふを目的とし遂に財を盡し家を破るに至らん去れば誠實なる妓女の罪は輕薄なる妓女の罪よりも深きと云はんかと潛夫笑ふてうなづけりさて晉王は帝位に卽き晉を改め

て唐とし唐の先祖の祭りを受け續ぎ夫れより汴に入りて梁を亡ぼし大梁に都を立て其後又洛陽に移れりさて侍中なる郭崇韜は謀略ありて唐主を佐け帝業をなし茲に至り權勢は內外を兼ね謀りごとを立て正し益し忠を盡して隙すことなく人物を薦舉し他の宰相は其なす所を仰ぐのみなりさて荊南の高季興い入朝せり季興は季昌の名を改めしなり唐は立て、南平王となせり蜀主なる王衍は樂しみ遊びて酒色に乱れ國は乱れ盜起りたれば唐は皇子繼岌と郭崇韜とをやりて伐たせたれば遂に蜀を亡し衍い降參せり因て唐は其三族を殺せり然るに繼岌は讒言を信用し崇韜を殺して歸れり唐は孟知祥を以て西川の節度使となせりさて克用が死去の時三本の矢を莊宗に賜ひ梁は我が仇なり燕王は我が立てし所契丹は我と兄弟の約をなせり然るに燕も契丹も共に梁に從へり此三者は我れの遺恨なり因て此三本の矢を與へん其方は父の志を忘れず此矢にて三者を殺せと云へり因て莊宗は矢を受けて廟に藏し征伐の時は告祭して矢を出し錦の袋に入れて先きに立てたり後に梁を亡し燕王を切り終に矢を太廟に返納したりと云ふ此事は正史に見へず茲に之を補ふは人に益あるを以てなり○唐帝自克梁後寢驕。首以伶人爲刺史。帝幼習音律。或時自傅粉墨。與優人共戲。優名謂之李天下。嘗自呼曰。李天下李天下。優人敬新磨。遽前批其頰。帝失色。新磨徐曰。理天下只一人。尚誰呼邪。帝悅。諸伶出入宮掖。侮弄搢紳。群臣憤疾。莫敢出氣。亦有反相附託納貨。展轉以干恩澤。蠹政害人。恣爲讒慝。帝疎息宿將。不恤軍士。數出遊獵。蹂踐民田。上下咨怨。魏博將戍瓦橋。代歸。復遣留屯貝州。遂作亂。奉趙在禮。入據鄴都。唐遣將李嗣源。討之。至城下。軍士大譟曰。將士從主上十年。百戰以得天下。今貝州戍卒思歸。主上不赦。從馬直數卒喧競。遽欲盡誅其族。我輩初無叛心。但畏死。今欲與城中合勢。拔白刃擁嗣源入城。城中不受外兵。逆擊之。皆潰。嗣源詭辭得出。將召兵攻亂者。安

重誨曰。公爲元帥。不幸爲凶人所刼。不若星行詣闕見天子。庶可自明。
嗣源乃南趨相州。讒者奏嗣源已叛。嗣源上章自理。遏不得通。始疑懼。
石敬塘曰。安有上將與叛卒入城。而他日得保無恙者乎。大梁天下都
會。願先往取之。始可自全。康義誠曰。主上無道。軍民怨望。公從衆則生。
守節必死。嗣源乃以敬塘爲前鋒。李從珂爲殿。引兵入大梁。唐主如鬭
東聞。嗣源已據大梁。諸軍離叛。神色沮喪。歎曰。吾不濟矣。即命旋師。從
馬直郭從謙帥兵攻帝於汜水。唐主中流矢而殂。稱帝僅三歲而遇弑。
改元者一。曰。同光。伶人歛樂器覆屍而焚之。嗣源聞之。痛哭。乃入洛陽。
百官上牋勸進。不許。又三請。嗣源監國。乃許之。繼岌自蜀歸。途聞內難。
至長安。自殺。監國立。是爲明宗皇帝。〔字解〕(伶人)樂人(傅粉墨)化粧なり(批)打つなり(優人)
展轉) 手莫るをつたふまと(盜)そまなふこと全体盜は木の心に生ずる虫なり木に生じて木を枯し國に生じて國を亡ぼす者盜と云
ふ(蹂踐)踏にしること(從馬直)近衛兵なり(詭辭)いつはりを云ふこと(星行)速かに行くこと(恙)元と虫の名にて穴居の時代に土
中に生じ人を害せしものにて其時代は人が出遙へば互に君の方には恙はなきやと問へり然るに茲にては禍の意とす(殿)殿に通し
一番あとの備へにてしんがりと讀む(齊)成の字の様に解すべし(牋)札なり書面のことゝす〔講義〕さて唐帝は梁に勝ちしより後はやゝ高振り初めに樂人を以て刺史となせ
演戲し藝名を李天下と云へり或る時自分にて李天下李天下と呼びたれば藝人なる敬新磨が俄かに進みて帝の頰を打ちたれば帝は
顏色を變へたり此時新磨は靜かに理天下とて天子は只一人なるにまだ離れを呼ばるゝやと云へば帝は喜へりさて諸伶人は宮禁に
出入して公卿をあなづりあぶりものにしたれば群臣はいきどほり憎みしが押て氣力を出す者もなく亦却て伶人につき賴み賄賂を

入れ廻り廻りて君の恩を受け求めたれば夫れが爲めに政事をそこなひ人民を苦しめ自儘に讒言惡事をなしたり帝は元とよりの大
將を殺ざけ忌み軍士を憐れまず其上度々游獵に出てゝ人民の田地を蹈み荒したれば上も下も歎き怨めりさて魏博の大將が瓦橋を
守り交代して歸りしに又やりて貝州に留まり屯ろさせしがとうとう乱を起し趙在禮を守り立て入て鄴都に楯籠れり因て唐は大將
なる李嗣源をやりて征伐させ城下に至りしが軍士は大ひに驕ぎ大將士共は天子に從ふこと十年にて百度も戰ふて天下を取りしに
今貝州の守りの兵が歸るを思ひて騷ぎしに帝は故されず又從馬直の五六人の兵卒が讒言しく騷ぎたれば俄に悉く其族類を殺さんと
せられたり我々とても初めより謀反心あるにあらず只罪にて殺さるゝを恐るゝ計りなり因ては城中と勢を合せんと云ひ白刃を拔
き嗣源を取り籠め城に入りたるに城中の兵は外の兵を受け入れず迎へて打ちたれば外兵は崩れたり此時嗣源はいつはりて城を逃
げ出て兵を召して亂を起せし者を攻めんとせしに安重誨は嗣源に向ひ君は大將となり不幸にして惡人の爲めに强迫せらる因て速
かに閣下に至り天子に拜謁して其由しを奏上せば自然と罪なきを明らかにするを得んと云へば嗣源はそこで南の方相州に赴きし
に此時讒言者ありて嗣源は已に謀反せりと上奏せしにより嗣源は上書して自分より辯明したるも其書を止めて帝に進達せざれば
嗣源は始めて疑ひ恐れり此時石塘敬は嗣源に向ひ大將が謀反人と賊の城に入りながら後日禍ひなきを受合ふことは出來ず但大梁
は天下の大都會なれば何卒先きに往て取れよ去れば始めて自分の身を全くすることは出來んと云ひ又康義誠も主上は君たるの道な
く軍民は怨みたり因て君は大勢の心に從へば生き臣たるの操を守れば屹度殺されんと云へば嗣源はそこで敬塘を以て先き手となな
し李從珂を跡備となし兵を引て大梁に入りたり此時唐主は關東に往きしが嗣源が已に大梁に楯籠り諸の官軍は離れ叛くと聞き精
神も顏色もくしけ亡ひ歎息して我が事成らずと云ひ直ぐに命じて軍を歸せり然るに從馬直なる郭從謙は兵を引き連れて帝を汜水
にて攻め唐主は流れ矢に當りて死去せり帝と稱せしより僅かに三年にて殺されたり改元するものは一つ同光と云ふ扨て伶人は樂
器を取り收めて帝の死骸の上に覆ひて燒きたり嗣源は此疑事を聞き痛く泣き失れよう洛陽に入りたれば百官は上書して帝位に上
るを勸めたるも聞き入れず又三度まで嗣源が監國となるを乞ひたればそこで聞き入れたり此時繼岌は蜀より歸り途中にて內變を
聞き長安に至りて自殺せり是に於て監國は立ちたり是れを明宗皇帝と云へり

〔明宗皇帝〕本胡人邈佶烈也。爲晉王克用養子。名嗣源。莊宗滅梁。嗣源
功最高。爲中書令。蕃漢馬步總官。受命討鄴。爲叛卒所推。自鄴趨汴入
洛。遂即位。更名亶。○契丹阿保機卒。子德光立。○閩王王審知卒。子延
翰立。驕淫殘暴。其下弑之。而立其弟延鈞。後稱帝。更名璘。○吳王楊溥

稱帝。○南平王高季興卒。子從誨立。○楚王馬殷卒。子希聲立。後希聲卒。弟希範立。○吳越王錢鏐卒。子元瓘立。○夏州李仁福卒。子彝超嗣。○西川孟知祥併東川。以知祥爲蜀王。○唐秦王從榮驕狠。自知時論不與。常懼不得爲嗣。唐主寢疾。遽率牙兵千人。至端門下。將入禁衛討之。從榮兵潰。走歸府。皇城使斬之。唐主悲駭疾劇。遂殂。唐主性不猜忌。與物無競。登極之年。已踰六十。每夕於宮中焚香祝天曰。某胡人。因亂爲衆所推。願天早生聖人。爲生民主。在位八年。改元者二。曰天成。長興。內無聲色。外無遊畋。不任宦官。廢內藏庫。賞廉吏。治贓蠹。雖不知書。所行暗合於道。年穀屢豐。兵革罕用。校於五代。粗爲小康。子宋王立。是爲閔帝。〔字解〕（殘暴）そこない荒きこと（其下）審知の孫子なる延寶なりとす（蜀王）後蜀と稱す（從榮）明宗の長男（驕狠）高振りもとること（不與）此與いくみすると讀む又ゆるすの意なり（牙兵）隊名なり（端門）正門にて南門を云ふ（皇城使）宮從益とす（登極）即位のこと（內藏庫）天子手元の財（講義）明宗皇帝は元と胡人にて名は邈佶烈なり晉王なる克用の寶倉なり（贓蠹）賄賂を取る惡人を云ふ（小康）少しく太平の意〔講義〕從榮が尤も大なり因て中書令番人漢人の馬隊歩兵の總管となり又命を受けて鄴を打ち叛卒の爲めに推し立てられ鄴より汴に赴き洛陽に入りとうとう位に即き名を宣と改めたり時に契丹の阿保機は死去し子なる德光が立てり閩王なる王審知が死去し子なる延鈞を立て後に帝と稱し名を璘と改めたり吳王なる楊溥は帝と稱せり南平王なる高季興い死去し子なる從誨が立てり楚王なる馬殷は死去し子なる希聲が立ち後に希聲が死去し弟なる希範が立てり吳越王なる錢鏐が死去し子なる元瓘が立ちたり夏州の李仁福が死去し子なる彝超が相續せり西川なる孟知祥が東川を合せ取りたれば知祥を以て蜀王となせり扨て唐の秦王なる從榮は高振り反り自分にても輿論の許さぬを知り不斷に跡隱さとなれぬを恐れたるが唐主が病氣に掛りたれば俄かに牙兵千人を引き連れて南門の下に至り入らんとせしに禁衛の兵は打ちたれば從榮の兵は崩れ從榮は河南府に歸らんとせしに皇城使が切りたり唐主は此事を聞き悲しみ驚き病氣重りてとうとう死去せり扨て唐主は生れ付き邪推し人を忌むことなく又人と爭ふことなく位に上りし時は已に六十を越へたり毎夜宮中にて香を燒き天に願ひ私ハ胡人なるが亂によりて大勢の爲めに推し立てられしまでなり何卒天より早く聖人を生み出し人民の主となされよと云へり世に宋の太祖は明宗の願ひにより天より生み出したる聖人にて遂に天下を平らげ一統せりと云ふも矢張り宋人の作爲說にて元より取るに足らず夫れ天とは何ぞ元より物なし何ぞ物休なくして心願あらんや支那人の說は皆此如く妄なり然れども孟子中に天命を說くは潛夫が取る處にて乃はち求めずして來り爲さずしてなるを天命と名付けたるなり是れを例言すれば死を求めざるも人は死ぬるものなり災害も亦此通りなり病氣にならんとする者はなきも病氣になるなり扨て此天命と云ふ文字を十分に解釋すれば實に世に立つに氣樂にて便利なるものとす扨て明宗は在位八年にて改元するものは二つ天成長興と云ふ帝は內には美聲美色なる女の樂しみなく外には遊宰獸獵の樂しみなく宦官に事を任さず天子の手元財寶の倉を廢し廉直なる役人を賞し賄賂を取る惡人を非せり全体世物は學ばざるも行は暗に仁義の道に合ひ米作ハ度々豐年にて軍をも用ゆること少なく五代の世の中にて先づ此時を小太平とするなり扨て子なる宋王が立ち是れを閔帝と云へり

〔閔帝〕名從厚。明宗次子也。即位。有志爲治。然不知其要。寬柔少斷。○蜀孟知祥稱帝。○唐潞王反於鳳翔。舉兵長驅至洛陽。閔帝出奔在位改元應順。數月而已。潞王立。〔講義〕閔帝の名は從厚と云ひ明宗の次子なり位に即き天下を平治するの志ありしも其大要を知らず只寬大柔和にして決斷力少なし蜀の孟知祥は帝と稱せり唐の潞王ハ鳳翔にて謀反し兵を起して長途を進軍し洛陽に至れり閔帝は出奔せり位にありて應順と改元して數月だけなり扨て潞王は立てり

〔潞王〕名從珂。本姓王氏。明宗之養子也。少從明宗征伐。有功名。得衆心。用事者忌之。從珂鎮鳳翔。閔帝命移鎮河東。將佐以爲離鎮必無全理。乃移檄鄰道起兵。入清帝側。從珂至陝。諸軍皆迎降。至洛。宰相馮道等。百官班迎。遂即位。遣人鴆殺閔帝於衛州。○蜀主孟知祥殂。子昶立。○

夏州李彝超卒。兄彝殷代之。○閩人弒其主璘。而立其子繼鵬。更名昶。○唐主初與河東節度使石敬塘素不相悅。唐主立。敬塘不得已入朝。尋歸鎮。陰爲自全之計。唐主移之。遂反。求援於契丹。契丹敗唐兵。立敬塘爲晉帝。引兵向洛陽。唐主自焚死。在位不三年。改元者一。曰清泰。唐自莊宗至是四主。凡一十四年。〔字解〕（用事者）朱弘昭などを云ふ（無全理）身を全ふするの道理なきを云ふ（清帝側）帝の側に居る小人を殺し清めると云ひ軍を起すの名目とするなり（班迎）行列を立てゝ迎へ（講義）潞王は名を從珂と云ふ本姓は王氏なるが明宗の養子となりたり國亡びて送り名なし從珂は少年の時より明宗に從ひて征伐し手柄ありて大勢の者の滿足心を得たり因て政事を取る者に忌み恐れられたり此時從珂が鳳翔を鎮めたるに閔帝は命じて鎮を河東に移したり是に於て從珂の大將役人は鎮を離れば屹度身を全ふするの道理なしと云へばそこで軍觸れを近郡の諸道に廻し兵を起して進み入り帝側の小人を殺し清めんとせりさて從珂が陝に至りたるとき官軍は皆迎へ降り又洛陽に至りたれば宰相なる馮道以下の百官は行列を立てゝ出て迎へり因て遂に位に即き人をやり閔帝を衛州にて毒殺せり扨て獨主なる孟知祥は死去し子なる昶が立てり夏州の李彝超は死去し兄なる彝殷が代り立てり閩人は其王なる璘を殺して其子なる繼鵬を立て名を昶と改めり扨て唐主は初め河東の節度使なる石敬塘と元より不中なるが唐主が立ちたるゆへ敬塘も已むを得ずして入朝し何程もなく鎮に歸り內々自分の身を全ふするの計とを企てしが唐主は又鎮を移さんとせしゆへとうとう謀反し援助を契丹に乞へり契丹は進んで唐兵を破り敬塘を立てゝ晉帝となし兵を引て洛陽に向へり因て唐主は自分に燒け死にたり在位は三年なれども改元せしものゝ一つにて清泰と云へり唐は莊宗より茲に至り四主にて凡て十四年なり

晉

〔晉高祖皇帝〕姓石氏。名敬塘。沙陀人。唐明宗之壻也。初與從珂皆勇力善鬪。事明宗。皆有功。內相忌。從珂稱帝。敬塘自河東來朝。將佐皆勸留之。時久病骨立。唐主不以爲虞。遂得歸鎮。公主在洛陽。辭歸。唐主醉曰。何不且留。遽歸。欲與石郎反邪。敬塘聞之。益懼。尋命移鎮鄆州。敬塘拒命。唐主發兵討之。桑維翰爲敬塘草表。稱臣於契丹。事以父禮。約事捷割地。劉知遠以爲太過。厚賂金帛。足致其兵。不必許以土田。恐異日大爲中國之患。敬塘不聽。表至。契丹主大喜。將騎五萬而來。與唐兵戰於晉陽。大敗之。契丹主立敬塘爲帝。國號晉。割幽薊瀛莫涿檀順新嬀儒武雲應寰朔蔚十六州與之。契丹以晉主南下。又破唐兵。至潞州。契丹北還。晉主引而南。唐將校皆飛狀以迎。唐主殂。晉主入都洛。己而遷汴。○吳徐知誥稱帝。奉吳主溥爲讓皇。初徐溫命知誥治昇州。致繁富。城市府舍甚盛。溫自徙居之。知誥入廣陵。輔吳政。溫卒。知誥以中書令鎮昇。而留其子輔吳政。廣金陵城。吳加知誥大元帥。封齊王。備殊禮。至是遂受吳禪。知誥本徐州李氏子也。自謂唐後。國號唐。尋復姓李。更名昪。是爲南唐。○契丹改國號大遼。○閩王曦弒其主昶。而自立。○吳越王錢元瓘卒。子弘佐嗣。○南漢主劉龑又更名龔。尋殂。子玢立。○晉主在位不七歲。殂。改元者一。曰天福。齊王立。是爲出帝。〔字解〕（晉）晉王より起る（明宗之壻）明宗の娘なる魏國

公主を娶とす(晉立)病氣にて痩せたるゝと(石郎)娶が夫を呼び郎と云ふゆへなり(孫禮)〔講義〕晉の高祖皇帝は姓は石氏にて名は敬塘と云ひ沙陀の人にて特別の取扱ひを云ふ(龍天)漢主が飛龍在天の龍天の字を合せ作りたるなり音げん

唐の明宗の娘の夫なり初從珂と皆勇力ありて能く戰ふゆへ明宗に仕へ皆手柄あり然れども內心は從珂と相忌み合へり扱て從珂が帝と稱するに當り敬塘は河東より來朝せしに朝廷の大將なとは皆敬塘を留め置くを勸めたるに此時敬塘は久しく病氣にて骨が立ちたれば唐主は別に心配と思はず是れにては謀反もせまじと思ひしゆへ鎭に歸るは石郎と共に謀反せんと思ふやと云へり敬塘は此りしが暇乞ひして歸るとき唐主は醉に乘じ何とて今暫らく逗留せず俄かに歸るは石郎と共に謀反せんと思ふやと云へり敬塘は此言葉を聞き益す恐れり其後命ありて鎭を鄆州に移されたれば敬塘は其命を受けず因て唐主は兵を發して征伐せり此時桑維翰は敬塘の爲めに援兵を契丹に乞ふの表文を下書きし契丹に對して家來と稱し父の禮にて仕へ又事がならば地を割て讓らんと云へり因て劉知遠は是れは甚だ過分なり只手厚く金や絹を送らば援兵を呼び寄せるに十分なり是非とも土地を割くことを許るさゞるもよし斯くては後の日に至り大ひに中國の心配とならんと云へと敬塘は聞き入れざりし扱て維翰が書きたる表が契丹に往きたれば契丹の主は大ひに喜び騎兵五万を引き連れて來り唐の兵と晉陽にて戰ひ大ひに打破り因て契丹の主は敬塘を立てゝ帝となし國を晉と號したり扱て敬塘は幽薊瀛莫涿檀順新嬀儒武雲應寰朔蔚の十六州を割きて與へり契丹は晉主を連れて南に下り又唐の兵を破り潞州に至り契丹は北に歸り晉主は引て南に向へり唐の大將役人は皆書を飛ばして迎へり扱て唐主は死去し晉主は入りて洛陽に都を定め其後汴に移れり吳の徐知誥は帝と稱し吳主なる溥を讓皇となせり初め徐溫は知誥に命じて昇州に本城を立てさせしが人民が繁昌富有になり城も町も役所にも甚だ盛んなりし因て溫は自分にて移り居れり知誥に廣陵に入りて吳の政事を助けり溫は死去し知誥は中書令を以て昇を鎭しそうして其子を留めて吳の政事を助けさせ金陵城を廣めり吳は知誥に大元帥の官を加へ齊王に封し特別の取扱ひを備へり扱て此時に至り知誥は吳の讓を受けたり知誥は元と徐州の李氏と子なり因て自分にて唐の血筋と云ひ國を唐と號し何程もなく復姓にて李氏と稱し名を昪と改めたり是れを南唐と云ふ契丹は國號を改めて大遼と云へり國の王曦は其主なる昶が立てり扱て晉主は在位七年ならずして死去し改元するものは一つ天福と云へり齊王が立ち是れを出帝と云ふ

〔出帝〕名重貴。高祖兄子也。高祖臨終命幼子重睿拜宰相馮道。欲其輔立景延廣議以國家多難。宜立長君。遂立重貴。延廣用事。○南唐主李昪殂。子璟立。○閩王之弟王延政據建州稱殷帝。○南漢主劉玢之弟弘熙弑玢而自立。更名晟。○閩朱文進弑其主王曦而自立。殷主延政遣兵討之。閩人殺文進。傳首於殷。殷改國號曰閩。唐人攻拔建州。延政出降。閩亡。唐攻福州。不克。後吳越遣兵取之。○初晉高祖事契丹甚謹。至少主即位。景延廣主議。告哀不復稱臣。契丹大怒。延廣又因其回圖使。已而遣歸。大言曰。歸語而主。先帝爲北朝所立。故稱臣奉表。今上乃中國所立。爲隣稱孫足矣。翁怒則來。孫有十萬橫磨劍相待。桑維翰屢請遜辭以謝契丹。每爲延廣所沮。於是契丹入寇渡河。晉主自將及遣李守貞等分道擊之。契丹敗走。契丹再至相州。引還。晉主又自將追之。契丹旋兵南下。晉人擊之。契丹又敗走。晉主既再勝。意契丹不足畏。契丹主大擧入寇。晉將杜威降。契丹遣兵入汴。執晉主。以歸其國。在位五年改元者一。曰開運。晉自高祖至是再世。一十二年而亡。契丹主入大梁。胡騎四出剽掠。謂之打草穀。丁壯斃鋒刃。老弱委溝壑。自東西兩畿。及鄭滑曹濮。數百里間。財帛殆盡。契丹主謂判三司劉昫曰。契丹兵應有優賜。遂括都城士民錢帛。遣使者數十人。括於諸州。皆迫以嚴誅。人不聊生。括至。初無頒給。皆欲輦歸。中外怨憤。皆思逐之。所在盜起。契

丹主曰。我不知中國難治如此。居汴三月而還晉。劉知遠先一月卽位于晉陽。〔字解〕（高祖兄）敬儒（回鶻使）領事の如き役（遜辭）丁寧なる言葉（打草穀）穀物などを刈るの意なり（委）捨ること（壑）谷なり（括）よせ集め取ること（聊）やすんずるの義（頑結）分けやること（鞍韉）車にのせ持ち歸る（聊）やすんずるの義（頑結）分けやること（鞍韉）車にのせ持ち歸ることを云ふ〔講義〕出帝は名を重貴と云ひ高祖の兄の子なり高祖が死去に臨み幼子なる重睿に命じて宰相なる馮道を禮拜させ宰相の輔け立つるを望みしが此時景延廣が異議を立て國家は難事多きゆへ生長せし君を立つるをよしとすと云へり因てとうどう重貴を立て延廣が政事を取れり扨て南唐の主なる李璟は死去し子なる煜が立てり閩王の弟なる王延政は建州に橫篡り殷帝と稱せり南漢の主なる劉䶮の弟なる弘熙は䶮を殺して自立し名を晟と改めたり閩の朱文進は其主なる王曦を殺して自分が立ちしが殷主なる延政は兵をやりて征伐せり因て閩人は文進を殺し其首を殷に送れり殷は國號を改めて閩と云ひたり然るに閩人に攻めて建州を攻め拔き延政ハ出て〻降り閩は亡ひたり唐は又福州を攻めしが勝たず後に吳越が兵をやりて福州を取りたり初め晉の高祖が契丹に仕へること甚だ丁寧なりしが少帝が位に即くに至り景延廣は議を立て高祖の死去を知らするに又家來と云はざれば契丹は大ひに立腹せり延廣は契丹の使官を捕へ其後やり歸し大言を吐き歸らば其方の主人に告げよ先帝は北朝なる契丹の爲めに立てられたれば故に家來と云ひて喪を奉りしが今上帝は乃ち中國の立てたる所なれば契丹を隣國となし孫と云へば澤山なり若し祖父が立腹せば來り戰へよ孫には十万人か研き立てたる劍を橫へて待ち受ける兵ありと云へり此時桑維翰は度々丁寧なる言葉を以て契丹に謝罪せんと云ひしもいつも延廣に邪魔せられたり是に於て契丹ハ攻め來り河を渡りたれば晉主は自分が大將となり又其上に李守貞などをやり道を分けて打ちたれば契丹は敗れて走れり契丹は再び相州に至り又引返せり晉主は又自分が大將となりて追ひ打ちたれば契丹は兵を返して南に下れり晉人は打ちたれバ契丹は又敗れ走れり晉主ハ已に再ひ勝ちたれば契丹は恐るゝに足らずと思へり然るに契丹ハ大軍を起して入寇せしに晉の大將なる杜威は降參せり因て契丹は兵をやりて汴に入り晉主を捕へ其國に連れ歸れり在位は五年にて改元するものは一つ開運と云へり晉は高祖より茲に至るまで再世にして十二年にして亡びたりさて契丹の主は大梁に入りしに胡人騎兵は四方に出で〻はぎとりかすめとり是れを打草穀と云へり此時丁年の壯者は刃物にて殺され老人幼者は溝や谷に捨てられ東西の兩京より鄭滑曹濮の地方に及ぶまで數百里の間は財産絹類は丸でなくなりたり此時契丹の主は判三司なる劉昫に向ひ契丹の兵には厚く賜ふことある筈なりと云ひ夫れより都城の士民の金錢布帛を取り立て使者數十人をやりて鎮州の金錢布帛を差し出させ遣るに重刑を以てす人々生を安んぜずさて集め來りしが初めより分ちやる心なく皆車に載せて持ち歸らんとせり因て中外の人々は怨み憤り皆沮はんとし處々に皆盜が起れり契丹の主は我れは中國は斯く治めにくきを知らざりしと云へりさて汴に居る三月にして歸れり晉の劉知遠は此一月前に晉陽にて位に即けり凡そ支那古今人主中にて陋しき心ありて禍を發す大なる者は石晉より甚しきなし是れを一家に附て云へば先づ隱家の下部となり我家の持屋敷を分け賜るゆへ加勢を想

むと云ひ其加勢にて我兄弟を追ひだしやつと相續人となり終には我家を隣に取り込まれし者なり夫れ宋の世の金や元なり明の世の淸なり皆北夷が中國の取ること出來るを見て攻め來り遂に中國の帝位を取りしも皆元とは契丹に見習ひしなり而して其發端は石晉なり故に石晉の罪は終世消することなし因て云ふ今や万國雄を爭ふの時なり故に石晉を以て手本とし侮りを防ぎ禍を塞ぎ卓然として自守し只一世を全ふするのみならず万世の後を慮かり始めて以て可と云ふべし

漢

〔漢高祖皇帝〕姓劉氏。初名知遠。沙陀人也。事晉祖敬塘於兵間。功最多。晉祖在河東。唐潞王移之鎭鄆。知遠曰。明公久將兵。得士卒心。今據形勝之地。士馬精强。若稱兵傳檄。帝業可成。奈何以一紙制書。自投虎口。遂拒命。唐遣將攻之。不克。晉祖擧兵滅唐。入洛陽。知遠時爲侍衛馬軍都指揮使。分漢兵。入營館。契丹兵於寺。城中肅然。後晉祖以知遠鎭河東。晉祖殂。遺命以知遠入輔政。晉人匿之。知遠由是怨朝廷。契丹連入寇。晉雖以知遠爲行營都統。知遠不行。契丹滅晉。入大梁。知遠稱帝於晉陽。契丹去。乃發太原。入洛。遂入汴。國號漢。後更名暠。〇契丹主耶律德光。歸至殺胡林。而死。剖腹實鹽載去。人謂之帝耙。子兀欲立。〇楚王馬希範卒。弟希廣立。〇吳越王錢弘佐卒。弟弘倧立。其下廢之。而立弘俶。〇漢主殂。在位一年。改元乾祐。子周王立。是爲隱帝。〔字解〕（漢）知遠は後漢の淮陽王昞の血

館と云ひ故に漢と云ふ（形勝）形勢のすぐれたる場所（虎口）死地なり（避將）張敬達なり（寺）洛陽天官寺とす（殺胡林）後に付けたる名ならん（帝靶）靶音は天子の遺蹟と云ふこと〔講義〕漢の高宗皇帝は姓は劉氏にて初めの名は邃と云ひ沙陀の人なり晋祖なる敬塘に軍の間にて仕へ手柄は第一に多かりし晋祖が河東にありしとき唐の潞王が鎮を鄆に移さんとせしに知邃は晋祖に向ひ明公は久しく兵の大將となり士卒の人望を得たり今ハ形勢のすぐれたる處に居り士卒軍馬も撰り抜きにて強し故に若し兵をあげて軍鬪れを傳へ廻せば帝王の事業はなるなり夫れに何とて一枚の命令書にて自分より死地に身を入れることあらんと云へばとうどう命令を拒みたり因て唐は大將をやりて攻めしが勝たず晋祖は兵を起して唐を亡ぼし洛陽に入れり知邃は時に侍衛馬軍都指揮使となれり因て漢の兵を分けて營所に入れ契丹の援兵は寺に宿營させたれば城中は誠とに靜かなりし其後晋祖は知邃を以て河東を鎮めさせたり晋祖が死去の時遺言し知邃に入て政事を助けさせよと云ひしに晋人は此事を隙せり知邃は是れより朝廷を怨めりさて契丹ハしきりに入寇せり晋は知邃を行營都督となしたるも知邃は行かざりしさて契丹は晋を亡ぼし大梁に入りしが知邃は晋陽にて帝と稱し契丹が引き去りてそこで太原を發して洛陽に入りとうどう汴に入り國を漢と號し後に名を高と改めり契丹の主なる耶律德光は歸る途にて殺胡林と云ふ處に至りて死去したれば腹を裂て鹽を詰め車に載せ去れり人ハ是れを帝靶と云へり因て其子なる兀欲が立てり楚王なる馬希範が死去し弟なる希廣が立てり吳越王なる錢弘佐が死去し弟なる弘倧が立ちしが其下を廢して弘俶を立てたりさて漢主は死去し在位は一年にて乾祐と改元せり子なる周王が立ち是れを隱帝と云へり

〔隱帝〕名承祐。年十八。即位。○先是漢祖以弟崇尹太原。爲留守河東節度使。崇與郭威有隙。至是威爲樞密使侍中。執政。崇爲自全之計。選募勇士。招納亡命。繕甲兵。實府庫。罷上供財賦。朝廷詔令多不稟承。○荊南高從誨卒。子寶融知軍府。○河中李守貞反。郭威督諸軍討克之。守貞自殺。○漢以郭威爲鄴都留守。○楚王馬希廣之兄希萼殺希廣而自立。○漢主自即位以來。同平章事楊邠總機政。樞密使郭威主征伐。侍衛指揮使史弘肇典宿衛。三司使王章掌財賦。邠頗公忠。弘肇察京師。道不拾遺。章捃拾遺利。供饋不乏。國家相安。弘肇嘗謂天下須用長槍大劍。安用毛錐子。章曰。若無毛錐。財賦何由取辦。章輕文人。嘗曰。此輩握算不知縱橫。何益於用。漢主左右嬖倖寖用事。親戚干政。邠等每裁抑之。漢主益壯。厭爲大臣所制。楊邠嘗議事於前曰。陛下但禁聲。有臣等在。漢主積不能平。左右因譖之。乾祐三年。殺邠。弘肇。章。遣密詔。欲殺郭威於鄴。將佐勸威入朝自訴。威引大軍至。漢主遣兵拒之。或降。或不戰而還。漢主爲亂兵所弑。威白太后。迎武寧節度賛。未至。聞契丹入寇。遣威將兵擊之。威至澶州。將士大譟。裂黃旗。以被威躰。共扶抱之。呼萬歲。震地。擁威南行。遂代漢。漢二世。四年而亡。〔字解〕（尹）知事のこと（鄴）よりつのるなり（繕）修繕なり（上供）上納物（聽承）命を受けること（察）觀察使のこと（供饋）差上げおくる（毛錐子）筆のこと（握算）そろばんを握るの意（裁抑）切りもりしてをさへること（禁聲）もの云ふことを禁せよの意（被威体）天子は黃袍をきるゆへなり（扶抱）たすけなき上るを云ふ〔講義〕隱帝の名は承祐と云ひ年十八にて位に即きたり是れより以前に漢祖は弟なる崇を以て太原の尹とし留守河東節度使となしたり崇は郭威と不中なりさて此時に至り威は樞密使侍中となり政事を執りたり因て崇ハ自全の計とをなし勇士を撰び募り逃亡者を招き納れ鎧兵器を修めつくろひ金倉兵糧倉をみたし諸年貢を上納するを止め朝廷の命令は多くは受け行はざりしさて荊南の高從誨ハ死去し子の寶融が軍府を支配せり河中の李守貞が謀反せり因て郭威は諸軍を督して討て勝ち守貞は自殺せり漢は郭威を以て鄴都の留守となせり楚王の馬希廣の兄なる希萼が希廣を殺して自立せりさて漢主は即位より以來同平章事なる楊邠は万機の政を總べ樞密使なる郭威は征伐の事を司とり侍衛指揮使なる史弘肇は宿衛を司とり三司使なる王章は財賦を司とれり邠は大に公正忠義にして又弘肇ハ京都を觀察し道に落ちたる物をも拾はぬ樣に治まり章は殘れる利益を收め取り金錢穀物も乏しからず因て國家は相安かりし弘肇は或るとき天下は長槍大劍を以て治むべきも何とて筆を用ゆることあらんと云へば章は若し筆を用

ひざれば諸年貢は何によりて取り立て用を足さんやと云へり全体弘肇は文人を輕んじ或る時も此盟は十露盤を握りて戰國の計畧を知らざれば何とて用ゆるに益あらんやと云へり扱漢主の左右なる氣に入りの小人は段々政事を取り又親戚も政事を犯したれば邪なるはいつも押へ切りもりせり然るに漢主は段々と壯年になり大臣の爲めに押へらるゝを嫌ひたり或る時楊邠が帝の前にて事を評議せしとき只陛下は云ふを止められよ私等が居ることなりと云へば漢主は不平心が積みたるに左右は夫れに附け込みて讒言したれば乾祐の三年に邠と弘肇と章とを殺し又内密の詔りを下し郭威を鄴にて殺さんとせしに大將なるは威に勸め入朝して自分にて申立てよと云へば威は大軍を引て至りしに漢主は兵をやりて防がせしに或は降り或は戰はずして歸り漢主は亂兵の爲めに殺されたり因て威は太后に申して武寧の節度使なる贇を迎へしにまた來らぬ中に契丹が入寇せしゆへ威をやり兵を引き連れて打たせり威は濱州に至りしに大將士共は大に騷ぎ黄色の旗を製て威の身体に着せ共に扶け抱きて万歳と呼び其聲は地を動かす計りなりさて夫れより威を守り立てゝ戻り遂に漢に代れり漢は二世四年にて亡びたり

周

〔周太祖皇帝〕姓郭氏。名威。太原人也。唐莊宗有宮人柴氏。歸其家。擇姻。一日窺于門。見有疾走而過者。柴氏大驚。問何人。告者曰。從馬軍使郭雀兒也。柴氏欲嫁之。父母不肯曰。汝帝左右人。當嫁節度使。奈何嫁此人。柴氏堅不嫁他人。竟歸威。漢祖鎮河東。威爲孔目官。契丹在汴。威勸漢祖擧兵。遂成帝業。漢隱帝時。威專主征伐。隱帝欲殺之。不克。威擁兵入汴。已而出禦契丹。軍士擁還汴。時已迎贇於徐州。乃以漢太后令。廢贇爲湘陰公。威爲監國。尋卽位。自謂周。號叔之後。國號周。贇崇子也。崇初聞隱帝遇害。欲起兵南向。及聞迎立贇。則曰。吾兒爲帝。吾復何求。贇廢死。崇乃稱帝於晉陽。所有并汾忻代嵐憲隆蔚沁遼麟石十二州之地。謂其臣曰。顧我是何天子。汝等是何節度使邪。是爲北漢。遣子承鈞伐周。不克。遣使乞師於契丹。契丹策命北漢主。更名旻。〇契丹述軋弑兀欲而自立。述律討殺述軋而代之。〇楚自希廣希萼以來。相攻奪無寧歲。其下又廢希萼而立希崇。南唐遣邊鎬擊楚。希崇降。南唐遷馬氏之族于金陵。楚亡。〇故楚將劉言。自朗州。攻潭。邊鎬走。言取湖南。請命于周。周以言鎮朗。王逵鎮潭。逵襲殺言於朗。以周行逢守朗。逵還潭。後又以行逢鎮潭。逵自居朗。〇周主在位三年。殂。改元者一。曰。廣順。晉王立。是爲世宗皇帝。〔字解〕（周）郭威が自分に周の號叔の血筋と云ひ周と號す（擇姻）婿をよること（雀兒）太祖微なる時雀の入れ墨せり故に號とす（左右人）側付きの人（號叔）周の王季の子なり（何天子）如何なる天子とて寶なきを云ふ（寶命）策書を賜ひ命ずること（其下）徐威なり〔講義〕周の太祖皇帝は姓は郭氏にて名は威と云ひ太原の人なり唐の莊宗の時に宮人なる柴氏と云ふありて其家に歸り婿を擇びしが或る日門を窺ひしに急ぎ走りて通る者あり柴氏は大ひに驚き何人なるやと問へば告る者は從馬軍使なる郭雀兒なりと云へり因て柴氏へ嫁入りせんと云ひしに父母は承知せず其方は天子の側付きの人なれば節度使に嫁入りする筈なり何とて斯る人に嫁入せんと云ひしが柴氏は固く他人に嫁入せずつまり郭威に嫁したりさて漢祖が河東を鎮めたるとき威は其孔目官となり契丹が汴にあるとき漢祖に勸めて兵を起しとう〻帝業を立てさせたりさて漢の隱帝の時に威は專ら征伐の事を主どりたり隱帝は威を殺さんとせしも成らず威は兵を引き連れて汴に入り其後出で〻契丹を防きしが軍士は守り立てゝ汴に歸れり時に已に贇を徐州より迎へたれば漢の太后の令にて贇を廢して湘陰公となし威は監國となり何程もなく位に卽き自分にて周の號叔の後なりと云ひ國を周と號せりさて贇は崇の子なり崇は初め隱帝が害に遇ふと聞き兵を起して南に徇はんとせしに贇が迎へ立てらるゝと聞き我が子が帝となれば我れは又何を求めんやと云ひしが贇が廢され死すると聞き崇はそこで晉陽にて帝と稱せり其領する處の地は并汾忻代嵐憲隆蔚沁遼麟石の十二州の地計りなり因て其家來に向ひ思ふに我れは如何なる天子そ又其方等は是れ如何なる節度使ぞやと云へり是れを北漢と云ふなりさて子なる承鈞をやり周を征伐せしに勝ず因て使をやりて援兵を契丹に乞ひたれば契丹は北漢主に策命して名を旻と改めたり契丹の述軋は

兀欲を殺して自立せしに述律は打て述軋を殺して代れり楚い希廣邪夢より以來相ひ攻め奪ひ安き年はなく其家來は又希夢を殺して希崇を立てしに南唐い邊鎬をやりて楚をた打ちれば希崇は降れり南唐い馬氏の一族を金陵に移し楚は亡びたり又元とのの楚の大將なる劉言は朗州より潭を攻めたれば邊鎬は走れり言は湖南を取り命を周に乞ひたれば周は言を以て朗を鎮めさせ王逵に潭を鎮めさせしに逵は不意打して言を朗にて殺し周行逢に朗を守らせ逵い潭に歸り後又行逢を以て潭を鎮めさせ逵い朗に居れりさて周主は在位三年にて死去し改元するものは一つ續順と云へり晉王が立ち是れを世宗皇帝と云へり

（世宗皇帝）名榮。本姓柴氏。周祖妻兄柴守禮之子也。周祖無子。故養之。周初領節鎮。已而尹開封。封晉王。周主臨終。命晉王聽政。尋卽位。北漢主聞周主殂。大喜。請兵於契丹。契丹遣將楊袞。將萬騎。北漢主自將三萬人來。周主欲自將禦之。群臣皆諫。主曰。崇幸大喪。輕朕年少新立。此必自來。朕不可不往。以吾兵力之强。破崇如山壓卵耳。馮道力爭。惟王溥勸行。北漢主軍于高平。周前鋒擊之。北漢兵卻。主慮其遁去。趣諸軍。亟進。後軍未至。衆心危懼。而主志氣益銳。合戰未幾。周右軍將樊愛能何徽。先遁。右軍潰。步軍千餘。解甲降。主見軍勢危。自引親兵。犯矢石督戰。宿衞將趙匡胤。曰。主危如此。吾屬何得不致死。又謂禁兵將張永德曰。賊氣驕。可破也。公引兵乘高。西出爲左翼。我爲右翼。以擊之。國家安危。在此一舉。永德從之。各將二千人。進戰。匡胤身先士卒。馳犯其鋒。士卒死戰。無不一當百。北漢兵大敗。楊袞不敢救。北漢主晝夜北走。僅得入晉陽。周主收樊愛能。何徽及所部軍。使以上七十餘人。責之曰。汝輩非不能戰。正欲以朕爲奇貨。賣與劉崇耳。悉斬之。自是驕將惰卒。始知所懼。不行姑息之政矣。張永德盛稱趙匡胤智勇。擢爲殿前都虞侯。周主謂侍臣曰。兵務精。不務多。農夫百。未能養戰士一。奈何浚民之膏血。養此無用之物乎。乃命大簡諸軍。又詔諸道。募天下壯士。咸遣詣闕。命匡胤選其尤者。爲殿前諸班。其騎步諸軍各命將帥遷之。由是士卒精强。所向克捷。

〔字解〕（簡鎮）鎮寨の簡度使なり（大喪）太祖の死去を云ふ（姑息）うながす也（一擧）此一戰の意（奇貨）珍ら敷品物なり（情卒）なまける兵卒を云ふ（簡）選なり

〔講義〕世宗皇帝名ハ榮本姓は柴氏周祖の妻の兄なる柴守禮の子なり周祖ハ子なきゆへ養子となし（元）最と述はし尤ハ廣く最は狹し尤ハすぐれ者にて最は其中に第一也周の初めに簡鎮を領せり其後開封の尹となり晉王に封せられ周主ハ死去に臨み晉王に命して政を聞かせ何程もなく位に即きたりさて北漢の主は周主の死去を聞き大ひに喜び兵を契丹に乞ひたれば契丹は大將なる楊袞に万騎を從へてやれり北漢主は自分にて三万人を引き連れて來れりさて周主は自分が大將となり防がんとせしに群臣は皆諫めり然るに周主はさて崇は大喪を幸とし又我れが年少く新たに立ちたるを以て輕々しく思ひ居るゆへ此度屹度自分にて來らん因て我は往かずはならぬことなり我れの兵力の强きを以て崇を破ることは山が鳥の玉子を押し付ける計りなりと云へば馮道は勉めて諫め爭ひしが只王溥は行くことを勸めりさて北漢主は高平に陣取りしに周の先き手は打ちたれば北漢の兵は退けり周主は其逃げ去るを恐れ諸軍を促して速に進む後軍はまた至らざりし因て衆心は危み恐れしも周主は志氣益す銳く合戰また何程もなく周の右軍の大將なる樊愛能と何徽とは先き逃げ右軍は崩れ步隊千餘人は鎧を脫ぎ敵に降れり周主は軍勢の危きを見て自分にて親兵を引て矢や石を犯して戰を指圖せり此時宿衞の大將なる趙匡胤ハ主君の危ふきこと此樣なれば我れ我れは何とて死を致さずに居るべきやと云ひさて禁兵の大將なる張永德に向ひ賊の氣は高振るゆへ破ること出來るなり君は兵を引て高きに上り西に出でゝ左の羽翼となれり我れは右の羽翼となり敵を挾み打たん國家の安きと危きとは此一戰にありと云へば永德ハ此言葉に從ひ名々二千人を引き連れて進み戰ひ匡胤は自身が士卒に先たち馳せて敵陣を犯したれば士卒も死を決して戰ひ一人が敵の百人に敵對せぬことなく北漢の兵ハ大ひに破れしに契丹の大將な

る楊袤は押て救はざりしさて北漢の主は晝夜北に走りやつと晉陽に入りたり周主は樊愛能と何徽と及び夫れに屬する軍使以上の者七十餘人を捕へ其罪を責め其方達は戰ふことの出來ぬにあらずまさしく我を以て珍ら敷き寶となし劉崇に賣り與へんとせしまでなりと云ひ悉く切り殺せり是れより高振る大將も來たける士卒も恐るゝことを知り又一時安んじの政事なかりしさて張永德は盛んに趙匡胤の智勇を譽めたれば拔き上げて殿前都虞侯となしたり時に周主ハ侍臣に向ひ兵は擇り拔きの務めず農夫百人の差し出すものは戰士一人を養ふこと出來ざれば何とて人民の膏血をさらへて無用の士卒を養はんやと云ひそこで大ひに諸軍を懲み又諸道に詔りして天下の壯士を募り皆御所に來らせ匡胤に云ひ付けて選ばせたり是の諸軍ハ夫れ夫れ大將に云ひ付けて選ばせたり是れより士卒は擇り拔きにて强く向ふ所は皆勝てり○周政北漢汾遼憲嵐石沁忻州皆入于周。

周主攻晉陽不克引軍還。○北漢主劉旻殂子鈞立。○周伐蜀取秦階成鳳州。○周伐南唐唐遣兵拒於壽州而敗周主自將大敗唐兵於正陽唐將皇甫暉姚鳳保清流關主命趙匡胤倍道襲之擒暉鳳克滁州周師取楊秦光舒蘄州唐兵拒周師復取秦州攻楊州周主命匡胤屯六合唐兵來攻奮擊大破之將士有不致力者匡胤爲督戰以劍斫其皮笠明日遍閱其笠有劍跡者數十人皆斬之由是部兵莫敢不盡死周主還大梁留兵圍壽州唐兵復江北諸州周守將皆棄去幷兵攻壽州周主復自將如壽唐人以城降周主還大梁已而復自將攻濠泗皆降進攻楚州遣兵取楊泰周主克楚州還至楊州唐主遣使盡獻江北地周主乃還唐主更名景去帝號奉周正朔。○朗州王逵爲潘叔嗣所殺將吏迎潭州周行逢入朗行逢併潭朗有之。○南漢主劉晟殂子鋹立。○周主自將伐契丹取瀛莫易州離京四十二日而關南悉平議取幽州會不豫而止以瓦橋關爲雄州益津關爲霸州置戍而還往還六十日。○趙匡胤先是爲殿前都指揮使從攻淮南又從征契丹至是爲殿前都點檢。○周主在位六年殂改元者一曰顯德周主在藩韜晦及卽位首破高平之寇人始服其英武號令嚴明人莫敢犯攻城對敵矢石落左右略不動容應機決策出人意表又勤於政事發姦摘伏聰察如神間暇則召儒者讀史商確大義性不好絲竹珍玩之物常言朕必不因喜賞人因怒刑人文武參用各盡其能人畏其明而懷其惠故能破敵廣地所向無前登遐之日遠近哀慕子梁王立是爲恭帝(字解)

(倍道)一日に二日分行くこと(守將)楊滁州の守將なり(正朔)正は年の始め朔は月の始めにてつまり曆なり夫れより年號となるなり(花酒)は節度使たるときを云ふ(韜晦)才德を隱しくらますこと(商確)はかりたしかめるなり(珍玩)珍らしき玩弄物なり(費用)交へ仕ふこと

は立ちたり周は蜀を打ち秦階成鳳の州を取りたり周は又南唐を打ちたれば唐ハ兵をやりて壽州にて防ぎて破れたり周主は趙匡胤に命じ道を大將となり唐兵を正陽にて大ひに破れり然るに唐の大將なる皇甫暉と姚鳳とは清流關を持ち固めり因て周主は樊泰光舒斬の州を取りしが唐の兵は周の軍を防ぎ又秦州を取戻し楊倍して不意打ちさせ暉と鳳とを生け取り滁州に勝ち周の軍は楊泰光舒斬の州を取りしが唐の兵は來り攻めたり因て匡胤は振ひ打ちて大ひに破りたり此時大將士共に州を攻めたり周主ハ匡胤に命じて六合縣に屯させしに唐兵は來り攻めたり因て匡胤は振ひ打ちて大ひに破りたり此時大將士共に力を盡くさゞる者あらば匡胤ハ督戰のふりして劍を以て其者の皮の笠を切り置き明日一同に笠を調へ切りし跡ある者數十人は皆

切り殺せり是れより匡胤の部下は押て死力を盡さぬ者はなかりし周主は大梁に歸り兵を留めて齊州を圍ませたれど唐兵は又江北の諸州を取り戻せり周の守將は皆守りを捨てゝ去り兵を合せて齊州を攻めたり周主は又自分が大將となり壽に往きたれば唐人は城を以て降參せしゆへ周主は又大梁に歸り其後又自分が大將となり滁泗を攻めしに皆降參せり因て進で楚州を攻め兵をやりて楊樂を取れり周主は楚州に勝ち歸りて楊州に至りしに唐主は使を立てゝ懇く江北の地を獻じたれば周主はそこで歸れり唐主ハ名を景と改め帝の號を去り周の年號を用ひたり時に朔州の王逵ハ潭州に入れたれば行逢は潭朔を合せて所領とせり南漢の主なる劉晟は死去し子なる鋹が立てり周主は自分が大將となり契丹を征伐し瀛莫易の州を取り京を離れてより四十二日にて闕南ハ悉く平らぎ又幽州を取るを評議せしが病氣に掛りて止めたり因て瓦橋關を雄州となし益津關を霸州となし守りを置て歸れり此往き歸りの日數は六十日なり趙匡胤は是れより以前に殿前都指揮使となり從ひて淮南を攻め又從ふて契丹を征伐し茲に至りて殿前都點檢となれり周主は在位六年にて死去し改元するものは一つ顯德と云へり周主は藩にあるときは才德を顯し晦まし位に即くに及び初めに高平の寇を破りたれば人々ハ始めて其英武なるに感服せり周主は號令が嚴重に明白にして人ハ押て犯すことなく城を攻め敵に向ひ矢や石が左右に落つるも大体形ちを動かさず機を答へて計とを定め人の心の外に出で又政事に勉強し惡事をあばき隱事をせゝり出すことは神の機にて又暇あるときハ學者を召して歷史を讀み大ひなる義理をはかりたしかめたり又生れ付き音樂や玩弄物や珍物を好まず常に我れは屹度喜びによりて人を賞せず立腹によりて人を刑せずと云へりさて官吏は文と武とを交へ用ひ夫れ夫れに才能を盡くさせたれば人は其明察を恐れて其恩惠になつき夫れゆへ能く敵を破り地を廣め向ふ所として前に立つ者なかりしさて死去の日は遠きも近きも悲しみ慕ひたり子なる梁王が立ち是れを恭帝となせり

〔恭帝〕名宗訓。七歲卽位。○以趙匡胤爲歸德節度使。明年春。鎭定言。契丹入寇。遣匡胤將兵禦之。至陳橋驛。軍士擁還。策立。周主在位半年。遂禪于宋。周自太祖至是三世。實二姓。十年而亡。〔字解〕（鎭定）二州の名とす（二姓）太祖は郭氏なり世宗恭帝は柴氏なり〔講義〕恭帝の名は宗訓と云ひ七歲にて位に即き趙匡胤を以て歸德の節度使となしたり明年の春鎭定より契丹が入寇すと云ひたれど匡胤をやり兵を引き連れて防がせたるに匡胤は陳橋驛に至りしとき軍士は守り立てゝ引き歸り兵營を上りて立てたり周主ハ在位半年にてとうぞう宋に讓れり周は太祖より茲に至るまで三世なるが其實は二姓に分れ年は十年にて亡びたりさて世宗の英武あつて死後一年ならずして亡滅に歸せり是れ君弱く臣強きに因すると雖も亦君臣の義破るゝにはなるなり當時は君も奪ひ臣も奪ふを以て事とす民風の厚からざる欲するに餘りあるなり夫れ豐公の死後孤兒弱く家康盛なるも猶十五年の久しきにあらされど奪ハず且つ彼れハ天子ハ大將の間柄にて是れは主將と大名の間柄なり實に我國民風の厚き此の如し蓋し万國に卓越するの所以とす

宋

〔宋太祖皇帝〕姓趙氏。名匡胤。其先涿人也。相傳爲漢京兆尹廣漢之後。父弘殷。爲洛陽禁衛將校。生匡胤於甲馬營。赤光滿室。營中異香一月。人謂之香孩兒。營少從辛文悅學。文悅嘗夢邀駕。乃匡胤也。周世宗時。掌軍政。凡六年。士卒服其恩威。數從征伐。立大功。世宗一日於文書篋中。得一木書。曰。點檢作天子。時張永德爲點檢。世宗乃遷之。而易以匡胤。世宗殂。恭帝卽位之明年。命領宿衞。禦契丹。時主少國危。中外始有推戴之議。大軍旣出。軍校苗訓。見日下復有一日。黑光相盪。指曰。此天命也。次陳橋驛。軍士聚議。先立點檢爲天子。然後北征。環列待旦。點檢醉臥不知也。黎明。軍士擐甲執兵。直叩寢門曰。諸將無主。願策大尉爲天子。點檢驚起披衣。則相與扶出。被以黃袍。羅拜呼萬歲。擁上馬南行。拒之不可。乃攬轡誓諸將。整軍自仁和門入。秋毫無所犯。恭帝遂禪位。以所領節鎭爲宋州歸德軍。故國號曰宋。卽位之初。欲陰察郡情。頗爲

微行。或諫毋輕出。上曰。帝王之興。自有天命。周世宗見諸將方面大耳者。皆殺之。我終日侍側。不能害也。微行愈數。曰。有天命者。任自爲之。不汝禁也。中外嚮服。○昭義節度使李筠。故周宿將。反於澤州。上命石守信討之。尋親征。筠自焚死。澤潞平。○淮南節度使李重進。周祖之甥也。亦反。上命石守信討之。尋親征。重進自焚死。淮南平。○荊南高寶融卒。弟寶勗代之。○南唐泉州留從効稱藩。○建隆二年。南唐主李景。遷都于南昌。以其子從嘉。守建康。景殂。從嘉立。更名煜。〔字解〕（宋）匡胤が領する鎮德軍は宋州にあり故に國號とす（廣漢）漢の宣帝の時の人なり（遊駕）天子の乘物を迎へるの夢を見しに夫れは匡胤なりし云ふ夢の如きは元とより云ふに足らず且つ赤光異香のことも皆後人の作爲と知れ遊駕の事は一時の媚びたることなるが又日下に一つの日あるも信ずるに足らず（陰）箱なり（木書）木の札に書きたるもの（主少）恭帝は七歳なり（黒光相盪）下の日は黒くして上の日にすれ合ふこと（環列）めぐりつらなること（黎明）あけ方なり（大尉）匡胤の官なり（攬）取ること（秋毫）秋の毛物の毛にて極て細きなり乃ち些少の意なり（微行）忍びにて行くこと（方面大耳）貴人たる人相とす（聞）音せふ恐れること（濤）かきなり朝廷の爲めにかきともなるの意とす〔講義〕り世に漢の京兆の尹なる趙廣漢の血統なりと云ふさて匡胤の父は弘殷と云ひ洛陽の禁衛の大將となり匡胤を甲馬營と云ふ陣所にて生みしが其時赤き光りありて居間一杯になりたり又陣屋の中に珍らしき香ありたり時に張永德は點檢となりたれば世宗はそこで永德を移して匡胤を以て代へたりさて世宗は死去し恭帝は天子となるとありたり時に張永德は點檢となりたれば世宗はそこで永德を移して匡胤を以て代へたりさて世宗は死去し恭帝は位に即きたる明年匡胤に命じて宿衛を領して契丹を防がせたるに此時帝は幼少にて國は危く中外は始めて匡胤を推し戴くの心わりたりさて大軍已に出でたるとき軍校なる苗訓は日の下に又一つの日ありて黒色にて上の日に迫りすれ合うて見て揖差して是れは天命にて帝の代る兆しなりと云ひ其夜は陳橋驛に宿陣せしに軍士は集り評議し先づ點檢を立てゝ天子となし然る後に北の方を

征伐せんと云ひあぐり並びて明け方を待ちしに點檢は醉ひ臥して此事を知らざりしさて夜の引明けに軍士は鎧を着け軍器を執り直ぐに點檢の寢室の門を叩き諸大將は主君がなきゆへ何卒大尉を策立して天子となさんと云へば點檢は驚き起きて衣服を着けたれば次點は相共に扶け出で黄色なる天子の上着を着せ並び拜して万歳と呼び守り抱へて馬に載せ南の方なる都へ引戻しいなむも聞き入れざるゆへそこで匡胤は馬のくつはを取りて諸將に號令し軍勢を整へて仁和門より入り些少も掠め取ることなかりしさて恭帝はとうぞう位を讓れり匡胤は領ずる所の鎮は宋州の歸德軍ゆへ國號を宋と云へりさて即位の初めは内々群臣の心を搜知せんと思ひ度々忍びにて行きしに或る人は輕々しく出でらるまじと意見せしに帝はさて帝王の起るには自然と天命あるとにて現に周の世宗が諸將中にて角なる顔にて大なる耳の者を見れば皆殺したるも我れは終日側に居るも殺すことは出來ざりしと云ひ彌よ忍び行きをすること度々にて天命のある者は勝手に我れを殺して天子になれよ我は其方達のすることは差し止めざるなりと云へば中外は皆恐れ心服せりさて昭義の節度使なる李筠は元との周の古き大將にて澤州にて謀反せり帝は石守信に云ひ付けて征伐させり帝は石守信に命じて打たせ又親征したれば筠は自分にて燒け死し澤潞は平らぎたり淮南の節度使なる李重進は周祖の甥なるが又謀反立てり南唐の泉州の留從効は服從せり建隆の二年に南唐主なる李景は都を南昌に移し其子なる從嘉を以て建康を守らせしが景が死去し從嘉が立ち名を煜と改めたり○上既誅筠重進。召樞密直學士趙普。問曰。吾欲息天下兵爲國家長久計。其道何如。普言。唐季以來。帝王數易。由節鎮太重。君弱臣强。而已。今莫若稍奪其權。制其錢穀。收其精兵。則天下自安。又言。殿前帥石守信等。皆非統御才。宜授他職。上悟。召守信等。宴酬。屏左右。謂曰。我非爾曹之力。不至此。然終夕未嘗安枕也。居此位者。誰不欲爲之。守信等頓首曰。陛下何爲出此言。天命已定。誰敢有異心。上曰。汝曹雖無異心。如麾下之人欲富貴。何。一旦以黄袍加汝之身。雖不欲爲。其可得乎。皆頓首泣曰。臣等愚不及此。惟陛下哀矜。指示可生之途。上曰。人

生如白駒過隙所爲好富貴者不過欲多積金錢厚自娛樂使子孫無貧乏耳汝曹何不釋去兵權出守大藩擇便好田宅爲子孫計多置歌童舞女日飲酒相安不亦善乎皆拜謝曰陛下念臣等至此所謂生死而肉骨也明日皆稱疾請罷○趙普薦人遇上於滁州用爲節度掌書記上即位後專與謀議倚信之○女眞貢馬○回鶻于闐來貢○建隆三年泉州留從効卒衙將陳洪進推張漢思領軍務○定難節度使周西平王李彝興貢馬○武平武安鎭帥周行逢卒子保權領軍府衡州太守張文表作亂起兵據潭州保權表請救于宋○荊南高寶勗卒兄子繼冲代之○高麗來貢○乾德元年命慕容延釗等會周保權討張文表師出江陵高繼冲出降荊南平延釗至湖南文表先已敗死保權聞宋師下荊南懼而拒守師進討之獲保權湖南平○二年宰相范質王溥魏仁浦乞罷質等周朝舊相也自唐以來宰相惟面奏大政事餘號令刑賞除拜但入熟狀質等自以前朝大臣稍存形跡每事具劄子進呈退批所得聖旨同列皆書字以志之奏御之多始此質等既罷以趙普同平章事（字解）（島天下兵）兵を解きなくすること（唐李）唐の末の世（統御）すべをさめる（醍）半ば過ぎなり（顧首）頭を地に付行ること（哀矜）かなしみあはれむ（白駒）日影の速かなるを云ふ（隙）

すきまなり（釋去）解き去るなり（便好）便利は宅に係り其好ハ田に係る（生死而肉骨）左傳の語にて大恩を云ふ（倚信）より信用すること（衙將）牙兵の大將（熟狀）狀を具して奏上するなり（形迹）君臣の禮を立て疑ひをさけること（劄子）本式の上奏文（書字）かきはんするなり（志之）

（議義）帝ハ已に鈞と重進とを誅しさて樞密の直學士なる趙普を召し我れは天下の軍兵を止めなくして國家長久の計とをなさんと思ふが其道は如何なるやと問へば普は唐の末世より以來帝王が度々かはるは節鎭の勢が甚だ重く君は弱くして臣が强きによる計りなり故に今ほつ〳〵臣下の權力を取り上げ金錢米穀を制限し諸將の精兵を取り上るなれば天下は自然と安くならん又殿前の大將なる石守信抔は皆下を總べ治めるの才にわらざれば外の職を授けられよと云へば帝も悟りそこで守信などを召し酒宴半ば過ぎに至り左右の近臣を退けさて我は其方達の力によらざれば今日の地位には至らず然れども又終夜また枕を安んじさるなり此天子の位に居ることは誰にても欲し望まぬ者はなきことなりと云へば守信なども頓首し陛下は何とて斯る言葉を出たさるゝや天命は最早や定りたれば誰か押て謀反心わらんやと云へば帝はなる程其方達は謀反心なきも旗下の人が富有高貴を望むを如何んせん若し一旦黃袍を以て又其方の身体に加へ付けば天子たるを望まざるも是非なく天子となるなりと云へば皆頓首し涙を流し私なきは愚昧にして此處に心付かざりし只陛下は憐れみて私共の生きらるゝ法を示されよと云へば帝はさて人の一生は白き駿馬の馳せるをすき穴より見る如く速かなるものにて富み且つ貴きを好む所は多く金錢を積み立て厚く自分の樂しみをなし又子孫が貧乏にならぬ樣に思ふに過ぎざることなれば其方達ハ何とて兵權ある官職を解き捨て出て〻大なる藩を守り便好なる田宅を撰び子孫の計とをなさゝるや其上又多く歌ふ童子や舞ふ美女を抱へ日々酒を飲み安氣に相樂しみなば善きことならんと云へば皆拜伏し禮を述べ陛下が私なきを思はるゝは斯くまで深きことなるや是れが世に云ふ死者を生し枯骨に肉を付けると云ふものなりと云ひ明日皆病氣と云ひ立て〻職を止めるを願へりさて趙普ハ薊の人にて帝に滁州にて逢ひしに帝は用ひて節度掌書記となしたるが帝が即位の後は專はらに普と共に事を計り依り信用せり時に女眞は馬を貢ぎ回鶻于闐も來り貢物を獻せり建隆の三年に泉州の留從効ハ死去したが其牙兵の大將なる陳洪進が張漢思を推して軍務を領させたり定難の節度使なる周の西平王なる李彝興は馬を貢獻せり武平武安の鎭帥なる周行逢ハ死去し子なる保權が軍府を領したるに衡州の太守なる張文表は亂を起し軍を擧げて潭州に樞ぬりたれば保權は上表して救を宋に乞へり荊南の高寶勗は死去し兄の子なる繼冲が代はれり高麗は來り貢獻せり乾德の元年に慕容延釗などが湖南に至りしに文表は先きに已に破れ死せり扨て保權は宋の軍に出でたれば高繼冲は出でゝ降り荊南は平らぎたり延釗などに命じ周保權に會合して張文表を征伐させしに軍勢が江陵に至りしに文表は先きに已に破れ死せり扨て保權は宋の軍が荊南に入ると聞き恐れて防ぎ守りたれば宋軍ハ進んで打ち保權を打取り湖南ハ平らぎたり同じ二年に宰相なる范質と王溥と魏仁浦とは止めるを乞へり質等は皆周の朝廷の元の宰相なり扨て唐より以來は宰相は只大なる政事は面議して奏上し餘の號令なり刑賞なり任官なりは只具狀書を差し出したるが質等は自然前代の大臣なるゆへ少しく別け隔てありて事毎に正式の奏書を具して進奏し勅裁の上は退て得る所の勅旨に付き同列の者は皆花押を書して印しとせり扨て奏狀の多きは是れより始まれり質等は已に

止めたれば趙普を以て同平章事とせり

○命王全斌伐蜀。乾德三年。蜀相李昊勸蜀主孟昶出降。蜀亡。前蜀王氏之亡也。降表亦昊所草。蜀人夜書其門曰。世修降表李家。○初上命宰相擇前代未有年號。以改今元。及是得蜀鑑。乃有乾德四年鑄字。怪之。召問學士竇儀曰。昔僞蜀王衍有此號。上歎曰。宰相須用讀書人。○五年。五星聚奎。先是周顯德中。竇儀楊徽之。盧多遜同爲諫官。儀善推步。嘗曰。丁卯歲。五星聚奎。自此天下太平。二拾遺見之。儀不預也。至是果然。○夏州李彝興卒。子光叡領軍務。○開寶元年。北漢主劉鈞殂。養子繼恩立。郭無爲弑之而立。其同母弟繼元。皆異姓子也。○雷德驤判大理寺。官屬與堂吏附會宰相。擅增減刑名。德驤憤惋。直詣講武殿奏之。并言趙普强市人第宅。聚斂財賄。上怒。叱曰。鼎鐺尚有耳。汝不聞趙普吾之社稷臣乎。引柱斧擊折其二齒。命曳出黜之。○二年。命曹彬等伐北漢。尋親征。攻太原。城久不下。頓兵百草池中。暑雨軍中疾疫。詔班師。○上自即位。或微行。幸功臣之家。不可測。趙普每退朝。不敢脫衣冠。一夕大雪。普意上不復出矣。久之聞叩門聲。異甚。亟出。則上立雪中。普惶恐迎拜。即普堂設重裀地坐。熾炭燒肉。普妻行酒。上以嫂呼之。普從容問曰。夜久寒甚。陛下何以出。上曰。吾睡不能著。一榻之外。皆他人家也。故來見卿。普曰。陛下少天下邪。南征北伐。此其時也。願聞成算所向。上曰。吾欲取太原。普默然良久曰。非臣所知也。太原當西北二邊。使一舉而下。邊患我獨當之。何不姑留以俟削平諸國。彼彈丸黑子之地。將何所逃。上笑曰。吾意正爾。姑試卿耳。於是用師荊湖。繼取西川。嘗因北漢諜者。語北漢主鈞曰。君家與周氏世仇。宜不屈。今我與爾無所間。何爲困此一方之人。鈞遣諜者復命曰。河東土地兵甲不足當中國之什一。區區守此。蓋懼漢氏之不血食也。上哀其言。終鈞之世。不以大軍北伐。及繼元立。始用兵。○是歲契丹弑其主述律。號穆宗。迎立其伯父兀欲之子明記。更名賢。○三年命潘美伐南漢。四年。克廣州。劉鋹降。南漢亡。

(字解) (降表)降參の表(五星)木火土金水の星(奎)星の名にて二十八宿の一なり(推步)推算運歩(不預)我は最早死去して關係せぬの意(繼恩)本姓は薛氏とす(同母弟繼元)母は同しくして父は異なるなり乃ち本姓は何氏とす(大理寺)大審院の如きものなり奴て今世は寺と云へば坊主の居る佛寺と思ふも大邸の意にて役所のことに用ゆるなり(官屬)大理寺の屬官なり(堂吏)大臣付きの役人なり(憤惋)立腹するなり(市)賣るともなり買ふともなる此處は買ふなり(聚斂)集め取るなり(鼎鐺)俗に云はゝ鍋釜にてかなへなり(社稷)國家の心なり(柱斧)大斧(太原)北漢の都する處とす(裀)坐ぶとん(地坐)只堂上に坐し椅子を用ひざること(嫂)兄の嫁なり(茵)安著なり(榻)寢臺なり(皆他人之家)我領地は一つの寢臺程にて外は皆敵國なりの意(邊患)外國に係る心配こと(彈丸黑子)小を飾る言葉(荊湖)荊南と湖南とす(諜)忍び伺う(區々)限りある小なる(血食)血筋の祭る

て〔講義〕扨て王全斌に云ひ付けて蜀を征伐させたり乾德の三年に蜀の大臣なる李昊は蜀主なる孟昶に勸めて降參させ蜀は亡びたり扨て前蜀の王氏が亡ぶるときの降參書も昊が草案を作りたれば蜀人はわる夜昊の門に書き代々降參書を作る李家なりと云へり初め帝は宰相に命じ前代にまだなき處の年號を撰ばせ今の年號なる乾德と改元せしに蜀平らぐに及び蜀の鏡を得しに乾德四年と字を鑄付けたれば帝は怪みて學士を召し問ひしに竇儀は昔し僞蜀の王衍の時に此年號ありと云へば帝は歎息し宰相には讓皆の人を用ゆべきことなりと云へり同し五年に五星が奎の宿に集れり扨て是れより以前周の顯德年中に竇儀と楊徽之と盧多遜とが同しく諫官となりしが儀は推筭運歩の術を能くせしがわる時楊盧の二人に向ひ此後の丁卯の年にハ五星が奎に集るわりて是より天下ハ大平ならん君等二人は此事を見らるゝが我れは最早世になく關係せざるなりと云ひしが此時に至り果して其言葉通りなりし扨て夏州の李彝興ハ死去し子なる光叡が軍務を領せり開寶元年に北漢の主なる劉鈞は死去し養子なる繼恩が立ちしが郭無爲ハ殺して其同母弟なる繼元を立てしが何れも皆異姓の子なりし雷德驤は大理寺の判官たりしが國官が堂吏と宰相の意に附け合はせ勝手に刑法を增減したれば德驤は大ひに立腹し直ぐに講武殿に至りて此事を奏上し並びに趙普は無理に人の屋敷を買ひ取り又賄賂を取ることを云ひたれば帝は立腹し鍋釜さへも耳わり夫れに其方は耳なきや何とて趙普ハ我が國家の大臣なることを聞かざるやと叱り付け大斧を引き寄せて打ち德驤の齒二枚を折り役人に云ひ付け引出させて官を落せり同し二年に曹彬なる に云ひ付けて北漢を打たせ何程もなく親征し太原を攻めしが城が久しく下らざるゆへ兵を百艸池に止めしが暑中の雨の爲め軍中に疫病流行せしゆへ詔りして軍勢を返せり帝は即位より或は忍びわるきして功臣の家に幸きすること何時と測るゝと出來ざりし故に趙普は朝廷より退出する度び毎に押て衣冠を脫がざりし或る夜のこと大ひに雪ふりたれど普は今夜は帝もよもや又出でられまじと思ひしに久しくして門を叩く音聞へしかば心に甚だあやしみ直樣出でゝ見れば帝は雪の中に立てり因て普は惶恐して迎へ押禮せり帝は普の堂に入りたれば坐蒲團を重ねて坐したり因て炭を盛んにして肉を燒き普の妻は酒の酌をせしに帝は兄嫁と敬ひ呼びたり扨て普はゆるやかに帝に向ひ夜は斯く深けて寒氣も甚しきに陛下は何ゆへに出らるゝやと云へば帝は我れハ眠りても眠られず一つの輕重の外は皆他人の家なり夫れゆへ來り君を見ざるなりと云へば普は去れば陛下は天下を少なりとせらるゝや今や南を征し北を伐つの時なり何卒陛下の定められたる胸襟りのあゝろを承たまはらんと云へば帝は我れは太原を取らんと思ふなりと云へば普は無言にて久しく考へ夫れは私の知る處にわらず夫れは太原は西北の二方の外國との國端に當るゆへ今一度軍を起して下し取るならば二方の外國の心配は我國が獨りにて引受くることになるなり夫れ故先づ暫らく許し置き諸國の平定するを待たば彼の如き小なる土地が何とて逃るゝ所わらんやと云へば帝ハ笑ひ我心も其通りなるが先づ暫らく君の心をためしたるなりと云ひ是に於て荊南湖南を征伐し續ひて西川を取りたり或る時北漢の忍びの探索方により北漢の主なる鈞に告げさせたり其言葉は君の家は周氏とは代々の仇なれば屈伏せざるを尤もなり然るに今我と其方とは不中にもあらざるに降參もせず一地方の人民を苦しめることをせんとするやと云へり因て鈞も亦諜者を以て復命し河東の土地なり兵士なりは中國の十分の一にわたらざるも今限りわる此處を守るは夫れは漢氏の血筋の絕へ先祖の祭りも出來ぬを恐るゝゆへなりと云へり扨て帝は其言葉を憐れみ鈞が世を終るまでハ大平を以て北伐せず繼元が立つに及びて始めて軍をやりたり此年契丹人は其主なる述律を殺せり是れを穆宗と云ふ其伯父なる兀欲の子の明記を迎へ立て名を賢と改めり同し三年に潘美に命じて南漢を征伐し同し四年に廣州に勝ち劉鋹は降參し南漢は亡びたり

○六年。交趾丁璉上表求內附。詔以爲靜海節度使。安南都護。○趙普罷相。領河陽三城節度。普沉毅果斷。以天下爲己任。嘗欲除某人爲某官。上不用。明日又奏之。上怒。裂其奏。普徐拾以歸。補綴以進。上悟。乃可之。又有立功當遷官者。上素嫌其人。不與。普力請。下。曰。朕固不與。奈何。普曰。刑賞天下之刑賞。安得以私喜怒專之。上不聽。起。普隨之。上入宮。普立宮門不去。上卒可之。普常設大甕於閣後。表疏意不可者。投其中。焚之。其多得謗以此。雷德驤之子。又訐之。上始疑普。先是雖置參知政事。以副普。不宣制。不押班。不知印。不升政事堂。至是始詔二參政。升政事堂。同議政。更知印押班。與普齊。未幾。普遂罷。薛居正。呂餘慶等。其後繼爲相。○七年。命曹彬伐江南。初上屢遣使。喻江南國主李煜。入朝。不至。乃以彬及潘美等。討之。戒以不須急擊。取匣劍授彬曰。副將而下。不用命者斬之。美以下皆失色。自王全斌平蜀多殺人。上每恨之。彬性仁厚。故專任焉。先是江南樊若水。

舉進士不第。上書言事。不報。乃釣魚采石江上。以繩度江廣狹。詣闕陳策。上用其言。令荊南造大艦。爲浮梁。以濟師。至是用之。不差尺寸。○八年。曹彬圍金陵急。李煜遣徐鉉入貢。求緩兵。鉉言。煜以小事大。如子事父。其說累數百。上曰。爾謂父子。爲兩家。可乎。鉉不能對。還。尋復至。奏言。江南無罪。辭氣益厲。上怒。按劍曰。不須多言。江南亦有何罪。但天下一家。臥榻之側。豈容他人鼾睡乎。鉉惶恐而退。金陵受圍。自春徂冬。勢愈窮蹙。彬終欲降之。累遣人告煜曰。某日城必破。宜早爲之所。一日彬忽稱疾。諸將來問。彬曰。彬之疾。非藥所能愈。諸公若共爲信誓。破城不妄殺一人。則彬病愈矣。諸將皆許諾。焚香約誓。翌日城陷。煜出降。南唐亡。捷書至。上泣曰。宇縣分割。民受其禍。攻城之際。必有橫罹鋒鏑者。可哀也。彬還。舟中惟圖籍衣衾。閤門通其榜子曰。奉勅江南。幹事回。其不代如此。

〔字解〕（河陽三城）河北三鎮にて盧龍と成德と魏博となり水の北を陽と云ふ（沈殺）落付きて手强くあること（請下）下命執行なり（變）かめ（訐）あばき云ふなり（宣制）帝の制を受けて傳ふるなり（押班）宰相の坐位に付くこと（知印）日番を立てゝ押印すること（二參政）薛氏呂氏（墨略）手荒くかすめ取ること（匣劍）箱入りの劍（鼾睡）高いびきにて眠ること（徂冬）冬に至るの意（爲之所）其用意をなせよの意（捷書）勝の知らせ（宇縣）宇宙間の赤縣として天下の意とす（橫）みだりにの心（鋒鏑）刀の先きや矢の先き（榜子）略休の上書を云ふ

〔講義〕同し六年に交趾の丁璉が上表して降附を乞ひたれば詔りして靜海の節度使安南の都護となせりさて趙普は宰相を止め河北の三鎮の節度使となれり普ハ落付きて手强く思ひ切りて決斷する力あり天下を治むるを自分の任務となせり或る人を役付きさせんとして奏上せしに帝は採用せられず因て明日又奏上せしに帝は立腹して其奏上書を裂きたれば普は靜かに裂き切れて拾ひて持歸り明日又つぎ合せて奏上したれば帝も悟りて採用せり又手柄をなして役を進むる者の者ありしが帝は元とより其人がきらひなるゆへ昇進させざれば普は勉めて執行を乞ひしに帝は我れハ堅く昇進させざるを如何せんと云へば普は刑と賞とは天下の刑賞ゆへ何とて私心の喜びと怒とを以て刑賞を曲げるとあらんと云へども帝は聞入れずして立ちたれば普は宮門に立ちて去らざりし因て帝はつまり採用せりさて普は常に大なる甕を小坐敷の後手に置き諸人の上書にて意味のよからぬ者は其甕の中に投げ入れて燒き捨てたり書が多く誘られしは此事による也彼の雷德驤の子も又此事を告發したれば帝も始めて普を疑ふの心起れり是れより以前に參知政事二人を置きて普の添へ役としたるも二人は帝の制を受けて傳へることをもせず又宰相の席に着坐することをもせず又日を分ちて番代りに押印することをもせず又政事堂にも上らざりきさて此時に至り始めて二人の參政に詔りして政事堂に上り共に政事を評議し互に押印し着席させ何れも普と同樣にし其後何程もなく普ハとうゞう止め薛居政と呂餘慶なるか其後相續きて宰相となりたり同し七年に曹彬に命して江南を征伐させたり初め帝は度々使者をやりて江南の國主なる李煜に諭して入朝せよと云へども來らざりしそこで此度彬及び潘美なるを以て征伐させ就ては嚴しく人を荒しかすめる勿れ務めて威力と信義とを廣め先力より降伏さす樣にし急に打つこと勿れと云ひ付け又箱入りの劍を以て彬に授け添大將より以下の者が其方の差圖を用ひざる者あれば此劍にて切れよと云へど潘美以下の者は皆顏色を變へたりさて以前に王全斌が蜀を平らげしとき降卒二万を殺したるより帝は常に此事を怨みしが彬の生れ付きは惠み深く手厚きゆへ專ら委任せしなり是れより以前に江南の樊若水は進士に擧げられて及第せず夫れより上書して事を云ひしも返事もせられざるゆへそこで歸りて采石の江上にて魚を釣りしが繩を以て江の巾の廣さを測り宮闕に至りて策畧を申し立てたれば帝は其言葉を採用し荊南に云ひ付けて大船を造らせ浮き橋を作りて軍勢を渡らすの仕度をなし此時其浮橋を用ひたれに一尺一寸の相違なく樊若水の言葉の通りなりし同し八年に曹彬は金陵を取り卷くこと急なれば李煜は徐鉉を使として入貢し攻擊をゆるくするを乞ひさて鉉は煜が小國を以て大國に仕ふることは子が父に仕ふる樣なりと云ひ分は數百言を重ねたるに帝ハ其方は父と子と云ふが父と子が兩家に分れてよきやと云へば鉉は答ふること出來ざりし鉉は歸りて又何程も無く來り奏上して江南の人民には罪なきことゆへ生命を全ふするを乞ふと云ひ言葉も氣力も彌よ烈しかりしが帝は怒り劍をなでながら無用のことを多く云ふには及ばず江南も元とより何の罪もなきか只天下は一家なれば我れの寢室の側らに何とて他人の高いびきにて眠ることを許さんやと云へば鉉は恐れて退きたりさて金陵は圍まるゝこと春より冬に及び今は勢力も彌よ極まりせれり彬はつまり降參させんと思ひたひ〳〵使をやりたりさて煜に告げいよ〳〵何日には城が屹度破れるゆへ早く其用心をせらるがよろしと云へり或る日彬は不時に病氣と云ひたれば諸大將は皆來り見舞へり彬ハさて我れの病氣は平癒せんと云へば諸大將は皆承諾し盟を約束せりさて翌日に城落ち煜は出でゝ降り南唐は亡びたりやがて勝利の知らせ書が來りたれば帝は涙を流し天下が裂け分れて人

民は其害を被むり城を攻むるの時屹度みだりに刀の先きや矢先きに掛りて死する者あらん實に悲しむことなりと云へり凡そ兵を用ひる以上は人を殺すは當然のことにて降者と雖ども害われば殺さゞる可からず況んや戰鬪者をや若し悲しむの心あれば周の大王の如く國を捨て地を避けて戰をせざるに外なし己に國を爭ひ戰をなしながら多少の人命を取るを悲しむは乃ち醉を嫌ふて酒を勸めるが如し且つ天下が裂け分れて以下は斯く力を入れて見ず只空しき飾り言葉と見て可なり去れば仁者たるの空名あつて仁の實功なく利益の人民に及むざる者なり太体帝王の言葉は皆飾れり只實を見て其人を知る可きなり世に人の不幸を聞き眉を縮めて愁の色をなしさてさて氣の毒なりと云ひ一錢の助けをもせぬ者多し實に人を欺むくの世の中なりさて彬は歸るとき舟の中には兵圍や書物と衣服夜具を載せたる計りにて又都に入りては禁中の小門より略式の上書を差し出し敕を受けて江南に往き事務を管理して歸るとき書けり其手柄に誇らぬことい此通りなりし

○九年。吳越王錢俶來朝。辭歸。上賜以黃袱。封緘甚固。曰。途中宜密觀。及啓之。皆群臣乞留俶章。疏。俶感懼。○上如西京。謁宣祖安陵。○夏四月。郊。都民垂白者相謂曰。我輩少經離亂。不圖。今日復觀太平天子儀衞。有泣下者。○上欲留都洛陽。群臣咸諫。上曰。吾且都長安。晉王叩頭曰。在德不在險。上曰。吾將西遷者。欲據山河之勝。而去冗兵。晉王之言固善。今姑從之。不出百年。天下民力殫矣。乃還大梁。○上崩。在位十七年。改元者三。曰。建隆。乾德。開寶。壽五十。上仁孝。豁達有大度。陳橋之變。迫於衆心。洎入京師。市不易肆。嘗一日罷朝。坐便殿。不樂者久之。左右請其故。上曰。爾謂爲天子容易邪。適乘快指揮一事而誤。故不樂耳。嘗宴近臣紫雲樓下。因論及民事。謂宰相曰。愚下之民。雖不分菽麥。蕃侯不爲撫養。務行苛虐。朕斷不容之。開寶初。修京城及大內。繕畢。上坐寢殿。令洞開諸門。皆端直軒豁。無有壅蔽。因謂左右曰。此如我心。少有邪曲。人皆見之矣。平蜀之後。嘗擇其兵百餘。爲川班殿直。郊禮行賞。以御馬直扈從。特增給川班擊登聞鼓。援例陳乞。上怒曰。朕之所興。即爲恩澤。豈有例邪。斬其妄訴者四十餘人。餘悉配隸諸軍。遂廢其直。內臣有。逮事後唐者。上問。莊宗英武定天下。享國不久。何也。其人言其故。上撫髀嘆曰。二十年夾河戰爭。取得天下。不能用軍法約束。誠爲兒戲。朕今撫養士卒。不吝爵賞。苟犯吾法。惟有劍耳。（講義）（袱）ふろしき（封緘）封じめ（郊）南郊にて天を祭るを云ふ（垂白）白髮を垂るゝ老人（在德）吳起の言葉（冗兵）むだな兵士（殫）盡くなり（豁達）さつぱりとして至る處まで至りたること（洎）及に同し（廝）店なり（菽麥）豆と麥（蕃侯）藩鎭なり（苛虐）むごたらしきを云ふ（軒豁）高く廣し（棄蔽）ふさがり邪寃するゝと（扈從）供すること（登聞鼓）訴人の打つ太鼓とす（援例）例を引くこと（配隸）罪により下し割り付けること（內臣）宦者李承進とす（其故）姑息なるゝと（有劍）切り殺すの意　（講義）同し九年に吳越王なる錢俶が來朝し暇乞ひして歸るとき帝は苞色の風呂敷包にて賜へり其封し目い漢だ堅固す扨て帝は途中にて內々開き見よと云ふ俶が途中にて開き見れば皆群臣が俶を留めんと乞ふの上書なれば俶は恐れ又恩に感したり帝は西京に往き宣祖の安陵に拜謁せり此年夏四月に郊の祭をなしたり都の人民の中にて白髮を垂れたる老人は相互に我れ我れは少壯より亂世に逢ひたれば今日の如く又太平の天子の儀式や行列を見ることい心に思ひ設けざりしと云ひ涙を流す者ありたり帝は留まりて洛陽に都を定めんと思ひしに群臣は皆諫めり因て帝は我れは暫らく長安に都を定めんと云ひしに弟なる晉王は頭を以て地を叩き國の守りは德にありて土地の險阻には關係せずと云へば帝い我れが都を西京に移さんとするは山河の堅固なる形によりて無用の兵を減せんと思ふなり去れとも晉王の云ふ所も元とより尤もなれば今暫らく其言葉に從ふなり其代り百年ならずして天下の人民の財力が盡き果つるならんと云ひそこで大梁に歸れり扨て帝は死去せり在位は十七年にて改元するものは三つ建隆乾德開寶と云ひ壽い五十なり帝は仁義孝行にて胸廣く智至り大ひなる度量わり彼の陳橋驛の變に大勢の心に迫まられ京都に入るとき帝は軍令嚴重にて兵士もかすめることなきゆへ市場も店をも營へず其儘に營業せり扨て帝は或るとき政事を終りて當御殿に坐し樂しまぬ樣子にて久しくありたれば左右の者い其譯を伺ひたれ

ば帝は其方は天子となるは容易なることゝ思へるが丁度愉快に乘りて或る事を差圖して失錯をなせり夫れ故樂まぬなりと云へり又或る時近臣を紫雲樓の下にて酒宴させたるとき人民の事に論が移りたるが帝は宰相に向ひ愚かなる下民は豆と麥との見分けも付かぬ程なるに藩鎮の者は肯て治めることをもせず只務めてひでき政事を行ふなり我れは斷然敎すことをせずと云へり開寶の初年京城及び六內を修繕し全く出來上りたれば上は寢殿に坐し諸の門を十分に開かせたれば皆正しく直く高く廣く見通しになりてさゝはり邪覺する所なく見へたれば帝は左右に向ひ是れハ我心と同樣にて少しにても邪しまに曲りたる所あれば人は皆見るなりと云へり扨て蜀を平らげし後或るとき蜀の兵百餘を選り拔き川班殿直となしたり其後郊禮にて賞を行ひしとき御馬直の兵は御供せしゆへ格別に俸給を增したるに彼の川班の兵ハ登聞鼓を鳴らして御馬直の增給を例に引き增給を乞ひたれば帝は立腹し我れの俸給せしは恩澤を與へし譯にて何とて例あらんやと云ひ其妄りに新へし者四十餘人を切り其餘の者ハ分つて諸軍に附け川班殿直を廢せり扨て宦官の中にて後唐に仕へし者ありしに帝は莊宗は英武にして天下を定めしに國を受け續ぐことの久しかりしハ何故なるやと問へば宦官は莊宗の政事ハ因循姑息になりし故なりと云へば帝は腹を叩きて歎息し二十年間も河を中に取りて戰爭しやつと天下を取りながら軍法を以て下を約束し治めることを出來ざるは賊に小供の戲れと同樣なり我れハ今士卒を育て榮ひ位を授け功を賞するは少しも惜まざるも假りにも我が法を犯すものあれば只劍にて切り殺す計りなりと云へり

五代以來。藩鎮强盛。上以漸削之。罷諸節鎭。專用儒臣。分理郡國。以革節鎭之橫。又置諸州通判。以分刺史之權。罷郡貢獻。禁進羨餘。常衣澣濯之衣。寢殿青布緣。葦簾。晚節好讀書。嘗歎曰。堯舜之世。四凶之罪。止於投竄。何近代法網之密邪。創平諸國。必招之不至。而後用兵。及其旣降。皆不加戮。禮而存之。終其世。嘗幸武成王廟。觀從祀。有白起。指曰。起殺已降。不武。命去之。周恭帝封鄭王。後遷于房州。上以辛文悅長者。俾爲房州守。恭帝先上二年始卒。上發哀輟朝十日。還葬如禮。上初入京。時。周韓通死節。追贈優厚。王彥昇弃命專殺。終身不授節鉞。受禪之際。倉卒未有恭帝禪制。學士陶穀出諸懷中。上薄之。穀久在翰林。頗怨望。上曰。吾聞學士草制。依樣畫葫蘆耳。何勞之有。卒不登之政府。內外官。有時望者。籍記姓名。以待不次選用。稱職者。多久任不遷。定銓選法。嚴舉主連坐法。嚴贓吏法。有眞極刑者。懲五代藩鎭苛征重斂之弊。寬商征。寬麵鹽酒禁。倉吏多入民租者。或棄市。五代多以武人爲牧守。率意用刑。上懲之。故入者必抵罪。定大辟詳覆法。定折杖法。頒新刑統。定差役法。作版籍戶帖戶鈔。長吏有度民田不實者。或杖流之。諸州旱蝗。賑饑蠲租。惟恐不及。舉德行孝悌親策制科舉人。放進士榜。嚴覆試法。御殿親試進士。試書判拔萃。數幸國子監。詔天下求遺書。初用和峴所定雅樂。初行劉温叟所上開寶通禮二百卷。命宰執日記時政。送史館。撰日曆。制度典章。彬彬有條理。太弟晉王立。是爲太宗皇帝。

(字解) (諸侯)藩鎭なり(奏餘)經費のあまり(四凶)舜の罪する四惡人なり(武成王)周の太公望(白起)秦の大將にて趙の降卒四十万を殺したる者(入京)陳橋より周京に入りたるときとす(王彥昇)韓通を殺せり(節鉞)旗節斧鉞にて大將に授くるものとすつまり兵權を云ふ(禪制)帝位を讓る制書なり(俟樓)薪例によりの意(葫蘆)ひようたん(銓選)人才をはかり選ぶなり(連坐)推擧せらるゝ者罪あれば推擧人をも卷き添へにすること(贓吏)賄賂を取る役人(商征)商賣の運上(大辟)死刑(折杖)罪人を杖うつに少を以て多きに代るなり乃ち我總川の時代には百たゝきと云へば六十たゝきなり罪人を打つ時の數(聲ハいゝひうなわやわてうとうにて十の聲となるも其實は一六七八九

十にて六とす乃ち折杖なり（版籍戶帖戶鈔）皆戶籍にて一年に戶鈔を作り二年に戶帖となし三年に版籍とするなり（放進士榜）進士及第者の姓名を掲示すること（覆試）再試驗（書判拔萃）書法と判文との勝れたるを拔き取ること（雅樂）正樂にて文德武功の二とす日曆にて日々の歷史なり（彬々）音ひん備はり盛なるを云ふ

〔字解〕扨て五代より以來は節度使が強く盛んなりしかど帝は段々に其權力を削り諸の節度使を止め第一に學者を用ひて郡國を分かち理めて節度使の我儘なるを改め又諸州には通判と云ふ役を置きて刺史の權力を分ける樣にせり是れより藩鎭の勢は輕くなりて禍難をも作さぬ樣になりたり全體帝は第一は人民の財力を愛し費ふことを務め諸の獻上物を退け止めさせ又役人が定額金のほかを獻ずることを嚴禁し扨て帝は常に洗濯物の衣服を着て飯殿の御膳は青き木綿の繰のよし簾垂れなり帝は晩年には讀書を好み或るとき歎息し堯舜の世に四惡人を罪せしは遠流放逐に止まりしが何とて近代は法律が細かになり罪が重くなりたるやと云へり扨て帝は諸國を打ち平らぐる前には屹度招き下し來らぬ後に軍を用ひ又已に降參するときは皆殺すことをなさず丁重に扱ふて生存させ一生涯を送らせたり或る時武成王の廟處に幸きせしに附け祭る中に白起のあるを見て指差し彼の白起は已に降參せし卒を殺したれば其ただ武勇ならずと云ひ命じて取り除けさせたり扨て周の恭帝は鄭王に封じられ後に房州に移されたるが帝は辛文悅は寬大なる長者ゆへ房州の太守となしたり恭帝は帝より二年先きに死去したれば帝は哀の禮を行ひ朝政を聞くを止めること十日にて故地に歸葬すること禮法の通りにせり扨て帝が初めて京都に入りたる時周の韓通は操を立てゝ死したれば追ひ贈るゝと僅かに手厚かりし又王彥昇は帝の命令を用ひず勝手に韓通を殺したるゆへ生遲再び兵權を授けざりし又周の讓りを受けし時は倉卒の場合ゆへまだ帝位を讓るの制書わらざりしが周の學士なる陶穀は懷中より讓りの制書を取り出したれば帝は穀の仕方を輕薄なりとせり扨て穀は久しく翰林にありて怨みを懷きたれば帝は我れが聞くに學士が制書の草稿を作るは古き例に習ひ手本を見て瓢箪をかく計りなり故に何の苦勞わらんやと云ひつゝ政府に上げ用ひざりし扨て又內外の官吏の內にて一時の名望ある者は其姓名を帳面に書き置きて順序に拘はらず欠員を待て採用せり因て職に相當する者は多くは久しく其職に任じて移さず又銓選の法を定め藏滯人が被藏滯人の罪に連坐するの法を殿重にし又賄賂を取りたる役人の處分する法を殿重にし死刑に處する者ありたり又五代の世の藩鎭はむごく重く取り立てたる弊害に懲りたれば成るべく商業の運上をゆるくし又麴や鹽や酒の禁制を寬大にせり又倉役人が多く人民の租稅を取る者あれば中には市中にて切り捨てたり五代の世は多くは武人を以て地方官となしたれば是れ等の者は思ふまゝに刑法を用ひたれば帝は此事に懲り固ては故意にて人を罪に入れる者は罪となし又死刑は再調へする法を定め杖罪は數を減ずの法を定め新刑統と云ふ法律を世に發布し又賦役の法を定め又版籍戶帖戶鈔の法を定め又長吏が人民の田地を度りて不實の者あるときは或は杖や流の刑に處したり諸州に旱魃や稻虫の害あるときは饑者を救ひ租稅を除きゆるすことは只間に合はぬを恐るゝ計りに差急げり又德行や孝行の者を擧げて自分にて制科の學人を策問し進士及第者の姓名を掲示し再試驗の法を殿重にし自分にて殿に出で進士を試驗し書法と判文とのすぐれ者を選り拔く試驗をなし又度々國子學校に幸きし又天下に詔りして遺書を求めたり初めて和峴が定むる所の正樂を採用し又劉溫叟が上呈する所の開寶通禮二百卷を行ひたり扨て宰相に命じて日々に政事を記して修史館に送らて日記を選ばせたり斯く制度なり典禮なりは備はり盛んにして筋道が立ちたり扨て太弟なる晉王が立ち是れを太宗皇帝と云へり

〔太宗皇帝〕初名匡義。太祖長弟也。太祖入京城。匡義首請號令諸將。戢士卒。仍自於馬前。戒標掠。太祖受禪乃改名光義。尹開封。同平章事。封晉王。建隆二年。昭憲杜太后。臨崩謂太祖曰。汝知所以得天下者乎。太祖曰。皆祖考與太后之餘慶。太后笑曰。不然。正由柴氏使幼兒主天下耳。汝萬歲後。當傳位晉王。晉王傳秦王。秦王以傳德昭。國有長君。社稷之福也。太祖曰。謹受教。太后呼趙普曰。趙書記共記吾言。不可違也。因命普。於榻前爲誓書。普署紙尾曰。臣普記。藏之金匱。太祖友愛篤至。晉王嘗寢疾。灼艾。太祖亦自灸。以分其痛。嘗曰。晉王龍行虎步。且生時有異。他日必作太平天子。福德非吾所能及也。太祖幸獨有布衣張齊賢。獻十策。召問賜食。且啗且對。太祖善其某策。齊賢固稱餘策皆善。太祖怒斥便出。既還。語晉王曰。吾幸西都。得一張齊賢。吾不欲用之。他日留與汝作宰相。蓋傳位之定久矣。太祖不豫。后遣王繼恩。召皇子德芳。繼恩徑召晉王。王至宮中。散遣左右。所言皆不可得聞。但遙見燭影下。王

有離席之狀。既而上引柱斧戳地。大聲曰。好爲之。遂崩。后見晉王。愕然曰。吾母子之命。皆託官家。王曰。共保富貴。無憂也。王卽位。更名炅。秦王廷美尹開封。改封齊王。德昭封武功郡王。○遣使分行州縣。廉察官吏。第其優劣。罷軟不勝任。惰慢不親事。免官。○贓吏配者。遇赦不叙。○大理評事陳舜封。奏事口捷。舉止類倡優。問誰氏子。對以父爲伶官。上曰。汝眞雜類。豈得任清望官。改授殿直。〔字解〕（戟）をさむるなり取締ること（標榜）かすめとるなり（祖考）祖父と父（柴氏）周の世宗の姓なり（幼帝）恭帝年七歳なり（秦王）太宗の弟にて光美（德昭）太祖の子（書記）普の官（金匱）金にて飾るひつなり（灼艾）やひとなり（有異）赤光異香なり（蜀）長安の誤り（德芳）太祖の次子（戴）擅くなり叩くなり扨て傳位之定久と云ひ散遣左右と云ひ不可得聞と云ひ遣見ると云ひ引柱斧と云ふ皆信ずべからず已に燭影斧聲は兄を殺すの故事となれりはに今更云ふを待たざるも猶初學者の爲めに云はんとす傳位云々は聚さんとして聚はるゝもの散遣云々は殺すの下心なり不可得聞は隱すなり遣見は判然云はぬなり引柱斧は今死去する大病人が大斧を持つことの出來ざるハ三歳の兒も知る所なり（官家）天子のこと（聚）明察なり（疲軟）疲弱なり（配者）流罪者（捷）早きなり（倡優）役者なり（伶官）音樂師なり（清望）清要にして名望ある位置なり

〔講義〕匡義は初めに諸大將に觀令して士卒の取締りを付けんと乞ひ太祖の靈前にて自分が直きに分取りをするをきびしく云ひ渡せり太祖が周の讓りを受けたる後そこで名を光美と改め開封に尹となり同平章事となり晉王に封ぜられたり建隆二年に昭憲杜太后が死去に臨み太祖に向ひ其方は天下を手に入れし譯を知るやと云へば太祖は皆祖父と父と太后との餘りの幸ひなりと云ひしに太后は笑ひながら左にわらず誠に柴氏が幼少なる小供を天子とせしによる事なり夫れ故其方が千万年の後は弟なる晉王に傳へ晉王ハ又弟なる秦王に傳へ秦王は其方の子なる德昭に傳へる樣にせよ國に年長したる君あるは天下の幸ひなりと云へり太祖は謹んで教を受くると云へば太后は趙普を呼び趙普記よ其方も共に我れの言葉を覺へ相違することは出來ぬなりと云ひ因て普に命じて陵臺の前にて盟ひの書を作らせたり普は其紙の末に臣たる普が記すと認め此書を命にて飾りたる箱に入れ置きたり扨て太祖は兄弟中が至つて篤きゆへ晉王が或る時病氣にて炙をすへたれば太祖も炙をすへて其いたさを共にせり太祖ハ或る時晉王は龍の行き虎の步する人相わり其上生るゝときも奇異のことわれば他日には屹度太平の世の天子とならん其區別は我れの及ぶ所ならずと云へり扨て太祖が蜀に幸きせし時無位無官なる張齊賢と云ふ者ありて罷著十ケ條を

獻ぜり函て召して問ひ食を賜ひたれば食ひ且つ答へり太祖は其十ケ條中の或るケ條を善なりと云へば齊賢は堅く其他のケ條も皆善なりと云ひたれば太祖は立腹し退ぞけ出せり夫れより都に歸り晉王に向ひ我れハ四都に行きて一人の張齊賢と云ふ者を得たるも我れは此者を採用するを好まぬゆへ後日に留めて其方に與ふるゆへ宰相となせよと云へり夫れと云ふものは太祖が太宗に位を傳へるあとの定まり居るは久しきことなり扨て太祖が病氣なれバ皇后宋氏は宦官なる王繼恩をやりて皇子德芳を召したるに繼恩は直ぐに晉王を召したり晉王は宮中に入り帝の左右の者を追ひ拂たれば云ひたることハ誰れも皆聞くこと出來ざりし只遠くより蠟燭の影の下に晉王が席を立ちたる影が見へ夫れより帝が大斧を引き取り地を打ち能く此事をせよと大聲にて云ひとうとう死去せり扨て皇后ハ晉王を見て大ひに驚き我が母子の命は皆君に托することゝ云へば晉王は宮み且つ貴きを一處にせん故に心配せられましと云ひ晉王は帝位に卽き名を炅と改めたり弟なる秦王の廷美は開封の尹となり改めて齊王に封ぜられ姪なる德昭は武功郡王に封ぜられたり扨て使をやりて州縣を分れて巡行し官吏の行事を明らかに察して其優等と劣等とを次第し疲弱にして事務にたへられぬ者又なまけて事務を自分にて取らぬ者は皆免官にせり又賄賂を取りたる役人の流罪になりたる者は大赦に逢ふも赦さぬことゝせり時に大理の評事なる陳舜封が事を上奏せしに日早くして身の立ち振舞ひが役者に似たれば帝は離れの子なるやと問へば父は伶人なりと答へければ帝は其方は眞に雜類の人なり何とて清望ある官に任ずること出來んやと云ひ改めて殿直を授けたり

○陳洪進來朝。獻漳泉二州。○吳越王錢俶來朝。遂獻其地。○命潘美。伐北漢。尋親征。圍太原。劉繼元出降。北漢亡。○詔征契丹。易州涿州來降。上攻幽州。踰旬不下。遂班師。郡王德昭從征。幽州軍中嘗夜驚。不知上所在。有謀立德昭者。上聞不悅。及歸。以北征不利。不行平北漢之賞。德昭言之。上大怒。曰。待汝自爲之。賞未晚也。德昭退而自刎。後二年。岐王德芳卒。自太祖之子相繼死。齊王廷美不自安。他日上嘗以傳國意。訪趙普。普曰。太祖已誤。陛下豈容再誤邪。於是普復入相。廷美遂得罪。降涪陵縣公。普復使知開封府李符告其怨望。南還房州。尋殺之。普恐

李符漏言。因弭德超譖曹彬故。以符薦德超。貶符春州卒。○种放隱于終南山。結草爲廬。以講習爲務。後進多從之學。上聞召之。辭以母老。上高其節。厚賜錢帛。旌之。○呂蒙正爲參政。有朝士指之曰。此子亦參政邪。蒙正佯不聞。同列欲詰其姓名。蒙正止之曰。若一知名姓。則終身不忘。不如無知也。○召華山隱士陳摶。賜號希夷先生。○開寶寺塔成。前後八年。所費億萬。田錫奏曰。衆以爲金碧熒煌。臣以爲塗膏釁血。上不怒。○先是西夏李光叡卒。子繼筠嗣。又卒。弟繼捧嗣。繼捧來朝。獻四州地。其弟繼遷叛去。數入寇邊。○契丹主明記殂。號景宗。子隆緒立。年十二。母蕭氏專其國政。○上命曹彬等。分道伐契丹。彬兵大敗於岐溝關。詔班師。契丹自是連年入寇。後女眞以契丹隔其朝貢之路。請擊之。不許。女眞遂臣於契丹。○上賜李繼捧姓名趙保忠。授節度使。命管夏銀綏宥靜五州。使圖繼遷。繼遷降。賜姓名趙保吉。保吉復寇邊。命李繼隆討之。保忠言已與保吉解仇。乞罷兵。上怒。命繼隆先移兵討之。繼隆入夏州。檻送保忠於闕下。保吉尋亦請降。而復叛。命繼隆討之。〔字解〕（北征）契丹征伐なり（自征之）其方が天子となりたるときに自分にて賞を行へとの意とす（其怨望）延美が怨みたること（旌）顯はすなり古へは門

と里門とに旌を立てゝ表明するなり故に旌と云ふ（詰）窮め問ふこと（碧）紺青石にて至重なるもの（熒煌）かゞやくこと（釁膏）血（人民の財産を取り集めぬるの意（四州）夏銀綏宥なり（解仇）中直りなり（檻送）あみ乘物にて守り送るを云ふ

〔講義〕陳洪進が來朝し漳泉の二州を獻せり又吳越王なる錢俶が來朝しとうとう其領地を獻上せり扨て潘美に命じて北漢を打たせ何程もなく親征し太原を圍みたれば劉繼元は出て降り北漢は亡びたり詔して契丹を征伐したれば易州涿州は降參せり帝は幽州を攻めしが十日を越へて下らずとうとう軍を歸したり此時鄙王なる德昭は從ふて幽州を征伐せしが或る夜軍中驚き帝のある所を知らずなりたれば德昭を立てんと謀る者ありしが帝は此事を聞て喜ばざりし扨て歸りたる後北征は不利なりしゆへ北漢を平らぐの賞典をも行はざりしに德昭は此事を云ひたれば帝は立腹し其方が天子となりしとき自分にて賞を行ふもまた遲からざるなりと云へば德昭は恐れ退て自分にて首をはねて死したり其後二年に岐王なる德芳は死去せり斯く太祖の二子は相繼で死したれば齊王なる廷美も自分にて安心せざりし或る時帝は位を傳ふることに付き趙普に問ひたれば普は太祖は誤て弟に讓れり陛下も何とて再び誤ることあらんと云へり是に於て普は又入て宰相となれり因て廷美はとうとう罪を得て涪陵縣公に落されたり普は又開封の知府なる李符に廷美が怨みを懷く由しを告げさせ廷美を南の方房州に移し何程もなく殺したり扨て普は李符が其事をもらし云ふを恐れ符を罪せんと思ひ弭德超が曹彬を讒言せしかば符は德超を推薦せしゆへ符を連坐し春州に落せり符は春州にて死去せり茲に种放は終南山に隱居し草を結んで家となし講義傳習を務めとせしが少年の書生は多く從ふて學問せり帝は此事を聞き召したるも种放は母が老年なることを云ひ立てゝ斷りたれば帝は其操を高尚なりとし手厚く金錢布帛を賜ふて顯はせり扨て呂蒙正は參政となりしが朝士の中にて蒙正を指差し此の子も亦參政なるやと云ひしに蒙正は詐はり聞かぬ振りをなせり然るに同役の者が其罵りたる者の姓名を問ひ詰めんと云ひしに蒙正は押し止め若し罵りたる者の姓名を聞き知れば生涯忘れぬゆへいつこ知らぬに越すことなしと云へり時に華山の隱士なる陳摶を召し希夷先生の號を賜へり時に開寶寺の塔が出來きたり費作い前後八年にして入費は億万錢なりし因て田錫は奏し彼の塔は衆人は金碧が光りかゞやくとなすも私い人民の膏や血を塗りたりとなすなりと云ひしが帝は立腹せざりし是れより以前に西夏の李光叡が死去し子なる繼筠が相續し又死去して弟なる繼捧が相續し繼捧は來朝して四州の地を獻上したるが其弟なる繼遷が叛き去り度々入りて國端を攻めたり契丹の主なる明記が死去し景宗と云ひ子なる隆緒が立ち年は十二にて母なる蕭氏が國政を專らにせり帝は曹彬などに命じ道を分けて契丹を征伐させたるに彬の兵は大ひに岐溝關にて敗れたれば詔して軍を返せり契丹は是れより年々入寇せり其後女眞が契丹は入貢獻の路を隔つるゆへ征伐するを乞ひしも許さゞるゆへ女眞はとうとう契丹の家來となれり帝は李繼捧に姓名を趙保忠と賜ひ節度使を授け夏銀綏宥靜の五州を管轄させ繼遷を計らせしに繼遷は降參せしゆへ又姓名を趙保吉と賜へり然るに保吉は又國端を攻めたれば李繼隆に命じて征伐せり時に保忠は自分は已に保吉と中直りしゆへ兵を止めるを乞ひたれば帝は立腹し繼隆に命じて先きに兵を移して保忠を打ちたれば繼隆は夏州に入り保忠を關下に護送せり保吉も亦何程もなく降參を乞ひ又叛きたれば又繼隆に云ひ付けて征伐させたり

○蜀自既平之後。府庫之物。悉載歸內府。

土狹民稠有司不無賦外之科王小破起爲盜小波死李順繼之攻陷成都僭號蜀王上命王繼恩討擒之蜀平○交趾丁連卒大校黎桓因其宗族而專其國上初命討之無功已而桓奉貢竟以桓爲交趾郡王○時霖潦過度上曰朕於刑獄盡心安得積陰之譴寇準越班對言某州局吏侵官錢若干於法爲小過陛下殺之王淮參政王沔之弟盜錢數百萬於法爲大憝陛下以沔故務相容蔽如此而曰刑獄盡心如之何無積陰之譴上即日誅淮罷沔俄而雨止○上崩在位二十二年改元者五曰太平興國曰雍熙端拱淳化至道壽五十九薛居正沈倫趙普宋琪李昉呂蒙正張齊賢呂端等相繼爲相普凡再入再罷尋薨普初以吏道聞寡學術太祖嘗勸以讀書普遂手不釋卷每朝有大議輒闔戶自啓一篋取一書閱之及卒家人視其篋則論語也嘗謂上曰臣有論語一部以半部佐太祖定天下以半部佐陛下致太平蒙正晚出嘗與普並相普甚推之蒙正嘗置冊子夾袋中疏四方人才姓名以待選用初太祖嘗以張齊賢屬上至齊賢擧進士上欲置之上第而有司第其名在下乃詔一榜特與通判卒至大用呂端爲相人謂呂相作事糊塗上知之曰端小事糊塗大事不糊塗自上即位以來以小人爲相者盧多遜一人而已太子立是爲眞宗皇帝〔字解〕（內府）天子の金庫（李順）小波の妻の兄とす（大校）大將校なり（霖潦）長雨にて上は水の溢ること（局吏）役人（憝）惡なり（容蔽）ゆるしかくすこと（篋）箱なり（晚出）年老ひて後に出仕すること（夾袋）小袋なり（上第）及第の上等を云ふ（一榜）及第者一般を云ふ（糊塗）判然せぬしかたなり

〔講義〕扨て蜀が已に平らぐるの後より府庫にありし物は悉く車に載せて天子の倉へ持ち歸れり全体土地が狹くして人民が多きゆへ役人も定まる取立て物の外に取立てぬと云ふことなく夫れより王小波は起りて盜賊をなせしか小波が死して李順が續き攻めて成都を落し蜀王と僭號せり因て帝は王繼恩に命じて征伐させ順を生け取り蜀は平定せり時に交趾の丁連が死去したれば大校なる黎桓が丁連の一族を捕へて自分が國政を取れり帝は初め命じて征伐させしに手柄なかりし然るに其後桓が貢物を奉獻したればつまり桓を以て交趾の郡王となせり時に長雨にてうは水甚だ多かりければ帝は我れは裁判事には格別注意せしに何とて斯く陰氣の積る天の責めを受くることやと云へば寇準ハ坐席を進み出て某州の役人は官の錢を犯し取ること若干なり是れハ法律に於て小なる罪なるに陛下は死刑に行へり又王淮は參政王沔の弟にて錢數百万を盜めり是れは法律に於て大惡なるに陛下は沔が參政なる故にて成るべく隱し許せり此の通りにて裁判事には格別に注意せらるゝと云はる如何んぞ陰氣の積る貴なかるべきと云へば帝は其日に淮を誅し沔を止めたれば俄に雨も止みたり帝は死去せり在位は二十二年にて改元するものは五つにて太平興國と雍熙と端拱と淳化と至道と云へり壽は五十九なり薛居正沈倫趙普宋琪李昉呂蒙正張齊賢呂端なとは相續きて宰相となれり普は凡そ再び入り再び止め何程もなく死去せり普は初め役人の事務を以て世に名高きも學問は少なかりし然るに太祖は或る時書物を讀むことを勸めたれど普は夫れより手に書物をはなさぬ樣になり朝廷に大ひなる評議ある度ひ毎にいつも一室の戸を閉ぢて自分にて一つの箱を開き一つの書物を取りて見居たり死去せし後に家の人が其箱を見れば論語なりし普は或る時帝に向ひ私は論語一部ありて其半部を以て太祖を助けて天下を定め其半部を以て陛下を助けて太平にせしなりと云へり又蒙正ハ晩年に出仕し或る時普と同じく宰相となりしが普は甚だ推し尊べり蒙正は以前より一冊の帳を小袋の中に入れ置き四方の才ある人物の姓名を記載して選用する時を待てりさて初め太祖は張齊賢を帝に採用せよと云ひたれば後齊賢が進士に擧げらるゝに當り帝は優等の及第の位置にせんと思ひしに役人は下の方に名前を加へたればそこで詔りして此時の及第者には一般に通判の官を授け夫れより齊賢は宰相にまで用ひられたり又呂端が宰相となるとき人は呂相は事を處分するに判然せぬと云へば帝は是れを聞き知り端ハ小事は判然せぬことあるも大事は判然と處分するなりと云へりさて帝が位に即きしより以來小人を以て宰相とせしは盧多遜一人だけなりしさて太子が立ちは是れを眞宗皇帝と云へり

〔眞宗皇帝初名元侃封襄王有擧人楊礪嘗夢至一大殿有坐殿上者

語之曰。我非汝主。來和天尊汝主也。指示令謁之。礪後進士第一。入爲襄王府記室。既謁如夢中所見。太宗嘗遣相者。詣襄王。及門而返。曰。王門厮役皆將相也。王可知矣。立爲太子。至是即位。更名恒。○咸平二年。契丹入寇。上親征。至大名府。而還。○三年。益州卒王均反。僭號大蜀。以雷有終知州。討擒之。益州平。○范廷召擊契丹。求援於高陽關。都部署康保裔。亟趨之。廷召潛遁。保裔爲所圍。力戰死之。○李繼遷。先朝奪所賜姓名。寇邊不已。攻陷靈州。西涼六合。酋長潘羅支。乞會王師討之。繼遷攻陷西涼府。潘羅支要而擊之。繼遷中流矢。死於靈州之境。其子德明請降。德賜姓趙。後封爲西平王。○楊嗣。楊延朗。智勇善戰。加團練使。虜憚之。目曰楊六郎。○景德元年。契丹主與其母蕭氏。大舉入寇。中外震駭。參政陳堯叟。蜀人。請幸蜀。王欽若。江南人。請幸江南。上以問宰相寇準。準問。誰畫此策。上曰。卿姑斷其可否。勿問也。準曰。臣欲得獻策之臣。斬以釁鼓。然後北伐耳。遂定親征之議。上駐蹕韋城。尋至衞南。契丹擁兵抵澶州。圍合三面。李繼隆等出禦之。契丹搥覽中弩死。大挫退却。不敢動。寇準力勸上渡河。殿前帥高瓊亦力贊。猶豫間。瓊麾衛士。進輦曰。陛下若不過河。百姓如喪考妣。梁適呵之。瓊怒曰。君輩此時尚責人失禮。何不賦一詩退虜耶。遂擁上以渡。既至澶州。登北城。張黃旗幟。諸軍皆呼萬歲。聲聞數十里。契丹氣奪。(字解) (舉人)制科に應ずる者(來和天尊)神仙宗教の神の名(祀宰)右筆なり(厮役)賤しき役人を云ふ(亟趨)人を殺して太鼓にぬり軍神を祭るなり(蹕)行列を云ふ(力贊)つとめたすけること(猶豫)ぐずぐずすること(考妣)父母の死後の稱とす

(講義) 眞宗皇帝の初めの名は元侃と云ひ襄王に封せらる擧人楊礪と云ふ者ありしが或る時一つの大殿に至りしに殿上に坐する者ありて礪に告ぐるに我れは其方の主人にあらず來和天尊こそ其方の主人なりと云ひ指差して天尊に拜謁させし夢を見たり其後礪は進士第一にて襄王府の右筆となり已に拜謁したるに夢中の天尊の通りなりと是れ等も亦宗教上の小說なり又太宗が或る時人相見をやりて襄王の處に至らせしに門に入りて其まゝ歸り來り襄王の門下は賤しき役人でも皆大將大臣の人相なれば王の人相ハ見ぬも天子の人相なることは分り居れりと云へりさて襄王ハ立て太子となり茲に至りて位に即き名を恒と改めたり咸平の二年に契丹が入寇せしかば帝は親征して大名府に至りて歸れり同じ三年に益州の卒なる王均ハ謀反し大蜀と僭號せり因て雷有終を以て益州の知事とし打て均を生け取り益州は平らぎたり范廷召は契丹を打ち援を高陽關に求めしに都部署なる康保裔は速に援ひに赴きしに廷召はひそかに逃げたれば保裔は敵に取り卷かれ力戰して打死せり李繼遷ハ先朝に賜ふ所の姓名を奪はれ國端しに寇して已まず攻めて靈州を落せり然るに西涼六合の酋長なる潘羅支は王師に會して繼遷を打たんと乞ひしに繼遷ハ攻めて西涼府を落せり因て潘羅支は迎へて打ち繼遷は流矢に中りて靈州の境にて死せり其子なる德明は智勇にして能く戰ひたれば團練使を加へたるに夷は憚り恐れて楊六郎と云へり景德の元年に契丹の主は其母の蕭氏と大軍を起して入寇せしかば中外ハ驚ひ驚きたりさて參政なる陳堯叟は蜀の人なれハ蜀に幸きするを乞ひ王欽若は江南の人なれば江南に幸するを乞へり帝は蜀と江南と何れかよきやと宰相なる寇準に問ひたれば準は先づ離れが此策を申立てたるやと云へば帝は君は暫らく其よしわしを決斷せよ申立て人を問ふ勿れと云へば準は私は此の如き策を申立てたる者を切り其血を太鼓にぬりて血祭りをなし然るに後に北の方契丹を征伐せんと思ふなりと云ひ夫れより天子親征の評議を定めたり帝ハ進んで行列を章城に進め何程もなく衞南に至れり契丹は兵を引き連れて澶州に至り三面より取り卷きたれば李繼隆なとは出でゝ防ぎしが契丹の搥覽は石弓に當りて死し軍勢大ひに挫けて退きしが官軍は押て動かさりし因て寇準は勉めて帝が河を渡るを勸めしに殿前帥なる高瓊も亦勉めて其事を助け兎角する中に瓊は衛士を指圖して帝の乘物を進ませ陛下若し河を渡らざれば百姓ハ父母を失ふ樣なりと云へば寇準は叱り付けしに瓊は立腹し適に向ひ君なとは詩文を以て用ひらるゝ者なるに斯る場合に人の無禮を責めんより何とて一詩

を作り其力にて夷の大軍を退ぞけざるやと云ひとうとう帝を守り立てゝ河を渡り已に澶州に至り北城に上り黄色の大小旗を立て連ねたれば諸軍は皆万歳と呼び其聲は數十里に聞へたれば契丹は氣力を奪われたり

先是王繼忠者陷虜嘗言和好之利故雖大學亦遣使以繼忠書來上命曹利用報之至是利用與契丹使者韓杞偕來請世宗所取關南故地上曰地必不可得寧與金帛以和準意亦不欲與且畫策以進曰如此則可保百年無事不然數十歳後戎復生心準蓋欲擊之使隻輪不返上曰數十歳後當有能禦之者吾不忍生靈重困姑聽其和遂再遣利用往利用請歳賂金帛之數上曰必不得已雖百萬亦可準召語之曰雖有勅旨不得過三十萬如過此數勿來見準準斬汝矣利用卒以絹二十萬銀十萬定和議南朝爲兄北朝爲弟交誓約各解兵歸準初發京師命朝士出知諸州皆於殿廊受勅戒之曰百姓皆兵府庫皆財不責汝澶戰但失一城一壁當以軍法從事恐欽若沮親征之議以其有智且有福出欽若知天雄軍契丹至城下欽若閉門束手無策修齋誦經而已上還自澶淵待準極厚欽若歸深恨準嘗退朝上目送準欽若進曰陛下敬準爲其有社稷功邪城下之盟春秋小國所恥也上愀然欽若每日澶淵之役準以陛下爲孤注上待

準寢遂薄尋罷相以王旦同平章事旦王祐之子也太祖嘗遣祐按事謂祐還與王溥官職祐不徇太祖意竟不大用祐曰祐不做兒子二郎必做植三槐于庭曰吾後世必有爲三公者至是旦果爲相深沉有德望能斷大事上心深屬之趙德明嘗以民饑上表乞粮群臣皆請責之旦曰臣欲詔德明云塞上儲粮不可與已於京師積百萬可自遣衆來取德明再拜受詔曰朝廷有人

〔字解〕(世宗)周の世宗は石敬塘が與ふる所の土地を取り返したるなり(保)受合ふこと(生心)中國を伺ふ心を起すこと(隻輪)車の輪一つ(能禦之者)是れが因循姑息の本色にて寇準ありと雖も奸人を信じ百年の大計を誤まり金と云ひ元と云ひ世ハ夷の物となるに至れり臣の賢は君の愚を救ふに足らず世々皆然り歎ぜ可きかな(澶淵)澶州の古名なり(城下之盟)敵に攻められ城下に出でゝ和睦の約を結ぶこと(愀然)顔色を變ずること(修齋)佛法の會合の名(孤注)博奕の時錢を有る限り掛けて勝負を決すること(接)取調へるなり(王溥)十宰(不徇)宰相にならぬの意(二郎)王旦(三槐)三本のえんじゆの木なり槐は古へ大臣の諮所の庭に植へ(講義)是れより先き王繼忠なる者あり夷に生け取られ後て和好の利益しより大臣にかたどるなり乃ち三本ハ三公の心とす

〔講義〕を云ふ故に契丹ハ大軍を起し來るも亦使を遣ハし繼忠の書面を持たせ來れり因て帝は曾利用に命じて返答させたりさて此時利用は契丹の使者なる韓杞と共に來り周の世宗の取りたる湖南の元とのと土地を乞ひしに帝ハ土地は屹度與ふることならずいつそ金帛を與へて和睦せんと云ひしに準の心も土地をやることを欲せず且つ準は飽まで戰ふの策を定めて申し立て斯くすれば百年も無事なるを受合ふこと出來るも左なくは數十年の後に夷は又中國を伺ふの心を起さんと云へり夫れと云ふものは準は十分に攻め打ち車の片々の輪も返らさぬ樣にせんと思ひしに帝ハ數十年の後にハ又能く夷を防ぐ者あらん我れは此上人民を重ねて苦しめるに忍びられぬゆへ暫らく和睦を承知せんと云ひとうとう又利用をやれりさて利用は年々やる所の金帛の數を尋ねたれバ帝は是非とも已むを得ざるなれば百万やるもよしと云へり然るに準は利用を召し帝の仰せあるも三十万より越ゆることは出來るぬなり若し三十万を越せば來りて我に面會する勿れ我れは其方を切り殺さんと云へりさて利用つまり年々絹二十万疋と銀十万兩とをやることゝし和議を定め宋を兄とし契丹を弟とし双方約束を結び夫れ夫れ兵を解きて歸れり初め準は京都を出發するとき朝士に命じて出でゝ諸州を治めさせ皆殿廊にて敕を授けさて百姓は皆兵なり府庫ハ皆財なれば其力に妄りに戰ふことを申付けざるも若し一城一壁を失ふときは夫れハ軍法を以て罪を論せんと云ひ戒めたりさ

て又欽若が親征の評議を邪魔するを恐れ其上欽若は才智もあり幸福もある者ゆへ欽若を出して天雄軍を支配させたり偖るに契丹は天雄軍の城下にまで來りしに欽若は門を閉ぢ手を束ねて道ひ拂ふの策もなく只佛宮を設け佛經を讀み居たりさて帝は澶州より歸りしより準をわしらうこと極めて手厚かりし欽若も頓り深く準を怨みしが或る時準が退朝のとき帝は準を見送りしに欽若は進み出で陛下が準を敬ふは彼れ國家を回復するの手柄あるが爲めなるが全体城下の盟をなすは春秋の世の小國も恥とする所なりと云へば帝は欽若にそゝのかされ俄に顏色を變ぜりさて欽若は時を得ていつも彼の澶州の戰は準が陛下を掛けて勝か賈けるの山博奕をなしたるなりと云へば帝は是れより準を待つことはとうぢう薄くなり何程もなく宰相を止めたり次に王旦を以て同平章事とせり旦は王祐の子なり太祖が以前に祐をやりて事の取調べをさせ其時祐が我心の樣にして歸らば宰相となさんと云ひしに祐は正道を取り太祖の心に從ひ處分せざりしゆへつまり宰相にならざりし或る時祐は我れは宰相にならざるも小供なる二郎は屹度宰相とならんと云ひ三本の槐の木を庭に植へ我が後世に於て屹度三公となる者あらん此木は其印しなりと云へり果して茲に至り旦は宰相となれり旦の性質は深く落付きて德行名望あり又能く大事を決斷せり因て帝は深く心を付けたり扨て趙德明が或る時人民の飢饉により上表して糧米を乞ひしに群臣は皆其罪を責めんと乞ひたり然るに旦は私は德明に詔りし國端しの取手の兵根は與ふる事出來ず已に京都にて百万石も積立てあれば其方より兵衆をつかはし來りて受け取れと云はんと思ふなりと云ひ其通りに云ひやりたれば德明は再拜して詔りを受け扨て朝廷には人物あるなりと云へり

上既入欽若之言。數問欽若。何以刷恥。欽若知上厭用兵。謬曰。取幽薊乃可。上令思其次。乃請封禪以鎮服四海。誇示夷狄。又言。封禪當得天瑞。前代有以人力爲之。河圖洛書。果有此邪。聖人以神道設教耳。於是自太中祥符以來。數有天書降。東封泰山。西祀后土。於汾陰。又有趙氏祖九天司命天尊降。天下立天慶觀。置聖祖殿。諱聖祖名玄朗。京師作玉清昭應宮。且不能止其事。○上在位二十六年。自元年呂端罷後。張齊賢。李沈。呂蒙正。向敏中。畢士安。寇準。王旦。相繼爲相。惟旦居位十一年。當李沈爲相時。旦甫參政。沈喜讀論語。嘗曰。爲宰相。如論語中節。用而愛人。使民以時。兩句。尚不能行。聖人之言。終身誦之。可也。沈日取四方水旱盜賊。奏之。且謂細事不足煩上聽。沈曰。人主少年當使知人間疾苦。不然。血氣方剛。不留意聲色犬馬。則土木甲兵禱祠之事作矣。吾老不及見。此參政他日之憂也。及太中祥符封禪祠祀土木並興。且乃歎曰。李文靖眞聖人也。每有大禮。且輒以首相奉天書以行。常悒悒不樂。欲去則上遇之厚。及薨。干位。遺令削髮披緇以斂。議者謂。且得君而不能以正自終。或比之馮道云。張詠嘗言。吾榜中得人最多。謹重有德望。無如李文靖。深沉才德。鎮服天下。無如王公。面折廷爭。素有風采。無如寇公。當方面之寄。則詠不敢辭。當且之世。王欽若已相。欽若罷。寇準再入相。參政丁謂。事準甚謹。嘗會食。羹汚準鬚。謂起拂之。準笑曰。參政國大臣。乃爲官長拂鬚邪。謂甚愧恨。準罷。李迪丁謂爲相。準遠貶。迪罷。謂獨相。時上已有疾。昏眩。如準罷貶。皆謂白中宮行之。上不知矣。尋崩。年五十五。在位改元者五。曰。咸平。景德。曰。大中祥符。曰。天禧。乾興。太子立。是爲仁宗皇帝。（字解）（刷恥）城下の盟の恥を拭ふこと（封禪）土を積て天を祭り地を拂ふて地を祭り功業を告げること（天瑞）天より祥瑞なり（河圖）伏羲の時河より出す（洛書）禹の時洛より出す（太中祥符）四字の年号（天書）天より降ると云ふ此

兒齒にして帝疑はず其愚想ふべし(趙氏祖)黄帝なりと云ふ(玄朗)元明とす(土木)醮請(禱祠)いのりまつる(文靖)沈の字なり(大體)封禪などを云ふ(披緇)黒染めの僧衣をきせること(歛)死者を棺に收めること(馮道)五代の世に宰相となりし人(榜中)進士及第者の掲示中にて同時及第の意(方面之寄)一方一面の大將の任　(講義)帝已に欽若の讒言を聞き入れ度々欽若に問ふに何を以なり(迪)音てき昏眩目も心もくらむなり(中宮)皇后劉氏とす を服ふを知るゆへ先づ僞はり幽薊の地を取らば乃ち可なりと云へば帝は果して軍事を好まず其次きを考へさせたりそこで欽若は封禪の祭りをなして四海を鎮め心服させ夷國に誇り見せんと云ひ又全体封禪するには天の祥瑞を得る筈なるも前代には人力にて祥瑞をなすことあり彼の河圖洛書とて龍馬大魚が背に負ふて水より出でたるなど云ふも果して是れあることならんや是れ皆聖人が神の道を設けて教を立て立てたるまでなりと云へり是れより太中祥符以來度々天より書がくだれり因て東の方泰山に封の祭りをなし西の方にて土地を汾陰に祭れり又趙氏の先祖なる九天司命天尊が天降りたり因て天下に天慶觀を立て又聖祖殿を立て聖祖の名なる玄朗の字を諱て元明の字となせり又京都に玉清昭應宮を立てゝ天書を安置せり王旦は宰相たるも是れ等のくだらぬ事を諫め止めることは出來ざりし扨て帝ハ在位二十六年にて元年に呂端が宰相を止めしより後は張齊賢や李沆や呂蒙正や向敏中や畢士安や寇準や王旦が相續て宰相となれり只旦は相位に居る十一年なり李沆が宰相たる時に當り旦は初めて參政となりしが沆ハ論語を讀むことを好み或る時我れ宰相となり論語中の財用を節減して人民を愛し人民を使ふには使ふべき時を以てするとの二句の如きはまた中々行ふこと出來ず實に聖人の言葉は一生遲法とし唱ふるがよしと云へり扨て沆ハ日々四方の大水旱蝗盜賊のことを以て奏上しければ旦は斯る些細なることは天子の耳に入れるに足らぬなりと云へば沆は否な人主は少年なれば人問のやみくるしむことを知らずがよし左なくば血氣強き時なれば音樂や女色や犬馬に心を寄せざれば醮請や軍事や祭りや祈禱の事が始まらん去れど我れは年老ひたれば夫れ等の事は見ることなきも丁度君が後日の心配とならんと云へり果して其通り太中祥符年間に及び封禪や祭祠や醮請事が並びに始まりたり因て旦はそなで歎息し李文靖は誠との聖人なりと云へり扨て朝廷に大ひなる儀式ある毎に旦は宰相たるゆへいつも彼の天書を持て行くことなれば常に憂て樂しまず宮を去らんとするに帝が待遇厚きゆへ押て去ることも出來ず遂に宰相の位にありて死去せり因て遺言し髮を削り黒衣を着せて棺に收めよと云へり世の議者は旦は君に信用せられながら正道を以て身の終りを處分することを出來ずと云ひ中には旦を五代の馮道にくらべる者ありしと云ふ扨て張詠は或る時我が同榜及第の中にハ人物を得ること最も多く謹み深く手重くして德行名望ある者は李文靖に越すことなく深く落付き才智德性ありて天下を鎮め心服さするは王旦公に越すことなく面の當り諫し朝廷にて諍し一方一面の大將の任に當るハ我れは押て辭退せぬなりと云へり扨て旦が時に當り王欽若は已に相となり欽若が止め寇準が又入て相となれり時に參政なる丁謂は準に仕へること甚だ舊みたり或る時會食の席にて吸物が準の上髭をよごしたれば謂は立て髭を拂ひたれば準は笑ひ參政は一國の大臣なるに却て長官の爲めに髭を拂ふやと云へば謂は甚だ恥ぢ恨みしが準が止め李迪丁謂が宰相となり準は遠く流され又迪が止め謂が獨り宰相となり時に帝ハ已に病氣ありて心くらみたれば準が止め流さるゝは皆謂が中宮に申上げて行ひたれば帝ハ知らぬことなり何程もなく死去し年は五十五なり在位中改元せしものは五つにて咸平と景德と大中祥符と天禧と乾興と云へり太子が立ち是れを仁宗皇帝と云へり

(仁宗皇帝)名禎。母李氏。章獻明肅劉皇后子之。眞宗得皇子已晚。始生。晝夜啼不止。有道人言。能止兒啼。召入則曰。莫叫莫叫。何似當初莫笑。啼即止。蓋謂眞宗嘗籲上帝祈嗣。問群仙誰當往者。皆不應。獨赤脚大仙一笑。遂命降爲眞宗子。在宮中好赤脚。其驗也。自昇王爲太子。年十三即位。劉太后垂簾同聽政。丁謂用事。竄寇準爲雷州司戸。參政王曾密奏。謂包藏禍心。眞宗山陵。擅移皇堂於絶地。遂罷謂。貶至崖州司戸。謂初命學士草準責詞。令用春秋無將。漢法不道。爲證事。及謂竄。學士乃用其語。人快之。方逐準時。京師語曰。欲得天下寧。當拔眼中丁。欲得天下好。莫如召寇老。然準竟不及北還而卒。王曾爲相。王欽若再相。欽若卒。張知白相。知白卒。張士遜相。士遜罷。呂夷簡相。惟王曾自天聖初居相位。至是七年而罷。曾初擧進士。青州發解。禮部。廷試。皆第一。人曰。狀元三場。喫著不盡。曾曰。曾平生之志。不在溫飽。眞宗末。正色立朝。朝廷賴以爲重。作相日。所進退士。莫有知者。或問其故。曾曰。恩欲歸己。怨

使誰當。○交趾黎桓景德中卒。子龍廷殺其兄龍鉞而自立來貢賜名全忠。太中祥符間全忠卒。子幼弟爭立。大校李公蘊遂殺之而自立。至是公蘊卒。子德政立。來告喪。封交趾郡王。○契丹主隆緒殂。號聖宗。子宗眞立。○西夏趙德明卒。子元昊立。〔字解〕（當初）最初なり（簸）呼ぶなり（赤脚）すあしなり姓は李（其驗）其證據なり（扨）此一條皆、史家の云ふ所なり斷然削り去るを可とす（皇堂）棺を入る處（春秋無將）春秋の法は將に叛をなさんとするを待たずして罪を行ふを云ふ（不道）道ならぬこと（丁）釘に通ず（發解）鄉里の下試驗なり（禮部）本試驗なり（廷試）御前試驗なり（狀元）第一番（喫著不盡）祿多くして食ひきれぬを云ふ（景德）眞宗の年号〔講義〕仁宗皇帝の名は禎と云ひ母は李氏なるが章獻明肅劉皇后が自分の子となせり眞宗は皇子を得ること已に遲かりし帝は始めて生れたるとき晝夜とも啼きて止まざりしが神仙宗教者ありて能く小供の啼くを止めると云へば召し入れたるに道人は叫ぶなかれ叫ぶなかれ何とて初め笑ふたるに似ざるやと云へば帝の啼くことは直ぐに止みたり夫れと云ふものは眞宗が以前に天の上帝を呼び跡續ぎを祈りたれば上帝は群仙に誰れが往て子となるやと問ひしに皆返答せざりし然るに赤脚大仙は獨り一笑したればどうぞう命じて人間に下し眞宗の子となせり帝は宮中にありてす足を好むが赤脚仙人たるの證據なり扨て帝は昇王より太子となり年十三にて位に即けり劉太后は御簾を垂れて共に政事を聞けり時に丁謂は政權を取り寇準を流して雷州の司戶となせり然るに參政なる王曾は內々奏上し丁謂は腹中に禍ひの心を包み持ち又眞宗の陵の棺を入れる處を勝手に掛け離れたる處に移せりと云へり因てどうぞう謂を止め落して崖州の司戶となせり初め謂は學士に云ひ付け寇準を流すときの中渡し書の下案を書かせ春秋には無將と云ひ漢法は不道とて叛逆を未前に罪すると云ふ言葉を用ひて中渡し書を作りたれば世の人は誠によき氣味とせりさて準を流す時に當り京都の人は言葉を作り天下の安寧を得んとなれば眼中の丁を拔き取れよ天下の好惡を得んとなれば寇準を召し返すに越すことなしと云へり然れども準はつまり北に歸るに及ばずして死去し王曾は宰相となり王欽若は再び相となり欽若は死去し張知白は相となり知白は死去し張士遜は相となり士遜は止め呂夷簡は相となれり只王曾は天聖の初めより相位に居り茲に至り七年にて止めたり曾は初め進士に舉げられ青州の下試驗と禮部の本試驗と御前試驗の三ヶ所共に第一番に及第したれば世の人は三場所の第一番となり躁は多く食ひ盡くされぬなりと云ひしに曾は我れは平生よりの心立ては衣食の溫飽にわらずと云へりさて眞宗の末年に曾は顏色を正しくして朝廷に立ち朝廷はより賴みて重りとせり又宰相たる時に人を進め退ぞくるも一人として曾のする處と知る者なかりし因て或る人は其譯を問へば曾は人の喜びを自分の身に落付けんとすれば人の怨みは離れに引受けさすることゝと云へりさて交趾の黎桓は景德年中に死去し子なる龍廷が其兄なる龍鉞を殺して自立し來り貢獻したれば名を全忠と賜へり太中祥符の間に全忠は死去し子は幼少なるゆへ弟が立つて爭ひしに大校なる李公蘊はどうぞう二弟なる明提と明昶とを殺して自立し茲に至りて公蘊は死去し子なる德政が立ち來りて死去を申し立てたれば德政を交趾郡王に封せり又契丹の主なる隆緒は死去し聖宗と號し子なる宗眞が立てり又西夏の趙德明が死去し子なる元昊が立てり

○劉太后以上爲己子。而上母李氏。默默處先朝嬪御中。未嘗自異。人亦畏后不敢言。疾革。乃進位宸妃。而薨。宰相呂夷簡奏太后。宜備禮以葬。曰。他日莫道夷簡不曾說來。宸妃卒。踰一年。太后崩。稱制十一年。上始親政。先是呂夷簡。張士遜並相。夷簡罷。李迪相。而士遜爲首相。無所發明。而罷。夷簡復相。迪罷。王曾復相。而權在夷簡。夷簡之初罷也。以郭皇后之言。及復入。而后有尙美人爭寵之隙。遂廢郭后。夷簡有力焉。臺諫孔道輔。范仲淹爭。不得而出。仲淹還朝爲待制。知開封府。言事愈急。數議時政。夷簡訴其越職。罷知饒州。館閣余靖。尹洙爭之。皆坐貶。歐陽脩責諫官高若訥不諫。謂不知人間有羞恥事。若訥奏其書。亦貶。蔡襄作四賢一不肖詩。四賢指仲淹。洙。靖。脩。不肖指若訥也。王曾因對斥夷簡納賂示恩。夷簡。曾並罷。王隨。陳堯佐代之。以無所建明而罷。張士遜。章得象代之。○趙元昊據有夏銀。綏。宥。靈。鹽。會。勝。甘。涼。瓜。沙。蕭州之地。居興州。阻賀蘭山。爲固。僭號大夏皇帝。入寇。西邊

騷然。范雍經略西夏。聞元昊將攻延州。懼甚。閉門不救。劉平戰死。中官黄德和誣奏平降賊。以兵圍其家。議收其族。富弼言。平自環慶來援。姦臣不救。故敗。罵賊而死。德和誣人冀免。坐腰斬。范雍罷。時軍興多事。張士遜無所補。諫官韓琦上疏曰。政事府豈養病坊邪。於是士遜致仕。呂夷簡復相。用韓琦范仲淹。爲邊帥。仲淹嘗兼知延州。夏人相戒曰。毋以延州爲意。小范老子。胷中自有數萬甲兵。不比大范老子可欺也。邊人爲之語曰。軍中有一韓。西賊聞之心膽寒。軍中有一范。西賊聞之驚破膽。昊之不得大逞。蓋藉琦。仲淹之宣力居多。契丹乘朝廷有西夏之撓。遣泛使。求石晉所割周世宗所取關南地。知制誥富弼接伴。時夷簡任事。人莫敢抗。弼數侵之。夷簡欲因事罪弼。以弼報使。弼至。往返論難。力拒其割地。使還。再遣。而國書故爲異同。夷簡欲以陷弼。弼疑而啓觀。乃復回奏。面責夷簡。易書而往。增歲賂銀絹各十萬。定和議而還。（字解）

（嬪御）宮女なり（病革）病氣重ること（館閣）内閣官なり（羞）恥なり（對）天子に面謁すること（經略）はかり治めること（誣）無實を云ひ立てること（姦臣）范雍なり（養病坊）病院のこと坊は大邸の意にて町の四方一區劃を坊と云ふ故に四方が通路にて内の一區を丸取りにする邸を坊と云ふなり（邊帥）國端しを守る大將（爲意）取らんと思ふの義とす（小范老子）范仲淹（大范）范雍なり（一韓）韓琦（一范）范仲淹（逞）心よくするなり（撓）亂れたゆむこと（泛使）海に浮び來る使なり（接伴）接對掛りのこと（報使）返答の使者なり（異同）口上と書面と相違あること

〔講義〕さて劉太后は帝を以て自分の子となしそうして帝の生母なる李氏は天子の母とは云はず矢張り先帝の宮女の中に居りまた以前より他の者と異なることなく人も亦太后を恐れて押て何をも云はず然るに李氏が病氣重りたるとき位を進めて宸妃となしとうとう死去せり此時宰相なる呂夷簡は太后に奏上しとうか禮式を備へて宸妃を葬むられよと云ひ其上他日に帝が生長の後に夷簡が此事を說かざりしと云はれましと云へりさて宸妃が死去してより一年を越へて太后も死去せり太后は政事を行ふこと十一年にて帝は始めて政事を自分にて取れり是れより以前に呂夷簡張士遜は並びに宰相となり夷簡は止め李迪は宰相となりそうして士遜は首座宰相となり迪は止め王曾は又宰相となりそうして權勢は夷簡の手にあり夷簡が初め宰相を止めしは郭皇后の言葉を以てなりさて又入て宰相となるに及び皇后は御美人と帝の氣に入りを爭ふて不中なりしがとうとう郭皇后を廢せり是れには夷簡の力らが多かりし此時疎なる孔道輔と范仲淹とが諫めたれども皇后を救ふこと出來ずして二人は地方へ出されたり又仲淹は朝に召し返されて待制となり開封府の知事となり事を云ひ立つること弼よ緊しく又度々時の政事を論議したれば夷簡は仲淹が職分に越へたる由しを申立て止めて饒州の知事としたれば内閣員なる余靖と尹洙とが此事を諫め爭ひしに皆又卷き添へて落されたり因て歐陽脩は諫官なる高若訥が此事を諫めざるを責め人間に恥と云ふことのあるを知らぬなりと云ひたれば若訥は其俗の書面を奏上せしゆへ脩も亦落されたり時に蔡襄は四人の賢者と一人の愚者との詩を作れり四人の賢者は仲淹と洙と靖と脩とを指し一人の愚者は若訥を指したりさて王曾は帝に謁見の時により夷簡が賄賂を取りて恩を施し示すを云ひ立てたれば夷簡と曾とは共に止められ王隨と陳堯佐が代り宰相となりしが政事を立て明らかにする所なきゆへ止め張士遜と章得象とが代れりさて趙元昊は夏銀綏宥靈鹽會勝甘涼瓜沙肅の十三州の地を所有として稱籠り興州に居り賀蘭山を隔てとして固めとなし大夏皇帝と僭號し攻め入りたれは四の國端しは騷はがしくなり たり范雍は此時西夏を取り治めんとせしが元昊が延州に攻め來ると聞き大ひに恐れ門を閉ぢて救はず因て劉平は戰死せり然るに宦官なる黄德和が劉平の家を取り卷き其家族を召し取らんとはかりし に富弼は平が環慶より來り救ひしに姦臣なる范雍が救はざるゆへ平は破れ賊を惡口して死したり然るに德和は人を無實の罪に落して自分の罪を免かるゝを企て願ふなりと云ひ其罪にて德和を腰切りにし范雍を止めたり此時軍は起りて世は多事となりしに張士遜は國の補ひとなる所なければ諫官なる韓琦は上書し政事府は何とて病氣を保養する病院ならんやと云へば是に於て士遜は辭職し呂夷簡が又相となり 韓琦 范仲淹を以て國端しを守る大將とせり仲淹は以前に兼て延州の知事となりしが夏人は互に氣を付け延州を取るを心となす勿れ小范老子の胸の中には自然と數万の鎧武者ありて大范老子の樣に欺むく事の出來る比ひにわらずと云へり又國端しの人の言葉を作り軍中に一人の韓琦があれば西賊は此事を聞て驚て膽を破ると云へりさて昊が大ひに思ふ儘にする事の出來ぬは夫れは琦と仲淹が力を伸ぶるの多きによるなりさて又契丹は朝廷に西夏の乱れわるに付け込み海上より使を來らせ石敬瑭が割きたる所にて周の世宗が取戻したる所の關南の地を

求めしに知制誥なる富弼は接待掛りとなれり時に夷簡は政事を專らにし人は押し立て付く者なきに弼は度々侵したれば夷簡は事に托して弼を罪に落さんとし弼を以て契丹の報答使となせり弼は契丹に至り度々論難し勉めて土地を割くことをゝばみさて使をすまして歸りしに又再びやられたり然るに國書と口上とをわざとに喰ひ違ひをなし是れは夷簡が弼を禍に落さんとせるが弼は疑ひて途中にて國書を開き見るに全く口上と違ふゆへそこで又引戻して奏上し而前にて夷簡を責め付け國書を改めて往きさて年々にやる所の銀と絹とを何れも十万づゝ增し和睦を定めて歸れり先きに寇準が數十年の後に中國を伺ふの心を起すと云ひしが果して其言葉に違はず又是れより段々と伺ふの心を增長するに至れり凡そ敵國を處するには事の成否を顧りみず全國の力を盡して痛擊し以て成否に任し乃ち斃れて止むべし若し一度び和すれば敵を增長さし二度び和すれば又增長させ我國の民心は和を頼みて敵國は利を計りつまり如何んともするなきに至る宋の亡ぶる此の如し實に陋なりと云ふべし故に云ふ敵國に對しては只痛擊わり家を焼くは薪の如く人を殺すは麻の如く遂に勢盡きて亡ぶるに至るも亦快ならずや

○呂夷簡求罷。上遂欲更天下弊事。增諫官員。命王素。歐陽脩。余靖。蔡襄。供諫院職。以韓琦。范仲淹。爲樞密副使。召夏竦。爲樞密使。諫官論罷竦。以杜衍代之。國子直講石介喜曰。此盛德事也。乃作慶曆聖德詩。有曰。衆賢之進。如茀斯拔。大姦之去。如距斯脫。大姦指竦也。仲淹琦適自陝西來。道中得詩。仲淹拊股謂琦曰。爲此怪鬼輩壞事。竦因與其黨造論。目衍等爲黨人。歐陽脩乃作朋黨論上之。略曰。小人無朋。惟君子有之。小人同利之時。暫爲朋者。僞也。及其見利而爭先。或利盡而情疎。反相賊害。君子修身。則同道而相益。事國則同心而共濟。終始如一。此君子之明也。爲君者。但當退小人之僞朋。進君子之眞朋。則天下治矣。○仲淹遷參政。富弼爲樞副。上既擢仲淹等。每進見。必以太平責之。開天章閣召對。賜坐給筆札。仲淹等皆惶恐退列奏十事。一曰。明黜陟。二曰。抑僥倖。三曰。精貢舉。四曰。擇官長。五曰。均公田。六曰。厚農桑。七曰。修武備。八曰。減徭役。九曰。覃恩信。十曰。重命令。上方信向。悉用其說。惟武備欲復府兵。一說。宰相以爲不可。時章得象。晏殊。並同平章事。未幾。仲淹宣撫陝西。河東。富弼宣撫河北。竦等造謗。故仲淹等不安於朝。歐陽脩亦出使河北。晏殊罷。杜衍同平章事。衍務裁僥倖。每內降。率寢格不行。積詔旨十數。輒納上前。上嘗語諫官曰。外人知衍封還內降。邪朕在宮中。每以衍不可告而止者。多於所封還也。會衍嫌蘇舜欽。監進奏院。用鬻故紙公錢。祀神會客。御史中丞王拱辰。素不便衍等所爲。因攻其事。置獄得罪者數人。拱辰喜曰。吾一網打去盡矣。衍相七十日而罷。賈昌朝平章事兼樞密使。韓琦罷樞副。知楊州。事章得象罷。陳執中平章事。昌朝罷。夏竦代爲宣密使。○貝州卒王則反。文彥博宣撫河北。討平之。彥博入爲平章事。〔字解〕（茀斯拔）茅を拔けば根が付き相連は一賢を擧げば相連り進むを云ふ（距斯脫）雞の蹴爪の落つるが如く又他を害せざるを云ふ（拊股）もゝを打つなり（怪鬼輩）夏竦を指す（目）稱するの意（僥倖）こぼれ幸にて官に付くもの（覃）深くする意（府兵）唐の兵制なり（格）やめとゞめる（內降）帝の內旨なり（諫官）歐陽脩也（打去盡）去の字意味輕し

〔字解〕呂夷簡は止めるを求む帝は夫れより天下の弊害ある事を更めんと思ひ諫官の人員を増し王素と歐陽脩と余靖と蔡襄と に命じて諫院に職に供し韓琦と范仲淹とを以て樞密副使となし夏竦を召して樞密使とせしに諫官は論じて竦を止め杜衍を以て代へたり時に國子直講なる石介ハ蘇舜欽は蔡襄の書に盛んなる德ある事なりと云ひそこで慶曆聖德の詩を作り其中に衆賢人の進むハ茅を是れ拔くが如く大姦人の去るは蹴爪の是れ落つるが如しと云へり此大姦人とは夏竦を指すなりさて仲淹と琦とハ丁度陝西より來る途中にて此詩を得たり仲淹は股を打ち此怪敷き化物らの爲めに事を破られんとすると云へりさて竦ハ其徒黨と論を作り衍等を稱して黨人とせり因て歐陽脩はそこで朋黨論を作りて奏上せり其大畧に小人には組合なし只君子に組合あり小人が利益を共にする時暫く組合となるは僞りにて今利益を見るに及べは先きを爭ひ或は利が盡くるときは心が疎遠になり又却て互にそこなひ合ひをなすなりさて君子が身を脩むるときは道を同ふして相互に益し國に仕ふるときは心を同ふして相互に救ひ始めより終りまで一つの樣なり是れが君子の組合なり人君ハ只小人の僞りの組合を退ぞけて君子の眞の組合を進められば天下は治まるなりと云へりさて仲淹は參政に移り富弼は樞副となる帝は己に仲淹などを拔き上げ謁見する毎に太平にするを貴め求め天章閣と云ふを開きて召して謁見させ坐席を賜はり筆や紙を披して意見を上奏させたり仲淹等は皆恐れ退て十ケ條を並べ奏せり其一は退ぞくると進むとを明かにすと云ひ其二はこぼれ幸にて役に付く者を押へると云ひ其三は進士の試驗をくはしくすると云ひ其四は長官を撰ぶと云ひ其五は公田を平均にすると云ひ其六ハ農民を手厚くすると云ひ其七は武備を修むると云ひ其八は賦役を減ずると云ひ其九は恩惠を信賞を深くすると云ひ其十は命令を重々しくすると云ふさて帝ハ丁度信用し心に向ふときなれば悉く其說を用ひしが只武備の事に付ては唐の制度なる府兵の立て方にせんとするの一ケ條は宰相が不可となせり時に韓琦と晏殊とは並びに同平章事となり何程もなく仲淹は陝西河東を宣撫し富弼は河北を宣撫せりさて又竦などは種々謗りを作りなしたるゆへ仲淹などは朝廷の上に安んずること出來ず歐陽脩も亦出でゝ河北に使ひせり晏殊は止め杜衍は同平章事となれり衍は勉めてこぼれ幸にて役付く者を押へ切りもりし宮中より天子の內命が下る毎に大底はやめ止めて行ハず詔書を積み置くこと十餘になればいつも帝の處に返納せり帝ハ或るとき諫官に告げ外人は衍が內命を封じて返納することを知れるや我れが宮中にありて衍に告げられずと思ひ中止するものは返納せる數より多きことなりと云へりさて衍の女婿なる蘇舜欽は進奏院の監官となり反古紙を賣り拂ひたる公錢を用ひ神を祭り客を會したるに逢ひしが御史中丞なる王拱辰は元より衍等の仕方を自分の便利とせざるゆへ因て反古錢を便用せしことを大事に云ひ立てゝ堀り出し公判を開き因て罪を受くるも五六人あり拱辰は喜び我れは一と網にて打ち盡したりと云へり衍は宰相となる七十日にて止め賈昌朝ハ同平章事となり樞密使となり時に貝州の卒なる王則が謀反せり文彥博は河北を宣撫し王則を平らげ彥博は入て平章事となれり

○趙元昊慶曆初嘗因范仲淹請和反覆數歲竟納款復稱臣策命爲夏國王名曩霄歲賜銀絹茶綵二十五萬五千遂不復寇邊卒子諒祚立○陳執中以無所建明罷○夏竦罷宋庠代之尋同平章事未幾罷○張貴妃之兄堯佐一月除四使監察御史裏行唐介論之不聽遂劾奏文彥博向守蜀以燈籠錦獻貴妃得執政故黨堯佐上怒遠貶介彥博亦求罷龐籍平章事○廣源州儂智高寇廣州連歲陷諸州自邕至廣西皆被其害命樞副狄青討平之還爲樞密使○龐籍罷○陳執中梁適平章事適罷劉沆代之執中罷文彥博富弼並同平章事士大夫相慶得人上曰人情如此豈不賢於夢卜哉上嘗問王素孰可爲相素曰惟宦官宮妾不知姓名者可充其選上慨然曰如此則富弼耳○契丹主宗眞殂號興宗子洪基立○交趾李德政卒子日遵立○劉沆罷文彥博罷韓琦平章事富弼罷○王安石知制誥安石每遷官遜避不已至知制誥則不復辭矣安石嘗侍賞花釣魚宴誤食鉤餌已悟而食之既上以其不情而遂非惡之安石有重名士爭向之惟蘇洵不見著辨姦論亦以爲不近人情必大姦慝○司馬光知諫院進三劄一論君德有三曰仁曰明曰武二論御臣曰任官曰信賞曰必罰三

論揀軍。又進五規。曰。保業。曰。惜時。曰。遠謀。曰。謹微。曰。務實。○策制科人。得蘇軾蘇轍。○曾公亮平章事。○上在位四十二年改元者九。天聖。明道。則垂簾之政也。景祐以來。政由己出。寶元。康定間。西鄙多事。慶曆更化。君子滿朝。至皇祐。至和。嘉祐。天下承平無事。恭儉之德。愛人恤物之心。自即位至升遐。終始如一日。遺制下。雖深山窮谷。莫不奔走悲號。而不能止。壽五十四。皇子立。是爲英宗皇帝。〔字解〕（綵）色絹（四使）淮廣軍節度使と群牧制置使と宣徽南院使と景靈宮使となり（燈籠錦）蜀江錦の一種（夢卜）殷の高宗ハ夢により傅說を得たり周の文王は占により太公望を得たり（慨然）歎き勵む樣子（遜遜）辭退（餌）釣りの餌にて餌同子の類（既）食ひつくすこと（遂）とゞくなり（姦慝）姦佞惡惡なり（割）上書（規い）ましめ（垂簾）劉皇后の稱制を云ふ（西鄙）西夏の趙元昊の亂を指す（更化）弊を改めて善に移ること（升遐）天子の死を云ふ（遺制）遺勅なり（窮谷）行きつまりの谷

〔講義〕趙元昊は慶曆の初めに范仲淹によりて和を乞ひしが反き從ふこと定らず數年にしてつまり誠を通じ又臣と稱したれば策命書を賜ひて夏國王となし鎮西と名つけ年々に銀と絹と茶と綵と二十万五千を賜ふことになりたれば夫れより又國境しを攻めさりし元昊が死去し子なる諒祚が立てりさて銀絹なとを與ふるは何等の說あるや國力趙元昊に敵するに足らざるゆへか又一時を彌縫せんとするが共に姑息に外ならず其亡國以て待つべし又安石の奸を退くること能はず遂に民心を分離す嗚呼契丹に歲賂し後に又增し西夏に歲賂し以て外は夷狄の侮りを長し安石を進め內は以て民心を失す亡國の條件全く備はれり次き起るもの朝廷の朋黨と夷狄の劫和となり之を救とすれば慢性なり故に死亡も遠かならず却て醜狀を極め殆んと觀るに堪へざるなりさて陳執中ハ事を立て治を明らかにする所なきを以て止めたり又夏竦が止め宋庠が代り何程もなく同平章事となり是れも直きに止めたり茲に張貴妃の兄なる堯佐ハ一月內に四使に任ぜられたれば監察御史裏行なる唐介が論し諫めたるも聞かれず因て文彥博が先きに蜀の守となり燈籠錦を貴妃に獻じ夫れにより執中となるを得たるゆへ堯佐に徒黨すなりと事を發きて上奏せり帝は立腹し介を遠く流したれば彥博も辭職し樞密が平章事となれりさて廣源州の儂智高は廣州に寇し年々諸州を落し入れ邕より廣西に至るまで皆其害を受けたり因て樞副なる狄青に命じて打ち平らげ青は歸りて樞密使となれり樞密は止めたり陳執中梁適は平章事となり適は止め劉沆は代り執中は止め文彥博富弼は並に同平章事となれりさて朝に拜し暮に止め斬くの如くにして何の發あるや此間受取り渡しにより無量の姦を入れしならん帝の愚も何とて此の如く帝の一定心なきも何

とて此の如きや此事勢は今日の朝鮮と一般なり然らば朝鮮の末路も宋と同しきを知るなり乞ふ少年子實歷を見て史學の要を悟れよさて此時朝の士大夫は人物を得るを相祝へり帝は因て人情が斯く祝ふからハ何とて古の夢や占にまさらぬことわらんやと云へり或る時帝は王素に向ひ誰れを宰相にすべきやと問へば素は只宦官や宮妾が名前をも知らぬ者こそ宰相の撰びに當る者なりと云へば帝は默し勵み去れば富弼ばかりなりと云へりさて契丹の主なる宗眞が死去し興宗と號し其子なる洪基が立てり又交趾の李德政が死去し子なる日遵が立てり又劉沆が止め文彥博が止め韓琦が平章事となり富弼が止めたり王安石が知制誥たり安石は役を移さるゝ毎に辭退して已まざりしが知制誥に至りては又辭退せざりし安石は或る時花を賞し魚を釣るの酒宴に從ひ誤りて魚釣りの餌を食ひしが已に餌と悟りながら食ひ盡くしたれば帝ハ人情にわらず非事にも仕遂けるを惡みたりさて安石は重き名譽ありて士ハ爭ひて從ひしも只蘇洵は面會をもせず辯姦論を著はして安石は人情に近からぬゆへ屹度大なる姦惡人なりと云へり司馬光は諫院の知事となり三通の上書を進めり其一ハ君の德行に三ありを論し仁と云ひ明と云ひ武と云へり其二は臣を治め使ふを論し官に任ずると云ひ賞を誠とにすると云ひ罪を屹度行ふと云へり其三は軍を撰ぶことを論せり又外に五つの戒を進めり先業を持ち固めるを云ひ時間を惜ひを云ひ謀畧を遠く慮はかるを云ひ細微なることに氣を付けると云ひ實効を務むるを云へり時に進士を策制して蘇軾蘇轍の二人を得たり曾公亮は平章事となれり帝ハ在位四十二年にて改元するものは九つなり天聖と明道との年間は劉皇后が政事をなせり景祐年間より以來は帝が政事を自分にて行へり寶元康定の年間ハ西の端が多事なりし慶曆年間は弊を改め善に移り君子が朝廷に充滿せり皇祐と至和と嘉祐の年間は天下が太平無事なりさて帝は謹み深く儉約の德ありて人民を愛し万物を憐む心ありて即位の時より死去の時まで始め終りとも一日の如く同樣なりしさて遺勅の下りたるとき深き山奥や窮まる谷間に住む者も走り廻りて悲しみ泣かぬはなくそうして中々止まざりし帝の德は五十四なり息子が立ち是れを英宗皇帝と云へり

〔英宗皇帝〕初名宗實。濮安懿王允讓之子。太宗之曾孫也。仁宗立爲皇子。賜名曙。仁宗崩。固避數四。而後即位。以憂疑致疾。慈聖光獻曹太后。權同聽政。上舉措或敗。常度。遇宦官尤少恩。左右多不悅。乃共爲讒間。兩宮遂成隙。賴宰相韓琦。參政歐陽脩等調護。上既康復。親政。太后撤簾。琦一日出空頭勅。脩已僉。趙槩未僉。脩曰。第書之。韓公必有說。琦坐政事堂。召內侍任守忠。立庭下。曰。汝罪當死。責蘄州安置。蓋交鬪兩宮。

之人也。○議崇奉濮王典禮。執政欲稱皇考。又以太后詔令上稱親。司馬光。范鎮。呂誨。范純仁。呂大防。呂公著。交論以爲不可。鎮罷翰林。誨。純仁。大防。解言職。公著罷侍講。議竟不決。○契丹復改號大遼。○上崩。在位四年。改元者一。曰治平。年三十八。皇太子立。是爲神宗皇帝。〔字解〕

(憂疑)皇太后の關涉とす前の同く避くると合せ見るべし(曹太后)仁宗の后(舉措)鳴動あり(常度)ふたんの樣子(兩宮)帝と太后(調護)取りなし(康復)病氣本復なり(撤簾)政事を聞くことを止めるなり(空頭)宛名なきものにて漏れるを恐るゝゆへ斯くせしなり(衆)記名を云ふ(濮王)帝の生父(執政)琦と脩と(言職)諫官とす

〔講義〕英宗皇帝の初めの名は宗實と云ひ濮の安懿王なる允讓の子にして太宗の ひ孫なり仁宗は子なきゆへ立てゝ皇子となし名を曙と賜へりさて仁宗死去し堅く位を避くること數度にて位に即けり然るに疑ひ心配せしより病氣となりたれば慈聖光獻曹太后が假りに一處に政事を聞けり帝は或る時は事に付き墨動の常の樣子に替りたることわりし又宦官を扱ふには最も惠み少なきゆへ左右の者は多くは喜ばずそこで相共に讒言をせしより兩宮はとうどう不中になりしが宰相なる韓琦と參政なる歐陽脩なとが取りなし守るにより帝も已に本復し自分にて政事を取りしゆへ太后は政事を聞くを止めたりさて韓琦は或る日宛名のなき勅書を出したれば脩は已に記名し趙槩はまた記名せざりしに脩は君只記名せよ韓公ハ屹度觀ることならんと云へりさて韓琦は記名濟みの勅書を取り政事堂に坐し宦官なる任守忠を召して庭の下に立たせ其方の眼は死刑に當ると云ひ出を責めて斬州に流し置きたり夫れと云ふ者は兩宮を互に不中にさせたる讒言人なりさて帝の生父なる濮王を尊敬するの禮格を評議せしに執政は皇考と稱せんとせしに又太后の命ありて帝に親と稱せさせらる因て司馬光范鎮呂誨范純仁呂大防呂公著の六人は互に其不可を論じたれば鎮は翰林學士を止められ誨純仁大防の三人は諫官を解かれ公著は侍講を止められ其職はつまり決せざりし時に契丹ハ又國號を大遼と改めたりさて帝は死去し在位ハ四年にて改元するものハ一つ治平と云へり年は三十八とす皇太子が立ち是れを神宗皇帝と云へり

〔神宗皇帝〕名頊。母曰宣仁聖烈皇后。高氏。曹太后之甥也。幼與英宗同鞠。后所。後爲英宗配。生頊。自潁王爲太子。尋卽位。○自有濮議以來。言者攻歐陽脩不已。遂罷韓琦亦罷。○王安石爲翰林學士。入對。首以擇術爲言。言必稱堯舜。○富弼同平章事。王安石參政。安石既執政。士大夫素重其名。以爲太平可立致。呂誨時爲御史中丞。將對。學士侍讀司馬光亦將詣經筵。相遇並行。光密問。今日所言何事。誨曰。袖中彈文。乃新參也。光愕然曰。衆喜得人。奈何論之。誨曰。君實亦爲此言。邪。安石執偏見。喜人佞。已。天下必受其弊。光退而思之。不得其說。搢紳間有傳其疏者。往往疑其太過。誨言。大姦似忠。大詐似信。安石外示朴野。中藏巧詐。驕蹇慢上。陰賊害物。疏其十事。上兩降手詔。喻誨。誨論之不已。遂罷。

誨。安石建議創制置三司條例司。議行新法。言周置泉府之官。變通天下之財。後世惟桑弘羊。劉晏。粗合此意。今當修泉府之法。以收利權。安石多與呂惠卿謀。人號安石爲孔子。惠卿爲顏子。先是治平中。邵雍與客散步天津橋上。聞杜鵑聲。愀然不樂。客問其故。雍曰。洛陽舊無杜鵑。今始至。天下將治。地氣自北而南。將亂自南而北。今南方地氣至矣。禽鳥飛類。得氣之先者也。不二年。上用南士作相。多引南人。專務更變。天下自此多事矣。至是雍言果驗云。安石欲行青苗法。以爲周官國服爲息法也。蘇轍曰。以錢貸民。吏緣爲姦。錢入民手。雖良民。不免妄用。及其

納二錢一雖二富民一不免二違限一鞭箠必用。州縣不勝煩矣。參政唐介爭論新法。不勝疽發背卒。時人有生老病死苦之喩。謂安石爲生。曾公亮爲老。介死。富弼議論不合。稱病。參政趙抃無如安石何。惟稱苦苦而已。安石折抃曰。君輩坐不讀書耳。抃曰。皐夔稷契。何書可讀。安石亦不能對。（字解）

（紐）姉妹の子なり（鞠）養なり（入對）天子の問ひに答ふること（對）入對なり（經筵）天子の學問所（彈文）罪を發く上書（新參）安石なり（君實）光の字（偏見）片寄りたる見識（搢紳）公卿（朴野）飾りなきなり（靡窣）高ぶりのさはる（陰賊）腹の中は至て惡しきこと（泉府）貨物を流通するを云ふ（桑弘羊）漢の武帝の時の人（劉晏）唐の德宗の時の人（南士）安石を云ふ（青苗法）青田の時に其作物を引當てにして錢を借し秋に至りて取り立るなり（爲息）利息を取るなり（遲限）期限を過るを云ふ（鞭箠）むちにて打ち叩くこと（生老病死苦）佛語より取るなり（皐夔稷契）堯舜の際の名臣（何書可讀）其時分はまだ書物を讀むべきなきを云ふ

（講義）神宗皇帝の名は頊と云ひ母は宣仁聖烈皇后と云ひ姓は高氏にして曾太后のめいなり幼少のとき英宗と一處に太后の處にて養はれ其後英宗の后となり頊を生めり頊は潁王より太子となり何程もなく位に即きたりさて潁王の評議ありしより以來論者は歐陽修を攻めて已まず脩はとうとう宰相を止め韓琦も亦止めたり王安石は翰林の學士となり入り帝の問ひに答へしとき初めに國を治むるは術を操ることを云ひ立て其言葉は皆堯舜を奢めたり富弼は同平章事となり安石は參政となれり安石は已に政事を取りたるに士大夫は元とより安石の名譽を重んじたるゆへ直きに太平に出來ることゝ思へり[illegible]に御史中丞となり入對せんとせしに學士侍讀なる司馬光も亦丁度天子の學問所に至らんとし途中にて遂ひ一處に行きたり[illegible]内々問ふに今日云ふ所は何事ぞと問へば諫は袖の中の上書は新參なる安石の非を鑿き奏するものなりと云へば光を驚き大勢は人物を得たりと喜び居るに何とて安石を非難するやと云へば諫はさて君も亦斯ることを云はるゝや全体安石は片寄りたる見識を固く執り人が自己に氣嫌取りするを喜ぶゆへ天下は是れより屹度弊害を受けんと云へりさて光は退て此事を考ふるに何分其道理を思ひ當らざりし又公卿の間に諫の上書を傳へる者ありてあれこれ其論の甚だし過ぎると云ふ者ありしに諫は大なる惡人は忠に似て大なる詐りは信に似たり安石は外には飾りなきを見せ中には巧みなる詐りを隱し持ち高振りのさばりて上を侮り心中は惡しくして物を害ふなりと云ひ十ケ條を書き立てゝ上奏せり帝は二度まで直き書の詔を下して諭したる諫は論難して已まざるゆへとうとう諫を止めたりさて安石は建白し制置三司條例司の三役所を初めて新法を行はんと云ひ其言葉は周は泉府の官を置きて天下の財物を變換流通させたり只後世にては桑弘羊と劉晏とが大体此の泉府の心に合ふことをせり因ては今泉府の法を行ひ天下の利益を得る本を朝廷に取り入るゝしと云へり

さて安石は多くは呂惠卿と相談せしゆへ人は安石を稱して孔子となし惠卿を顏子となせり是れより以前に治平年中に邵雍が客と天津の橋上を散歩して杜鵑の聲を聞き惡の顏色をなして樂まざるゆへ客は其譯を問ひしに雍は洛陽には元と杜鵑なし夫れに今來れり夫れ天下が治まらんとするときは土地の氣が北より南に至り又天下が乱れんとするときは土地の氣が南より北に來るものなりさて南方の氣が來るなり凡そ鳥類は氣の先を受けて來るものなりと云へり其後また二年ならず帝は南方の士を用ひて宰相となし多く南方の人を引き入れ專ら政事の變更を勉め天下は是れより多事となり茲に於て雍の言葉の通りなりしさて安石は青苗の法を行はんと思ひ周にて國服爲息の法ありて是れと同樣なりと云へり然るに蘇轍は錢を以て人民に貸せば役人は夫れにより姦惡のことをなすに至らん又錢が人民の手に入れば善良なる人民も自然と無用に費すことは免かれず其返納の時になりては富有の人民と雖も期限を失することは免がれざるならん因ては延滯する者は屹度打ち叩きて其罪を責むるとせば州や縣は煩雜に堪へられぬことなりと云へり又參政なる唐介も新法の不可を論じて勝たず惡敷腫物が背中に出來きて死去せり因て時の人は生老病死苦のたとへを作り安石を生となし曾公亮を老となし介は死し富弼は議論合はずして病と稱し參政なる趙抃は安石を如何とも出來きず只苦々と云ふ計りなりと云へりさて安石は抃を挫き全体君は讀書せざるゆへ斯く我れのなす所が不可に見へるなりと云へば抃は去れば古の名臣なる皐夔稷契なぞは何如なる書物を讀みしやと云へば安石も亦返答は出來きざりし

法。○臺諫劉琦。錢顗。以議新法貶。○遣使察農田水利。○罷義倉。○行均輸新法罷。○行青苗法。置常平官。○富弼罷。陳升之同平章事。升之初附安石。既相。頗爲異同。○行預買法。令諸路預給錢和買紬絹。○趙抃罷。抃日所爲事。夜必焚香告於天。○親試舉人。初用策。葉祖洽以附會新法。擢爲第一。○右正言孫覺。御史裏行程顥。以議新法罷。○中丞呂公著。裏行張戩。以議新法罷。○李定爲裏行。知制誥宋敏求。蘇頌。李大臨。以繳定詞頭罷。○謝景溫爲御史知雜。○直史館蘇軾。以嘗上萬言書。

及擬對廷試策議新法忤安石爲景温所劾去○鄧綰上書言陛下得伊呂之佐百姓歌舞青苗免役等法又與安石書及頌置中書檢正以綰爲之鄉人皆笑罵綰曰笑罵從他笑罵好官我須爲之○曾公亮罷○策制科人呂陶張繪孔文仲力詆新法皆報罷○鎮范以數議新法及嘗薦蘇軾孔文仲罷乞致仕陳升之罷〔字解〕（穀倉）共同米を蓄ふ倉なり（均輸法）餘る產物をなき所に送り價を平均するなり（和買）平らかなる直にて買ふこと（紬）つむぎ（策）論策とて計畧を問ふ題とす（繳定詞頭）繳音しやく包みて返上すること詞頭は詔命書なり（劾）あはく（伊呂）殷の伊尹と周の呂望なり（免役法）錢を出して賦役を免かるゝ法（從他笑罵）人の笑ひ罵るにまかすなり（報）論して返報するなり〔講義〕さて使者をやりて人民の田地や水の便利を取調べさせたり是れまでの共同貯蓄米の倉を止め均輸法を行へり諫議なる劉琦と錢顗とは新法を非議するを以て落されたり諫院の范純仁と掞詳文字なる蘇轍とは新法を非議するを以て止められるさて青苗の法を行ひ常平の官を置けり富弼は止め陳升之が同平章事となれり升之は初め安石に附き已に宰相となり夫れより大ひに安石と異論を立てたり又預買法を行ひ諸道に兼てより錢を渡して紬や絹を平均相場にて買はせたりさて趙抃は止めたり抃は日々なす所の事は其夜屹度香を燒て天に告げたり帝自分にて舉人を試驗し初めて策論問題を用ひたり葉祖洽は新法に附け合はすの論をなしたれば拔き上げて第一及第とせり右正言なる孫覺と御史裏行なる程頤とは新法を非難するを以て止められるさて李定は裏行となるに付き知制誥なる宋敏求と蘇頌と李大臨とは李定に下る所の詔命書を包みて返上せし譯にて止められる謝景温は御史知雜となれり直史館なる蘇軾は或る時一万貫計りの書を上つり及び試驗の答議になぞらへて新法を非議し安石にさからふを以て景温の爲めに殺き立てられ官を去れり鄧綰は上書して陛下は伊呂望の樹なる安石の輔佐を得たれば百姓は青苗免役等の便法を喜び歌ひ舞へりと云ひ又安石に書而及び詩を送りしゆへ新たに中書檢正と云ふ役を置き綰を此官に付けたりさて綰の同鄉人は皆綰の媚び諛ふを笑ひ惡口せしに綰は笑ひ惡口するは人の笑ひ惡口するに任せ好き役は我れが取るなりと云へりさて曾公亮を止めたり曾人を策問せしに呂陶と張繪と孔文仲とは勉めて新法を謗りたれば皆論報して止めたり范鎮は度々新法を非議し及び以前に蘇軾と孔文仲を薦舉せしを以て罷められ乞ふて隱居せり陳升之も罷めらる○韓絳王安石同平章事○立保甲法○曾布爲中書檢正○更科舉法罷詩賦明經諸科以經義論策試進士○司馬光先自學士除樞副力辭不拜數言新法之害上喻安石曰聞三不足之說否曰不聞上曰外人云朝廷以爲天變不足畏人言不足恤祖宗法不足守昨學士院進館職策問專指此三事策問光所爲也光數請外得永興移許州上言臣之不才最出群臣之下先見不如呂誨公直不如范純仁程顥敢言不如蘇軾孔文仲勇決不如范鎮屢請判西京留司御史臺至是得請後四任提舉嵩山崇福宮○歐陽脩先知青州以擅止給散青苗錢徙知蔡州至是乞致仕○富弼先知亳州坐格青苗法徙知汝州○中丞楊繪裏行劉摯以議新法罷○罷差役行募役法○立大學三舍法○行市易法○行保馬法○頒方田均稅法置熙河路以王韶爲經略安撫等使先是韶上平戎策謂欲平西夏當復河湟今古渭之西熙河蘭鄯皆漢隴西等郡吐蕃唃厮囉一族國其間宜併有之以絕夏人右臂安石以爲奇謀始開熙河之役韶克河洮岷疊宕等州又據青唐咽喉之地邊陲益斥役兵之死亡甚多〔講義〕（保甲法）人民を十家の組合となし兵役に從はすの法なり（不足畏）此三不足ハ安石の言葉なり（策問）問題を出し策論をなすを云ふ（請外）地方官なり（先見）安石の

茲を知ること(差役)擬びて人民を役するなり募役法人民に免役錢を出させ別に人を募り役するの法とす(市易法)商品を賣買するの法(保馬法)人民の組合に馬を渡して養はするの法なり(邊堠)國端しの界を立てる一里塚の類なり(戶)明らけ廣げるなり全体先方を押しのけるの義あり

〔講義〕韓絳と王安石とは同平章事となれり保甲の法を立つ皆布は中書檢正となる又試驗の法を改め乃ち本訓は退ぞくなり詩賦明經の諸科目を止め經義論を以て進士を策問せり司馬光は先きに學士より樞副に拜せらるも勉め辭退して押命せず度々新法の害を云ひたり帝は安石に諭し三不足の說を聞きたるやと云へば安石は聞かずと云ふ因て帝は外人が朝廷は天變も恐るゝに足らず人言は愁ふるに足らずと云へりと咋ふも學士院より館職の者の策問書を差出せしに第一に此三不足の事を指せりと云ふ其策問書は光かなす所なりしさて光は度々外任を乞ひて永興に往き又許州に移り上書して私は不才にして最も群臣の下たり先見わるは呂誨に越すことなく公平正直なるは范純仁程顥に及はず押て言論することは蘇軾孔文仲に及はず勇氣決斷わるゝは范鎮に及ばずと云へり又度々西京の留守司なる御史臺に判官たるを乞ひしが茲に至りて其乞ひを許され其後四たび嵩山の崇福宮の提舉に任せり歐陽脩は先きに青州の知事となり勝手に青苗錢を人民に分ち渡すことを誡めしを以て蔡州の知事に移され茲に至り乞ふて隱居せり富弼は先きに亳州に知となり青苗法を罷むるにより汝州の知事に移されたり中丞なる楊繪と裏行なる劉摯は新法を非議するを以て罷められる差役法を罷めて募役法を行へり又大學に三等の舍を置くの法を定め又市易の法を行ひ保馬の法を行へり又地方の田地は平均に稅を付けるの法を分ち熙河路と云ふ地方を置き王韶を以て其經畧安撫等の長官となせり是れより先き韶は爽を平らぐの策略を奉り西夏を平げんとせば先づ河湟の地を取り戾すべきなり今の古渭の西なる熙河や鄯鄯は皆漢の隴西などの郡なりしが吐蕃の酋なる唃厮囉の一族が其間に國を立て居れば此地を合せ取りて夏人の右のひじを絕つべきなりと云へば安石は是れを奇妙なる計略と思ひ始めて熙河征畧の役を起せり因て韶は河州岷州疊宕などの州に勝ち又青唐の喉くびなる地に橋籠りたれば國端しの界は段々廣くなりたり然れども兵士の死亡することは甚だ多かり

○中書檢正章惇察訪湖北始議經制南北江蠻辰州南北江乃古錦州之地接施黔牂柯命章惇措置惇言招諭梅山蠻徭令作省戶皆歡迎其實殺戮浮屍蔽江○置詩書周禮三經義局安石提舉呂惠卿及安石子雱等爲檢討○熙寧七年天久不雨河東北峽西流民皆流入京城而京城外饑民尤多監安上門鄭俠畫爲圖上書曰陛下南征北伐皆以勝捷之勢作圖來上無一人以天下憂苦妻子不相保遷移困頓遑遑不給之狀爲圖而獻者安上門逐日所見百不及一亦可流涕況千萬里外哉時以旱故求直言言者皆咎新法上疑欲罷之安石不悅求去除知江寧府安石薦韓絳代已爲相呂惠卿爲參政時號絳爲傳法沙門惠卿爲護法善神惠卿建議免役出錢不均出於簿書之不善行手實法惠卿既得勢恐安石復入遂逆閉其途出安石私書有勿令上知之語凡可以害安石者無所不用其智又數與絳忤絳乘間白上復相安石安石罷不一年再入聞命不辭自金陵七日至闕下後數月絳與惠卿相繼罷○行戶馬法○判相州韓琦薨琦天資忠厚能斷大事治平間爲首相政事問集賢典故問東廳文學問西廳大事則自決之矣出判相州初言青苗不便朝廷不從卽命散給曰藩臣之體當如是在鄉郡八年而終御製碑曰兩朝顧命定策元勛之碑○命韓縝如河東割地先是遼使屢至言河東沿邊增修戍壘起鋪舍侵入彼國蔚應朔州界乞行毀撤別立界至蓋遼人見朝廷招高麗建熙河西山植榆柳創保甲築河北城池創都作院降弓刀新樣置界北三十七

將疑有復燕之意。故以爭地界爲名。觀朝廷所以應安石斷之曰。將欲取之。必姑與之。東西失地七百里。〔字解〕（經制）取り定める（壅衒）夷の種類（書月）戶數を減じて賦役をすくなくすること（流民）流浪の人民なり（監）門弟子坊主（護法善神）佛法を守護する神なり（手實法）實地に付き記載する法を云ふ（其途）政府に入るの途なり（戶馬）保馬のこと（治平）英宗の時の年号（集賢）集賢殿學士にて曾公亮あり（東鄙）參政なる撫槩わり（西鄙）參政なる歐陽修あり（鄉都）我が生れたる郡とす（助）勸なり（鋪舍）商店なり（界至）境界なり（榆柳）生長の早き木にて初驛を防く爲

〔講義〕中書檢正なる章惇は湖北の地方を調へ草ね始めて南北の江壘を取り込み定むるを評議せめとす（鄜作院）造兵處を云ふ り辰州の南北江は古の錦州の地にして施黔牂柯に接近せりさて章惇に命じて此地方の事を處置させたり惇は梅山なる夷種を招き諭し戶數を減じて賦役を輕くせば皆喜び迎へんと云ひしが其實は殺戮甚しく浮び流れる死骸は江水を蔽ふ計りなりさて詩經書經周禮三經の義局を置き安石が總裁となり呂惠卿及び安石の子なる雱などが檢討役となれり熙寧七年に天が久しく雨ふらず河の東北や峽西の流浪人民が皆京都に入り込み京城外は饑へたる民尤も多かりし因て安上門の監督なる鄜俠が圖を畫きて上書し陛下は南征北伐し苦勝ち軍の勢を圖に畫きて來り奉るも一人として天下人民の愁ひ苦しみ妻子をも保ち養ふこと出來ず移りさまよひて困窮甚しく離散がさしせまりて食物の足らざる樣子を畫圖とし獻上する者なし此圖は安上門にて日を追ふて見る所にて中々實地の百分の一にも及ばざるも亦此圖を見るも涙の流るゝことなりましてや千万里の外は如何なる有樣なるやと云へり時に旱魃の際より時を救ふの直言を求めたれば世の論者は皆新法の害を告めたれば帝も疑ひを起し新法を止めんと思ひしゆへ安石は喜ばず相位を去るを求め江寧府の知事に拜せられたりさて安石は歸絳を進めて自分に代り宰相となし呂惠卿を參政となせり時の人は絳を傳法沙門と號し惠卿を護法善神と云へりさて惠卿は免役の爲め錢を出すこと平均せざるは帳簿の不完全なるによるゆへ手實の法を行ふを建白せり惠卿は已に勢力を得たれば又安石が入りて相たるを恐れ夫れより衆て其政府に入るの途を閉づる爲め安石の私事の書面を出せり其中に帝に知らさぬ樣にせよとの言葉あり又凡そ安石を害すること は其智を用ひざる所なかりし又度々絳とさからひたれば絳は暇を伺ひて帝に申し又安石を宰相とせり安石は罷めてより一年立たず又入りたり安石は呼び出しの命を聞きて辭退せず金陵より僅かに七日にて闕下に來れり後數月に絳と惠卿とは相繼で罷めらる戶馬の法を行ふさて判相州の韓琦は死去せり琦は生れ付き忠義にして手厚く能く大事を決斷せり治平年間に首坐大臣となりしが政事は集賢學士に問ひ典章故事は東觀に問ひ文學の事は西廳に問ひ大事は自分にて決定せり夫れより出でゝ相州の判となり初め青苗の法の不便を云ひたるも朝廷は從はず因て命じて青苗錢を夫れへ渡させさて地方守臣のする所は斯るものと云へり我が生れたる郡にわること八年にして世を終れり御製の碑を賜ひ兩朝の遺命を受け天子を立つるの策を定め大ひなる功勞あるの碑と云へりさて韓縝に命じて河東に往き地を割て遂にやれり是れより以前に遂の使者が度々來り河東の界に侵ふ處に守りの取手を增

し修築し商店を立て遂の國なる蔚熙朝の州に界に侵し入り込ひゆへ取手などを取り拂ひ別に境界を定めんと乞へり是れは遂人は朝廷が高麗を招き熙河路を置き西山に榆柳の木を植へて騎兵の防ぎをなし保甲を始めて兵を闕し河北の城を築き都作院を始め弓や刀やの新形のものを作らせ界北に三十七大將を置きしを見て燕を取り戻すの心あるを疑ひ夫れゆへ土地の境界を爭ふを名目として朝廷のなす所を見んとせしなり然るに安石い此事を決斷し取らんと思はゝ先づ暫く與へよと云へり因て東西に土地を失ふこと七百里なり金帛を賂し又增して獵足をず終に地を割くに至る是れ勢の然るものなり

○安石再相二年。屢謝病。子雱死。求去尤力。上益厭其所爲。出判江寧府。遂不復用。自安石用事。口談先王。而專行管商之政。知上有富强之志。思所以濟其欲。謂立法當用小人。而後以君子。守之。不悟其無是理也。天下騷然。而國未嘗富。邊鄙生事。徒多喪敗。而國未嘗强。西鄙自治平末。种諤取綏州。夏人卽欲興兵報復。夏主諒祚卒。子秉常立。大入寇。安石雖用王韶取洮河之策。徒搆怨西蕃。致鬼章等屢爲寇患。初不能以此制西夏。所用沉起。劉彝。又生釁南方。交趾李日尊卒。子乾德立。起彝相繼知桂州。集土丁爲保甲。於海濱集舟師。教水戰。禁止州縣與交人貿易。交人大舉入寇。圍邕州。陷欽廉。聲言中國作青苗助役法。以困民。出兵相救。安石怒。遣趙卨等討之。官軍死者十六。兵禍訖安石之去而未已。吳充。王珪。繼安石爲相。充先在政府。數言政事非便。既代安石。蔡確。鄧潤甫等共攻之。不能去。○元豐二年。

知湖州蘇軾安置黄州。先是中丞李定言。軾自凞寧以來。怨謗君父。舒亶亦言。軾議時事。陛下發錢本以業貧民。則曰。贏得兒童語音好。一年强半在城中。明法以課試群吏。則曰。讀書萬卷不讀律。致君堯舜終無術。興水利。則曰。東海若知明主意。應教斥鹵變桑田。謹鹽禁。則曰。豈是聞韶解忘味。邇來三月食無鹽。其他觸物即事。無不以譏謗爲主。乃追軾繫御史獄。詔定與張璪推治。王珪言。軾有不臣意。舉軾檜詩。根到九泉無曲處。世間惟有蟄龍知。陛下飛龍御天。而軾欲求之地下之蟄龍非不臣而何。上曰。彼自詠檜。何預朕事。上本無意罪軾。吳充王安禮皆勸上容之。獄成而有是命。弟轍亦坐救軾而貶。坐軾詩案黜罰者。張方平司馬光以下二十二人。上實憐軾。尋移汝州。且復用矣。爲蔡確張璪等所沮。○吳充罷。踰月而卒。〔字解〕（管商）齊の管仲と秦の商鞅と（富脆）富國强兵なり（衰敗）うしなひやぶれる（土丁）土地の人丁なり（聲言）云ひ觸らすこと（業）たすける（贏得）餘るなり只殘るの意（强半）半分以上なり（城中）繁昌の處にありて金錢を費すを云ふ（斥鹵）鹽かゝりの土地を云ふ（韶）舜の音樂の名にて孔子が韶を聞て三月の間肉の味ひをも知らずと云ふこと論語にあり（邇來）近來なり（檜）ひの木なり（九泉）地の底に水わり九は數の極なり（蟄）冬籠りにて地下に潛伏すること（飛龍在天）八易の語にて時を得たること（是命）黄州に安置せらるゝ（講義）安石が二度目に宰相となりしより二年度々病氣を云ひ立て又子なる雱が死去しれば去ることを求むる尤も勉めること。たり帝も亦段々安石の仕方を厭ひしより出て〻江寧府の判となし夫れより又用ひざりしさて安石は政事を取りしより口には先王の事を談ずるも專ら管仲商鞅の政略を行ひ帝が國を富ましめ兵を强くするの心あるを知り帝の欲をすくはんとすることを思ひさて法を立つるい小人を用ひ然る後に君子を以て守ることゝ云ひ斯る道理なきを悟らず夫れゆへ天下は騒げしくなり國はまだ中々富まず國端しには事を生じいたづらに失ひ敗られ國はまだ中々强からず四の方は治平の末に神謗が綏州を取りしより夏人は即ち兵を起して取戻さんとせりさて夏主なる諒祚が死去し子の秉常が立ち大ひに入寇せり安石は王韶が熙河を取るの策を用ひたるもいたづらに怨を西蕃に結ぶ計りにて西蕃の大酋なる鬼章なども度々攻め來る心配事を招き初めより此策を以て四夏を定むること能はざるなりさて用ゆる所の沈起や劉彝い又南の方にて事を生じたり夫れは交趾の李日尊が死去し子なる乾德が立ちしが起や彝は相繼で桂州の知事となり土地の人丁を集め保甲をなし海濱に於て舟手の軍人を集めて水戰を習はし州縣のものが交趾人と貿易することを禁止したれば交人は大軍を起して入寇し邕州を圍み欽廉を攻め取り中國は菅苗や助役の法を立て人民を苦しむゆへ兵を出して救ふなりと云ひふらしたれば安石は立腹し趙卨などをやりて征伐せしに官軍は死する者十に六の割なりさて斯く軍の禍は起り安石が去るに及びてもまだ已まざりし吳充王珪は安石に繼で宰相となれり充は先きに政府にありて度々政事の便利にわらざるを云ひ已に安石に代れり蔡確鄧潤甫などは共に攻めたれども去ることは出來きざりし元豐の二年に知湖州の蘇軾は黄州に安置せらるる是れより以前に中丞なる李定が軾は淵寧より以來君を怨み謗ると云ひ舒亶も亦軾は時の世の事を非議し陛下が青苗錢を出すは元とより貧民を助くるためとなるに軾は只兒童の言語の好くなりたるを餘すのみなり夫れは一年の中半分以上まで繁花なる城中にありて金錢を使ひしゆへなりと云ひ又明法科を以て群吏を試驗せらるゝときは軾は書物を讀むこと一万卷なるも法律書は讀まぬゆへに君を堯舜の位地にすることはつまり手立てなしと云ひ又水利を起さるるときは軾は東海が若し明君の心を知るならは夫れは鹽掛りの土地を桑ある田地にかへるならんと云ひ又鹽の禁を嚴重にせらるゝときは軾は何とて是れ鹽の樂を聞て能く肉の味を忘れんや近來は三ケ月も食事に鹽なきことなりと云ひ其他物に付き事に付き謗りを以て主義とせゝはなしと云へりそて軾を退ひ召して御史の牢に入れ李定と張璪とに吟味させたり王珪も亦軾は不臣の心ありと云ひ軾の檜の詩を證據に上げたり其詩は根は九泉の下まて至るも少しも曲る處なし是れは世に只土中に潛伏する所の龍たけか知るあるなりと云ふ夫れ陛下は飛龍にて天にいませり然るに軾は却て地下の蟄龍に知らるゝを求めんとするなり是れ不臣にわらずんい何ありやと云ひしに帝は彼れは自分にて檜の木を詠したるまてにて何とて我の事に關係せんやと云へり帝は元より軾を罪するの心なく又吳充王安禮は皆帝に勸めて軾を免さんと云ひたり因て口書い出來き上りて此安置の命ありしなりさて弟なる轍い兄なる軾を救はんとせし即にて落され凡そ軾の詩の裁判事件にて卷きそへとなり退ぞけ罪せらるゝ者は張方平司馬光以下二十二人なり帝は其實は軾を不憫に思ひ何程もなく汝州に移し又用ひんとせしに蔡確張璪などの爲めに邪魔せられたりさて吳充は能め月を越へて死去せり ○元豐元年。大正官名。五年。官制成。改平章事。爲左右僕射。以王珪蔡確爲之。參知政事爲門下中書侍郎。章惇張璪爲之。置尚書左右丞。蒲宗孟。王安禮爲之。以三省統領百職。

中書取旨。門下覆奏。尚書施行。珪爲相。人謂之三旨宰相。凡事惟曰取聖旨。得聖旨。則曰領聖旨。退書之。則曰奏聖旨。而已。上厭之。確謂珪曰。上久欲取靈武。公能任責。則相位可保也。珪喜。如其言。命內侍李憲等分道伐夏國。攻靈州。不克。士卒死。及凍餒者十五六。憲上再擧之議。徐禧又議築永樂新城。夏人大擧攻城。城陷。禧等蕃漢官。及諸軍死者萬三千。上聞奏慟哭。○富弼上遺表言。忠諫杜絶。諂諛日進。興利之臣。爲國斂怨。又言。西事大可憂。望留聖念。弼早有公輔之望。名聞夷狄。遼使每至。必問其出處安否。忠義之性。老而彌篤。家居一紀。斯須不忘朝廷。至是薨。○宰相同對。上有無人才之歎。蒲宗孟曰。人才半爲司馬光邪說所壞。上不語。視宗孟。久之曰。蒲宗孟乃不取司馬光邪。宗孟尋罷。司馬光資治通鑑成。上卽位之初。已嘗御製序。至元豐七年。書始上。初官制將行。上欲取新舊人兩用之。曰。御史大夫非司馬光不可。蔡確曰。國是方定。願少遲之。旣而上有疾。又曰。來春建儲。當以司馬光呂公著爲師保。公著夷簡子也。上在位十八年。改元者二。曰熙寧元豐。厲精求治。日昃不暇食。平生不御畋游。不治宮室。惟勤惟儉。將以大有爲也。奈何

濕寧以來。誤於安石。元豐以後。用事者。終始皆安石之黨。竟爲天下患。憤北狄倔强。慨然有恢復幽燕之志。欲先取靈夏。滅西羌。乃圖北伐。及安南失律。喟然歎。赤子無罪而死。永樂之敗。益知用兵之難。始息念征伐。卒無一事如意。崩。年三十八。皇太子立。是爲哲宗皇帝。〔字解〕（三省）中書門下尚書（任賞）引受けらるゝこと。（凍餒）ふゝへうゑうゑ。（社）ふさぐ。（興利之臣）安石など。（日昃）午後なり。（畋游）狩りあそび。（倔强）强くいばるなり。（失律）しばらくの間なり。（赤子）人民を云ふ。（永樂之敗）元豐の三年に大ひに官名を改正し同じ五年に官制が出來上り平章事を改めて左右の僕射となし王珪蔡確を此官となし參知政事を門下中書侍郎と改め章惇張璪を此官となし尚書右左丞を置き蒲宗孟王安禮を此官となし三省を以て百職を總べ領し中書は帝の旨を受け門下は反覆上奏し尚書は詔を施行せりさて珪は宰相となり人は珪を三旨の宰相と云へり夫れは總ての事柄は只天子の旨を受くると云ひ天子の旨を受くれば天子の旨を領すと云ひ退て是れを書するときは天子の旨を奉行すと云ふ帝は是れを嫌へり因て確ハ珪に向ひ帝は久しく靈武の地を取らんとせらるゝゆへ君能く引受けて取るなれば宰相の位を持ち固めること出來んと云へば珪は喜びて其言葉の如くし內侍なる李憲なとに命じ道を分け夏國を征伐させ靈州を攻めたるが勝たず士卒は戰死し及び凍へ飢ゆる者は十人に五六人の割なり憲は再び征伐するの議を献じ徐禧も又評議して永樂城を新たに築きたるが夏人は大軍を起して城を攻め遂に攻め落し禧なと幷人漢人の官吏及び諸軍の戰死する者一万三千人あり帝は此奏を聞き痛み泣きたり宮弼は遺言の上書をなしさて忠義なる諫言ハ密かり斷へ阿ねり諂ふ者は日々に進み利を起すの臣は國家の爲めに人民の怨を取れりと云ひ又四夏の事は大ひに心配すべきことなり何卒聖意を留められよと云へり弼は早くより公卿輔佐たるの人望ありて名譽は爽にまで聞へたれば遂の使者が來る毎に屹度弼は官に在るや家に居るや又平安なるや否なやを問へり弼は忠義の生質にして年老て彌よ篤くなれり家に居ること二年なるが暫らくの間も朝廷のことを忘れず茲に至りて死去せりさて宰相一處に入對せしとき帝は才能ある人物なきを歎がれしに蒲宗孟ハ才能ある人物ハ半分は司馬光の邪しまなる說の爲めに破られたりと云へば帝は物云はず只宗孟を久しく見てさて蒲宗孟よ其方ハ司馬光を好しとせざるやと云ひ何程もなく宗孟は止められたり司馬光が著はせる資治通鑑が成就せり帝は卽位の初めに已に御製の序文を賜はりしがさて元豐の七年に至りて始めて其書物を上呈せり初め官制を行なはんとするとき帝ハ新舊の人を交へ取り双方共に用ひんとし御史大夫は司馬光にあらざれば不可なりと云ひしに蔡確ハ今や一國の善しとする所ハ丁度定まる

りたれば何卒舊人を用ゆることハ少しく待てと云へり其後帝は病氣になりたれば又來春は太子を立てしゆへ旬馬光と呂公著を用ひて太子の師保役にすべきなりと云へり公著は英宗の子なりさて帝は在位十八年にて改元するものは二つ熙寧元豐と云へり帝は精神を勵みて國を治むることを求め日が午を過ぐるに食事するの暇なく平生より遊獵をなさず宮室を營構せず只勉強し只節儉し大ひに事業を立てんとせしも如何んせん熙寧より以來は安石に欺かれ元豐より以後ハ政事を取る者はつまり皆安石の徒黨にしてとうとう天下の心配事をなせり帝ハ北なる夷の强く威張るを立腹し心を起して幽燕の地を取り返へすの心立てあり付てハ先きに興夏を取りて西の夷を亡ぼし其上にて北の夷を征伐せんと企てしが安南が軍律をわやまりたるに及び歇息して人民が何も罷なくして死するを憐しみ又永樂城の敗軍より彌上軍を起すの困難なることを知り始めて征伐を思ふことを止めつまり一つのよとも心の通りになることなくして死去せり年は三十八なり太子が立ち嗣れを哲宗皇帝と云へり

十八史略講義卷之六終

十八史略講義卷之七

浪華　片岡潛夫講述

宋

〔哲宗皇帝〕名煦。初爲延安郡王。神宗太漸。立爲太子。先是蔡確遣舍人邢恕。邀高公繪。欲使白太后。言延安冲幼。岐嘉皆賢王也。公繪懼曰。公欲禍吾家。亟去。恕包藏禍心。反謂太后與王珪表裏。欲捨延安而立子顥。賴已及章惇蔡確得無變。且播其說於士太夫間矣。神宗崩。太子卽位。甫十歲。太皇太后同聽政。熙寧中。太后已嘗流涕。爲神宗言安石變法不便。既垂簾。知天下厭苦日久。首罷東京戶馬。罷京東西路保馬。罷京東西物貨場。罷諸州鎭寨市易抵當。罷汴河堤岸司。地課。放市易常平免役息錢。罷在京免行錢。罷提舉保甲錢糧巡教等官。罷方田等。皆從。中出。大臣不與。○王珪卒。蔡確韓縝爲左右僕射。章惇知樞密院司馬光門下侍郎。光居洛十五年。兒童走卒。皆知司馬君實。神宗升遐。赴闕入臨。衛士望見。以手加額曰。司馬相公也。爭擁馬首。呼曰。公毋歸洛。

留相天子活百姓所在數千人聚觀之光懼歸洛已而召爲執政〔字解〕(宋)前卷の續きにて異なることなし(漸)病の進み重くなること(遂)要と同し(高公綸)太后の姪なり(太后)神宗の母なる高氏(岐嘉)岐王顥と嘉王頵とにて太后の子なり(擾)布くなり(太皇太后)高氏(歴苦)いとひくるしひ(市易抵當)田地を引當てにし金を借り利を出す(放)已に滅したるの意(從中)太后よりの意(入臨)入て吊すること(以手加額)敬服すること(懼)人望あるゆへ(姦臣に害せらるゝを恐るゝなり)是れより以前蔡確ハ舍人なる邢恕をやり高公綸に求め太后に申させんとせり夫れは延安王は幼少にして岐王嘉王ハ皆賢王なれは此二人の中を立てんとのことなり然るに公綸は此事を聞て恐れ君は我か家を禍ひせんと思へるやと云ひ速かに立ち去れり恕ハ人を陷し入れる心を包み持ちたれハ却て太后は王珪と内外より氣を合せ延安王を捨てゝ我か子なる岐王顥を立てんとせしに自分と章惇蔡確とかカによりて變なきを得たるなりと云ひ其上其説を士太夫の間に云ひ觸らせりさて神宗か死去し太子か位に即きしか年は十歳なり因て太后は一處に政事を聞けり先きに熙寧年中に太后は或る時涙を流して神宗に安石の變法は不便利なることを云ひしか今や政事を聞き天下は安石の新法をいとひ苦しむと久しきを知り先つ初めに東京の東西路の保馬を止め京の東西の物貨塩を止め諸州の鑄錢市易の抵當を止め汴河堤岸司の地課と已に渡せる市易常平免役の利息錢を止め在京の免行錢を止め提舉保甲錢糧遷轉などの役人を止め方田などを止めたり是れは皆太后より出て大臣ハ關係せさりしさて王珪は死去し蔡確韓縝は左右の僕射となり章惇は知樞密院となり司馬光は門下侍郎となれり光は洛陽に居ること十五年にて兒童や奔走する奴卒も司馬君實を知れりさて神宗死去のとき光は宮廷に來り入て吊したるに衛士は望み見て是れはと云ひ皆額に手を當て司馬相公なりと云ひ手ふて光の馬首を取り巻き君は洛陽に歸らす留つて天子を佐け百姓を生かせよと云ひ所々に數千人か集り見たれは光は驚を恐れて洛陽に歸りしか其後召されて執政となりしなり○河南程顥以是歳卒顥字伯淳弟頤字正叔兄弟皆從濂溪周惇頤受學惇頤字茂叔博學力行聞道早遇事剛果有古人風爲政嚴恕務盡理以名節自礪雅有高趣聰前草不除曰與自家意思一般黄庭堅稱其人品甚高胸中灑落如光風霽月有太極圖通書行于世顥頤初從之首令尋仲尼顔子所樂何事學成各以斯文爲己任顥嘗言一命以上苟存心於愛物人必有所濟淵寧中以新法不合去國神宗嘗使推擇人才所薦數十人以表叔張載弟頤爲首其死也文彦博來衆論表其墓曰明道先生而弟頤爲之序曰周公没聖人之道不行孟子死聖人之學不傳道不行百世無善治學不傳千載無眞儒無善治士猶得明夫善治之道以淑諸人以傳諸後無眞儒天下貿貿焉莫知所之人欲肆而天理滅矣先生生于千四百年之後得不傳之學於遺經辨異端息邪説使聖人之道復明於世蓋自孟子之後一人而已頤嘗語人欲知吾之道者觀此序可矣張載字子厚初無所不學後聞二程之言乃盡棄其學而講焉有東銘西銘正蒙理窟等書行于世人謂之横渠先生共城邵雍字堯夫居河南與二程友雍之學玩心高明觀天地變化陰陽消長以達萬物之變精於物數推無不中顥嘗在考試院以其數推之出謂雍曰堯夫數只是加一倍法雍歎其聰明雍欲以數學傳二程二程不受邢恕欲受雍不許曰徒長姦雄雍有皇極經世書十二卷擊壤集歌傳于世人謂之康節先生富弼司馬光等皆深敬重之宋自歐陽脩以古文倡天下文章雖大變而儒者義理之學主周程出然後大明雍惇頤載皆歿於神宗之世至是顥又歿

惟頤在學者宗之爲伊川先生（字解）（剛果）心こはく決斷あること（嚴恕）嚴敬くして思ひやりあり（名節）名分とみさを（礪）みがくこと（邂逅）さつはりとして大ひなること觀音さい（光風霽月）雨上りの後の風や月を以て形容するなり（斯文）聖人の教なり（一命）一命士となると云ふ（表叔）母方の叔父なり（淑諸人）是れを人に善くすと人の言行を取て我身をよくすること（賀々）暗きなり（千四百年）孟子以後の年數を上ぐ（異端）佛老などの邪道なり（二程）明道と伊川（横渠）地名なり（玩樂）すの心（其數）堯夫の學（加一倍）太極は兩儀を生し兩儀は四象を生するの類とす（歌）歌の字は誤り削るべし或は果の字と上下にすれば通するなり（厭節）賜ふ所の送り名（古文）韓退之の唱ふる文体なり（伊川）地名なり

【講義】河南の程顥は此年に死去せり頤は字は伯淳と云ひ弟なる頤は字を正叔と云ひ兄弟皆濂溪の周惇頤に心剛に決斷わりて古の人の懷子わりたり又政事をなすには嚴重にして思ひやり深く只道理を窮め盡すを務め名分節義を以て自分にてみがき元より高尚なる趣旨ありて窓前の草を拔き去らず矢張り自分と同しく生々の心とりと云へり黄庭堅は惇頤を譽め其人品は淡泊高くして胸の中はさつぱりとして廣く丁度雨上りの後の雲に光る風と晴間の月の樣なりと云へり惇頤ハ太極圖と通書とを著はし世に行はれりさて頤と頤か初め惇頤に從ひ學ひしとき初めに仲尼は樂み亦其中にありと云ひ顏子は其樂みを改めずとあり此樂しむ所は何事なるや其意味を尋ね出させたりさて二人は學なり夫れ夫れ聖人の數を以て自分の任務となせり頤は或る一時度狩命して士となりしより以後假りにも心を万物を愛し產する處に留め置けは人に對し屹度救ふ所わらんと云へりさて熙寧年中に新法と意見合はさるゆへ國を去れり神宗は或るとき才能わる人物を擧み云ひ立てさせしに頤は推擧する所數十人ありて母方の叔父なる張載と弟なる頤を以て第一とせり頤か死去せるとき文彦博は衆人の輿論を取り其墓に題表して明道先生と云ひ弟なる頤は道を明らかにするの次第書きを作り古へ周公か死去して聖人の學か世に行はれす孟子か死去して聖人の學か世に傳はらさりし夫れ道か行はれさるときは百世も善き治めなく學か傳はらされは千年も眞の儒者なしさて善の治めなきもまた後人は彼の善き治めの道を明らかし人のなす所より取りて我身を善くして是れを後人に傳ふることか出來るなりさて眞の儒者かなきときは天下は暗くなりて進み往く處を知らす人欲は我儘になりて天理は亡ふるなり然るに先生は孟子より千四百年の後に生れなから傳はらさる學を殘れる經書の中より得て端を異にするの邪道を辯明し邪しまなる論說を止め聖人の道を又世の中に明らかにさせたり夫れと云ふ者は孟子より後の一人なりと云へり頤は或るとき人に語り我れの道を知らんと思ふ者ハ此序文を見るかよしと云へりさて張載は初め學はぬ所はなき程なりしか後に二程の言葉を聞きそして今まで學ひたる所を盡く捨て二程に從ふて學問し東の館四の館正蒙及ひ理窟などの書を著はし世に行はれり是れは横渠先生と云へり又共城の邵雍は字を堯夫と云ひ河南に居りて二程と友となれり雍の學は心を樂しませ高明にして天地の變化より陰陽の消長を見て以て万物の變を明知し万物の數理を見るにくはしく推究するに常らぬことはなかりし頤は或る時進士を試驗する考試院の中にありて雍の學なる數理を以て推究し出てゝ雍に向ひ君か數術は只是れ一倍を加へるの法なりと云へは雍ハ頤の聰明なるに歎服し數の學を以て二程に傳へんとせしに二程は受けさりし終

るに邪恕は數の學を受け學はんとせしに雍は傳ふるを許さす徒らに姦雄を增長させることなりと云へり雍は皇極經世書と云ふ十二卷を著はし世に傳はれり人は是れを康節先生と云へり富弼司馬光なとハ皆深く雍を敬ひ重んせりさて宋は歐陽脩はりさて邵雍と周惇頤と張載とは皆神宗の世に死去し此時に至り頤も亦死去し只弟なる頤か居れり因て學者は尊ひ宗とし伊川先生と云へり

○元祐元年蔡確罷確與章惇邢恕相交結恕往來傳送語言自謂有定策功言官王覿極言惇確及韓縝張璪朋邪劉摯朱光庭蘇轍累數十疏論劾確先黜以司馬光爲左僕射時王安石已病其弟以邸吏狀示之安石曰司馬十二作相矣悵然久之議者或謂三年無改父道新法姑稍損其甚者足矣光慨然爭之曰先帝之法善者雖百世不可變若安石惠卿等所建爲天下害非先帝本意者當如救焚拯溺猶恐不及況太皇太后以母改子非子改父衆議乃定或謂光曰章惇呂惠卿輩他日有以父子之議聞於上則朋黨之禍作矣光起立拱手厲聲曰天若祚宋必無此事安石每聞朝廷變其法夷然不以爲意及聞罷助役復差役愕然失聲曰亦罷至此乎良久曰此法終不可罷安石與先帝議之二年乃行無不曲盡○章惇韓縝罷○王安石卒安石在今陵常獨語福建子恨惠卿也惠卿叛安石惟章惇終始不叛安石又常

曰。新法之行。始終以爲可行者。曾子宣也。始終以爲不可者。司馬君實也。○呂公著右僕射。文彦博軍國重事。程頤崇政殿說書。蘇軾翰林學士。竄貶呂惠卿。鄧綰等。○司馬光爲相八閱月而薨。太皇太后哭之慟。上亦感涕不已。贈太師温國公。謚文正。光在位。遼人夏人使來。必問起居。而遼人勑其邊吏曰。中國相司馬矣。切毋生事開邊隙。及卒。京師民罷市。畫其像。印鬻之。畫工有致富者。及葬。四方來會者。哭之如哭其親戚。光嘗語晁無咎曰。吾無過人。但平生所爲。未嘗不可對人言者耳。劉安世問光一言可以終身行之者。光曰。其誠乎。安世問其所從入。曰。自不妄語入。（字解）（定策功）帝を定める手柄にて是れ實にあらす帝を廢せんとし却て帝を助け立てたりと云ひ禍を免れ人を欺むくなり（朋邪）邪黨なり（其弟）王安國（郎吏狀）郎にある屋敷番の書狀なり（十二）光の配行なり（三年無改父道）論語中の言葉（孫溺）水に溺れる者を救ふなり尤も急なること（拱手）手をこまぬくことにて形を正すなり（祚）幸福なり（失聲）覺へず聲を出すなり（曲尽）十分に尽くすなり（福建子）惡卿は福建の人なり（曾子宣）曾布の字とす（慟）痛み悲しむなり（隙）事を爭ふより起る不中（從入）（講義）ひ恕は士太夫の間に往來して言葉を云ひ傳へ自分は帝位を疑とに入るは何れより入るやの意（妄語）うそをつくこと　元祐の元年に紫確か止めらる確は章惇邪恕と相互に心を結定むるの手柄ありと云へりさて諫官の王覿は惇確皮ひ韓縝張璪は邪なる組合なるとを十分に云ひ立て又劉摯と朱光庭と蘇轍は數十の上書を重ねて邪黨の罪を論し發きたれは確は先きに退そけられ司馬光を以て左僕射となせり時に王安石は已に病氣に掛りしか其弟か郎役人の書狀を見せたれハ安石は司馬十二か宰相となりしかと云ひ歎くこと久しかりしさて此時論者か中には三年の間は父のせしことを改めるなきことゆへ新法も暫くの間は其中の甚しきものを止め置けは十分なりと云へは光ハ心を起して爭ひ光帝の法ハ善なるものは百世も變せさる筈なるも安石や惠卿なとか始めたる所の法は天下の害をなし先帝の本意より出てたるにあらす是れを改めるは火に燒け水に溺れる者を救ふ樣に迅速にするもまた圖に合はぬかと心配するなりましてや太后か母の身に

て子なる先帝の仕方を改めるらるゝことにて子か父の仕方を改めるにあらすと云へは衆人の評議もそこて定まりたり或る人は光に向ひ章惇惠卿なとか後日に子か父の仕方を改めたるとの非議を帝に申し上けることがあらは是れより組合徒黨の禍か起らんと云へハ光は起立して手を拱し形を正し聲を烈しくして天か若しも我か宋に福を下さるゝ以上は屹度斯ることなしと云へり安石は朝廷か新法を變更せらるゝを聞く毎に平氣にて心に掛けさりしか助役の法を止め又差役の法に返したるを聞くに及ひ大ひに驚きて覺へす聲を發し亦止め此法にまて至りしかと云ひ稍や久しくして此法はつまり止めることは出來きさるなりと云へり夫れは安石は先帝と評議することと二年にて行ひたれは十分に行屆かぬことはなきなりさて章惇韓縝は止めらる王安石は死去せり安石は金陵にありて常に福建子と獨り言を云へり是れは惠卿を怨みしなりさて惠卿は安石に叛きたるも只章惇ハ始めより終りまて叛かさりし安石は又常に新法の行はるゝ始終行ふへしとする者は曾子宣なり又始終不可とする者は司馬君實なりと云へり呂公著ハ右僕射となり文彦博は軍國重事となり程頤は崇政殿の說書となり蘇軾ハ翰林學士となり又呂惠卿鄧綰なとを落し流せり司馬光は宰相となる八ヶ月にて死去せり太皇太后は大ひに痛み悲しみ帝も亦心に染み涙を流して已ますさて光に太師温國公を追ひ贈り文正と送り名を賜へり光は位にあるとき遼や夏の使者か來れは屹度光の樣子を問へり又遼人は國端しを守る役人に云ひ付け中國は司馬を宰相としたれは屹度事を生して國端しの爭ひを起すことなかれと云へりさて死去に及ひ京都の人民ハ市を止め光の畫像をかきて販になし賣りたり因て畫工は金持ちになりたる者あり又葬るに及ひ四方より來り會葬する者は我か親戚を失ふ如く悲みたり光は或る時晁無咎に告け我れは人に過き越すことなきも只平生する處の事柄はまた人に向ひはなしの出來ぬ樣のことハなきたけなりと云へり劉安世は光に一と言にて生涯行ふことの出來るものを問ひたれは光は夫れは誠とならんと云ふ安世は誠とに入るは何れより入ることゝ問へは光はうそを云はぬより入るなりと云へり

○蘇軾程頤同在經筵。軾喜諧謔。而頤以禮法自持。軾每嘲侮之。司馬光之薨也。百官方有慶禮。事畢欲往弔。頤不可。曰。子於是日哭則不歌。或曰。不言歌則不哭。軾曰。此枉死市。叔孫通制此禮也。頤怒。二人遂成隙。門人朱光庭。賈易。爲言官。力攻軾。傅堯俞。王巖叟。呂陶等。相繼論列。堯俞巖叟。右光庭。陶右軾。是時元豐大臣。退於散地。皆銜怨入骨。陰伺間隙。諸賢不悟。方自分黨相攻。有洛黨川黨朔黨。洛

黨以頤爲領袖光庭易爲羽翼川黨以軾爲領袖陶等爲羽翼朔黨以劉摯王巖叟劉安世爲領袖而羽翼尤衆未幾頤罷不復召久之軾亦罷後再入三入皆不久而出○呂公著爲司空同平章軍國事呂大防范純仁左右僕射純仁仲淹子也公著尋薨知漢陽軍吳處厚言蔡確謫安州日作夏中登車蓋亭詩譏訕臺諫論確不已安置新州呂大防劉摯范純仁王存等以爲不宜令過嶺置死地純仁曰此路荊棘八十年矣奈何開之吾曹政恐不免耳爭之不得臺諫交章攻純仁黨確純仁遂罷劉摯爲右僕射大防摯欲引用元豐黨人以平舊怨謂之調停蘇轍等力陳其不可摯罷蘇頌爲右僕射頌罷純仁代之○元祐八年九月宣仁聖烈太皇太后崩臨崩對上謂大防純仁等曰老身沒後必多有調戲官家者宜勿聽之公等亦宜早退令官家別用一番人呼左右問曾賜出社飯否曰公等各去喫一匙社飯明年社飯時思量老身也后聽政九年天下稱爲女中堯舜不比外家以擁佑嗣君之故二子一女皆疏以至公御天下當世賢者畢集于朝君子之盛後世以慶曆元祐並稱焉承神宗厭兵之後與民休息西蕃鬼章爲邊將擒獻釋

不誅以招其部屬夏國自其主秉常卒乾順立政亂主幼屢寇邊失藩臣禮皆强臣爲之以其君民非有罪不忍興師討伐詔諸路嚴兵自備而已（字解）（諧謔）上段口なり（嘲侮）あざけりわなどるなり（叔孫通）漢の時に禮法を定むる人なり（論列）議論の中間入りするなり（右）たすくるなり（元豐）神宗の年号（大臣）呂惠卿章惇など（領袖）頭人なり（訕）そしる（過嶺）五嶺を越へて南なり此地瘴氣ありて中國の人往けは多く死するなり（此路荊棘八十年）いばらの木にて塞がるること乃ち八十年此方人を流さぬなどを云ふなり（災章）互に上書するなり（調停）和解なり（調戲）なぶること調弄なり（一番）一と組みのこと（社飯）春秋の社日に肉飯を作るの風俗あり（匙）さじ（比）私かに助けるなど（擁佑）守り立て助けるなり（慶曆）仁宗の年號とす

（講義）蘇軾と程頤とは一處に學問所にありしか軾は戲れ言葉を喜ひ頤は禮儀作法を守りて身を持ちたれは軾はいつも嘲りわなどりたりさて司馬光の死去の時百官は丁度祝の事ありしか夫れか濟て光の處に吊ひに往かんとせしに頤は是れを否なみ孔子は死を哭したる日は歌はれすと云へり或る人は歌ふたる日は哭せすと云はすと云へり軾は是れ市に枉死すへき叔孫通か斯る禮を制定するなりと云へは頤は立腹し是れより軾頤の二人は不中となれり然るに頤の門人なる朱光庭と賈易とハ諫官となり居りしか勉めて軾を攻めたり因て傅堯俞や王巖叟や呂陶などか相繼て論列に加はり堯俞と巖叟とは光庭を助け陶は軾を助けたり此時元豐の大臣ハ閑散無用の地位に退そけられ皆怨を含みて骨にまて入る計りなれハ内々朝廷のすきを伺ひしに諸賢は此事を察せす名々黨派を分ちて相攻め合ひ洛黨川黨朔黨ありて洛黨は頤を以て頭人とし光庭と易か助けとなり川黨は軾を以て頭人となし陶なとか助けハ尤も多かりしまた何程もなく頤は止め又召されすし久しくして軾も亦止め其後再ひ入り三たひ入りしも皆久しからすして出てたり呂公著は司空同平章軍國事となり呂大防范純仁は左右の僕射となれり純仁は仲淹の子なり公著は何程もなく死去せり知漢陽軍の吳處厚か上言し蔡確は安州に流されたる日夏中に車蓋亭に上るの詩を作りて臺諫を謗れりと云ひ確を非議して止ます因て確を新州に安置せり此時呂太防劉摯范純仁王存なとは五嶺を越へて死地に流すはよろしからすと云ひたり又純仁も此新州の路ハ荊棘の茂るに任すなと八十年にて其間一人をも流せしことなし何とて今又其路開きをして人を流さんや我々も亦此地に流さるゝを恐るゝ計りなりと云ひ爭ひたるも止むることなし何とて臺諫は互に上書し純仁は確に徒黨し助けることゝ云ひ攻めたれは純仁はとうとう止められ劉摯か右僕射となれりさて大防摯は元豐の黨人を引き入れ用ひて舊き怨みを薄かにせんと思へり是れを和解と云へり蘇軾なとは勉めて其不可なる道理を陳へられたれは摯ハ止められ蘇頌ハ右僕射となり頌は止め純仁か代はれり元祐八年の九月に宣仁聖烈太皇太后か死去せり太后ハ死去に臨み帝の面前にて大防純仁なとに向ひ我れか死後にハ屹度多く帝を調弄する者あらん帝は聞き入れぬ樣にせよ又大防なとハ早く退きて帝に別に一と組の人を用ひさよと云ひ左右の者を呼ひ早や社飯を賜はりし

やと問ひ因て大防なとに向ひ君等は夫れ夫れ去りて一とヒの社飯を食せよ明年の社飯の時には我れの事を思ひ出たせよと云へり太后は政事を聞くこと九年にて天下は太后を譽めて女の中の堯舜と云へり太后は私に里方を助けず闕君なる帝を守り立て助くるにより二人の子と一人の娘は皆疎遠にせられたり太后は至て公平なる心を以て天下を治め其時の賢人は悉く朝廷に集り君子の盛んなることは後世にて慶曆元祐と並ひ云へり太后は神宗か兵事を嫌はるゝの後を受け繼き人民と共に休息せり西番の鬼章か我か國端しを守る大將の爲めに生け取り差出たされしも赦して殺さず其部下を招かせたり又夏國は其主なる乘常か死去し乾順か立ちしより政事は乱れ主は幼少にて度々國端しを攻め簒臣たる禮儀を失ひたるも是れい皆其強き家來の仕業にて其君其民に罪あるにあらずなきゆへ軍を起して征伐するにも紙の毒なれは諸路に詔り○上始親政侍郎楊畏首叛呂大防自謂迹雖元祐心在熙豐入對乞召章惇明年改元紹聖大防罷惇爲右僕射純仁罷惇之來也道遇陳瓘惇素聞其名獨請共載訪以世務瓘曰請以所乘舟爲喩偏重其可行乎或左或右其偏一也惇默然良久曰司馬光姦邪所當先辨瓘曰相公誤矣此猶欲平舟勢而移左以置右也果然將失天下之望惇既至以漸盡復熙豐之法治元祐人之罪無虐日司馬光呂公著王巖叟趙瞻韓維孫固范百祿胡宗愈司馬康等已死者皆追貶奪贈呂大防劉摯蘇轍梁燾范純仁劉奉世韓維王覿韓川孫升呂陶范純禮趙君錫馬默顧臨范純粹孔武仲王欽臣呂希哲呂希純呂希績姚勔吳安詩王份張耒鼂補之黃庭堅賈易程頤秦觀朱光庭孫覺趙卨李之純杜純李周蘇軾范祖禹劉安世鄭俠

等皆連貶竄文彥博久致仕降爲太子太保罷節鉞尋薨皇后孟氏太皇太后所選聘也在中宮五年而廢章惇蔡卞請追廢太皇太后賴太后向氏太妃朱氏泣諫上悟惇卞堅請施行上怒曰卿等不欲朕入英宗廟庭乎抵其奏於地○立賢妃劉氏爲后右正言鄒浩乞追停冊禮別選名族詔浩除名勒停羈管新州浩道過其友田畫臨別出涕畫正色曰使君隱默官京師遇寒疾不汗五日死矣豈獨嶺海之外能死人哉願無自沮士所當爲者未止此也○元符三年上崩在位十五年改元者三曰元祐紹聖元符壽三十五皇弟立是爲徽宗皇帝（字解）（楊畏）安石の殘黨なり（迹）行事なり（默默）默默元豐は神宗の年号（共載）舟を共にするなり（偏重）片をもり（漸）ぼつぼつ（盡日）明き日（追）死後に掛る言葉（選聘）撰び迎へること（向氏）神宗の后にて哲宗の母とす（太妃）神宗の妃（抵）投げ付ける（賢妃）唐以來貴妃淑妃德妃賢妃の名あり賢明の意に非ず官名の如し（追停）追ひ掛け取り上げること（冊禮）后を立つる辭令書なり（勒停）仕官を禁止するなり（羈管）寄留入籍なり（默默）默忍無言を云（講義）帝は始めて政事を自分にてせらる侍郎なる楊畏は始めに呂大防に叛き行事は元祐なれども心は默寧元豐の時にあると云ひ入對のとき章惇を召すを乞へり（寒疾）傷寒病なり（溫）氣を折ること明年紹聖と改元せり大防は止め惇が右僕射となり純仁も止めらる扨て惇が來る途中にて陳瓘に出逢ひたるが惇は元より瓘の名聲を聞き居るゆへ獨り舟を共にするを乞ひ扨て當世の急務を問ひしに瓘は乞ふ今乘る所の舟を以て喩へとせんに片寄りになれば進めること出來んや若し或は左し或は右するは其片寄るは一つなりと云へば惇は無言にて稍や久しくし去れども司馬光の姦邪なることは先づ辨別することなりと云へど瓘い相公い是れ盡見違ひなり是れい丁度舟の勢を平均にせんと思ひ左の人を移して右に置く樣にて果て斯くすれば天下の人望を失はんとするなりと云へり扨て惇が入りしより宋朝の全く立つ瀦果して賢ならば何ぞ身を捨てゝ惇を殺さゝるや同舟中一匹夫を殺すは犬を殺すより易し瓘只舟に喩ふるの一言は惇が心を制すると思へるや實に愚庭げたることなり只云ふ支那人氣節なし身を捨てゝ國を救ふを知らざるか扨て惇い已に京に至りぼつぼつと默寧元豐の法を取り戻し元

祐人の理を治めることあき日なく司馬光や呂公著や王覿叟や趙瞻や韓維や孫固や范百祿や胡宗愈や司馬康などは已に死去せるゆへ追ひ落して昭位贈封を取り上げ呂大防や劉摯や蘇轍や梁燾や范純仁や劉奉世や韓維や王覿や韓川や孫升や呂陶や范純禮や趙君錫や馬默や顧臨や范純粹や孔武仲や王欽臣や呂希哲や呂希烈や呂希績や姚勔や吳安詩や王份や張耒や晁補之や黃庭堅や賈易や程頤や秦觀や朱光庭や孫覺や趙高や李元純や杜純や李周や蘇軾や范祖禹や劉安世や鄒俠などは皆續きに落し流されたり文彥博は久しく致仕せしが降して太子太保となし兵權を取り上げ其後何程もなく死去せり扨て皇后孟氏は太皇太后が撰び迎へたる所にして中宮にあること五年にて廢せられたり章惇蔡卞は太皇太后を迫ひ廢せんと乞ひしが太后向氏と太妃朱氏とが淚を流して帝を諫めしにより帝も悟りたり然るに惇卞は堅く廢太后の事を施行せんと乞ひたれば帝は立腹し其方等は我れか英宗帝の廟所に入るを欲せざるやと云ひ其奏書を地に投げ付けたり扨て帝は賢妃なる劉氏を立てゝ后とせんとせしに右正言なる鄒浩は皇后の辭令書を追ひ取り戻し別に名高き一族より撰み立てんと乞ひたれば詔りして浩は官名を除きて仕官を禁止し新州に寄留入籍させたり浩は出立して途中に友人田瑞の處に立寄り別れに臨み涙を流したれば瑞は顏色を正しくし君か無言にて京都に役付きするも若し傷寒病に掛り五日の間汗が出されは死去するなり何とて只嶺海の外のみ能く人を死なさんや何卒自分にて氣を落すこと勿れ凡そ士のする所はまた此事のみに止まらざるなりと云へり元符の三年に帝は死去せり在位は十五年にて改元するものは三つ元祐紹聖元符と云ひ森は三十五なり皇弟か立ち是れを徽宗皇帝と云へり

〔徽宗皇帝〕名佶。神宗第十一子也。初封端王。哲宗崩。欽聖憲肅皇太后向氏。召宰執。議立嗣。后欲立端王。章惇曰。端王浪子耳。曾布身長。望見端王已在簾下。叱曰。章惇聽大后處分。王出簾。惇惶恐失措。王即位。請太后權同處分軍國事。范純仁等。二十餘人。並叙收。龔夬。陳瓘。鄒浩。爲臺諫。○韓忠彥爲右僕射。忠彥琦子也。○文彥博司馬光等。三十三人。追復官。○太后垂簾半年。而還政。○章惇罷。尋竄。○韓忠彥。曾布。左右僕射。○貶邢恕。○貶蔡京蔡卞。卞。安石婿也。先是臺諫龔夬。陳瓘。任伯雨等。攻卞罷。其執政。京爲翰林承旨。瓘見其視日不瞬。謂此人必大貴。然以其區區精神。敢抗太陽。他日得志。必爲天下患。瓘語人曰。射人先射馬。擒賊先擒王。連疏攻之甚力。京罷。尋又以御史陳次升等言。與卞俱貶。○上意專欲紹述熙豐之政。而曾布微有兩存熙豐元祐之意。故建中靖國初。嘗略變章惇蔡卞所爲。既而布迎上旨。正人任伯雨。江公望。陳瓘等。不容於朝。小人雖各有黨。更迭出入。意向則同。祖安石而已。○遼主弘基殂。號道宗。孫延禧立。號天祚。○女眞阿骨打立。女眞本名朱里眞。肅愼之遺種。而渤海之別族也。或曰。本姓拏。辰韓之後。三國志所謂挹婁。元魏所謂勿吉。唐所謂黑水靺鞨者。其地也。有七十二部落。本不相統。自太中祥符以後。絕不與中國通。有生女眞者。其類猶繁。其酋曰嚴版。有孫曰楊哥太師。遂雄諸部。或曰。楊割之先。新羅人。完顏氏。女眞妻之以女生子二人。長曰胡來。傳三人。而至楊割。阿骨打。其子也。爲人沉毅。有大志。○建中靖國。一年而改崇寧。韓忠彥罷。再追奪司馬光等官。籍元祐黨人。〔字解〕(向氏)神宗の后(泯子)輕薄子の如し(失措)うろたへるを云ふ(收叙)役に付けること(迺)計りて合はすなり(更迭)かはりがはり(匯)本とすること(元魏)南北朝の魏なり(生女眞)江北に居るものとす(三人)三世なり

（總）幅面に書き載せたり

〔講義〕徽宗皇帝の名は佶と云ひ神宗の第十一子なり初め端王に封せられ哲宗か死去し欽聖憲肅皇太后なる向氏か宰相大臣を召して跡續きを立てる評議をなし端王を立てんとせしに章惇は端王ハ輕薄子だけなりと云へり曾布ハ身の丈け高きゆへ端王か已に簾下に居るを望み見たり因て叱り付け章惇よ只太后の處分を聞けと云へり此時王は簾を出てたれは惇は大ひに恐れてうろたへたりさて端王は位に付き太后に乞ひ假りに一處に政事軍事を處分せりさて范純仁なと二十餘人は並ひに又役付きをなし龐夫と陳瑀と雛浩とは臺諫となれり韓忠彦は右僕射となれり忠彦ハ琦の子なり文彦博司馬光なと二十三人は官を追ひ復せり太后は政事を聞くなと半年にて政事を歸せり章惇は止め何程もなく流されたり韓忠彦曾布は左右の僕射たり邢恕を落し蔡京蔡卞を落せり卞は安石の娘の夫なり是れより以前臺諫なる龐夫陳瑀任伯雨なとは卞を攻めて執政を止め京は翰林承旨となれり瑀は京か日を見て目叩きせぬを見て此人ハ屹度大ひに貴くならん然れとも小なる人の精神を以て押て太陽に立て付くゆへ後日に志を得は屹度天下の心配をなさんと云へり又瑀は人に向ひ人を射るならは先つ馬を射よ賊を生け取るならは先つ王を生け取れと云ひ續きに上書して攻むること甚た勉めたれは京を止められ後又御史陳次升なとか言葉により卞と共に落されたり扨て帝は第一に熙寧元豐の政事を續き述へんとせしに然るに曾布は少しく熙寧元豐と元祐とを双方共に存するの心あり故に建中靖國の初めハ大臣章惇蔡卞の爲す所を變したるか其後布は帝の心を計り合せ正人なる任伯雨江公望陳瑀なとは朝廷に入れられすに小人は夫れ夫れ黨ありて代る代る出入せしも心の向ふ所ハ共に安石を本とする計りなり扨て遂主なる弘基ハ死去し道宗と號し孫なる延禧か立ち天祚と號せり女眞の阿骨打か立てり女眞は本の名は朱里眞と云ひ燕慎の殘れる種類にて渤海の別族なり或ひは云ふに本姓ハ拏と云ひ辰韓の後にて三國志に云ふ所の挹婁元魏に云ふ所の勿吉唐に云ふ所の黑水靺鞨なる者は此土地のことなりとさて七十二の部落ありて元より一統せさるなり太中祥符より以後は絶へて中國と交通せさりし又生女眞なるものありて其類は又繁し其酋長に瞰版と云ひ孫ありて楊哥大師と云ひとうとう諸部の雄たり或ひは云ふに楊割の先祖は新羅人なる完顏氏にて女眞か娘を以て嫁とし二人の子を生み長男を胡來と云ひ三世に傳へて楊割に至れり阿骨打は其子なり生れ付き落ち付きて强く大ひなる心立てありと扨て建中靖國は一年にして崇寧と改元せり韓忠彦は止め又再ひ司馬光等の官を追ひ取り上げ元祐の黨人を帳面に書き載せたり

○曾布寵蔡京爲相蔡卞執政再貶鼠元祐人立姦黨碑京自崇寧爲僕射歷大觀政和重和爲大師嘗暫罷輒復入雖罷之日實執國命其間趙挺之張商英作相嘗與京異然在位各不過數月或一年而罷如何執中鄭居中劉正夫余深雖在相位或久或淺居中亦與京異常相排正夫亦小異然於京之權寵無損也京子攸之婦出入宮禁攸遂大用至父子權勢自相軋上寵攸而尊京子弟親戚滿朝皆其父子之黨京倡邪說以爲當豐亨豫大之運專以奢侈勸上窮極土木之功廣京城修大內盛築內苑鑄九鼎鼎成以九州水土納鼎中及奉安北方寶鼎忽水漏于外作大晟樂作玉清神霄宮崇信道士林靈素策上爲教主道君皇帝作延福宮作保和殿作萬歲山以朱勔領花石綱奇花異木怪石珍禽奇獸無遠不致民間一花一木之妙輒令上供有一花費數千緡一石費數萬緡者二十年間山林高深麋鹿成群改名長嶽又爲村居野店酒肆青帘於其間每歲冬至後即放燈縱令飲博謂之先賞元宵○時星芒屢見地震河決怪異迭出率以爲常京等誣奏甘露降祥雲現飛鶴蔽空竹生紫花芝草產于艮嶽及諸州連理木雙花芙渠芍藥牡丹至指臘月雷三月雪皆稱瑞表賀○內侍童貫梁師成用事師成專務應奉以蠱上心勢焰熏灼竊威福於中童貫專務開邊生事於外皆與蔡京父子相表裏○女眞阿骨打以重和元年戊戌稱帝初遼主天祚刑賞僭濫荒於禽色歲索名鷹海東青於女眞女眞

與其隣東北五國戰鬪乃能獲此禽以獻不勝其擾阿骨打遂叛攻陷混同江東之寧江州遼遣將討之而敗又起中京上京長春西遼四路兵並進獨涑流河一路深入大敗三路皆退女眞悉虜遼東界熟女眞鐵騎益衆天祚親征復大敗女眞乘勝并渤海遼陽五十四州又度遼西降五州阿骨打遂建號改名旻國號大金明年破遼上京（字解）（姦蕩碑）正人を姦蕩となし碑に刻す（豐亨豫大）易の卦名にて受くる所の財豐かにして樂む所大なるを云ふ（水滸）北方の亂るゝ兆とす（大晟樂）先聖を祭るの樂なり（策上）帝に尊號を奉つること（燕）大鹿なり（帝）音れん酒店の目印の旗（放燈）燈を點火すること（元宵）正月十五夜なり（運理木）木と木と連接するもの（英選）蓮なり（臘月）十二月（應爭）帝の心にかなへること（蠟）まとはすなり（燕灼）火のもへ上ること（僭遙）僭賞濫刑として賞罰の無茶なるを云ふ（海東青）鷹の名（擾）本意はさはかしきこと茲にては困難の意とす（講義）祐の人を落し流かし姦蕩の碑を立て元祐の人を辱かしめたり扨て京は崇寧年間に僕射となりしより大觀政和重和を歷て大師となれり或る時は暫く止めしも又直くに入り止めらるゝ日と雖も實に國の命令を取れり其間に趙挺之や張商英か宰相となり京と異なり然れとも位にあること各の數月又は一年に過きすして止め何執中や鄭居中や劉正夫や余深の如きは相位にあり或は久しく或は短かく居中も交京と異なり因て常に京を退そけ又正夫も少しく京と異ると雖もつまり京の權を我儘にし寵を第一にすることは少しも減することなし扨て京の子なる攸の輩は宮中に出入せしより攸はとうやう大ひに用ひられ父子の權勢か自然とすれ合ふ樣になりたり帝は攸を寵しそうして京の子弟や親戚を貴くせしゆへ朝廷中は皆京父子の黨となれりさて京は邪說を云ひ出し今は財豐かに樂み大なるの運命に當る時と云ひ第一に奢り事を以て帝に勸め夫れより普請を窮め極め京城を廣くし大内を修復し盛んに内苑を築き九つの鼎を鑄たりさて鼎か出來き上りたれハ九州の水土の物を以て鼎の中に入れ太廟に奉つり供へるに及ひ北方に當る寶鼎か不時に水か外に漏れ出てたり又大晟樂を作り玉清神霄宮を作り道士なる林靈素なる者を尊ひ信用し帝に神仙宗教の尊号を奉り　主道君皇帝と云へり又延福宮を作り保和殿を作り万歲山を作れり朱勔を以て花石運漕の事を領司させ奇花異木怪石より珍鳥奇獸に至るまて遠きも取寄せさるなく民間に一花一木の妙なるあれは直きに献上させたりさて一花の爲めに數千緡の錢を費やし一石の爲めに數万緡の錢を費やせし者あり是れより二十年の間に山林は高く深くなり大鹿小鹿は群かりたり因て名を長樂と改め又村家や野店や酒店や酒旗を其間に作り毎年冬至の後には直くに燈火を點し自由に酒を飲み博奕をさせ是れを先黨元宵と云ひ正月十五夜に先たち万燈會を賞觀することゝせりさて

此時彗星は度々出て地震ハあり河ハ切れ斷る怪異なるあとか代る代るありて大振常の樣になりたるも京等は欺き上奏し甘露か下り目出度き雲か見へ鶴か飛て空を蔽へり竹か漿の花を開けり靈芝か長樂に出來きたり又は諸州に連理の木か出來き蓮や芍藥や牡丹に双頭花か咲きたりなと目出度きこと計りを云ひ立て十二月の雷も三月の雪も皆目出度き祥瑞と云ひ立て上表して賀ふに至れりさて宦官なる童貫や梁師成は政事を取り師成は第一に天子の氣に合はせ心を受けることを勉めて益す帝の心を惑はし其勢は火の燎んにもゆる樣にて人をおとし人を幸ひする權柄を禁中にあつて盜み取り童貫は第一に國端しを開き取ることを勉め軍事を外にて起し皆禁京の父子と内外より相助けり然に女眞の阿骨打は重和の元年なる戊戌を以て帝號を稱せり初め遼主なる天祚は賞罰か無茶になり貪欲や女色に溺れ年々名高き鷹の海東青と云ふを女眞に求めたれは女眞ハ東北の隣りなる五國と戰爭してそこて其鷹を取り献上するあとなれハ其難難困難に堪へられぬより阿骨打はとうとう謀反し混同江の東なる寧江州を攻め取りたれは遼は大將をやりて征伐させしに打破られたり因て又中京上京長春西遼の四ケ路の兵を起して並ひに進みしか只涑流河より進む一ケ路の兵は深く入りて大ひに打破れたれは他の三ケ路の兵も退きたり因て女眞ハ悉く遼東の界なる熟女眞を生け取り是れより鐵騎兵ハ發す多くなれり因て遼主なる天祚は自分大將となりて征伐し又大ひに破られたり女眞ハ勝に付け込み渤海遼陽の五十四州を攻め取り又遼西に渡りて五州を降參させ是に於て阿骨打はとうとう年號を立て名を旻と改め國を大金と号せり其明年に遼の上京を破れり○高麗來求鑒上遣二鑒往還奏實非求鑒乃彼知中國將與女眞圖契丹謂苟存契丹猶足爲中國捍邊女眞狼虎不可交宜早爲之備上聞之不樂○上嘗微行都市酒肆妓館正字曹輔上言編管郴州○童貫自崇寧間與王韶之子領兵復湟州任責措置邊事已而復鄯州廓州貫遂建節爲宣撫既得志於西邊遂謂北邊亦可圖政和初乃自請奉使覘遼國有燕人馬植者陳滅燕之策貫挾以歸更姓名趙良嗣復燕之議遂起政和末有漢人泛海來具言女眞攻遼事重和春乃用蔡京童貫議遣馬政由海道至阿骨打所居阿芝川涑流河與議共攻

遼阿骨打遂遣使來宣和初至京詔京貫諭以夾攻取燕之意差軍校呼慶送其使由海道歸國是歲王黼爲相力贊攻遼之策及呼慶復與金使來時阿骨打在上京遂遣良嗣往約金國取遼中京本朝取燕京歲幣如與遼之數良嗣曰燕京一帶則併西京是也金主亦許之以札付良嗣期以女眞兵自平地松林趨古北南兵自白溝夾攻良嗣歸馬政復與子擴持國書姓訂彼此兵不得過關未幾金使復來又以國書就付其使歸國

〔字解〕（拝）防ぐなり（嘗）つねになり（微行）忍びあるき（措置）處分（**〔講義〕** 高麗より來り醫者を求めたれは帝は二人の醫者をやりたり然るに歸り奏し實は醫者を求むるに非す乃ち彼れは中國か是れより女眞と契丹を圖らんとするを知り因てはかりに也契丹を存し置かは矢張り中國の爲めに國端しを防き守るに十分なり女眞は虎狼の如きものなれは決して交はることは出來きす故に早く其用心をせられよと云へりと云ふ帝は此言葉を聞て樂しまさりし帝は常に京都市中の酒樓や遊女屋に忍びあるきせしかは正字なる曹輔か諫言せしかは彬州へ流して竄入せりさて童貫は崇寧年間より王稹の子と兵を支配して湟州を取戻し國端しの事を農分するの責任に當り其後鄜州廓州を取戻し貫は夫れより帝命を奉して宣撫使となれり已に志を西の國端しにて得たれはとうとう北の國端しも亦取ることを出來きると云ひ政和の初年に自分か乞ひて使となり遼國の樣子を伺ひしか燕人なる馬植と云ふ者ありて燕を亡ぼすの計りことを述へたれは貫は引き連れて歸り馬植の姓名を改め趙良嗣となし是れより燕を取戻すの評議かとうとう起れり政和の末年に漢人か海に浮ひて來る者ありて一々女眞か遼を攻むるの事を云へり重和の春そこて蔡京童貫の議を用ひて馬政をやりて海道より阿骨打か居る處の阿芝川涞流河に至り共に遼を攻むるを評議せり阿骨打は夫れより使を遣はし來り宣和の初めに京に至れり因て京と貫とに詔りし挾み打ちにして燕を取るの心を諭させ又軍校なる呼慶を遣はし其使者を送らせ海道より歸らせたり此年王黼は宰相となり勉めて遼を攻むるの策を贊成せり呼慶か又金使と共に來るに逢へり此時阿骨打は上京にありしゆへ遂に良嗣を遣はし金國は遼の中京を取り本朝は燕京を取り年々の送物は遼に與ふる歩の如くせんと約束せり此時良嗣は燕京の一帶は西京をも併せることゝ云へは金主も亦此言葉を承知し書札を以て良嗣に渡し女眞の兵は平地松林より古北に赴き宋の兵は白溝より挾み攻めるを定めり良嗣は歸りたれは馬政は又子なる擴と國書を持ちて往き彼我の兵は國界の關門を過ることを出

來きさるを評定せりまた何程もなく金の使か又來れり又國書を以て其使者に渡し國に歸せり時淮南京西河北江南相繼盜起山東宋江方就招安睦寇方臘連陷浙郡中都爲震童貫甫平方臘而北事作矣金人悉師度遼趨中京攻陷之中京者故奚國也遂引兵至松亭關以與宋有各不過關之約止引兵由其西而過遼主先已引避或言金前鋒將至遼主震驚亟奔雲中入夾山時燕王淳守燕蕭幹立淳爲主宋童貫蔡攸帥師東路至白溝西路至范村蕭幹迎戰甚力宋師敗退耶律淳死宋師再舉遼涿州將郭藥師領常勝軍來降宋兵五十萬進駐盧溝河蕭幹拒之藥師間道襲燕幹還救死鬪藥師屢敗僅以身免遁還盧溝之師遂潰貫攸懼無功獲罪時金主在奉聖州乃遣客禱金主圖之金主分三道進兵遂入居庸關燕降於金金使來言燕京以金兵攻下其地與宋租稅當以輸金宋使趙良嗣往議之許歲幣如契丹舊數外更以百萬代租稅而併求雲中之地金人僅以燕京涿易檀順景薊六州來歸貫攸入燕燕之金帛子女職官民戶金人席卷而東所得空城而已貫攸歸以王安中知燕山府詹度郭藥師同知○有星如月徐徐南行而落光照人物與月無異○修神保觀其神都人素畏之傾

城男女。貧士以獻。名曰獻士。又有節作鬼使。催納土者。上亦微服觀之。後數日旨禁。○京師河東陝西地震。宮中殿門搖動。且有聲。蘭州草木沒入。山下麥苗乃在山上。○金國無城郭宮室。用契丹舊禮。如結綵山作倡樂。鬬雞擊鞠之戲。與中國同。但於衆樂後。飾舞女數人。兩手持鏡類電母。其國茫然。皆茇舍以居。至是方營大屋數千間。盡倣中國所爲。○兩京河浙路。災異疊見。都城有賣青菓男子。孕而誕子。又有豐樂樓酒保朱氏。其妻年四十忽生髭髯。長六七寸。宛一男子。詔度爲女道士。○河北山東盜起。連歲凶荒。民食榆皮。野菜不給。至相食。饑民並起爲盜者。張仙者。衆十萬。張迪衆五萬。高托山衆三十萬。自餘二三萬者。不可勝計。○金主稱帝。六年而殂。號太祖大聖武元皇帝。弟吳乞買立。改名晟。〔字解〕（招安）招き下し安くなること（淳）遂の皇族なり（禍）求めるなり（圖之）助けを相談するなり（百万）錢帛百万なり初め契丹に三十万を送るを約し其後增し二十万を增し五十万となり又百万を增し合せて年々百五十万を送るなり（席卷）丸取りにして殘さぬこと（傾城）城下中の意（獻士）沙もちなり（結綵山）色絹を結んで山鉾とするなり（倡樂）役者の樂なり（電母）谷に電光の條を造り電母と云ふ（茇舍）神屋（酒保）酒造りなり（度）度牒をやること（榆皮）れの木の皮なり

〔講義〕時に淮南京西河北江南は相續きて盜賊起る山東の宋江は丁度招き降して安くなりたり睦州の寇なる方臘は連りに浙郡を攻め落し中都は爲めに震ひ恐れり童貫は初めて方臘を平らけたるに北事は又起れり扨て金人は軍勢を悉くして遂を渡り中京に赴き攻め落せり中京は元の燕國なり夫れより兵を引て松亭關に至りしか宋と各の關を越へさるの約わるゆへ止まり兵を引て其四より通りたり遂主は先きに已に引き避けたり或る人は金の先き手か來らんとすると云へは遂主ハ震ひ驚き速かに禁中に走りて夾

山に入れり時に燕王淳は燕を守りしか蕭幹ハ淳を立てゝ主となせり宋の童貫と蔡攸は軍を引き連れ東路は白溝に至り西路は范村に至りたれは蕭幹は迎へ戰ふこと甚た勉めたれハ宋の軍は破れて退きしか耶律淳か死去せり因て宋の軍勢は再ひ進めり時に遂の燕州の大將なる郭藥師は常勝軍を引き連れて來り降せり宋の軍勢は五十万にて進んて盧溝河に止まれり蕭幹は防き戰ひたれハ藥師は度々破れやつと一身にて免れ逃け歸れり因て盧溝の軍は師は拔け道より燕を不意打したれは幹は歸り救ふて死を決し戰ひ藥師は度々破れやつと一身にて免れ逃け歸れり因て盧溝の軍はとうとう潰れり貫と攸とは手柄なくして罪を得るを恐れしか時に金主ハ奉聖州にありしゆへそこて客をやりて金主に求め此事を相談したれは金主は三道に分れて兵を進めとうとう居庸關に入りたれは燕は金に降參せり扨て金使は來り燕京ハ金の兵を以て攻め下したれハ其地を宋に與へ租稅は金に送るへきふと云へり因て宋は趙良嗣をやりて評議させ年々の送り物は契丹に送りし元の數の如くし其外に百万を以て租稅の代りにするを許しそうして合せて雲中の地を求めたれは金人はやつと燕京と涿や易や檀や順や景や薊や六州を引渡せり因て貫攸は燕に入れり然るに燕の金帛や子女や職官や民戶は金人か席を卷く樣に丸る取りして東に歸る所ハ只から城計りなり貫攸は歸り王安中を燕山府の知事とし詹度と郭藥師とを同知なる次官とせり扨て皇帝ハ月の如くしづしづと南に往きて落ち其光りハ人物を照らし月と異なることなし又神保觀を修覆せり此神ハ都人の元より恐るゝ所なれは滿城の男女は土を貢ふて獻し名づけて獻土と云へり又鬼使と云ふを師り作りて土を運ふを催促せり帝も亦忍びの衣服にて見物せしが後數日に冒ねりて獻土を禁止せり又京師河東陝西は地震し宮中の殿門も動搖し其上に聲あり關州の草木は地中に落ち込み山の下の麥畑けハ却て山の上となりたり扨て金國は城や外曲廊や宮室はなく契丹の舊禮を用ひ結綵山を作りて役者の音樂をなし雞の戰ひや鞠り蹴りの戲の如きハ中國の樣なり只諸樂の後にて舞女數人を師り兩手に鏡を持ちて舞はせ俗に電母と云ふ者に類せりさて其國は茫然と荒れ皆茇屋に居りたるが茲に至りて丁度大なる屋を數千間なるを立て悉く中國のなす所に習へり扨て兩京河浙路は災異が重なり起れり夫れは都城に青物菓物を賣る男子ありしが身持ちなりて子を產めり又戲樂樓の酒保なる朱氏と云ふありて其妻ハ年四十にて急に髭が生し長さ六七寸になり捨も一男子なれば詔して度牒を賜はり女道士となせり又河北山東に盜賊起り年々饑饉にて人民ハ榆の木の皮を食ひ野菜も足らず遂に人相互に食ひ扨て此饑民が並び起りて盜をなせり張仙と云ふ者ありて人數は十万人なり張迪と云ふ者ありて其人數ハ五万人なり高托山と云ふ者ありて其人數は三十万人なり其他二三万の人數の者ハ一々數へられぬ計り多り扨て金主は帝と稱せしより六年にて死去し太祖大聖武元皇帝と號し弟なる吳乞買が立ち名を晟と改めたり

○燕山之地。易州西北。乃金坡關。昌平之西。乃居庸關。順州之北。乃古北關。景州之北。乃松亭關。平州之東。乃榆關。榆關之東。乃金人來路。凡此數關。天限蕃漢。得之則燕境可保。然

關內之地。平灤營三州自後唐爲契丹阿保機所陷。以營灤隷平。爲平州路。得燕而不得平州則關內之地。蕃漢雜處。而燕爲難保矣。遼張瑴守平州。金已遣人招瑴。瑴曰。契丹凡八路。今特平州存耳。敢有異志。既而乃以平州南附。宋遽納之。趙良嗣力爭。以爲必招金兵。金人諜知。即襲平州陷之。得宋詔札。自是歸曲。累檄取瑴。不得。已命王安中縊之。而函送其首。未幾。金太子斡離不。已由平州路將入燕矣。宋方且遣人。密誘天祚來降。以童貫宣撫兩河燕山路。將迎天祚。金人方退。天祚入陰夾山。不可得。至是領衆南出。遂爲金人所敗。就擒。契丹自阿保機至天祚九世而亡。時宣和七年乙巳歲也。是冬。金斡離不。粘罕分道而南。斡離不陷燕山。郭藥師降之。金兵長驅而進。郭藥師爲前驅。童貫自太原逃歸。粘罕圍太原。太原師張孝純歎曰。平時童太師作多少威重。乃畏怯如此。身爲大臣。不能死難。何面目見天下士。孝純以冀景守關。知朔寧府孫翊來救。兵不滿二千。與金人戰于城下。張孝純曰。賊已在近。不敢開門。觀察可盡忠報國。翊曰。但恨兵少耳。乃復引戰。金人大沮。再益兵。力不能敵。翊死焉。無一騎肯降。時王黼先一年已罷。而自時中。李邦彥。並相。皆鄙夫也。金兵來。時中但建出奔之策而已。上內禪。在位二十六年。改元者六。曰。建中靖國。曰。崇寧。大觀。政和。重和。宣和。太子立。是爲欽宗皇帝。

〔字解〕(瑴)音かく(八路)上京と中京と燕と雲と平と遼東と遼西と長春となり(南附)宋に從ふこと(天祚)遼主(粘)音でん(長驅)長途を追ひ進むなり(前驅)先き手(太師)官名(多少)多の意(觀察)孫翊は都巡撫使たり故に觀察と云ふなり(鄙夫)いやしく劣りたること(內禪)太子に禪ること

〔講義〕扨て燕山の地たる易州の西北には乃ち古北關あり遼州の北には乃ち松亭關あり平州の東には乃ち險關あり險關の東は乃ち金人の攻め來る路筋なり凡そ此數關は天より蕃夷と滅國とを限る處にて此數關を得れば燕の境は持ち固めること出來るも然るに此關內の土地なる平灤營の三州は後唐の時より契丹の阿保機の爲めに攻め取られ契丹は營灤を以て平州に附け合せ平州路となせり故に燕を得るも此平州を得ざれば關內の地も蕃人漢人か交はり居るゆへ燕を持ち固める實に困難なり然るに此時遂の張瑴は平州を守れるが金は已に人を遣はし瑴を招きしに瑴は契丹は總て八路わりしが今は特に平州の一路が殘る計りなり押て謀反の心あらんやと云へり其後瑴は却て平州路を以て宋に服從したれば宋は元より望む所ゆへ俄かに降を納れたるに趙良嗣は勉め爭ひ彼れの降を納れば屹度金の兵を受くることにならんと云へり扨て金人は伺ひ知り直ぐに平州を不意打ちして攻め取り宋が瑴に與へし詔書を得たれば是れより罪を宋に付け檄文を重ねて瑴を求めしより已むを得ず宋は王安中に命じて之を絞り殺し其首を箱に入れて金に送れり金の太子なる斡離不は已に平州路より燕に入らんとせり扨て金人は丁度退きたれば天祚は陰夾山に入らんとせき入れて來り降らせ童貫を以て河東山路を宣撫させ天祚を迎へんとせしゆへ宋は丁度先づ人をやりて內々に天祚を引しが入ることを得られぬゆへ茲に至りて衆を領して南に出でしが遂に金人の爲めに破られ生け取りとなれり契丹は阿保機より天祚に至るまで九世にて亡びたり此時は宣和七年乙巳の歲なり此冬金の斡離不は粘罕と道を分ちて南に進み斡離不は燕山を攻め取り郭藥師は降參せり扨て金の兵は長驅して進み藥師は先き手となれり童貫は太原より逃げ歸れり扨て粘罕は太原を圍みしが太原の大將なる張孝純は歎息し平日は童太師とて多くの威光を張りしが却て恐れ臆病なること此通りなり身は大臣となりながら國難に死するをも出來ず如何なる顏にて天下の士を見ることなるやと云へり此時孝純は冀景を以て關門を守らせたり然るに知朔寧府の孫翊は來り救ひしが兵は二千に足らず金人と城下にて戰へり張孝純は賊は已に近きにわケ押て門を開て戰ハぬまとあるべきと觀察よ忠を盡くし國に報ずべしと云へば翊は只兵の少なきを怨む計りと云ひそこで又兵を引て戰ひたれば金人は大ひに氣後れせり因て再ひ兵を增して來りたれば今は力も敵對すること出來ず翊は打死せり此時一人として降る者はなかりし時に王黼は一年先きに已に止め白時中李邦彥は並びに宰相となりしが皆鄙しき匹夫なれば金兵の來るや時中は只出奔の策畧を申し立てし計りなりさて帝は內禪し在位は二十六年にて改元するものハ六つ建中靖國と云ひ崇寧大觀政和重和宣和と云ふ太子が立ち是れを欽宗皇

帝と云へり

〔欽宗皇帝〕名桓。在東宮無失德。蔡京童貫輩咸憚之。欲動搖不可。至是即位。大學生陳東等。伏闕上書。乞誅蔡京。童貫。王黼。梁師成。李彦。朱勔。六賊。以謝天下。彦以根括民田。破蕩百姓。結怨於河北京東西三路者也。勔以花石綱所在騷動。結怨於東南者也。靖康元年。首竄黼。勔。彦。尋皆殺之。○有狐升御榻而坐者。詔毀狐王廟。○上皇奔應天府。○以李綱爲行營使。定城守策。○除元祐黨籍。追贈范仲淹。司馬光等官。○白時中罷。李邦彦。張邦昌。爲相。○春正月。斡離不抵京師。先是朝廷遣李鄴求和。斡離不携鄴以攻京城。不克。乃遣王汭與鄴偕來。邦彦等皆主和。惟綱欲戰。上是邦彦之計。遣鄭望之出使。未至。而遇王汭與俱入見。又遣李梲出使。梲又與金使偕來。金人需犒師金五百萬兩。銀五千萬兩。牛馬萬頭。表段百萬匹。割中山河間太原三鎮。地二十餘郡。且欲宰相親王爲質。遣張邦昌副康王。如其營。金國太子與康王同射。連發三矢。皆中。答。金人謂是將家子。非親王。遣歸。更請肅王爲質。种師道等諸路勤王兵至。師道奏。京城周回八十里。城高數十丈。粟支數年。宜與城

內。劉寒拒守。俟困擊之。綱亦奏。金以孤軍深入。如虎投檻。不可與角。一旦之力。縱歸擊之。必勝之計。上然之。而李邦彦。吳敏等。專主和議。論不一。致廢有待。汝議論定時。我已渡河之譏。未幾。統制官姚平仲。宵攻金營。不克。上大驚懼。廢行營。罷李綱。以謝金人。大學生陳東。及都人數萬。伏闕乞復用綱。得旨。復右丞。充守禦使。衆乃散。金使復來。乃以割三鎮詔書。遣使持往。時括在京金。僅得二十餘萬兩。銀四百餘萬兩。藏蓄已空。金人圍京城。凡三十三日。得割地詔。不俟金幣數足。而退。种師道請臨河要擊之。綱亦以爲彼兵六萬。而我勤王之師二十餘萬。縱其半渡。而擊之。必勝。邦彦等不從。惟詔三鎮。仍堅守不割。〔字解〕（失綱）過ちなり（動搖）かへること（根括）根からさらへとる云ふ（破蕩）破り空しくす（蕭結）帳面に付けたる徒黨の姓名（嚮師金）軍人を饗應する入用金（表段）絹の表地なり（質）音ち人質なり（康王）欽宗の弟（中答）矢のはづに當りたること（肅王）欽宗の弟（割）立つること（梲）をり（角）あらそうゝと（三鎮）中山河間太原なり（藏蓄）たくわへ（要擊）迎へて待ち打つなり（堅守）詔書には已に割くを許しながら其實は堅守を命ず支那人の卑屈手段にて古へより然り今日の台灣の如きも水落ち石出つれば亦此の如くなるやも知れず兎に角に支那人は口先きには仁とか義とか道理とか云ふも心の詐僞卑劣は云ふ計りなし彼の耶蘇宗教者が兇惡をなし是れは一時寛道に入りたりとか神の惠みに漏れたりとか云ひごまかすと一般なり然らば則ち宗教は惡を隱すの淵藪なるか嗚呼子に徵して知らん〔講義〕欽宗皇帝の名は桓と云ひ東宮にあるときより過ちなし因て蔡京童貫などは恐れ動かし代へんとせしが聞かれず茲に至りて位に即けり扨て太學生なる陳東などは闕下に拜伏して上書し蔡京童貫王黼梁師成李彦朱勔の六賊を誅殺して天下に謝罪せんと乞へり彦は人民の田地を根よりさらへ百姓の產を破り空くし怨を河北京の東西三路に結びたる者なり勔は花石綱の事を以て所々を騷動させ怨みを東南地方に結びし者なり因て靖康の元年に首として黼勔彦の三人を流し何程もなく皆殺せりさて狐が帝座に上りて坐したれば詔し

て狐王廟を毀てり此時上皇は應天府に奔れり李綱を行營使となし城を持ち固めるの策を定めりさて元祐の徒黨を誤面に付けたるを取除き范仲淹司馬光などの官を追贈せり白時中は止め李邦彦張昌邦昌は宰相となれり春正月に斡離不は京都に至れり是れより以前に朝廷より李鄴をやりて和睦を求めしに斡離不は鄴を引き連れて京城を攻めたるに勝たずそこで王汭を遣はし鄴と共に來れり邦彦などは皆和睦を主とせしに只綱は戰はんと欲せり帝は邦彦の計とを善とし鄴留之をやりて使者とせしにまた至らぬ先きに金の使者王汭に逢ひ一處に入見せり又李梲を以て使者とせしが梲は又金の使者と共に來れり時に金人の軍勢に驅走する金として金五百万兩と銀五千万兩と牛馬一万疋と又絹の表地百万匹と其上中山と河間と太原との三鎮の地二十餘郡とを求め又其上宰相親王を人質にせんとせり因て宰相なる張邦昌を親王なる康王に添へて人質とし金の陣屋にやれり然るに金の太子は康王と共に弓を射たるに康王は續きに三本の矢を射たるに皆先に射たる矢のはづに當りたれは金人は弓術の秀てたるを見て是れは大將帥の子にして親王にはあらざると思ひ康王を歸らせ更に肅王を乞ふて人質とせり此時神師道なと諸路の王事に勉むる軍勢か至れり師道は上疏し京城の廻りは八十里ありて城の高さは數十丈あり又兵械も數年を分あれは城内に於て取手を立て防き守り敵の困しむを待ちて打破らんと云へり綱も亦上奏し金は助けなき軍勢にて深く入りたれは丁度虎かおりに入りたる樣なれは一時の力を爭はす勝手に歸らせ追ひ打つなれは屹度勝つの計略なりと云へは帝は尤もとせり然るに李邦彦吳敏などは第一に和睦を主とせしゆへ中々評議か一定せす因て夷は其方邊の議論の定まる時を待ては我れは早已に黄河を渡り去んとの謗かありたりまた何程もなく統制官なる姚平仲か夜中に金の陣屋を攻め勝たされは帝か大ひに驚き恐れ行營を廢し李綱を止めて金人に謝罪せり然るに太學生なる陳東及ひ都人數万人は闕下に伏して又綱を用ゆるを乞ひたれは旨ありて綱を右丞に復し守禦使となしたるゆへ大勢はそこて退散せりさて金使か又來りしゆへそこて三鎮を割くの詔書を持たせて使者をやりたり此時京都にある金を取り集めしにやつと金二十餘万兩と銀四百餘万兩とを得しか最早や疲れにて貯へもからになりたり金人は京城を圍むこと纔て三十三日にて地を割くの詔書を得て金銀の數の揃ふを待たすして退けり此時神師道は黄河に臨みて待ち受け打たんと乞ひ綱も亦彼の兵は六万にて我れの勤王の兵は二十餘万われか彼れか黄河を半分渡るを許して不意打ちせハ屹度勝利ならんと云ひしか邦彦などは從はさりし只三鎮に詔を下し與ふると云ひたるも矢張り固く守りて與へさりし。○京師受圍時梁師成已誅至是竄蔡京於儋州至潭而死年八十蔡攸竄萬安軍尋有詔卽所在斬之童貫亦遠竄追斬於南雄。○李邦彦罷張邦昌吳敏並相邦昌罷徐處仁相處仁敏罷唐恪罷何㮚相。○上皇歸京師數月金兵復至斡離不由東路陷眞定長驅先抵京師粘罕由西路陷隆德太原府汾澤州平定軍平陽府河南府河陽府鄭州懷州抵京師張叔夜等統兵趣闕唐恪耿南仲專主和議曰今百姓困匱養數十萬於城下何以給之乃止各道兵毋得動京師自十一月受圍凡四十日有卒郭京者言能用六甲法生擒粘罕斡離不盡令守禦人下城獨坐城樓上以親兵數百自衛俄頃金人鼓譟而進京給衆曰須自下城作法因引餘兵南遁虜兵登城者纔四人衆皆披靡大潰上聞城陷慟哭曰朕不用种師道言以至於此時師道前一月卒矣護駕人猶有萬餘馬亦數千張叔夜連戰四日斬其貴將一人欲護駕突圍而出上感於和議不定士卒號哭而散虜使劉晏請上出城都民爭入欄而食之何㮚欲率都民巷戰聞者爭奮金人由是斂兵不下惟以割地責金幣議和爲辭以誤戰守之計侍郎耿南仲力主議和上以爲然遂墮其計二元帥請與上皇相見上曰上皇驚憂已病朕當自往遂如青城見之二宿而返。〔字解〕（㮚）音りつ（上皇）先きに應天府に奔りしなり（匱）とぼしきなり（六甲）甲子甲寅甲辰甲午甲申甲戌なり（披靡）ひらきなびく（纔）きうみ（巷戰）まちなかにて合戰すること（不下）打ち出せねこと（二元帥）斡離不と粘罕〔講義〕京師は圍を受くる時梁師成は已に殺され又茲に至りて蔡京を流し儋州に流したるに潭州に至りて死去せり年は八十なり蔡攸は萬安軍に流され何程もなく謫し居る處にて切りたり童貫も亦遠く流されしか追ふて南雄にて斬れり李邦彦は止め張邦昌吳敏は並に相

となり又邦昌は止め徐處仁は相となり處仁と敏は又止め唐恪も止め何㮚が相たり上皇は京都に歸れり然るに數月にして金兵ハ亦來れり斡離不は東路より進み眞定を落し長驅先づ京部に至り粘罕は西路より進み隆德太原府汾澤州平定軍平陽府河南府河陽府鄭州懷州を落して京都に至れり此時張叔夜なほ兵を引きて關に赴き來れり然るに唐恪耿南仲は第一に和議を主とし叔で今百姓ハ苦しみ財乏しきに數十万の兵を城下に餐はゞ何を以て兵糧なきを支給するやと云へばそこで各道の兵を止め歸し又動かすことを許さず扨て京都ハ十一月より圍みを受け月を四十日なり此時卒に郭京と云ふものありて六甲の法を修めて能く粘罕斡離不を生け取りにせんと云ひ恐く守りの兵に城を下らせ獨り城樓の上に坐し親兵數百を以て自分を守りしが俄に金人は太鼓を打ち時の聲を上げて進み來りたれば京は大勢を欺き我れは城を下りて六甲の法をなすなりと云ひ餘れる兵を引き連れて南に逃げたり此時廢兵の城に上る者は只四人なるに大勢は皆開きなびきて大ひに崩れたり帝ハ城の落たるを聞き痛み泣き我れは种師道の金人を黄河に て要擊するの策を用ひず遂に落城に立ち至れりと云へり此時師道ハ一月前に死去せり扨て帝の車駕を守るの兵はまた万餘人あり て馬も亦數千あり張叔夜は連戰四日にして金の貴き大將一人を切り車駕を守り圍みを突て出んとせしに帝は和睦の評議に惑ハされ心定まらざれど士卒ハ聲上げ泣て散り去れり此時夷の使者なる劉晏は帝の城を出づるを乞ひたれば都民は爭ひ入り劉晏を殺し切身にして食へり何㮚は都民を引き連れて市中にて戰はんとしたれば聞く者ハ我れも我れもと奮ひ勇め因て金人は是れにより兵を收めて又出でず只地を割き金幣を求め和睦を許諾するを云ひ立てとし以て我が守ると戰ふとの計畧をあやまらせり侍郎なる耿南仲は勉めて和を許諾するを主とし帝も夫れを尤もと愚ひとうとう金の計略に掛れりさて金の二元帥は上皇と面會せんと乞ひしに帝は上皇は驚き心配して已に病氣なれば我れが自分にて往かんと云ひとうとう青城に往きて面會し二夜宿して歸れり

叔夜諫曰。今上一出不歸。陛下不可再往。臣當率勵精兵。護駕以出縱虜騎追至。臣決死戰。或可僥倖。若天不祚。死於封疆。不猶生陷於夷狄乎。上皇欲飲藥。爲范瓊所奪。逼上皇出宮。皇后。太子。親王。帝姬。皇族。前後三千餘人。悉趣軍前。城中子女金帛寶玩。車服器用。圖書百物。括索公私。上下俱空。然後宣金主詔書。選立異姓。遂册前太宰張邦昌爲楚帝。以宋二帝北歸。金人在汴。凡七閱月而去。始至張叔夜嘗力戰。餘皆

主和。以至吳幵。莫儔。王時雍。徐秉哲。范瓊等。往來逼逐。上皇以下出郊。議舉異姓。方上在青城。逼易御服。時惟李若水抱持。大呼奮罵。金人刀裂其頤。斷其舌。而後梟之。相謂曰。大遼破。死義者十數。今南朝惟李侍郎一人。然一時憤死者甚衆。金人不知也。吳革結衆。欲刼還二帝。爲范瓊誘殺。何㮚孫傳。張叔夜。秦檜。司馬朴。皆爭論。乞存立趙氏。金人驅之。從上北行。叔夜不食粟。惟飲湯。過界河死。㮚至燕。亦不食死。當京城危急時。四方勤王之師至者。皆詔止不進。恐妨和議。訖金人之退。未嘗交兵。上在位不二年。國破。改元曰靖康。弟康王立于南京。是爲高宗皇帝。

〔字解〕（率勵）引き連れ勵ますなり（餘倖）万一の幸にて逃げ延びる事出來んの意（封疆）中國の領分内なり（軍前）金軍の前なり（括索）さらへ取るを云ふ（册）册封を渡すなり（二帝）上皇今上なり（幵）音けん（逼逐）詰め寄せて無理に追ひ立てるなり（國破）一（御服）天子の衣服（抱持）御服に掛る（梟）掛け首なり（刼還）おどして取戻すこと（界河）中國と夷との界の河（訖）及ぶなり（國破）一旦絶へて又南宋が立つ

〔講義〕明年の春復金人は帝に郊に出て青城に來るを乞ひ次ぎに無理に上皇も來るを乞へり此時張叔夜ゆへ亡といはざるなり 〔講義〕ハ諫め今上ハ一たび出て、歸られず陛下は再び往くことは出來ざるなり私は精兵を引き勵まして車駕を守り出ださん若し讎騎が追ひ來ちば私が死を決して戰はゝ或は万一を僥倖し逃げ延びるを得んかれとも天が宋を幸ひせず亦ならざるときは宋の領内にて死するまでなり何とて生きながら夷の地に捕はれんやと云へり然るに上皇ハ毒を飲て死なんとせしに范瓊の爲めに奪ひ取らる扨て范瓊は上皇に迫りて無理に宮を出でさせたり因て皇后太子親王より帝姫皇族など三千餘人い後と先きに悉く金軍に赴き扨て京城内の子や娘や金錢や絹布や寶物や玩物や其他車や衣服や器物や圖書やの百物は官私の別なく悉くさらへ取られ上も下も共に力なくなりたり然る後金主の詔書を發して異姓の帝を撰み立てとうとう前の太宰なる張邦昌を册命して楚帝となし宋の二帝を引き連れて北に歸れり金人ハ汴にあるあと凡そ七ケ月にて去れり扨て始めて來るとき張叔夜は或る時勉め戰ひしが其他の者は皆和議を主とし又吳幵や莫儔や王時雍や徐秉哲や范瓊などに至りては金人と往來し上皇以下に迫り

て無理に郊外に出たし異姓の帝を立つるを評論し帝が育城にあるとき無理に迫りて天子の衣服を取り替へさせたり此時只李若水は御衣を抱き持ちて大ひに呼び奮然として惡口したれば金人は刃物にて若水のおとがいを裂き舌を切り其後掛首にして相互に大遂の破れしとき幾を立てゝ死せし者は十數ありしに今南朝の破るゝときは只李侍郎一人が幾を立てゝ死せし計りなりと云へり然れども一時憤慨の爲め死せし者は甚だ多きも金人は知らざりしなり扨て吳革は大勢を集め結び二帝をおとし取戻さんとせしに范瓊の爲めに欺むき殺されたり何皋や孫傅や張叔夜や秦檜や司馬朴は皆爭ひ論して宋の一族を帝とせんと乞ひしに金人は聞かず迫ひ立てゝ帝に從へ北に連れ行けり叔夜は米を食はず只湯を飲む計りにて界河を過ぎて死去し皋は燕に至り矢張り食はずして死去せり扨て京城の危く急なる時に當り四方の勤王の軍が來る者われば皆詔りして止め進ませず是れい和議の邪魔になるを恐れし爲めなり因て金人が退くに及ぶまでまた戰ひを交へざりし帝は在位二年ならずして國破れたり改元するものは一つ靖康と云ふ弟なる康王が南京にて位に即き是れを高宗皇帝と云へり扨て宋の亡ぶる其醜を極むと云ふべし實に前後史樂になき所なり是れ和議を粗みて君臣に定見なく以て强慾なる夷狄に對する故なり彼の獸を見よ爪あり牙あり以て他の害を防ぎ力尽きて斃る宋の君臣は假令ひ前史を見て悟らざるも獸を見て少しく悟らざるや夫れ戰は未然の決斷なり和は人道の糊塗なり故に和を目的とすれば必ず亡ぶ南宋も亦然り潛夫宋史を記するに當り殆んど筆の汚るを恐る

南宋

〔字解〕(南宋)南宋は汴に破れ後宋は臨安に起る乃ち汴に對して南とす

〔高宗皇帝〕名構。徽宗第九子也。母韋氏。徽宗夢吳越武肅錢王入室。已而生構。封康王。靖康初。嘗出使。斡離不軍。是冬。斡離不再來。奉詔再出使。耿南仲偕行。至相州。民遮道請無往。至磁州。守臣宗澤止之。相州守以蠟書言。金人方遣騎。物色康王所在。乃回相州。與南仲揭榜。召兵勤王。有詔。以康王爲大元帥。汪伯彥。宗澤爲副。領兵入衞。王從伯彥議。出北門。渡河。至大名。聞京師陷。澤請進兵向京城。伯彥請王移兵東平。措身安地。南仲亦以爲然。遂東去。知河間府黃潛善。亦領兵至。進屯濟洲探報。二帝北行。張邦昌爲金所立。國號楚。是日風霾。日有薄暈。百官慘怛。邦昌亦有憂色。惟王時雍范瓊等。欣然若有所得。邦昌在位三十三日。御史馬紳貽書邦昌。請速行改正。易服歸省。遂迎元祐孟太后聽政。太后迎立康王。詔告中外。有曰。漢家之厄十世。宜光武之中興。獻公之子九人。惟重耳之尚在。遣使奉表。及以孟后詔。來。邦昌繼至。伏地慟哭請死。使臣自河北竄來。進道君手札。曰。便可即眞。來救父母。王慟哭拜受。遂趨應天府。即位。改元建炎。以主和誤國。罷黜耿南仲。召李綱爲相。以宗澤知開封。爲留守。綱至。邊防軍政。畧有緒。而潛善。伯彥。復主和。亟遣祈請使。矣。綱相數十日而罷。潛善伯彥爲相。首誅上書人陳東。歐陽澈。決策幸東南。無復經制。兩河之意。是冬。車駕遂至楊州。金人分三道南來。二年春。金人至汴。爲宗澤所敗。澤招撫群盜。募四方義士。合百餘萬。糧支半歲。表疏連數十。請上還汴。潛善忌其成功。從中沮之。憂憤疽發背而沒。臨終無一語及家事。但連呼過河者三。都人爲之號慟。聞者皆相弔出涕。〔字解〕(武肅錢王)五代の時の吳越王なる錢鏐にて武肅と送り名せらるゝ人なり是れも亦一種の小說(出使)人質のふと(蠟書)蠟丸中に書を入る最も秘密なるもの(物色)人相を見て尋ぬること(探報)敵情を探り報するなり(風霾)霾音まい土ふる(怛)意だつ痛むなり(臨省)尙書省に詣り臣の列に下ること(孟太后)哲宗の后

(十世)漢は高祖より哀帝まで宋も太祖より欽宗まで何れも十世にして何れも一旦亡ぶ(献公)春秋戰國の晉の献公なり(重耳)王禮の一なる文公(使臣)曾助なり(道君)徽宗(龍寵)止め殺すなり(鑑)順序の付くこと(兩河)河南河北(遇河)黄河を渡り北伐するの意

【講義】 高宗皇帝の名は構と云ひ徽宗の第九子なり母は韋氏にて徽宗が吳越なる武肅錢王が室に入り來る夢を見て構を生めり是れハ吳越なる臨安に起るの前兆と云ふ意なれども矢張り一種の小說的記事と見てよしさて構は康王に封せられ靖康の初めに出でゝ金の鈴離不の陣に人質となれり此冬鈴離不ハ再び來りたるとき又詔りを奉じ出使し耿南仲は一處に行き相州に至りたるに人民は途を遮り止め往くことなきを乞へり又磁州に至りたれば其守臣なる宗澤は又止めたり時に相州の守なる汪伯彦は秘密なる蠟書を以て知らせ金人ハ丁度騎兵を出し人相書きを以て康王を尋ぬる由しを云へりそこで相州に歸り耿南仲と共に立札をなして兵を召し王事に尽力せり因て詔ありて康王を以て大元帥となし汪伯彦と宗澤とを副へ大將とし兵を引き連れて入衛させたりさて王は伯彦の議に從ひ北門を出て黄河を渡り大名府に至りしとき京師は落ちたると聞けり澤は兵を進めて京城に向ハんと乞ひしに伯彦は王に兵を東平に移し身を安全の地に置くべしと乞ひ南仲も亦其言葉を尤もとし夫れより東に去れり知河間府なる黄潛善も亦兵を領して來り進んで濟州に屯し探り報じ二帝は北行し邦昌は金の爲めに立てられ國を想と號せりと云ふ此日風吹き土ふり日にうすきくもりあり百官は悲しみ痛み邦昌も亦憂ふる顏色ありしが只王時雍と范瓊なるは欣然と喜び志を得る所あるが如しさて邦昌は位にある三十三日なりしが御史なる民紳が書を邦昌に送り速かに僭竊の事を改め正し天子の衣服を脫し臣列に歸るを乞ひたれば邦昌は聞き入れたり爲紳は夫れより元祐孟太后を迎へて政事を聞くことにせり又太后は康王を迎へ立て詔りを四方に出し漢家の祖は十世目なり又我國も其通りなり因ては後漢の光武が中興の如く我國にてもすることなりさて晉の献公にハ子九人ありしことハ徽宗帝の如しそうして只晉の重耳計り殘りて頑梁を立てしが我徽宗帝も第九子なる康王が業を立つることなりと云ひ使者を立て邦昌が上表を奉り及び孟太后の詔りをも持ち來り邦昌は續て來り地に拜伏して叫び泣き死罪を乞ひたり此時使臣が河北より還れ來り道君なる徽宗の書面を送出せり其書には便ち眞天子の位に即き來りて父母を救へよとあれば康王は痛み泣て拜受し夫れより應天府に赴き位に上り建炎と改元し扨て前には和議の爲め國を誤りたるゆへ耿南仲を止め流し李綱を召して宰相とし宗澤を以て開封の知府とし留守官となせり扨て綱ハ至り國體の防ぎより軍政に至るまで大底順序が立ちたり然るに潛善や伯彦は又和を主とし度々使を金にやり二帝の南歸を祈り乞へり綱は宰相たること數十日にて止め潛善と伯彦が宰相となり首として上書して殿を云ふ陳東と歐陽澈とを殺し策を決して東南に幸きし又河南河北の地を治め定めるの心はなかりし此冬帝はとう楊州に至れり金人は三道に分れて南に來れり建炎二年の春金人は汴に至りしが宗澤の爲めに破られたり澤は群がる盜賊を招き入れ又四方の義士を募り衆百餘万を合せ兵很も半年を持ちたへるに足れり因て上書數十を續けに差出し帝が汴に歸らるゝを乞へり然るに潛善は澤の手柄の成就するを忌み憑み内より邪覓を入れたれば澤は憂ひ憤をり惡しき腫物が背に發して死去せり扨て澤は死去に臨み一言も我家の事を云ハず只黄河を渡ると續きに呼ぶこと三度なりし都の人民ハ澤が爲めに痛み泣き聞く者は互に人物を失ふを悔みて相泣けり

三年春。金人將至楊州。上得報亟出。二相方會食。堂吏呼曰。駕行矣。乃戎服南走。回望楊州。煙焰已漲天矣。呂頤浩。張浚。追及上於瓜洲。得小舟以渡。至鎮江。遂如杭州。罷潛善伯彦。以朱勝非爲相。御營將苗傅。劉正彦。作亂。請上禪位於皇子旉。未三歲。孟太后聽政。呂頤浩。張浚。帥師勤王。韓世忠爲前軍。張俊襲之。劉光世游擊爲殿。勝非說二兇。亟反正。尊孟后爲隆祐皇太后。勝非罷。呂頤浩爲相。二兇走。世忠追之。皆伏誅。上如建康。以浚爲川陝宣撫處置使。隆祐太后如南昌。聞兀朮請於粘罕將犯江浙。故也。杜充爲右僕射。守建康。上如杭州。升杭爲臨安府。自臨安如浙東。金人分兩道。一軍自斬黄渡江。劉光世在江州。以爲斬黄小盜。遣王德拒之。於興國軍。始知爲金人。金人自大冶趨洪撫建昌臨江吉州。追隆祐太后。不及。遂陷袁潭荊南澧州。乃自石首北渡。而去。一軍自滁和向江東馬家渡濟江。陷建康。杜充及守臣皆降於兀朮。通判楊邦乂不從。刺血書裾曰。寧爲趙氏鬼。不作他邦臣。衆擁見兀朮。誘諭累日。輒叱罵。卒大罵見殺。兀朮長驅陷杭州。上去已七日。兀朮進陷越州。四年春陷明州。時上已次台州章安鎮。金人以船犯昌國縣。

欲追襲上舟提領海舟張公祐引大船擊散之乃退回兵陷秀平江常州至鎮江韓世忠邀之以海舟與戰數十合多俘獲兀朮相持於黃天蕩兀朮求假道甚恭不許欲自建康北歸不得去或教於冶城西南隅蘆場地鑿大渠一夕成次早出舟趨建康世忠大驚尾擊之一日値無風海舟不能動兀朮乃引其舟出江北去疾如飛以火箭射海舟世忠軍亂奔還兀朮乃得北遁統制岳飛邀擊敗之於六合

〔字解〕（堂吏）政事堂の役人（戎服）軍服なり（遊擊）特別なく弱き所を敵ふ備へなり（二兇）苗傅と劉正彦と（隆祐）宮の名なり（川陝）四川陝西なり（升杭）杭州を府に改めのぼすこと（一軍）當時が大將となれり（一軍）兀朮が大將となれり（刺血）突て血を出すなり（相持）對陣して戰はさること（蘆場）あしある處（追）おそ（尾擊）追ひすがり打つなり

〔講義〕同じ三年の春金人は今や楊州に至らんとせしに帝は其事を聞き遠かに出でたり二相は丁度會食せしに堂吏が呼び車駕は行けりと云へばそこで軍服して南に走れり扨て楊州を振りかへり望めば烟火先きは已に天に一杯になれり呂頤浩張浚は瓜洲にて帝に追ひ付き小舟を得て渡り鎮江に至り夫れより杭州に往き扨て潛善と伯彦とを止め朱勝非を宰相とせり時に御營の大將なる苗傅と劉正彦は亂を起し帝に乞ふて位を皇子なる旁に讓らせたり皇子は年まだ三歲にならざりし因て孟太后は政事を聞けり呂頤浩張浚は軍を引き連れて王事に盡力し輔世忠を前軍となし張浚が助けをなし劉光世が別手にて跡備へにありたり因て勝非は二兇に說き速かに正に歸らせ且つ孟后を導んで隆祐皇太后となし勝非は止め呂頤浩が宰相となりたれば二兇は走れり世忠は追ひ掛けて何れも殺したり帝は建康に行き浚を以て川陝の宣撫處置となせり隆祐太后は南昌に行けり是れは兀朮が粘罕に乞ひ江浙の土地を犯さんとするを聞きし故なり杜充は右僕射となりて建康に守れり帝は杭州に行き杭州をのぼして臨安府となし臨安より浙東に往けり扨て金人は二道に分れ一軍は斬黃より江を渡れり劉光世は江州にわりしが斬黃の小賊を思ひ王德をやり興國軍にて防がせ始めて金人なるを知れり金人は大冶より洪撫建昌臨江吉州に赴き隆祐太后を追ひ掛けたるも追ひ付けず夫れより宜溝荊南澧州を落しそこで石首より北に渡りて去れり又一軍は滁和より江東なる馬家渡に向ひ江を渡り建康を落せり杜充及び守りの臣は皆兀朮に降參せり然るに通判なる楊邦乂は從はず突て血を出し帛に書き付けいつそ趙氏の爲めに鬼となるも他邦の家來とならぬずと云へり大勢は抱き連れて兀朮に會はせたれば兀朮は降ることを諭すこと數日なるも邦乂はいつも惡口し叱り付けつまり大

ひに惡口して殺されたり兀朮は夫れより長く馳せて杭州を落せしに帝の立ち去りしより已に七日の後なりし兀朮は進んで越州を落し同じ四年の春に明州を落せり此時帝は已に台州なる章安鎭にわり金人は船に乘じて昌國縣を犯し進で帝の舟を不意打せんとせしに提領海舟なる張公祐は大船を引き打て追ひ散らせりそこで兀朮は退き兵を廻して秀平江常州を落し鎭江に至れり韓世忠は海舟を以て迎へ共に戰ふこと數十合にて生け取りにすること多く又士卒を金山なる龍王廟に埋伏し殆んど兀朮を生け取りにせんとせり又黃天蕩にて對陣し未だ戰かはざりしが兀朮は歸り路を借るを請ふこと甚だ丁寧なるも世忠は許さず兀朮は建康より北に歸らんとせしも歸ることを出來ざりし此時或る人は城の西南の隅みなる蘆ある處に大なる退を堀るを敎へたれば兀朮は其通りにし一夜の中に退が出來きたれば明日早朝に舟を出し建康に赴かんとせしかば世忠は大に驚き追ひすがりて打ちたり或る日のこと風なきに出逢ひ世忠の海舟は動くこと出來ずそこで兀朮は舟を引き江に出て北に去り其早きこと飛ぶが樣にて火箭以て世忠の海舟に射付けたれば世忠の軍は亂れて走り歸れりそこで兀朮は北に歸ることが出來きたり此時統制なる岳飛は迎へ打て六合にて破りたり

初張浚西行上命浚三年而後用師及是撻辣兀朮皆在淮東浚聞兀朮躊躇必再犯東南議出師攻取以分其勢士大夫及諸將皆以爲不可浚決策移檄粘罕問罪遣吳玠入長安金人遂調兀朮自京西星馳趣陝西與婁室合浚合六路兵至富平婁室擁兵驟至鐵騎直擊環慶路趙哲軍佗路不援哲離所部諸軍退金遂乘勝而前浚斬趙哲諸路兵皆散去陝西大震浚駐軍興州遣劉子羽訪諸將所在各引所部來會人心粗安吳玠走保大散關東和尙原○上自海道回駐越州呂頤浩罷范宗尹爲相秦檜南歸趣行在檜在北依撻辣爲所任用撻辣南侵檜參謀其軍嘗爲草檄下山東州郡擊全家泛小舟抵連水軍自言逃歸朝士多疑之檜言如欲天下無事須是南自南北自北乞上致

書撻辣以求好其言皆撻辣意也○是歲劉豫稱帝豫景州人於建炎戊申以濟南守降金爲之用得知東平府兼節制河南粘罕白金主循張邦昌故事立豫國號大齊後遷都于汴粘罕既得關中地悉割以與豫○紹興元年命張浚討江淮盜李成成據江淮六七州連兵數萬有席卷東南之意尋陷江鎮臨江浚擊其軍復三郡成遁降齊○張俊盡失陝西之地惟餘階成岷鳳洮五郡及鳳翔府之和尚原隴州之方山原而已浚退保閬州統制曲端有威名浚先用譖罷其兵柄安置萬州西人倚端爲重及貶軍情不悅至是又送恭州獄殺之士大夫軍民皆悵恨西人益以是非浚金人分兩道向蜀吳玠與弟璘大敗之於和尚原又選將敗之於箭筈關兩道皆不能入○范宗尹罷秦檜昌言曰我有二策可以聳動天下遂爲右相呂頤浩爲左相○兀朮會諸道及女眞兵造浮梁於寶雞縣渡渭攻和尚原玠璘三日三十餘戰大破之兀朮中流矢僅以身免始自河東歸燕山○紹興二年上自越州還臨安言者劾秦檜專主和議沮止恢復遠圖檜罷朱勝非爲右相（字解）（回鑾）ためらうことゝ乃ちぐづぐづするなり（躊躇）躊へて遲すなり（逗）至急の意（拔寨）金の大將なり（草檄）軍觸れを作ること（絜）引き連れるを云ふ（疑之）一家皆歸りしゆへ金の廻し者と疑ふなり（張邦昌）金人立てゝ楚帝となす（三郡）江州鎮州臨江（兵柄）兵權なり兵を支配する役目（恨恨）いたみ怨むなり（兩道）設立は鳳翔より進み烏巻折合は階成より進む（揚言）云ひ觸らすこと（聳動）耳立て心動くにて大ひに驚くこと（浮梁）舟橋なり（沮止）邪魔し止めること（恢復）取り戻し大にすること

〔講義〕初め張浚が西に行くとき帝は浚に命じ三年の後に軍を用ひよと云ひしがせぬを聞き必定再び東南を犯すことなし因て軍を出して攻め取り敵の勢を分たんと評議せしに士大夫及び諸將は皆不可とせしたるに浚は策を定め先づ軍觸れを粘罕にやりて其罪を責め吳玠をやりて長安に入らせたれば金人はとうとう兀朮に仕度して出發させ京西より急に馳せて陝西に赴き拔寨と合併せり浚ハ六ケ路の兵を合せて富平に至りしに拔寨は兵を連れて俄に至り鉄騎を以て直ぐに環慶路なる撻懶の軍に打込みたるに他路の兵は救はず撻ハ部隊を離れて逃げ諸軍は皆退きたれば金は夫れより勝に乘りて進めり扨て浚は撻懶を切れり諸路の軍は皆散り去り陝西は大ひに恐れり因て浚は軍を興州に止め劉子羽をやりて諸將の居る所を尋ね夫れ夫れ部下を引て來會させたれば人心もやゝ安くなりたり此時吳玠は走ては散關の東なる和尚原を持ち固めたり帝は海道より回りて越州に止まれり呂頤浩は止め沈宗尹が宰相となれり此時秦檜は南に歸り行在に來れり檜は北にありて撻辣によりて任用せられ撻辣が南使のときは檜は其參謀方となり或る時撻辣の爲めに檄文を作りて山東の州郡を降參させたり扨て此度全家族を引連れ小舟に乘りて連水軍に來り逃げ歸りたると云ひたれども朝士は多くは疑ひ居れり扨て檜は若し天下の無事を欲するならば南は南として立て北は北として立て爭ハざることなりと云ひ帝に乞ひ書を撻辣に送りて好みを結ぶを求めり是れは皆撻辣の心より出でしことなり此年劉豫は帝と稱せり豫は景州の人にて建炎の戊申の年に濟南の守を以て金に降參し金の用をなし金の知東平府となり兼て河南の節制となれり扨て粘罕は金主に申し立て張邦昌を立てし故事に從ひ豫を立て國を大齊と號し後に都を汴に移せり粘罕ハ已に關内の地を取りたれば悉く割て豫に與へり紹興の元年に張俊に命じて江淮の盜なる李成を征伐させたり成は江淮の六七州に據りて兵數万を連ね東南を丸取りにするの心ありて江鎮臨江を落したり俊は其軍を打て三郡を取り戻したれば成ハ遁れて齊に降れり扨て張浚は悉く陝西の地を失ひ只階成岷鳳洮の五郡と及び鳳翔府の和尚原隴州の方山原を餘す計りなり浚は退て閬州を持ち固めたり茲に統制なる曲端と云ふは威勢名望ありたれば浚は先きに讒言を用ひて兵を支配するの役を止めさせ万州に置きたり全体西人は端を頼みて重りてなし居たるが端が落さるゝに及び軍人の心は喜ばざりしに茲に至り又恭州の牢屋に送りて殺したれば士大夫軍民は皆痛み怨み西人は益す此事を以て浚を非とせり扨て金人は二道に分れて蜀に向ひしに吳玠は弟なる璘と大ひに金兵を和尚原にて破り又大將をやりて鈴管關にて破りたれば二道の兵は入ること出來ざりし時に范宗尹は止めたり秦檜は戎れに二つの妙策ありて天下の人を驚ろかすことなりと云ひ觸らしたればとうとう右相となり呂頤浩ハ左相となれり扨て兀朮は蜀道及び女眞の兵を合せ浮き橋を寶雞縣に作りて渭水を渡り和尚原を攻めたるに玠璘は三日に三十餘戰して大ひに金軍を破り兀朮は流れ矢に當りやうと一身にて逃げ走り始めは河東より燕山に歸れり紹興の二年に帝は越州より臨安に歸れり然るに論者は秦

檜は第一に和議を主として天下を取戻し大ひにするの遠き謀慮なきを強ひ申し立てたれば檜は止め朱勝非は右相となれり○紹興三年。春。金撒離曷。自鳳翔長安。聲言東去。實由商於出漢陰。直趨金商。吳玠急引兵。扼之饒風嶺。金人間道遶出其後。玠還仙人關。金人遂進陷興元。知府劉子羽退保三泉縣潭毒山。撒離曷食盡。乃引還。吳璘以無糧拔寨。棄和尚原。金人得之。玠度其必深入。乃嚴兵以待。兀朮果與撒離曷來。犯仙人關。玠璘與戰七日。金人不能支。宵遁。玠設伏扼其歸路。又敗之。是舉也。金人決意入蜀。卒不得志。是歲。浚又失洮岷關外。惟存階成秦鳳。浚召還。尋與劉子羽皆貶竄。浚是行。本欲由關陝取中原。乃盡喪關陝而歸。賴得玠璘。保蜀而已。○齊遣李成。攻陷鄧襄隨郢唐州信陽軍等。岳飛復隨郢。成棄襄陽而遁。○呂頤浩。朱勝非。相繼罷。趙鼎爲右相。○齊以金兵分道南侵。上詔親征。出如平江。以張浚知樞密院。先是浚極言北方既無西顧憂。必併力窺東南。上思其言。遂召之。浚至。請遣岳飛渡江。入淮西。以牽制北兵之在淮東者。從之。上命浚視師江上。將士見浚來。勇氣皆倍。時韓世忠駐楊州。先已大敗金兵於大儀鎮。擒其將撻也。解元。成閔。與戰于承州十三捷。仇悆。孫暉。敗之於壽春。安豐。王德敗之於滁州。岳飛

遣牛臯等。攻之於廬州。撻辣。兀朮。知爲世忠所扼。江不可渡。引還。齊劉麟。劉猊。棄輜重遁去。○紹興五年。上自平江還臨安。趙鼎。張浚。爲左右相。浚兼都督諸路軍馬。尋復命浚視師江上。浚至鎮江。召韓世忠。使舉兵移屯楚州。浚至建康。撫張俊軍。至太平州。撫劉光世軍。無不踊躍思奮。以岳飛爲河北京西招討使。○先是。建炎庚戌中。有武陵人鍾相起於鼎州。僭號楚。鼎潭澧辰岳之境。皆盜區。相敗就擒。其徒有楊么者。據洞庭。遂爲劇寇。官軍陸襲之。則入湖。水攻之。則登岸。曰。有能害我。除是飛來。浚謂上流不先去么。爲腹心害。將無以立國。請自行。浚至湖南。會岳飛兵至。急攻其水寨。么窮蹙趣水死。遂平。浚自湖南轉由兩淮。會諸將。議防秋。乃入見。〔字解〕(扼)喰ひ止めること(拔寨)寨を捨てゝ悉く兵を引き上げるなり(關陝)關中陝西なり(無西顧之憂)關中陝西を定めたる故なり(率制)引き付け押へること(踊躍)勇みおどる(劇寇)はげしき賊なり(除)只なり(飛來)飛び來れの意なるが岳飛が來るの前兆と云ふ(防秋)夷は秋になり馬の肥ゆるを待ち來るなり凡そ蠻國より暖國を攻むるに夏なれば必ず兵病ひゆへ冬にするなり夫れは蠻輕くして兵益す強きゆへなり〔講義〕紹興の三年の春金の撒離曷は鳳翔長安より東に去ると云ひふらし其實は商於より漢陰に出て直ぐに金商に赴きたり吳玠ハ急に兵を引て金軍を饒風嶺にて喰ひとめたれば金人は拔け道より廻はりて後ろに出でしゆへ玠は仙人關に歸れり金人は夫れより進んで興元を落せり知府なる劉子羽は退ひて三泉縣の潭毒山を持ち固めしが撒離曷は兵糧盡きたればそこで引き歸れり吳璘ハ兵糧なきゆへ取手の兵を引上げ和尚原を捨てたれば金人は和尚原を取れり玠は金人が屹度深く入るを度りそこで兵を嚴重にして待ちしが兀朮は果して撒離曷と來り仙人關を攻めたり玠璘は共に戰ふこと七日にして金人ハ待答へるあと出來ず夜中に遁れり玠は伏兵を設けて其歸り路を喰ひ止め又打破れり此度は金人ハ心を定めて蜀に入らんとせしにつまり入ること出來ざりし此年浚は又

洮岷關外を失ひ階成秦鳳を存する計りなり浚は召されて歸り何程もなく劉子羽と共落し流されたり浚は金休西に行きしは關陝よう中原を取らんとせしがつまり尽く關陝を失ひて歸れり然れども幸に玠璘ありて蜀を持ち固めし計りなり扨て齊は李成をやりて攻め鄧襄隨鄂唐の州と信陽軍なども落したるに岳飛は隨鄂を取戻したれば成は盤陽を捨て、遁れり呂頤浩朱勝非ハ相樞て止め趙鼎は右相となれり扨て齊は金兵を引き連れ道を分ちて南を侵せり上は詔りして親征し出て、平江に行き張浚を以て知樞密院とせり是れより以前浚は金人ハ已に關陝を取り西を顧みるの心配なきゆへ屹度力を合せて東南を伺はんと極言したれば帝は其言葉を思ひてとうゞう召したり浚は至り岳飛をやり江を渡り淮西に入り北兵の淮東にある者を引き付け押へんと乞ひたれば帝は其言葉に從ひ又帝ハ浚に命じて軍を江上にて監視させたり大將士共は浚の來るを見て勇氣ハ皆倍せり時に韓世忠ハ楊州に止まり先きに已に大ひに金兵を大儀鎮に破り其大手を[illegible]撻也を生け取れり解元と成関は金人と秦州に戰ひ十三度勝ちたり仇忠と孫暉は金人を蕭睿安鹿に破り王德は金人を滁州に破り岳飛は牛皐などをやりて金人を廣州に攻めたり韓蘄兀朮は世忠の爲めに喰ひ止められ江を渡ること出來ざるを知り引き連れ去れり紹興の五年に帝は平江より臨安に歸れり趙鼎張浚は左右の相となり浚は兼ねて諸路の軍馬を都督せり何程もなく復浚に命じて軍を江上にて監視させたり浚は鎮江に至り韓世忠を召し兵を駆げ移りて鄂州に屯させたり浚は建康に至り張浚の軍を撫慰し太平州に至りて劉光世の軍を撫慰したれば皆勇みおどりて奮ひ戰ふを思はざるなかりし扨て岳飛を以て河北京西の招討使となせり是れより以前建炎庚戌年中に武陵の人なる鍾相と云ふ者あり鼎州より起り楚と僭号し鼎澧辰岳の界は皆盜賊の場所となりしが相が破れて生け取りとなり又其徒に楊么なる者あり洞庭に横行り遂にはげしき賊となり官軍が陸より攻ひ打てハ湖中に入り水より攻め打てば岸に上り能く我を害するあるハ只是飛び來る計りと云へり浚は先づ江の上手なる么を除かざれば腹心の害をなし以て國を立つるなからん因て乞ふ自分にて行かんと云ひ浚ハ湖南に至りしが岳飛の兵が來るに合ひ急に賊の水寨を攻めたれば么ハ行き詰まりて水に入りて死しようとう平らぎたれば浚ハ湖南より廻りて兩淮により諸大將を會合して秋期の防ぎ方を評議し夫れより入りて謁見せり

○金主晟殂。謚文烈。初晟與晟約。兄終弟立。而後復歸晟之子。故晟捨己子宗盤。而立晟長孫曷囉馬爲諳版孛極烈。儲副位也。曷囉馬名亶。至是遂即位。宗盤與晟之別子及粘罕。皆爭立而不得。粘罕時已失兵柄。與悟室並相。粘罕絶食。縱飲而死。蒙國叛金。蒙在女眞之北。在唐爲蒙兀部。亦號蒙骨斯。○紹興六年張浚復出視師。上自臨安如平江。齊人分道入寇。初劉豫因粘罕得立。知奉粘罕而已。蔑視他帥。及是請兵於金。宗盤沮之。聽豫自行。而遣兀朮提兵黎陽。以觀釁。劉光世時駐廬州。以爲難守。張俊駐泗州。亦請益兵。衆情洶懼。張浚以書戒俊及光世。有進擊無退保。趙鼎等請上親書付浚。欲退師還南保江。浚力爭以爲可保。必勝。一退則大事去矣。光世已舍廬州而退。浚即星馳至采石。遣人喩其衆。若有一人渡江。即斬以徇。仍督光世復還廬州。光世不得已。乃駐兵。遣王德酈瓊三敗齊兵於霍丘。正陽及前羊市。時劉猊至淮東。阻韓世忠兵。不敢進。乃從淮西渡。浚遣張俊統制官楊沂中至濠州。與俊合兵。沂中敗猊前鋒。猊引兵欲會劉麟于合肥而後進。沂中與遇於藕塘。合戰。猊大敗。麟聞猊敗。望風潰去。光世乘勝追襲。亦捷。北方大恐。上曰。克敵之功。皆出右相。趙鼎遂罷。○上皇以五年四月殂。至七年春。凶問始至。壽五十四。二帝自建炎初。由燕山如中京。古奚國霫郡也。在燕山北千里。次年又自中京移韓州。在中京東北千五百里。後二年。又自韓州移五國城。在金國所都東北千里。上皇終焉。（字解）（長嘯號）夷俗の名なり（霫國）元の本國にてもんごりやなり（觀釁）劉猊のすきを伺ふこと（洶懼）騷ぎ恐るゝこと（可保）うけ合へるなり（星馳）急行なり（望風）其樣子を見てなり右相張浚なり（殂）死

なり書法の下りたるものにて天子は崩の字を用ひ薨の主は殂の字を用ゆ出處は破國の主ゆへ落せり(晉)音しう(上皇)徽宗なり

〔講義〕金主なる晟は死去し文烈と送り名せり初め晟は晟と約束し兄が死せば弟が立ちそうして後又晟の子を立てんと云ひしゆへ晟は自分の子なる宗磐を捨て〻晟の長孫なる曷懶馬を立て諸版孛極烈となせり此諸版云々は太子の位の名なりさて曷懶馬の漢名は宣と云へり茲に至りてとうとう位に即けり宗盤は晟の別子および粘罕と曾立つことを爭ひしが得ざりし此時粘罕は已に兵を支配するの權を失ひ悟室と並びに宰相たりしが食物を食はず無茶に酒を飲みて死したりさて蒙國は金に叛けり蒙は女眞の北にありて唐の世に於ては蒙兀部となし又蒙骨斯と號せり紹興の六年に張浚は又出て軍を監視せり帝は臨安より親征の爲め平江に住けりさて齊人は道を分け入寇せり初め劉豫は粘罕によりて立つことを得たれば只粘罕に仕へることを知る計りにて他の將帥を輕蔑せしが此度天子親征を聞き兵を金に乞ひしに宗盤は邪魔を入れ豫が自分にて行くことを許し兀朮をやり兵を連れて襄陽に出張し齊のすき間を伺ひ出たりさて劉光世は時に廬州に止まりしが守備離しと思ひ張俊は泗州に止まりしが是れも亦兵を增すを乞へり此時宋情は恐れ懼きたり張浚は書面を以て俊及び光世を戒しめ進み打つことありて退き固めることなかれと云へり時に趙鼎なとは帝に乞ひ親筆の書を浚にやり軍を退けて南に歸り江を固めんと云ひしに浚は勉め爭ひ此度は吃度勝つを受合ふことにて一たび退けば國を立つるの事業も夫れまでならんと云へりさて光世は已に廬州を捨て〻退きたれば浚は直ぐに急行して采石に至り人をやりて光世の衆に諭し若し一人にても江を渡り歸らば直ぐに切りて觸れ廻さんと云ひ猶光世を督責して又廬州に戻らせたれば光世は是非なくそこで兵を止め王德と酈瓊をやり三度まで齊の兵と霍丘と正陽と及び前羊市とにて破れり時に劉猊は淮東に至り韓世忠の兵に隔だてられ押て進まず却て淮西より渡れり浚は張俊をやれり統制官なる楊沂中は濠州に至り俊と兵を合せり沂中は猊の先手を破りたれば猊は兵を引て劉麟と合肥にて會合し後に進まんとせしに丁度沂中と藕塘にて出逢に合戰して猊は大ひに破れたり麟は猊の敗軍を聞き其樣子を見て崩れ去れり因て光世は勝に乘りて追ひ打ちに掛け亦勝ちたれば北方は大ひに恐れり帝は敵に勝ちたる手柄は皆右相なる浚の衆に出でたりと云ひ趙鼎はとうとう止められたりさて上皇は五年四月に死去し七年の春に至りて始めて其知らせが來れり壽は五十四なりさて二帝は建炎の初めより燕山より中京に往きたり是れは古の奚國の晉郡にて燕山の北千里にあり其次きの年又中京より韓州に移れり是れは中京の東北千五百里にあり其後二年又韓州より五國城に移れり是れは金國の都する處の東北千里の處にあり上皇は茲にて終はれり

○岳飛爲湖北京西宣撫使。時淮東宣撫使韓世忠。江東宣撫使張俊。皆久已立功。而飛以列將拔起。世忠俊不平。飛屈已下之。二人皆不答。及飛破楊么。俊益忌之。於是嫌隙日深。上自如平江。如建康。飛因扈駕以行。入見。疏論恢復。秦檜時爲樞密副使。主和議。忌飛成功。沮之。飛以內艱去。上力起之。劉光世以言者論其退師幾誤事。罷兵柄。張浚以王德統其軍。德與酈瓊等夷不相下。大譟詣督府訴德。浚乃召德還爲督府都統制。而以呂祉爲督府參謀。領其軍。祉簡倨不通將士之情。聞瓊等反側。密乞罷之。瓊叛。執祉。以所部數萬降齊。張浚遂以之罷。浚之用德與祉。岳飛嘗言其不可。浚不聽。故敗。趙鼎復相。○金人以劉豫不能立國。廢之。齊立八歲而亡。○紹興八年。上自建康還臨安。秦檜復相。趙鼎罷。詔議講和。自建炎以來。無歲不遣使直願去尊號。奉其正朔。比於藩臣。金人不從。使者往。多拘囚。後數南侵不利。知江南不可圖。然後遣檜爲間。至豫廢。和議乃決。金使張通古來。編脩官胡銓上疏。以爲陛下一屈膝。則祖宗廟社之靈。盡污夷狄。祖宗之赤子。盡爲左衽。朝廷宰執皆爲陪臣。異時豺狼無厭。安知不加我以無禮。如劉豫。夫三尺童子。無知。指犬豕而使拜。則怫然怒。堂堂天朝。相率而拜犬豕。曾無童稚之羞。邪。奉使王倫誘致北使。以招諭江南爲名。欲臣妾我。執政孫近附會秦檜。臣義不與檜等共戴天。乞斬倫檜近三人頭。竿

之。藁街。然後。驟。其使。責。無禮。興。問。罪。之師。三軍之士。不。戰而氣自倍。不。然。臣有。蹈東海。而死。耳。寧能處。小朝廷。求活。邪。書上。連貶。竄。○紹興九年。金人先以陝西河南地。歸宋。朝廷遣官。謁陵寢。交地界。除汴京留守。○青。淵城李世輔來歸。世輔之先。累世爲蕃族都巡檢使。父子雖嘗仕齊。每相泣恨。不得歸宋。齊用世輔知同州。嘗得間生擒。撒離曷。欲歸朝。金兵來追。縱之而奔西夏。其父母及一子一孫。皆被戮。至是。乞兵於夏以復。既出。則知陝西已還宋。乃部夏兵而來。上慰勞。加賜賚。賜名顯忠。

〔字解〕（列將）並みの大將（不答）答禮せぬなり（縱隨）忌み不中なること（爲間）反一をなすことにて又謀叛とも云ふ檜は中國の臣なるに夷の命を受け內々探索し又中國を弱くすること勉むるなり（屈膝）降伏なり（廟社）たまや（左衽）左りまへにて夷の風なり（豺狼）金を指す（無禮）慢して捕へるを云ふ（佛然）いかる（堂々）正しく盛んなること（曾）乃ちの意（招諭江南）宋を招き諭すの心（塊街）漢時の夷の邸ありし處にて此時實にあるにあらず只居留地と云ふが如し（踏東海）古の齊の魯仲連が若し秦が帝となれば東の海に入りて死するまでなりと云ひし故事を用ゆるなり（陵寢）〔講義〕岳飛は湖北京西宣撫使となれり時に淮東の宣撫使なる韓世忠と踐なり（交）互に定めること（復）復仇なり（賚）たまもの並み大將より俄かに出世したれば世忠と後ハ不平をいだけり因て飛ハ自分より旅を屈めて二人の下に付きしも二人は皆答禮をもなさず飛が湖賊なる楊么を破りしより後は益す飛を忌み是れより不中が日々に深くなりたりさて帝は親征の爲め平江に行き又蘇州に往きしとき飛は驕に從ふて行き因て謁見し上書して恢復の事を論じたり時に秦檜は樞密副使となり和議を主とし飛が手柄をなすを忌み其議を邪魔せり飛は又母の死去により官を去りたれば帝は勉めて出仕させたり又劉光世は論者が光世が先きに軍を遠ざけ殆んと事を誤まらんとせしを論じたれば遂に兵權を取り上げられたり又張浚は王室を以て其軍の統制としたるが檜は默理と同等にて相互に下に付かず大に騷がしく遂に總督府に來り論を訴へたれば浚はそこで德と召し還して督府都統制となし呂祉を以て督府參謀となし其事を安配させたり此祉はさつぱして高擢り大將士の心に通ぜず種々なる誹謗の心わりと南き內々兇官にするを乞ひたれば瑣は叛き祉を捕へて部下の兵數万を引き連れて齊に參降せり張浚は遂に此歸にて止められたり浚が德と祉とを用ひしとき岳飛は或るとき不可を云ひたるに浚は聞入れず夫れゆへに失敗せり因て趙鼎は又宰相となれりさて金人は劉豫は國を立つること出來ざるゆへ廢せり齊主は八年間にて亡びたり紹興の八年に帝は建康より臨安に歸り秦檜は又相となり趙鼎は止めたり詔して和議を評議せり建炎より以來年々使を立て帝號を去り金の年號を用ひ自分より藩臣の列に下るを願はねなかりしが金人は聞き入れず使者が行けば多くは拘留せられたり然るに其後金は度々南使したるも利なきより江南は力を以て取れぬを知り然る後に檜を遣はして反間をなし璪が廢せらるゝに至り和議はそこで決定し金使なる張通古が來れり因て編修官なる胡銓は上書し思ふに陛下が一たび降參せられば宗廟にいます先世の神靈も悉く夷に汚がされ祖宗以來の人民も皆左衽なる蠻夷の風となり朝廷の大臣も皆又者となられん其後彼の豺狼の如く貪りて飽くなき者なれば何とて我れに無禮を加へること劉豫の如くならざることわらんや夫れ三尺の童子は至て無智なれども若し犬や豚に拜禮せよと云へばひつとして立腹せん然るに今正しく盛んなる天朝が皆引き連れて犬や豚に拜禮するは乃ち童稚者の恥なきや我が金に使ひせし王倫は北使を連れ來りしに其使は招諭江南使と云へり是れ我が國を僕婢の標にせんとするなりさて又執政なる孫近は秦檜の意に附け合はせり私は義理として檜なぞと一處に天を戴て生存せず何卒倫檜近の三人の首を切りて夷の居留地人に掛け首にし然る後に北使を拘留して其無禮を責め問罪の軍を起さば三軍の士卒は命戰せぬ先きに氣力も自然と倍せん左なくは私は東海に入て死するまでにて何とて斯く江南に片寄りたる小なる朝廷に身を置き生存を求めんやと云へり此書を上りたれば續きに落し流されたり紹興の九年に金人は先づ陝西河南の地を宋に返せり因て朝廷ハ官吏をやりて陝に拜謁し土地の界を定め汴京の留守を置けり茲に青淵城なる李世輔が歸服せり世輔の先代は代々蕃族の都巡檢使となり又世輔父子は以前より齊に仕ふるもいつも涙を流し宋に歸服することの出來ぬを怨めり齊は世輔を以て同州の知事とせしが或る時すきを得て金の撒離曷を生け取りに宋朝に連れ來らんとせしに金兵ハ追ひ來りたれば撒離曷を放ちて西夏に出奔したれば世輔の父母と及び二人の子と一人の孫ハ皆殺されたり此時に至り兵を西夏に乞ひ仇を復せんとて已に出でたれば陝西は已に宋に戻りたりと聞きそこで西夏の兵を追ひ返して來れり帝は慰勞して賜物を加へ名を顯忠と賜へり

○金國有謀反者。事連宗盤等。皆坐誅。左副元帥撻辣。實楊割長子。金主亶之大父行也。自粘罕死。宗戚大臣皆懼。撻辣與悟室。尋亦以謀叛。先後誅。金與宋和。實撻辣主之。撻辣既死。於是右副元帥兀朮爲左相。乃密奏於其主。以宋未議歲貢正朔。皆表冊

命。而撻辣擅許割地。遂渝盟。○紹興十年。金兵分四道南侵。劉錡大破兀朮於順昌府。檜急啓上。召錡還。岳飛敗之於郾城。幾擒兀朮。飛至朱仙鎮。檜急啓上。召飛還。韓世忠敗金人於淮陽之泗口。兀朮還汴。撿兩河軍與蕃部。以謀再舉。○十一年。兀朮陷廬州。侵和州。劉錡。楊沂中。敗之於藁皐。檜又啓上。亟班師。沂中自瓜州渡。返行在。張俊自宣化歸。建康。劉錡自采石歸。太平州。罷宣撫司。以其兵隸御前。遇出師時。臨時取旨。以韓世忠。張俊。爲樞密使。岳飛副使。飛世忠尋罷。兀朮以書抵檜曰。爾朝夕以和請。而岳飛方爲河北圖。必殺飛。乃可。張俊又構成飛罪。逮趣獄。檜奏誅飛。及張憲。岳雲。和議遂諧。歸韋大后及徽宗梓宮於宋。金人不惟盡悔所許陝西河南地。仍割唐鄧等州。人金。盡淮中流爲界。西割商秦之半。棄和尚方山原。時宣撫使吳玠卒四年矣。胡世將代之。力以和尚原等地。爲不可棄。兀朮必欲之。遂以大散關爲界。于時金國屢有內叛。宗戚大臣相繼誅夷。且北有蒙兀。自號大蒙。稱帝改元。連歲用兵。卒不能討。而與之和。南侵又不得逞。而宋之猛將精兵。方日盛。恢復實不難。沮於秦檜。有志之士。扼腕歎息。兀朮且死曰。南朝軍勢強甚。宜益加和好。俟十數年。南軍衰老。然後圖之。張浚。趙鼎。皆遠竄。鼎卒於海外。當時異議之人。貶竄殆盡。無復敢言兵者。○紹興十九年。金主亶爲其下所弒。共立丞相岐王亮。旻之孫也。○紹興二十年。金主亮。以上京僻在一隅。城燕京。徙居之。改燕京析津府爲大興府。號中都。以中京會寧府爲北京。汴京開封府爲南京。而舊遼陽府爲東京。大同府爲西京。如故。分蕃漢地爲十四路。置總管府。〔字解〕(大爻行)祖父の輩行とて祖父と外祖父と從祖父をかへる(四道)山東陝右河南東京を云ふ(啓)上申なり(抵)いたすなり(構成)つくりなす(逮)追捕なり(梓宮)天子の棺也(宗戚)一族と外戚(逞)恐を逞り(扼腕)腕をさすること(餅)片寄るなり〔講義〕金國に謀反人ありて其事は宗盤なとに關係せしゆへ宗盤なとは皆其罪により殺されたり左副元帥なる撻辣は實ハ樞密の長子なれば金主なる亶の大叔父なり粘罕か死せしより一族外戚大臣は皆恐れり撻辣は悟室と纔で謀反罪にて後と先きに殺されたりさて金は宋と和睦せしハ實は撻辣か取扱ひたり終るに撻辣ハ已に死したるより右副元帥なる兀朮が左相となりそこで內々金主に奏し宋はまだ年々の貢物や正朔を奉ずるの事を確定し其約定の相談もせざるに撻辣は自儘まに土地を許せしことを云ひこれより和議の盟を變せり紹興の十年に金兵四道に分れて南侵せり因て劉錡は大ひに兀朮を瓜昌府にて破りたれば檜は急に帝に上申して錡を召し返したり岳飛は又郾城にて打破り殆んと兀朮を生け取りにする所なりさて飛は朱仙鎮に至りしに檜は急に帝に上申して飛を召し返せり韓世忠は金人を淮陽の泗口にて破りたり由て兀朮ハ汴に歸り兩河の軍と蕃部とを點撿して再舉を企てたり同じ十一年に兀朮は廬州を落して和州を侵せり劉錡偽沂中は是れを藁皐に破りたれば檜ハ又帝に上申して速かに軍を返させたり沂中は瓜州より渡りて行在に歸り張俊は宣化より建康に歸り劉錡は采石より太平州に歸れり因て宣撫司を止め其兵を御前衛に從へ軍を出すときわらば其時に臨みて一々勅命を受ける事とし韓世忠張俊を以て樞密使とし岳飛を副使とせり飛世忠ハ何程もなく止らるさて兀朮は書面を檜に遣はし其方は朝夕に和を乞ふも岳飛は丁度河北を取るの謀とをなせり和を乞ふなれハ是非とも岳飛を殺せば聞き入れんと云へり又張俊も飛の罪を造りなしたれハ逮捕して牢に入れ檜ハ奏上して飛及び其部將なる張憲と子なる岳雲とを殺し因て和議はとうとう開へり就ては金は韋太后及び徽宗の梓宮を宋に返せり金人は只先きに許す所の陝西河南の地を悔ゆる計りならず又唐鄧州なとの地を割きて金に入れ淮の中流

と以て界となし西は南秦の半を割き取り和尚方山原を捨てさせたり時に宣撫使なる吳玠は死去して四年にして胡世將が代れり因て勉めて和尚原なゝの地は捨つことならずと云ひしが兀朮は是非とも取らんとせしゆへとうとう大散關を以て界となせり時に金國は度々内乱ありて一族外戚大臣ハ相續ぎて殺し平らげられ其上北に蒙兀ありて自分にて大蒙と號し帝と稱し年號を改め年々軍を起したるも金はつまり征討することゝ出來ず困て和睦したり又南侵するもいつも思ひ通りにならずそうして宋の猛き大將や擬り拔きの兵卒ハ丁度日々に盛んになり恢復も亦實に難からざるに只秦檜に邪魔せられ志ある士は腕をさすりて歎息せりさて兀朮が死なんとするとき南朝の軍勢は甚だ強ければ益す和好を如へ十數年の末を待ち南軍の衰へ老ひたる後に取ることを計れと云へりさて又張浚趙鼎は皆遠く流され鼎は海外にて死去せり其時異議なる人は落し流され殆んど尽きたれど又押て軍の事を云ふ者なかりし紹興の十九年に金主なる亮は上京ハ一とすみに片寄りあるを以て燕京に城を立て移りて住し燕京析津府を改めて大興府となし中都と號し中京會寧府を以て北京となし汴京開封府を以て南京となし元の遼陽府を東京となし大同府を西京とするは元の通りなり夫れより蕃と漢との土地を分けて十四路となし總管府と云ふを置けり

○二十五年。秦檜卒。檜秉政十八年。臨終猶起大獄。欲殺異己者。張浚李光胡寅等五十三人。幸檜病已不能書。得免沉該。萬俟卨湯思退陳康伯朱倬相繼爲相。○三十一年。欽宗凶問至。以去年冬。殂於五國城。年六十。○金主亮修汴京。蓋經營南侵。幾年矣。嘗因使來。密藏畫工。圖繪臨安山水城市宮室。以歸。題詩其上。有立馬吳山第一峯之句。是秋。徙居汴。遂渝盟舉兵。其母諫。殺之。以威衆。兵號百萬。陷淮西諸郡。江淮浙西制置使劉錡遣王權迎敵。權逗留。已而退還。奔采石。報至。中外大震。有浮海避狄之議。陳康伯不可。命葉義問視師。中書舍人虞允文參謀軍事。金人陷揚州。趨瓜州。劉錡遣將敗之於卓角林。有詔。令錡還軍。專防江上。金主欲由采石渡。朝廷以李顯忠代權。而未至。金人舟來。虞允文亟督水軍。海鰍船迎擊。死鬪。金人不能濟。時亮聞有內變。又聞舟師由海道來者。已爲李寶所焚。而荊鄂諸軍方自上流而下。忿甚。乃回揚州。召諸將約。三日必濟。過期盡殺。諸將遂弒亮。方亮之引而南也。渤海一軍叛去。已擁立葛王褒于遼陽。聞亮死。遂入譙京。追謚亶爲閔宗。廢亮爲海陵王。謚曰煬。褒晟之孫也。後改名雍。先是數年。張浚嘗言。金必渝盟。時相湯思退等大駭。以爲狂。至是浚起判建康。上自臨安如建康。浚迎謁。衛士見其復用。以手加額。○三十二年。上還臨安。金使來。遣使報之。復尋和議。夏六月。上內禪。退居德壽宮。在位三十六年。改元者二。曰。建炎。紹興。皇太子立。是爲孝宗皇帝。

〔字解〕（寓俟）音（高）ぼくきせつ二字姓なり（臨安）南宋の都（吳山）南宋の古への吳の地なり（蕨衆）衆人ををとす（逗留）とゞまりて進まぬなり（海鰍船）戰船なり（一軍）局蘇館なゝなり（譙京）燕京のこと（尋）重ねるなり

〔講義〕同し二十五年に秦檜は死せり檜は政事を取ること十八年にて死に臨みまた六なる我幸に檜は病氣にて最早字を書くこと出來ざるゆへ皆免れたり沉該や萬俟卨や湯思退や陳康伯や朱倬は相續ぎて相となれり同し三十一年に欽宗が死去の知らせが來れり夫れは去年の冬に五國城にて死去し年は六十なりとさて金主なる亮ハ汴京を修復せり夫れは南侵を企て謀ること數年にて以前に使の來るとき內々畫工を從がへ臨安の山水より城市宮室を圖取り畫さて持ち歸らせ金主は自分にて詩を其上に題せしが其詩の中に馬を吳山の第一の峯に立てんと云ふ句ありさて此秋汴に移りとうとう盟を破り軍を起せり然るに金主の母が異見せしゆへ金主は自分の母を殺して衆人を威せりさて總勢ハ百万人と号し進んで淮西の諸郡を落したれ

び江淮浙西の制置使なる劉錡は王權をやりて敵を迎へさせたるに權は止まりて進まず其後退き歸り采石に奔れり此報至りたれば中外の者は大ひに震ひ恐れ海に浮びて変を避くるの評議わりしに陳康伯は聞かず葉義問に命じて軍を監視させ中書舍人なる虞允文は軍事の參謀となれりさて金人は楊州を落し瓜州に赴きたれば劉錡は大將をやりて早角林にて金人を破れり此時詔りありて錡を呼び返し第一に江上を防がせたり金主は采石より渡らんとせしに朝廷は李顯忠を以て權に代へたり然るに顯忠はまだ來らざるに金人の舟は來れり虞允文は速かに水軍を引き連れ海鰍船を以て迎へ打ち死を決して戰ひたれば金人は渡ることを出來ざりし時に金主なる亮は本國に内亂あるを聞き又舟師の海道より來りしものゝ已に宋の李寅の爲めに燒かれ荊鄂州の宋の諸軍は丁度上ゝみ手より下り來ると聞き大ひに立腹しそこで楊州に歸り諸大將を召し三日中に是非とも渡れよ若し期限を過ぐる者ハ尽く切らんと約束せしゆへ諸大將はとうとう亮を殺せりさて亮が兵を引で南に進むとき渤海の一軍は叛き去り已に葛王なる褒を遼陽にて守り立てしが亮が死を聞きとうとう臨京に入り褒を退ひ送り名して閔宗と云ひ亮を殿して海陵王となし爆と送り名せりさて褒に最の孫にて後に名を雍と改めたり是れより數年以前に張浚は或るとき金は屹度盟を破らんと云ひしに時の大臣なる湯思退なるは大ひに驚き氣違ひと云ひしが茲に至り浚は又把て建康の判官となれり帝は臨安より建康に往きしに浚は迎へて謁見せしかば衛士は浚が又用ひらるゝを見て是れは〻云ひ手を額に當てたり同し三十二年に帝は臨安に歸れり金使は又來りたれば使を立てゝ報答し又和議を重ねたり夏六月に帝ハ内禪し退ひて德壽宮に居れり在位は三十六年にて改元するものは二の建炎紹興と云ひ皇太子が立て

〔孝宗皇帝〕初名伯琮。室室追封秀王。謚安僖。子偁之子。太祖七世孫也。母張氏。夢崔府君擁一羊來。曰。以此爲識。高宗爲康王。出使至磁州。磁人夢崔府君出迎。張氏以是歲丁未。生伯琮於秀州。有嘉禾之瑞。小名羊。高宗喪太子專。命選太祖之後。得伯琮。鞠宮中。賜名瑗。適與崔府君名同。封晉安郡王。秦檜疾其英明。而不能害也。竟立爲皇子。賜名瑋。封楚王。紹興末。賜名眘。立爲皇太子。尋詔即位。尊奉於上皇帝。爲光堯壽聖皇帝。皇后吳氏爲壽聖太上皇后。○以史浩爲右相。張浚樞密使。督師江淮。遂北伐。浩不與其議。力丐罷。李顯忠出濠州。趨靈壁。敗金兵。邵宏淵出泗州。圍虹縣。降金將。進克宿州。金副元帥紇石烈志寧率兵至。顯忠與戰。連日未決。諜報。金人大興。河南兵將至。會宏淵與顯忠不相能。而顯忠又不犒士。士憤怨。遂潰而歸。金人亦解去。上銳意恢復。是役不利。乃復議和。陳康伯罷。湯思退張浚爲左右相。浚仍以都督視師。數月而罷。未幾卒。浚許國之心。白首不渝。終身不主和議。遺命付其二子。以不能復中原雪國恥。不得祔葬先人之墓。○湯思退密有召虜議和之迹。言者論罷。竄之。道死。康伯復相。和議成。先是國書大宋去大字。皇帝去皇字。書用君臣之禮。有再拜等語。金使至。則起立問金主起居。降坐受書。奉使者自同陪臣。館伴之屬。皆拜其來使。至是始稱上爲宋皇帝。止爲叔姪之國。易歲貢爲歲幣。歲幣減十萬之數。地界如紹興之時。而餘禮往往竟不能盡改。上終身憤之。其後屢請還河南陵寢地。改受書禮。金人卒不從。蓋上雖有志復讐。而無能輔其志者。自陳康伯卒後。共适葉顒。魏杞。蔣芾。陳浚。卿。虞允文。梁克家。曾懷。葉衡。史浩。趙雄。王淮。周必大。留正。相繼爲相。惟浚卿允文並相時。有經營北方之議。而浚卿

持重。卒與允文不合。允文所爲。人亦議其虛誕。竟不效。如浩。尤不主用兵。必大從容廟堂。善類多所引進。朱熹以淳熙十五年被召。必大作相時也。

〔字解〕（倜）音しよう（崔府君）後漢の崔瑗を神とし祭るの名なり（識）心覚への意（綯）姿なり（音）音しん（金將）蒲察徒穆なり（紇石烈志寧）上の三字は姓にて下の二字は名とす（二子）張栻張栒（耐難）側に付け難ひること（陣坐）帝坐を下る（館伴）接待掛りなり（至是）乾道元年なり（耳）献なり（僭）贈るなり（虛誕）實なく大増に云ふこと（善類）賢者を云ふ

〔義義〕孝宗皇帝の初めの名は伯琮と云ひ皇族には追封は秀王と云ひ送り名は安僖と云ふ子倜の子にして太祖の七世の孫なり母は張氏にて崔府君が一疋の羊を引き來り此羊を心覚へとせよと云ふと夢見たり高宗が康王となり金の陣に出使するとき磁州に至りしに磁州の人は崔府君が出で迎ふと夢見たりさて張氏は此丁未の年に伯琮を秀州にて生めり時に目出度き米の嘉瑞あり幼名を羊と云ふ高宗が太子なる事の死したるとき命じて太祖の血筋にて撰ばせ伯琮を得て宮中に寶ひ名を瑗と賜へり丁度崔府君の名と同樣にて張氏の夢と磁州人の夢と米年の生れと幼名の羊と賜名の瑗とを以て見れば崔府君の再生ならん潛夫云ふ苟くも史を修むる者字を積み句を重ねて斯る小說的記事をなせり實に馬鹿げたることなり然れども支那人は是れを眞事と思ひ斯く骨を折りて書くことか是れ亦宗教の弊害なりさて伯琮は晉安郡王に封せられ紹興の末に又名を瑋と賜ひ立て皇太子となり何程もなく詔りわりて出來きずつまり立て皇子となり名を瑋と賜ひ魏王に封せられ紹興の末に又名を瑋と賜ひ立て皇太子となり何程もなく詔りわりて位に即き太上皇帝を尊び光堯壽聖皇帝となし皇后を壽聖太上皇太后となせりさて史浩を以て右相となし張浚を樞密使となし軍を江淮にて監督し夫れより北伐せり浩は其評議に關係せず勉め乞ふ右相を止めたりさて李顯忠は濠州に出て蘄縣に赴き金兵を破れり邵宏淵は泗州に出で虹縣を圍み金の大將を降參させ進んで宿州に勝ちたり然るに金の副元帥なる紇石烈志寧は兵を引連れて來りたれば顯忠は共に戰ふこと連日なるもまた勝敗決せずりし時に探索が報知し金人は大ひに河南の兵を起し今や來會せんと云へりさて宏淵と顯忠とは睦ましからず又顯忠は士卒を犒ふため金物を與へざるより皆怨み立腹しとうとう崩れて逃げ歸り金人も亦軍を引き上げたりさて帝は一心に恢復を思ひしも此役に利あらざるよりそこで又和を評議せり陳康伯は止め湯思退と張浚が左右の相となれり浚は矢張り都督官となり軍を監視せしが數月にして相を止め何程もなく死去せり浚は國の爲めに身を捨つるの心は老年に及びても變せず生涯和議を主とせずさて二人の子に遺言し我れは中原の地を取り戻して國の恥を洗ぎ消めることを出來ざるゆへ先代の墓の側に付け葬ひることは出來ねなりと云へり湯思退は內々夷を召して和議を相談せし證據ありたれは諫官は論して止め流せしに途中にて死去せり康伯は又相となり和議又なれり是れより以前には金にやる國書には大宋の大の字を去り皇帝の皇の字を去り又休は金を君とし宋を臣とするの禮式を用ひ文中に再拜なしの言葉を用ひ又金の使者が來るとき帝は起立して金主の欽嫌を問ひ坐を降りて國書を受くるの禮なり又金に使する者は自然と又家來と同格なりし又接待掛りは皆金の使者を拜する

の禮なりし然るに此時に至り國書中に帝のことを宋皇帝と書し只金を叔父の國とし宋を姪の國の禮式とし議員を改めて議幣とし議幣の數は十万を減少し土地の界は矢張り紹興の時の通りにてありれの他の禮式はつまり皆まで改めること出來ざれば帝は生涯此事を殘念に思ひ其後度々河南の陵あるを取戻すことゝ國書を受ける時の禮式を改めることゝを乞ひたるも金人はつまり承知せざりし夫れと云ふものは帝は仇を打つの志ありと雖も然れども能く其志を佐くる者なかりし陳康伯が死去せし後は共適や葉顒や鞫杞や蔣芾や陳俊卿や虞允文や梁克家や曾懋や葉衡や史浩や趙雄や王淮や周必大や留正が相續ぎて相となりしが只俊卿允文が並び相たるとき北方を取り戻すの評議ありしが俊卿は經はづみの事をせざるようつまり允文と心合はず又允文のする處は人も亦實なくして大増に云ふことを謗りつまり何も手柄あらず浩の如きも尤も兵を用ゆるを主とせず必大は廟堂の上にゆつたりとし賢者を引き進める處多く朱熹は淳熙十五年に召されたるが必大の相たりし時なり

初程頤卒於徽宗之世。其徒楊時在欽宗光堯時。皆被擢。趙鼎雖不及識頤。而主張其學。惡之者。以楊時爲還魂鼎爲導魂。胡安國爲强魂。其後又有尹焞。見召入經筵。焞蓋頤晚年高弟也。士大夫名程氏之學曰道學。時好不同。亦多以此名見擠於世。延平李侗受學於楊時之門。人羅從彥。而熹又受學於侗。胡銓嘗薦熹於光堯。熹不至。乾道以來。屢召。不起。特旨改秩奉祠。召入館。不就。後爲南康守。浙東茘除。熹提舉。往救之。過闕。嘗一入奏事。至是召對。除兵部郎。與侍郎林栗不合。即奉祠去。數月復召。熹辭。惟進封事。言天下之大本。與今日之急務。大本在陛下之心。急務則輔翼太子。選任大臣。振擧綱維。變化風俗。愛養民力。修明軍政。六者是也。熹之

同志。有廣漢張栻者。魏忠獻公浚之子其學得之胡宏。宏安國子也。栻之言曰。有所爲而爲者。利也。無所爲而爲者。義也。學者誦爲名言。栻爲南軒先生。有呂祖謙者。公著之五世。希哲之四世孫也。亦祖程氏之學。學者稱爲東萊先生。皆先是數年卒矣。惟熹學問老而彌篤。學者共師宗之。稱爲晦菴先生。四方仰其人。如泰山北斗。南使至北。金人必問朱先生安在。同時有臨川陸九淵。世號象山先生。與熹爭論太極圖說。且謂學有悟入。譏熹從事訓解。意見頗立異云。○上久有興子之意。會光堯皇帝壽八十二而崩。乃詔內禪。上奉德壽二十六年。孝養備至。既升遐。哀慕尤切。以不得日奉几筵。欲退終喪制。移居重華宮。在位二十八年。金世宗雍以是歲殂。其嗣允恭先卒。孫璟立。雍賢明仁恕。號爲北方小堯舜。故金之大定三十年。與宋之隆興。乾道。淳熙。相終始。南北皆得休息。彼此無可乘之釁。上之齎志不克大有爲者以此。太子立。是爲光宗皇帝。〔字解〕（被擁）欽宗は國子祭酒とし光堯は又侍讀を兼さす（擁）物とす（奉祠）祠官にて老賢を優待する（綱維）大法小法なり（魏忠獻）魏は國名忠獻は逸り名（有所爲）我が身のためにすること（南軒）齋名（東萊）地名（晦菴）齋名（象山）地名（訓解）註解なり（德壽）光堯の宮の名（几筵）左右のこと（退）帝位を退くなり（重華）德壽の改めたる名（是歲）淳熙十六年（齎志）志を持つなり〔講義〕初め程頤は徽宗の世に死去し其徒なる楊時ハ欽宗や光堯の時に皆抜け上げ用ひられたり祖鼎は頤の時代に生れず頤を知らざるも其學派を主張せり因て其學派を慕む者は楊時を死者の魂を返すと云ひ鼎を魂を尊ぶと云ひ胡安國を魂を强ゆると云へり其後又尹焞あり召されて學問處に入れり焞は靈し頤が老後の高弟なりさて士大夫ハ程氏の學を名づけて道學と云へり時人の好むときは道學の名を借りて進む者あり時人の好まぬときは亦多く道學の名を以て世人に落されたり延平の李侗は學を惕時の門人なる羅從彥に受け熹も亦學を侗に受けたり胡銓ハ以前に熹を光堯に進めたるも熹は至らず乾道年間より度々召したるも出でず因て特旨を以て奉祠役とし召して學館に入れたれども宮闕を過ぎ一たび入りて事を奏せりさて此時に至り召して南康の守となり浙東が荒れたれば熹を提點となし往て救はせたれば宮闕を過ぎ一たび入りて事を奏せりさて此時に至り召して入對させ吏部郎に拜したるが侍郎なる林栗と心合はざるゆへ又直ぐに奉祠役となりて去れり又數月にして召したれば熹ハ辭退し只封書獻白を奉り天下の大本と今日の急務とを云へり大本ハ陛下の心にあり急務は太子を輔佐すること大臣を選び任ずること大法小法を起し振はすこと風俗を替へ移すこと民力を愛し養ふこと軍政を修め明らかにするの六つものなりさて熹の同志に廣漢の張栻なる者ありて魏國忠獻公なる浚の子にて其學を胡宏に受けたり宏は安國の子なりさて栻は我が身の爲めにする所ありてするものは利なり我が身の爲めにする所なくしてするものハ義なりと云へば學者は此言葉を云ひて名言となし栻を稱して南軒先生と云へり呂祖謙と云ふ者あり公著の五世希哲の四世の孫なり祖謙も亦程氏の學を祖とし學者ハ東萊先生と云へり皆是れより數年前に死去し只熹は學問老年に至りて彌よ篤く學者は共に師とし本として尊び稱して晦菴先生と云へり四方の人ハ晦菴を尊び仰ぐこと泰山や北斗の樣にて宋の使者が北に至れば金人は屹度朱先生は何れにあるやと問へり熹と同時に臨川の陸九淵なる世に象山先生と號する者あり熹と太極圖說を爭ひ論し其上學には悟り入ることありと云ひ熹が註解に骨折るを謗り意見は大ひに異なりたりと云ふ帝は久しく子に讓る心ありしか光堯皇帝が壽八十二にて死去したればそこで詔りして內禪せり帝ハ德壽宮に仕へること二十六年にて孝養は十分に行き屆き已に死去せられて悲しみ慕ふこと尤も殷敷く光堯の在世の時は日々に左右に付き居ることの出來ざりしゆへ位を退き忌復の禮を尽さんと欲し移りて重華宮に居れり在位は二十八年なりさて金の世宗なる雍は此年に死去し其嗣子なる允恭は先きに死去したれば孫なる璟が立てり雍は賢明にして惡み深く思やりあり號して北方の小堯舜と云へり故に金の大定年間三十年と宋の隆興乾道淳熙の間とハ終始を同ふし南北共に皆休息をなし彼れにも是れにも付け込むべき隙なかりし帝は厥後の志を持ちながら大ひになすことの出來ざりしは此譯ゆへなり太子が立ち是れを光宗皇帝と云へり

〔光宗皇帝〕名惇。年四十四。自東宮受禪。尊太上皇帝爲至尊壽皇聖帝。周必太罷。留正。葛邲。爲左右相。改元曰紹熙。皇后李氏。大將李道女也。悍而妬。欲亟立皇子嘉王爲儲嗣。因內宴請於壽皇。不許。后不遜。壽皇

有怒語后銜之乃造誣罔謂壽皇有廢立意致上驚恐得疑疾及聞後宮有暴死者上震懼疾愈甚不復過重華宮近兩載始一至壽皇彌不懌上亦不能視疾壽皇居重華踰五載壽六十八而崩上不能執喪一日忽仆於地中外危懼太皇太后立嘉王是爲寧宗皇帝（字解）（悍而妬）氣強くしてりん氣深き者り（不遜）無禮なり（誣罔）實なきことを云ひ欺むくなり（疑疾）神經病なり（暴死）俄かに死するを云ふ（重華）壽皇の宮（太皇太后）壽皇の母（講義）光宗皇帝は名を惇と云ひ年四十四にて東宮より出でゝ讓りを受け太上皇帝を尊んで至尊壽皇聖帝と云へりさて周必大は止め留正と葛邲とが左右の相となれり改元して紹熙と云ふ皇后なる李氏は大將なる李道の娘なるが氣強くして悍氣深く速に皇子なる嘉王を立てゝ太子となさんと思ひ内宴の時により壽皇に乞ひたるに許されざるより后は無禮を云ひたれば壽皇は立腹の言葉あり后は此事を怨みそこで實なきことを云ひ作り壽は帝を廢するの心ありと云へば帝ハ驚き恐れて神經病を起し又後宮に頓死せし者ありと聞き帝は震ひ恐れ病氣が重くなり夫れより又壽皇の宮なる重華に謁見に行はぬまと二年を越へやつと一たび行きたれば壽皇ハ翌よ機嫌よからず夫れゆへ帝は壽皇の病氣を介抱せず壽皇は重華に居ること五年を越へ（壽六十八にて死去せり帝は亦忌服の禮を執行するも出來きず或る日俄かに地に倒れたれば中外の人々は危ふみ恐れり因て太皇太后は嘉王を立てたり是れを寧宗皇帝と云へり

（寧宗皇帝）名擴初封嘉王孝宗崩光宗疾病知樞密院事趙汝愚密建翼戴之議知憲聖慈烈吳太皇太后以宗社爲憂將白事而難其人有知閤門事韓侂胄者琦之曾孫而太皇女弟之子也乃因以入白太皇垂簾引嘉王入即位代執孝宗之喪中外危疑者乃定光宗居壽康宮後六年而崩壽五十四上之爲嘉王也黃裳爲翊善講說開導光宗嘗宣喻曰嘉王進學皆卿之功裳曰若欲進德修業追蹤古先哲王須尋

天下第一人乃可問爲誰以朱熹對彭龜年繼爲宮僚因講每及熹說上傾心久熹在光宗時守漳州後守潭州爲湖南安撫自上登極首被召除待制兼侍講熹未至已聞近習用事御筆指揮皆有漸深憂之留正罷汝愚爲相韓侂胄自負有定策功希不次之賞汝愚不肯驟除遂怨汝愚爲政方務引進善類裁抑僥倖小人滋不悅相與排之朱熹既至上疏忤侂胄在朝甫四十六日而罷言者以爲熹有宮祠之命遠近相弔天下大老去之誰不欲去若正人盡去何以爲國汝愚袖還內批且諫且拜不聽侂胄欲併逐汝愚而難其名或教之曰彼宗姓誣以謀危社稷則一網盡矣侂胄然之汝愚在相位數月罷連貶竄服藥以死侂胄用李沐何澹劉德秀胡紘沈繼祖等爲鷹犬搏擊善類無遺彭龜年劉光祖章穎棄適徐誼沈有開吳獵黃由黃度鄧馹陳傅良樓鑰鄭湜李祥楊簡呂祖儉曾三聘游仲鴻項安世孫元德袁燮陳武汪逵范仲黼黃灝詹體仁等貶逐不可勝紀籍記黨人姓名目曰僞學以朱熹爲首在籍者數十人蔡元定坐熹累道州編管大學生楊宏中等六人亦坐上書救黨人編管留正以嘗引用黨人亦黜竄俞端禮京鏜

謝深甫相繼爲相。〔字解〕（冀戴）嘉王を佐け帝とすること（太皇太后）高宗の后（關導）あづかり善にみちびくこと（宣喻）旨をのべさとすこと（追躡）跡を追ふこと（傾心）慕ふこと（登極）即位なり（御筆指揮）内批と云ひ宮中にて處分を付け政事堂にて評議せぬなり（不次）順序に拘はらぬを云ふ（大老）蘇時に年七十（内拱）蘇を止めるの御筆指揮なり（其名）罪名（宗姓）皇室の同姓を云ふ（憲天）下たばたらきなり（搏擊）鷹が搏ち犬が擊つに比へるなり（僞學）にせ學問（異）卷き添（六人）楊宏中と周端朝と張衡と林仲麟と蔣傅と徐範となり〔講義〕寧宗皇帝の名は擴と云ひ初め嘉王に封せらるるさて孝宗が死去し光宗は病氣なれば知樞密院事なる趙汝愚は内々嘉王を佐け立つるの評議を立て憲聖慈烈吳太皇太后は國家の事を心配せらるゝを知り此評議を申し上げんとせしに其申し上げる人物に困難せしに知閤門事なる趙侂胄なる者ありて琦の曾孫にして太后の妹の子なりそこで侂胄を以て申し上げたれば太后は簾を垂れ嘉王を召し入れて位に即かせ光宗に代りて孝宗の忌服を受けさせたれば中外の危ふみ疑ひし者ハそこで定まりたり光宗は壽康宮に居り後六年にて死去し壽は五十四なりさて帝が嘉王たるとき黄裳は翊善官となり書物を講議論説してあづかり道引きたり光宗は或る時勅命を下し嘉王の學問の進みたるは皆其方の手柄なりと云へば裳は若し德行に進み學業を修め古の哲王の跡を追はんとなれば夫れハ天下第一等の賢人を尋ね其者に佐けさせて可なることゝ云へば光宗は夫れは難なるやと問へば裳は朱熹なりと答へりさて彭龜年も續て嘉王宮の屬官となり講義の時いつも熹が說を述べたれば帝は心に慕ふこと已に久しかりしさて熹は光宗の時に漳州の守となり後に潭州の守となり又湖南の安撫となり帝の即位に至り初めに召されて待制兼侍讀に拜せられさて熹はまだ都に至らぬ前に已に近習の者政事を取り政事堂の評議をも待たず御筆を以て事を指圖せらるゝ下地あるを聞き深く心配とせり留正は止め汝愚は相となれり韓侂胄は自分にて天子を立つるの策を定めたる手柄を頼みにし順序にかゝはらず出世を望みたるも汝愚は得心して俄かは拜命させざるゆへ夫れより怨みたり全体汝愚か政事をなすには正に勉めて善類を引き進め饒倖にて役付きする者を押へたれむ小人共は益す喜はず相共に押し除けんとせりさて朱熹が已に至りたるとき上密して侂胄にさからひたれば朝廷に居ることやつと四十六日にて止めたり時に論者ハ思ふに熹が又奉祠官の命を受けたれば遠近の者ハ互に悲しみ悔みを云ひ合ひ天下の大老が去りたれば誰れが去るを望まざらんやと云へり若し正人が悉く去れば何として國家を治めんと云へりさて又汝愚は熹を止めるの内批を袖にし返上して諫め且つ拜したるも帝ハ聞き入れざりし時に侂胄は汝愚をも一處に追ひ拂はんとせしに何分にも罪を付けるに困りしが或る人は數へ彼れ皇室と同姓なれば國家を危ふくするを謀ると云ひ作れば一と網にて打ち取れんと云へば侂胄は尤もなりとせりさて汝愚は相位にあること數月にて止め續ぎに落し流され蕉鹿を飲みて死したり侂胄は李沐や何澹や劉德秀や胡紘や沉繼祖などを以て下たし働らきとなし善類を打ち拂はせ一人も殘すことなく彭龜年や劉光祖や章穎や葉適や徐誼や沉有開や吳獵や黄由や黄度や鄧馹や陳傅良や樓鑰や鄭湜や李祥や楊簡や呂祖儉や曾三聘や游仲鴻や項安世や孫元德や袁燮や陳武や汪逵や范仲黼や黄灝や詹体仁などは落し退はるゝなと一々誓するにたへぬ程なりさて又黨人の姓名を帳面に付け名づけて僞學と云ひ朱熹を以て第一とし帳面にある者は數十人なり蔡元定は朱熹の卷き添へにて道州に流し入籍させ又大學の書生なる楊宏中などの六人も上書して黨人を救ふの罪

により同く流して入籍させ又留正は以前に黨人を引き用ひたるを以て亦退ぞけ流され愈端礼と京鏜と謝深甫は相續ぎて相となれり

禁雖嚴。會葬者亦數千人。呂祖泰上書。論雪僞學之誅。侂胄及其黨蘇師旦。周筠。罷逐陳自强之徒。召用周必大。不然。事將不測。書出。中外大駭。杖一百。不刺面。配欽州。必大亦坐謫。降熹沒踰年。黨禁稍解。諸人咸復官自便。然消沮變化之餘。風俗已大壞矣。○謝深甫罷。陳自强爲相。侂胄以太師平原郡王平章軍國事。權傾人主。威制上下。服御擬於乘輿。土木侈於禁苑。諛者至稱爲恩王聖相。或作詩九章。每章用一錫字。侂胄亦不辭。稔積罪惡。至於生事開邊而極。先是有蒙古部。興於北方。在金世宗時。已强盛。稱帝。至璟立。蒙古兵來輒長驅。金始多事。侂胄聞金有此釁。謂中原可圖。有吳曦者。前蜀帥吳挺之子。璘之孫也。吳氏世職西陲。威行西蜀。留其子孫於京。蓋累朝遠慮。曦有異志久。欲歸蜀而不許。侂胄遣歸數年。蓋欲使西蜀出兵。○開禧二年丙寅。以伐金詔。告四方。諸路進師。曦首以關外四州獻金。求封爲蜀主。尋即稱帝。賴李好義。楊巨源。與安丙密謀。曦僭號踰月而誅。○是歲。元太祖即位於斡難河之源。太祖姓奇渥温氏。諱鐵木眞。蒙古部人也。其先世爲蒙古部

長。至太祖之父。曰也速該。始併吞諸部落。愈強大。後追謚曰列祖神元皇帝。初神元征塔塔兒部。獲其部長鐵木眞。宣懿后月倫適生太祖。手握凝血。如赤石。神元異之。因以所獲鐵木眞名之。志武功也。元年。大會諸王群臣。建九游白旗。即位。群臣共上尊號。曰成吉思皇帝。時金章宗泰和六年也。○丁卯。開禧三年。時北伐諸軍。所向無不潰敗。而退。金人大發兵。連陷蜀。漢。荊。襄。兩淮。諸郡。東南大震。亟遣使通謝於金。而侂胄弄兵之意猶未已。中外患之。遂有誅兇之議。皇后楊氏。知書史。通古今。當時侍郎史彌遠建密策。而旨從中出者。皆后實爲之。一日侂胄入朝。彌遠使殿帥夏震。以兵邀之。塗。擁出玉津園。椎殺之。〔字解〕（黨禁）徒黨の禁令（不刺面）當時の罪人

の顔に入れ墨することなるが祖泰は特に夫れを許したるなり（消沮）きゝはばひなり（乘輿）天子を云ふ（錫字）九色の特許物を賜はるになぞらへしなり（稔）音じん澤山に十分にの意（開邊）外國との爭を起すなり（西陲）西の端し（四州）階成和風なり（凝血）血のかたまり（志）印しとすること（九游）九い九州にかたどり游は旗の先きの垂るゝ處を云ふ（弄兵）軍をもてあそびものにするなり（兇）侂胄を指す（密策）秘密の計略（中）宮中を云ふ（擁）茲にては無理に引き立てることなり（椎殺）槌にて打ち殺し血の汚れ少なくして苦しみは（講義）泰は上書して偽學の名を清ひるを論じ侂胄及び其黨なる蘇師旦と周筠を殺し陳自強の徒を止め追ひ周必大を大ひなり召し用ゆるを乞ひ然らざれば測られぬ大事を引き起さんと云へりさて此書は出でたれば中外の人々は大ひに驚きしが祖泰は杖一百に處し面に入れ墨せすして欽州に流され必大も亦其罪に坐し落し流されたりさて黨が死去し年を越へて黨禁もやゝ解け諸人は中には官に復し自ら復にさせたり然れども一旦消へはゝみ變化したる後なれば風俗は已に大ひに破れり謝深甫は止め陳自強は相となり侂胄ハ太師にて平原郡王に封ぜられ平章軍國事となり權勢は天子をも押し除ける程にて威光は上下を押へ付け衣服其他ハ

天子と同樣にし邸宅の普請ハ禁裏よりも奢りて極めり或る諛ひ者は恩王聖相と稱し又は九章の詩を作りて一章毎に一の錫字を用ひ九錫を賜ひしになぞらへるに至れり然るに侂胄も亦是れ等の事を辞退せず大罪惡事を十分に積み外國と事を起し國端しの軍を初めるに至りて極度に達せり是れより以前に蒙古部と云ふありて北方より起り金の世宗の時にありて已に強く盛んにして帝と稱し金主なる璟が立つに至り蒙古の兵が來り直ぐに長途を進軍し是れより金は始めて多事となれりさて侂胄は金には此隙ある時中原は取り戻さるゝと云へり茲に吳曦なる者ありて前の蜀の大將なる吳挺の子にして璘の孫なり此吳氏は代々西の端しを支配せしゆへ威光も西蜀に行はるゝゆへいつも其子孫を京都に留めて人質とせり是れは歴朝の遠き考へのある所なり然るに曦は異志あることを久しく蜀に歸らんとせしも許さゝりしに侂胄はやり歸らせたることを數年なり是れは蜀より兵を出させんとせしなりとせしなり開禧二年丙寅に金を征伐する詔を四方の諸路に布告し軍を進めたり然るに曦は初めに關外四州を以て金に獻じ蜀主に封せらるゝを求め何程もなく帝と稱せり只李好義と楊巨源と及び安丙の秘密なる謀畧により曦は僭号せしより一月を越へて殺されたり此の年に元の太祖ハ位に斡離河の河上にて即きたり太祖ハ姓は奇渥溫氏にて諱は鉄木眞と云ひ蒙古部の人なり其先代は蒙古部の長となり太祖の父なる也速該と云ふに至り始めて諸部落を併呑し彌よ強く大ひになれり後に追ひ送り名して烈祖神元皇帝と云へり始め神元が塔々兒部を征伐し其部長なる鉄木眞を打ち取りたるが其時宣懿后なる月倫が丁度太祖を生みしが太祖は手に血のかたまりを握り居り恰も赤き石の樣なり神元は奇異なることゝ思ひ因て打ち取りたる鉄木眞の名を取りて名付けり是れは武功の紀念とする爲めなり扨て太祖は元年に大ひに諸王群臣を會し九游の白き旗を立てゝ位に即きたれば群臣は共に尊號を奉り成吉思皇帝と云へり時に金の章宗の泰和六年なり扨て丁卯なる開禧三年に此時北伐せし諸軍は向ふ處として崩れ破られて退かぬと云ふことなく金人は大ひに兵を起し續きに蜀漢荊襄兩淮の諸郡を攻め落したれば東南は大ひに震ひ恐れ度々使をやりて金に謝罪せり然るに侂胄が軍をもてあそぶ心はまた止まぬ中外の人々は此事を心配とし夫れより兇を殺すの評議があり皇后なる楊氏は歴史を知り古今の事に通じたり此時に侍郎なる史彌遠は秘密の策畧を立てしが其内意ハ宮中より出で是れは皆楊后が實に命じたるなり或る日侂胄は入朝せしに彌遠は殿帥なる夏震に兵を連れて途中にて迎へさせ無理に引き立てゝ玉津園中に連れ行き茲にて侂胄を打ち殺せり扨て本段中開禧二年には丙寅の字を加へり是れは元祖が即位に掛る年なるゆへなり又開禧三年には丁卯の字を上に付けたり丁卯は天下公通の年を記するものにして開禧は宋の正朔なり此時金あり元あり宋は已に南に偏し宋を以て帝王の實力ある者とせず公通する丁卯を上に置き宋の正朔が下に置きしが是れ何等の失体ぞや宋は中國の君なり金元は夷狄の君長なり後に元は兵力を以て帝王の相續者となるも其以前に於て宋を貶するは臣子の忍ぶ所にあらず然るに丁卯の字を置き其正朔を汚せり古へ孔子が春秋を修むる時周の朝廷は衰へ果てゝ小大名の如くになれり且つ春秋は魯國の歴史にして周の本記にあらず然れども孔子は春王の正月とて周の正朔を用ひたり是れ万世の史法とす扨ても晉先之は春秋を讀まざることか

○先是。元太祖征西夏。拔力吉里塞而還。至

是秋。再征之。○戊辰。嘉定元年。陳自強竄死。蘇師旦處斬。周筠決配。侂胄函首謝金。和議復成。錢象祖爲相。史彌遠累遷。與象祖並相。象祖罷。彌遠獨相。○金章宗璟在位二十年。而殂。無子。立世宗之別子允濟。於璟爲叔。○己巳。嘉定二年。春。元太祖入河西。屢破西夏兵。夏主李安全納子請和。○庚午。嘉定三年。金謀討元。築烏沙堡。太祖遣將襲殺其衆。遂略地而東。初太祖貢歲幣于金。金主使衛王允濟受貢于靜州。太祖見允濟不爲禮。允濟怒。歸欲請兵攻之。會金主璟殂。允濟嗣位。有詔至國。傳言。當拜受。太祖問金使曰。新君爲誰。曰。衛王也。太祖遽南唾曰。我謂中原皇帝。是天上人做。此等亦爲之耶。何以拜爲。即策馬去。金使還言。允濟益怒。欲俟太祖再入貢而害之。太祖知之。遂與金絶。○辛未。嘉定四年。春。元太祖南侵。敗金兵。襲群牧監。驅其馬而還。自是連歲攻取金州郡。○癸酉。嘉定六年。金主衛紹王允濟。在位五年。無歲不受兵。幾不能支。且失將士心。爲大將所弑。追廢爲東海郡侯。立豐王珣。璟之兄也。是爲宣宗。元太祖分兵三道。並進。取燕南山東河北五十餘郡。○甲戌。嘉定七年。元太祖駐蹕燕北。金主以岐國公主及童男女五百。馬三千。兼金帛以獻。乞和。雖見許。度不能自立於燕。五月。遷于汴。留丞相完顏福興。輔太子守忠。居燕。太祖遣兵圍之。守忠走汴。後一年而燕京陷。元兵自河東渡河而南。距汴二十里而去。金人自是地勢益蹙。山東叛之。東阻河。西阻潼關。而已。欲窺宋。川蜀淮漢。以自廣。遂敗盟來侵。宋以黃榜募忠義人。進討京東路。忠義李全以歲戊寅。率衆來歸。全本連水縣弓手。在開禧乙丑間。已嘗應募焚其縣矣。〔字解〕（決配）杖決して流すこと（別子）第七子（不爲禮）輕しめたるなり（唾）つば吐くこと（群牧監）馬を飼ふ處（駐蹕）乘物を止めること（國之）和して後ち都を移すを名とす（阻）險阻により守るの意（黃榜）黃紙を用ゆ敕令なり〔講義〕是れより以前に元の太祖は西夏を征して力吉里寨を拔て歸り又此秋に至り再び征伐せり戊辰嘉定元年に陳自强は流されて死し蘇師旦は斬罪に行ひ周筠は決杖配流せられ扨て侂胄の首を箱に入れ送りて金に謝罪したれば和議は又なれり錢象祖は相となり史彌遠は段々進んで象祖と並びに相となり象祖は止め彌遠は獨り相たり金の章宗なる璟は在位二十年にて死去し子なきゆへ世宗の別子なる允濟を立てたり殆の叔父に當れり已巳嘉定二年の春元の太祖は河西に入り度々西夏の兵を破りたれば夏主なる李安全は娘を入れて和を乞へり庚午嘉定三年に金ハ元を伐つて企て烏沙に取手を築きたれば太祖は大將をやり不意打ちして其兵卒を殺し夫れより土地を取りて東に進めり初め太祖は金に歲幣を献したれば金主は衛王なる允濟に靜州にて献上を受け取らせたるに太祖は允濟の庸劣なるを見て敬禮せざるゆへ允濟ハ怒り歸りて兵を乞ひ太祖を攻んとせしに金主なる璟が死去するに會ひ允濟は位を續ぎたり此時詔ありて元國に來り正に拜受せよと傳へ呼べり太祖ハ金使に問ひ新君は誰なるやと云へば使者は衛王なりと云へば太祖は俄かに南に向ひて唾を吐き我れは中原の皇帝は是れ天上の人かなるものと思へり然るに是れ等の人も亦天子となるや何とて拜することをなさんやと云ひ直ぐに馬に鞭打て去れり金使は歸りて云ひたれば允濟は益す立腹し太祖の再び入貢するを待ちて害せんと思ひしに太祖は此事を知りとうとう金と絶ちたり辛未嘉定四年の春元の太祖は南侵して金兵を破り群牧監を襲ひて其馬を追ひ立てゝ歸り是れより年々金の州郡を攻め取りたり癸酉嘉定六年に金主なる允濟は在位五年にて年として元の兵を受けざることなく殆んと持ちこたへること出來ず其上大將士の人望を失ひ大將なる胡沙虎の爲めに殺され追廢して東海郡侯となし豐王なる珣を立てたり是れは璟の兄なり是れを宣宗と云へり元の太祖は兵を三道に分けて並び進み燕南山東河北の五十餘郡を取れり甲戌嘉定七年に元の太祖は燕北に留まりたれば金主は岐國公主及び男女の童五

百と馬三千と金帛を献ねて獻し和を乞ひ許されたるも到底燕に自立すること出來きさるを計り五月に汴に移り丞相なる完顏福興を留めて太子なる守忠を佐けさせ燕に居らせたり元の太祖は兵をやりて取り巻きたれば守忠は汴に走り後一年にして燕京は落ち元兵は河東より河を渡りて南し汴を去る二十里の處より歸れり金人は是より地勢は益すしゃまり山東も亦叛けり因て只東は河を匝てゝ守り西は潼關を守る計りなり因ては宋の川蜀淮漢の地を取りて自分の地を廣めんと思ひとうとう盟を破り來り侵せり宋は數令を以て忠義軍の人を募り遣んで京東路を伐ちたり忠義軍の李全は戊寅の年を以て衆を引き連れて來歸せり金ハ元と濟水縣の弓方にて開禧乙丑年間にありて已に宋の募りに應じて濟水縣を燒き打ちにせり。○丁丑。嘉定十年。元以木華黎爲太師。封國王。率諸軍南征。克大名府。定益都淄萊等州。○戊寅。嘉定十一年。元木華黎自西京入河東。克太原平陽。及忻代澤潞等州。是歲。伐西夏。圍其王城。夏主李遵頊走西涼。○高麗王暾降于元。請歲貢方物。○己卯。嘉定十二年。西域殺元使者。太祖親征。○庚辰。嘉定十三年。元木華黎徇地至眞定。又徇河北諸郡。○壬午。嘉定十五年。元太子拖雷克西域諸城。遂與太祖會。秋。金主復遣使請和。太祖時在回鶻國。謂之曰。我向令汝主授我河朔地。令汝主爲河南王。彼此罷兵。汝主不從。今木華黎已盡取之。乃始來請耶。遂不許。○癸未。嘉定十六年春。三月。元太師魯國王木華黎卒。○五月。元初置達魯花赤。監治郡縣。○金章宗珣在位十一年而殂。子守緒立。是爲哀宗。○甲申。嘉定十七年。元太祖至東印度。駐鐵門關。有一獸。鹿形馬尾。綠色而一角。能作人言。謂侍衛者曰。汝主宜早還。太祖以問耶律楚材。曰。此獸名角端。能言四方語。好生而惡殺。此天降符以告陛下。願承天心。宥此數國人命。太祖即日班師。○自歲丁丑以後。宋與金戰。雖迭有勝敗。然三邊無歲不被其擾。上在位三十年。改元者四。謙恭仁儉。終始如一。然慶元。嘉泰。開禧。凡十三年。則侂胄之政。嘉定十七年。則彌遠之政。壽五十七而崩。彌遠定策立嗣。是爲理宗皇帝。

字（方物）地方の產物なり（徇）諭し降すなり（河朔）河北（達魯花赤）胡語の總督なり（符）殺を惡むの符なり（三邊）東西北（謙恭）〔講義〕丁丑嘉定十年に元は木華黎を以て太師となし魯國王に封し諸軍を連れて南征させ大名府に勝ち益都淄萊などの州を平定せり戊寅嘉定十一年に元の木華黎は西京より河東に入り太原平陽及び忻代澤潞などの州に勝ち此年西夏を伐ち其王城を圍みたれば夏主なる李遵頊は西涼に走れり高麗王なる暾は元に降參し歲貢方物を獻するを乞へり己卯嘉定十二年に西域は元の使者を殺したれば太祖は親征せり庚辰嘉定十三年に元の木華黎は土地を徇へて眞定に至り又河北の諸郡を徇へ降せり壬午嘉定十五年に元の太子なる拖雷は西域の諸城に勝ち夫れより太祖と合したり秋金主は使を遣はして和を乞ひしに太祖は時に回鶻國にありしが使者に向ひ我れは先きに其方の主人に我れに河朔の地を授けよ去れば其方の主人を河南の王となし彼れ是れ共に兵を止めんと云ひしに其方の主人は我れの言葉に從はず今は木華黎が已に悉く河朔の地を取りたればそこで始めて來り乞へるやと云ひとうとう許さゝりし癸未嘉定十六年の春三月に元の太師なる魯國王の木華黎は死去せり其五月に元は初て潼都苗赤を置て郡縣を治め監督させたり金の章宗なる珣は在位十一年にて死去し子なる守緒が立ち是れを哀宗と云へり甲申嘉定十七年に元の太祖は東印度に至り鐵門關に止まりしに一疋の獸あり鹿の形ちにて馬の尾あり毛は綠色にて一本の角あり能く人の言葉を云ひ此獸が侍衛の者に向ひ其方の主人ハ早く歸るがよしと云へば太祖ハ此獸の事を耶律楚材に問ひたれば堂材は此獸は角端と云ふ名にて能く四方の言葉を云ひ生を好みて殺を惡めり是れは天より殺を惡むの符合を降して陛下に告げらるゝならん何卒天の心を受けて此數ケ國の人民の命を赦されよと云へば太祖は其日直ぐに軍を返せりと此事も信用するに足と出來きず扨て丁丑の年より以後は宋と金と戰ひ互に勝ち負けありしも宋の三邊は年として其騷ぎを受けざるなかりし帝は在位三十年にて改元するものは四つなり帝はへり下り丁寧にして惡み深く儉約なることは始めより終りまで一日の樣なり然れども慶元嘉泰開禧年間續て十三年は侂胄が政事を取り嘉定の十七年間は彌遠が政事を取れり壽は五十七にて死去し彌遠は策を定めて嗣君を立て是れを理宗皇帝と云へり

〔理宗皇帝〕初名與莒。宗室追封榮王。謚文恭。希瓘之子。太宗十世孫也。寧宗子多而不育。鞠宗室子名詢。立爲太子。薨。初皇從弟沂靖惠王柄無子。嘗以宗室子賜名貴和。爲之後。及失太子詢。遂立貴和爲皇子。賜名竑。封濟國公。竑慧而輕。嘗疾史彌遠專權。謂異日不可容。彌遠聞而惡之。故陰爲之計。與莒幼不好弄。群兒聚嬉。輒獨登高坐不動。長上見者。指以語群兒。曰。汝曹不效此人。恰一大王相似。群兒每羅拜其下。遂有趙大王之號。彌遠物色得之。嘗取應得舉矣特旨。補官。竑既爲寧宗子。遂以與莒爲沂王後。賜名貴誠。除邵州防禦使。寧宗大漸。乃白中宮。以貴誠爲皇子。改名昀。宣遺詔。即位。進竑濟陽郡王。出判寧國府。恭聖仁烈楊后。同聽政。事定。然後撤簾。○乙酉寶慶元年。時外議籍籍。有謀作亂立竑者。事不克。皆死。李全在楚州。與制置許國相失。殺國。亦以問罪爲辭。舉兵南向。圍楊州。幾陷。○丙戌。寶慶二年。元太祖伐西夏。取甘肅等州。遂踰沙陀。至黃河九渡。○丁亥。寶慶三年。元滅夏。以夏主李睍歸。○七月。元太祖殂于六盤山。臨殂。謂左右曰。金精兵在潼關。南據連山。北限太河。難以遽破。莫若假道于宋。宋金世讐。必能許我。則下兵唐鄧。直擣汴京。汴急。必徵兵潼關。然以數萬之衆。千里趣援。人馬疲弊。雖至弗能戰。破之必矣。言訖而殂。在位二十二年。壽六十六。葬起輦谷。至元二年冬。追謚曰聖武皇帝。廟號太祖。太祖深沉有大略。用兵如神。故能滅國四十。其勛績甚衆。史之紀載不備。惜哉。○太祖既祖。時皇子窩闊台。留霍博之地。國事無所屬。皇子拖雷監國。以俟皇太子至而立之。越二年。皇太子始立。是爲太宗。○己丑。紹定二年。元太宗名窩闊台。太祖第三子。母曰光獻皇后弘吉剌氏。是歲夏奔喪。至忽魯班雪不只之地。皇弟拖雷來見。大會諸王百官。以太祖遺詔即位。始立朝儀。皇族尊屬。皆就班以拜。

〔字解〕（不育）そだゝぬこと（宗室子）皇族帝室の子（慧而輕）小智ありて輕はずみなること（取應）得舉（推舉せられて科舉を得るなり（中宮）寧宗の后楊氏（藉々）甚だ多きこと（相失）互に怨を生ずること（九族）黃河の上流は九つに分れ流し（賦織）手柄なり（朝儀）朝廷の儀式なり（繚繞）身うへの親屬叔父や兄をなど

〔講義〕理宗皇帝は初めの名は與莒と云ひ皇族にて榮王に追封せられ文恭と送り名せられたる希瓘の子にして太宗の十世の孫なり寧宗は子多きも育たず因て宗室の子なる名は詢と云ふを養ひ立て、太子となしたるが死去せり初め皇從弟なる沂の靖惠王の柄ハ子なきゆへ以前に宗室の子を養ひ名を貴和と賜ひ柄の後とせしに太子なる詢が死去に及びとうとう貴和を立て、皇子となし名を竑と賜ひ濟國公に封せり然るに竑は小智ありて輕率なれは或る時史彌遠が權を專らにするを惡み異日に位に即けば殺すことはならずと云ひしに彌遠は聞て心に恐み故に内々其計畧をなしたり與莒は幼少より戲れを好まず群兒が集まり戲むれるときはいつも獨り高き處に上り坐して動かざりし年とりし男上への者は此樣子を見て指差して群兒に告げ其方は彼の人になるはなしことか彼の人は丁度一大王に相似たるそと云へり又群兒もいつも其下に並ひ拜したるよりとうとう趙大王と云はれたり彌遠は人相に上りて尋ね出だせり以前人に進められて科畧を得たれば特旨を以て官に拜せられたり扨て此ハ已に寧宗の養子となりたればとうとう與莒を以て沂王なる柄の後となし名を貴誠と賜ひ邵州の防禦使に拜せられたり然るに寧宗の病氣重りたれとき彌遠

はそこで中宮に申し奏聞を以て皇子となし名を昀と改め寧宗死去に及び彌遠は遺詔と偽へり位に即かせ好は濟陽郡王に進め出で〻寧國府に判たり扨て恭聖仁烈場后ハ同しく政事を聞きしが諸事已に定まりたる後に政事を聞くを止めたり乙酉寶慶元年に此時彌遠が遺詔を偽りたるに付き外議は甚だ多く潘士恭は亂を作し趙を立てんと謀りしが事あらずして皆死せり李全は楚州にありて制置なる許國と不中ゆへ國を殺して又彌遠の罪を問ふを以て名目となし兵を起して南に向ひ揚州を圍み殆んと落さんとせり丙戌寶慶二年に元の太祖は西夏を伐て甘肅などの州を取りとうとう沙陀を越へ黄河の上流なる九渡にまで至れり丁亥寶慶三年に元は夏を亡ぼし夏主なる李睍を連れ歸れり其七月に元の太祖は六盤山にて死去せり扨て死去に臨み左右に向ひ金の擲り抜きの兵は潼關にありて南は連綿たる山々に據籠り北は大河を限りとしたれば俄かには破り難し夫れゆへ道を宋に借るに越すことなし宋と金とハ代々の仇なれば屹度我れに道を貸すを許さん其時は兵を唐鄧に下して直ぐに汴京を突き汴が急なれば屹度兵を潼關より召さん然れども數万の大衆を以て千里も赴き救ふことなれば人も馬も疲れ果て來ることも戰ふことは出來き寸此兵を打破るは必定なりと云ひ言葉畢りて死去せり在位ハ二十二年にて壽は六十六なり絶筆谷に彈むる至元二年の冬に追ひ送り名して聖武皇帝と云ひ廟を太祖と號せり太祖は深く落付きて大ひなる計畧ありて兵を使ふことは神の樣なり故に能く四十ヶ國を亡ぼせり其手柄は甚だ多きも歴史に實き載せること十分ならず惜しきことなりし太祖は已に死去せし時皇子なる窩闊台は霍博の地に留まり國事を支配する人なきゆへ皇子なる拖雷が國政を監督し皇太子の歸るを待ちたり二年を越へて皇太子は始めて立ち是れを太宗と云へり已丑紹定二年元の太宗の名ハ窩闊台と云ひ太祖の第三子にて母は光獻皇后弘吉剌氏と云へり此年の夏に窩闊台は襲の事により紹益班雪不只の地に至れり皇弟なる拖雷も來り謁見し大ひに諸王百官を會合し太祖の遺詔を以て位に即き始めて朝廷の儀式を定め皇族尊親も皆列に加はりて拜禮せり

○元始置倉廩。立驛傳命。○庚寅。紹定三年。元遣兵取京兆。七月。太宗自將伐金。皇弟拖雷。姪蒙哥。帥師從。○辛卯。紹定四年。春趙范。趙葵。大敗李全于楊州城下。時屬上元張燈。全置酒高會于平山堂。城中諜知。夜遣兵出其不意刼之。全走陷于濠。爲亂槍所斃。其餘奔走北去。○二月。元太宗克鳳翔。攻洛陽。河中諸城下之。五月。元遣使來假道。宋殺之。○八月。元始立中書省。改從官名。以耶律楚材爲中書令。粘合重山爲左丞相。鎮海爲右丞相。○十二月。元太宗取河中。太弟拖雷發騎六萬分兵。自西和州入興元。由金房道襄陽。至唐鄧。與金人鏖戰於陽翼。潼藍之戍亦潰。西兵畢至。合圍於汴。○壬辰。紹定五年。元太宗由白坡渡河。次鄭州。攻鈞州。克之。遂取商虢嵩汝等十四州。使速不臺圍金汴京。金主遣其弟訛可入質。太宗還。留速不臺守河南。八月。金兵救汴。諸軍與戰敗之。九月。太弟拖雷卒于師。金主守緒。突圍出。走歸德府。○元再使王檝議夾攻伐金。京湖制置使史嵩之以聞。朝臣皆以爲可。遂復讎之舉。獨趙范不喜曰。宣和海上之盟。厥初甚堅。迄以取禍。不可不鑑。帝不從。詔嵩之報使許之。嵩之乃遣鄒伸之報謝。且議夾攻汴京。元人許俟成功。以河南地歸宋。○癸巳。紹定六年。金主奔歸德。粮絶。乃趨蔡州。其將崔立以汴京降元。四月。元速不臺進至青城。崔立以金太后王氏。皇后徒單氏。荊王從恪等。至軍。速不臺遣送北還。○元以孔子五十世孫元楷。襲封衍聖公。整修孔子廟。及渾天儀。○宋丞相史彌遠卒。鄭清之爲相。史嵩之爲京湖制帥。在襄陽。南北有夾攻蔡州之約。嵩之遣孟珙。以兵四萬人先至。圍其東南。元兵圍其西北。（字解）（圍）かゝる（上元）

正月十五日(高會)鍾會なり(諜知)何ひ知るなり(鏖戰)手強く戰ひ多く敵を殺すを云ふ(澶藍)二關の名(宣和海上之盟)徽宗の宣和元年に金と盟を交み攻めるを約し其後ち平州の陣參を受け金と戰ひを開けり(戩)戒の手本(渾天儀)天象をうつしたるもの〔講義〕元は始めて倉を立て宿場を立てゝ命令を傳ふる樣にせり庚寅紹定三年に元は兵をやりて京兆を取れり其七月に太宗は自分が大將となりて金を伐ち皇弟なる拖雷と姪なる蒙哥は軍を連れて從へり辛卯紹定四年の春趙范や趙葵は大ひに李全を楊州の城下にて破れり此時は丁度正月十五夜にて何れも燈火を點して遊び戲ることなれば全は酒宴を設け平山堂にて盛んなる會をなしたるが城中は夫れを伺ひ知り夜中に兵をやり不意に出でゝ劫し打ちたれば全は走げて堀に落ち多くの槍の爲めに突き殺され其餘は逃げ走りて北に去れり其二月に元の太宗は風翔に勝ち洛陽河中の諸城を攻めて下し其五月に元は使を遣ハして道を借りしが宋は其使者なる棚不罕を殺せり其八月に元は始めて中書省を立て從官の名を改め耶律楚材を以て中書令となし粘合重山を左丞相となし鎮海を右丞相とせり其十二月に元の太宗は河中を取り太弟なる拖雷は騎兵六万を起し兵を分ちて西和州より興元に入り金房より鄧陽に道を取りて唐鄧に至り金人と陽翟にて鏖戰したれば澶藍の二關の守りも亦崩れたり此時金の西道よりせし兵は悉く來り合して汴を圍めり壬辰紹定五年に元の太宗は白坡より黃河を渡り鄭州に宿陣し鈞州を攻めて打勝ち夫れより商虢蕃汝などの四州を取り速不臺を留めて河南を守らせたり其八月は金兵が汴を救ひたれば諸軍は共に戰ふて打破りたり其九月に太弟なる拖雷は軍中にて死去せり金主なる守緒は圍を突き破りて出て歸德府に走れり元ハ再び王檝に來りて挾み攻みて金を伐つことを評議させたり扨て京湖の制置使なる史嵩之は此事を上聞したれば朝臣は皆復讎を遂げらるゝことゝ云ひしが獨り趙范は喜ばず宣和年間に海上より使を往復し盟を挾み打つことを金と約束せしが其初めは約束も固かりしがつまりは夫れより禍を取れり此事を以て此度の戒めの手本とせねばならぬことなりと云ひしが帝は聞き入れず嵩之に詔りし使をやりて許させたり嵩之はそこで鄭仲之をやりて報使とし其上挾みて汴京を攻めんことを評議させたり元人は手柄の成就するを待て河南の地を宋に返すを許せり癸巳紹定六年に金主は歸德に奔りしが兵糧が絶へたればそこで蔡州に赴けり然るに金の大將なる崔立は汴京を以て元に降參せり其四月に元の速不臺は進みて睢城に至れり崔立は金の太后なる王氏と皇后なる徒單氏と荊王なる從恪などを引き立て來りたれば速不臺は北に返せり元は孔子の五十世の孫なる元楷を以て衍聖公に續ぎ封し孔子の廟及び渾天儀を調へ修復せり宋の丞相なる史彌遠は死去し鄭清之が相となり史嵩之が京湖制師となり襄陽にありて宋と元とは蔡州を挾み攻めるの約あるゆへ嵩之は孟珙をやり兵四万人にて先づ至り蔡州の東南を取り卷きたれば元の兵は其西北を取り卷けり

○甲午。端平元年。正月。金主守緒傳位於宗室子承麟。宋孟珙入蔡州。元師從之。守緒自經死。函其首送于宋。獲承麟。殺之。金自完顏旻稱帝。至是九世。一百十七年而亡。○夏四月。獻金俘于太廟。會淮帥趙范。趙葵。乘金人之亡。爲恢復計。朝臣多以爲未可。獨鄭清之力主其說。帝乃命范移司黃州。刻日進兵。范參議官丘岳曰。方興之敵。新盟而退。氣盛鋒銳。寧肯捐所得以與人耶。我師若往。彼必突至。非惟進退失據。開釁致兵。必自此始。且千里長驅。以爭空城。得之當勤饋餉。後必悔之。范不聽。史嵩之亦言。荊襄方爾饑饉。未可興師。杜杲復陳出師之害。范葵故荊湖制帥趙方之子。習於兵。銳意攻取。募山東忠義。皆響應。伸之未回。而宋師出矣。伸之等幾被羈留於燕。詭辭得與檝俱來。檝曰。何爲而敗盟也。自是淮漢之間。無寧日矣。不數日。汴人以城附宋。宋師入汴。即趨洛。元兵戍洛者無幾。姑避去。宋師入洛。不數日。粮絕。聞元生兵且大至。潰而歸。咎嵩之主和不肯運粮。致誤事。○乙未。端平二年。春。元城和林。作萬安宮。遣諸王拔都。太子貴由。姪蒙哥。征西域。太子闊端侵蜀漢。太子曲出。及胡土虎。侵宋。唐吉征高麗。○丙申。端平三年。元印造交鈔行之。六月。耶律楚材請於燕京立編脩所。於平陽立經籍所。編集經史。召儒生梁陟。充長官。以王萬慶。趙著。副之。秋。闊端取宋關外數州。十月。入成都。取秦鞏等四十餘州。○時和議既不復

諸蜀遂破陷荊襄淮甸無歲不受攻哨○元以耶律楚材言始定天下賦稅上田每畝稅三升中田二升半下田二升水田一畝五升商稅三十分之一五戶出絲一斤以給諸王功臣湯沐之賜鹽每一兩四十斤永爲定額朝臣皆謂太輕耶律楚材曰將來必有以利進者則已爲重矣

○丁酉嘉熙元年詔經筵進講朱熹通鑑綱目○八月元試諸路儒士中選者除本貫議事官得四千三十人（字解）（經）くびをしめる（饋餉）兵粮なり（方爾）丁度此通りの意（鞨留）つなぎとめる（生兵）わら手（太子）皇子にて皇太子にあらず（交鈔）紙幣なり（攻哨）攻めかすめること（畝）今の十二坪七分計り（升）今の四合半計り（水田）米作の田地なり（湯沐）ゆあみの料として特別の賜（講義）甲午端平元年の正月に金主なる守緒い位を皇族の子なる承麟に傳へり宋の孟珙に蔡州に入り元の軍も從へり因て守緒は自分にてくびれ死したれば其はりものなり（額）數の動かさぬものなり首を箱に入れて宋に送り承麟をも捕へたれば切り殺せり金い完顏晏が帝と稱したるより茲に至り九世百十七年にして亡べり夏四月金の生け取りを太廟に献せり此時淮帥なる趙范と趙葵とは金人の亡ふる勢ひに乘り元を打て中原を取り戻す計をなすに曾へり朝臣い多はまた時ならぬゆへ可ならずと云ひしに獨り鄭清之は勉めて其説を主張したれば帝はそこで范に命じて役所を黄州に移させ日を定めて兵を進ませたり然るに范の參議官なる丘岳は今丁度起る敵が新規に盟ひて退くことゆへ氣力は盛んに鋒先きは鋭く何とて得心して得たる所を捨て他人に與ふることをなさんや我が軍が若し往けば彼れは屹度突き來らん去れば只進退のより塲所を失ふ計りならず是れより爭を開き軍を受けることは屹度是れが爲めとならん其上千里も長く馳せてから城を爭ふことなれば若し手に入れるも兵根の運送を勉むることゆへ後には屹度失策を悔ゆるおとなりと云へど范は聞き入れず史嵩之も又荊襄は丁度此通りの饑饉ゆへまた中々軍を起こと出來ずと云ひ杜杲も亦軍を出すの害を述べたり然るに范と葵とは元との荊湖の制帥なる趙方の子にして宿軍事に慣れたれば攻め取ることに熱心し山東なる忠義軍を募りたれば皆蓉の壁に應ずるか如くに集まりたりさて先きに元に往きたる仲之のまた歸らぬ中に宋の軍は出でたり因て仲之なをい殆んと燕京に拘留せらるゝ處偽はりの言葉を設け機と共に來ることが出來きたりさて機は何の爲めに盟を破るや是れより淮水漢水の間は安き日はなからんと云へりさて數日ならず汴人い城を明けて宋に渡したれば宋の軍は汴に入り直ぐに洛陽に赴きしに元の兵の洛を守る者い何程もなきゆへ暫らく捨てゝ避け去りしゆへ宋の軍は洛に入りしが數日ならずして兵根が尽き又元の生兵は正に大ひに至らんとすと聞き崩れて引き歸り潰之が和を主として承知して兵根を運送せざるより失策を取りたりと笞めり乙未端平二年の春元は和林に城を立て万安宮を作り諸王なる拔都と太子なる貴由と姪なる蒙哥をやりて四域を征し太子なる闊端は蜀漢を侵し太子なる曲出及び胡士虎い宋を侵し唐吉は高麗を征せり丙申端平三年に元は紙幣を印刷して發行せり其六月に耶律楚材は乞ふて燕京に於て編纂所を立て平陽に於て經籍所を立て經史歴史を編集し學者なる敬涉を召して長官とせり王万慶と趙著を以て副官とせり此秋闊端い宋の外蔽所を取り其十月に成都に入り樂蜀なをの四十餘州を取れり時に和議は已に又調はず蜀はとうとう破り落され荊襄淮甸は年々攻め掠めることを受けざるなし元は耶律楚材の言葉を用ひ始めて天下の取立もの租稅を定めたり夫れは上田い一畝毎に稅米三升とし中田は二升五合とし下田は二升とし水田は一畝毎に稅米五升とし又商業稅は三十分の一とし又五戶より絲一斤を出させ諸王や功臣に賜ふる湯沐料となし又塩は銀一兩毎に四十斤とし以上は永く定額となせり然るに朝臣は皆甚だ輕るしと云へば耶律楚材は後來屹度利益のことを云ひ立て進ひ者あらん去れば早や是れにても重きことなりと云へり丁酉嘉熙元年に學問所に詔し朱熹の著はせし通鑑綱目を進講させたり其八月に元い諸路の學者を試驗し及第者は其本籍地の議事官に拜命させたり此時四千三十人ありり○元兵略地至黄州宋孟珙敗之○戊戌嘉熙二年先是杜杲却元人安豐之兵復破察罕八十萬兵於廬州後解儀真之圍以功權刑部尚書復進敷文閣學士○呂文德總統兩淮出戰軍馬進淮西招撫使文德安豐人魁梧勇悍微時鬻薪城中趙帥葵道傍見還屬長尺有咫驚訝訪求得之留之麾下後以邊功至顯官○元塔思軍至北峽關宋將汪統制降先是曲出率張柔等攻郢州拔之至是宋孟珙復取襄陽○元領中書行省楊惟中建太極書院于燕京延趙復爲師時濂溪周子之學未至於河朔惟中用師于蜀湖京漢得名士數十人始知其道之粹乃收集伊洛諸書載送燕京及師還遂

建太極書院及周子祠以二程張楊游朱六子配食由是河朔始知道學○庚子嘉熙四年春元太子貴由克西域未下諸部○元敕州郡失盜不獲以官物償之國初多盜下令凡失盜去處令本路民戶代償民苦之多亡命至是罷徵又官民貸回鶻金銀償之者歲加倍謂之羊羔利往往破家至以妻子爲質終不能償耶律楚材請悉以官物代還凡七萬六千錠仍令凡假貸歲久惟子本相侔而止著爲令○辛丑淳祐元年宋詔追封周敦頤汝南伯張載郿伯程顥河南伯程頤伊陽伯朱熹徽國公並從祀孔子廟庭黜王安石從祀帝謁孔子遂臨大學○十一月元太宗出獵殂于釛鐵鐸胡蘭年五十六葬起輦谷後追謚曰英文皇帝廟號太宗太宗有寬弘之量仁恕之心量時度物舉無過事華夏殷富庶民樂業行旅不齎粮時稱治平元自太宗殂後皇后乃馬眞氏臨朝稱制凡五年不立君

〔字解〕（魁梧）身体大にして骨格となること（徼）いやしきこと（趙帥奚）帥の字は官名なり（遼藤）ぬきすてたるわらし（咫）八寸なり（訝）いぶかるとて不思議に思ふこと（粹）純粹とて交りけなき本當のものを云ふ（伊洛）程氏は伊水洛水の間に住せり故に二程のことゝす（二程）明道と伊川となり（張楊游朱）張載と楊時と游酢と朱熹となり（亡命）出奔なり（羊羔利）利息が年々に倍增しになり羊が小羊を生む樣なり（錠）金銀を延へ金にしたるも大小あり（假貸）かりるなり（倅）同樣を云ふ（寬弘）ゆつたりとして廣きこと（華夏）中國を云ふ（殷富）繁榮富有なるを云ふ

〔講義〕元の兵は地を取りて黃州に至りたれバ宋の孟珙ハ打破れり戊戌嘉熙二年是れより先き杜果は元人安豐の兵を退ぞけ又蔡罕又十万の兵を廣州にて破り後に儀眞の圍みを解きたり是れ等の手柄を以て權

刑部尚書となり又敷文閣の學士に進めり呂文德は兩淮出戰軍馬の總統となり淮西招撫使に進めり文德は安豐の人にて魁梧にして いさましく氣强しさて賄しき時に柴を城中に賣りに行きたり趙葵ハ道ばたに文德が脫捨たる草鞋の長さ一尺八寸なるを見て驚ぎいぶかりて尋ねさせ文德を見當てたれば旗下に留め置きしが後に國端しにて手柄を立て斯く高き役に至りしなり元の領中書行省なる楊惟中は太極書院を燕京に立て趙復を引て師となせり時に淵溪なる周子の學はまだ河朔に至らざりしに惟中ハ軍を蜀湖京漢に出し名士數十人を手に入れ始めて其道の純粹なることを知りそこで伊洛の諸書を收め集め車にのせて燕京に送り軍が歸るに及びとうとう太極書院及び周子の祠を立て二程や張楊游朱やの六子を合せ祭れり是れより河朔ハ始めて道學を知れり庚子嘉熙四年の春元の太子なる貴由ハ西域のまだ降らざる諸部に打勝ちたり元は州郡に勅令を下し盜賊を取り逃がして捕へざるときは其損害は官物を以て仕拂ふことゝせりさて國の初めには盜賊多きゆへ令を下し凡そ討賊の踪跡を失ひたるときは本路の民戶より代り仕拂ふことゝせしが人民は此事を苦しみ出奔する者多きゆへ茲に至りて其取立てを止めたり又官民が回鶻國より金銀を借り年々に利息が倍增しになり是れを羊羔利と云ひ此金を借る者はあれてれ家產を破り妻子を質となすに至りつまり拂ふまと出來きず因て耶律楚材は乞ふて悉く官物を以て代り拂へり其金高は凡そ七万六千錠にて大約五十三万兩餘とす因て勅令を下し貸借が年々久しきに及ぶも只元利同數になれば其上に利を加へるを止めよと云ひ永く制令となせり辛丑淳祐元年に宋は詔りして周敦頤を汝南伯に張載を郿伯に程顥を河南伯に程頤を伊陽伯に朱熹を徽國公に追ひ封じ並びに孔子の廟に付け祭り王安石が付祭らるゝを退けたり帝は孔子の廟に謁し夫れより大學に臨幸せり其十一月に元の太宗は出てゝ狩りし釛鐵鐸胡蘭にて死去し年は五十六なり起輦谷に葬むる役に追ひ送り名して英文皇帝と云ひ廟を太宗と号せり太宗はゆつたりと廣き胸ばかりにて惡み深く思ひやりの心ありて時をはかり物をはかりて事をなすゆへ一として失策せしことなく中國ハ繁盛富有にして人民は職業を樂しみとし旅人を食料を持たず地方にて求めたり因て世に治平と云へり元は太宗が死去せしより後は皇后なる乃馬眞氏は朝廷に出てゝ政事を聞き凡そ五年の間は君を立てざりしさて貴先之は如何なる筆法を取るや本綱は南宋の本紀になるに宋帝の陵處を記せず元主の葬處をせり且つ記事中元を以て主要とし宋の事を省畧せし處多し實に輕倒の甚しきものとす或る人云ふ本書は宋記に止め元記に及はず故になるべく元の事を詳かにして讀者を利するなりと潛夫云ふ其理もなきに非ず然れども主に略し客に加へ南宗の高宗以下は陵處を記せず元は太祖太宗とも起輦谷に葬ると特書せり是れは何の道理あるや實に元に私して史法を失するに外なからん或る人答ふる能はず

○甲辰淳祐四年先是鄭清之罷相喬行簡李宗勉等繼爲政無所決斷上思史嵩之之言自督府入爲相雖欲議和輒爲衆論所沮嵩之丁父彌忠憂聞訃數日乃行詔起復爲相言者目爲權姦力攻之遂

不復相范鍾游侶鄭清之謝方叔吳潛董槐程元鳳丁大全等相繼爲相每歲以防秋爲常事○元書中令耶律楚材卒后嘗以儲嗣事問楚材對曰此非外臣所敢知自有太宗遺詔在守而行之社稷之幸也后嘗以御寶空紙付幸臣奥都剌合蠻令自書塡行之楚材奏曰天下者先帝之天下朝廷自有憲章今欲紊之臣不敢奉詔事遂止復有旨凡奥都剌合蠻所奏准令史不爲之書者斷其手楚材曰軍國之事先帝悉委老臣令史何與焉事若合理自當奉行如不可行死且不避況斷手乎后以其先朝勛舊曲加敬憚焉楚材天資英邁復出人表雖案牘滿前酬答不失其宜正色立朝不爲勢屈欲以身徇天下每陳國家利病生民休戚辭色懇切太宗嘗曰汝又欲爲百姓哭耶楚材每言興一利不若除一害生一事不若減一事平居不妄言笑及接士人溫恭之容溢于外莫不感其德焉○元便宜總帥汪世顯卒世顯善兵能將重儒愛民勤儉自持有古名將之風○丙午淳祐六年元定宗即位于遮茂秃都定宗名貴由太宗長子也母曰六皇后乃馬眞氏初太宗有旨以皇孫失烈門爲嗣及殂后臨朝稱制者五年乃議立定宗○戊申淳祐八年元定宗尸位三年而殂壽四十三葬起輦谷追謚簡平皇帝○元自乃馬眞氏臨朝以來法制不一內外離心定宗既殂皇后海迷失抱子失烈門垂簾聽政諸王大臣不服共議立太弟蒙哥後三年即位是爲憲宗

〔字解〕（史藉之之言）兵を出すを止めし言葉なり（起復）再出仕なり（遺詔）失烈門を立つること（御寶空紙）御印のみある紙なり（憲章）制度なり（紊）乱なり糸のみだれること（奏准）奏上なり（令史）草案を作る役（英邁）秀ですぐれること（寶）遺なり（人表）衆人の上（徇）命をかけて從ふなり（尸位）空位にて實働なきもの（子失烈門）養子なり

〔講義〕甲辰淳祐四年是れより以前に鄭清之は相を止め爾行簡李宗勉なせは繼で政事をなしたるが決斷する所なし帝は史藉之の言葉を思ひ督府より召し入れて相とせりさて和を評議せんとするもいつも衆論に邪魔せられ清之は父なる彌忠の死去に當り知らせを聞て數日を歴てそこで行きたり又詔りありて再び出仕させ相となせり論者は名づけて權勢を貪る姦人と云ひ勉めて論じ攻めたればとうとう又相となるざりし范鍾や游侶や鄭清之や謝方叔や吳潛や董槐や程元鳳や丁大全なせは皆相となりしが毎年秋期の防禦を以て急事とせり元の中書令なる耶律楚材は死去せり皇后或る時太子の事を以て楚材に問ひたれば楚材は是れは外臣なる私の押て云ふ所にあらず只太宗の遺詔あれば夫れを守り行はゝ國家の幸なりと云へり又皇后が或る時御印計りある白紙を氣に入りの家來なる奥都剌合蠻にやり勝に其白紙に書きうづめて其事を執行させたるに楚材は上奏し天下は先帝の天下にて朝廷には自然と制度が備はりわり然るに今其制度を乱さんとすることゆへ私は押て詔を奉行せずと云へば其事はとうとう止みたり復皇后の仰せあり凡そ奥都剌合蠻の奏上する所を令史が草案を作らぬ時は其者の手を切らんと云へり楚材は軍事と國事とは先帝が恐く老臣なる拙者に任せられたり令史が何とて關係あらんや事柄が若し道理に合へば自分が奉行せん若し行ふことの出來ぬものゝ殺さるゝも避けずましてや手を切らるゝ位は何程のこともなしと云へり皇后は楚材の先朝の手柄ある舊臣ゆへ丁寧に敬ひ憚かれりさて楚材は生質が秀ですぐれ遠かに衆人の上に出て文案考牘が前に一杯になるも返答が宜しきを失はず顏色を正しくして朝廷に立ち勢の爲め心を屈せず我が身を以て天下の事に捨んと思ひいつも國家の利害や人民の苦樂を述ぶるときは言葉も顏色もねんごろにして親切なり因て太宗は其方は又百姓の爲めに泣かんとするやと云へり楚材はいつも一の利を起すは一の害を去るに越すことなく一の事を生ずるは一の事を減するに越すことなしと云へり楚材は平日より妄りに笑ひ語ることをせず士人に對するときは和らかく丁重なる樣子が溢れる計りなれば人皆其德性に感服せぬ者はなかりし元の便宜總帥なる汪世顯は死去せり世顯は上手に兵を使ひ能く下を從へ學者を重んじ人民を愛し勉强と儉約とを取り古の名高き大將の樣子ありたり丙午淳祐六年に元の定宗が逝去遮茂秃都にて即位せり定宗の名は貴由と云ひ太宗の長子にて母は六皇后と云ひ乃馬眞氏なり初め太宗ハ詔あり

て皇孫なる失烈門を以て跡繼ぎとせよと云へり然るに太宗の死去に及び皇后が朝廷に臨み政事を取ること五年にてそこで評議して定宗を立てたり戊申淳祐八年に定宗は空位にあること三年にして死去せり憲は四十三にて起葬谷に葬り追ひ送り名して簡平皇帝と云へり元は乃馬眞氏が朝廷に臨みしより以來は法度も乱れて内外の人々も心を離せり扨て定宗が已に死去し皇后なる海迷失が妻子なる失烈門を抱きて簾を垂れ政事を取りたるも諸王大臣は心服せず相共に評議して太弟なる蒙哥を立て後二年にして位に即けり是れを憲宗となせり○辛亥。淳祐十一年。元憲宗名蒙哥。太祖第四子拖雷之長子。先是諸大臣。欲奉曲出之子失烈門。久而不決。至是兀良哈歹。以太祖諸孫惟憲宗謙愼宜立。遂大會于闊帖兀阿蘭之地。而卽位焉。失烈門不服。憲宗因察諸王有異同者。並羈縻之。取主謀者。誅夷之。由是始定。○余玠大敗元人于興元。○元憲宗命太弟忽必烈。總治蒙古漢地民戶事。開府于金蓮川。先是姚樞隱居蘇門。以道自任。太弟召之。樞至。見太弟聰明才。不世出。虛己受言。將大有爲。乃盡其平日所學。爲書數千言。上之。首以二帝三王爲學之本。爲治之序。與治國平天下之大經。彙爲八目。曰。脩身。力學。尊賢。親親。畏天。愛民。好善。遠佞。次及時政之弊。爲條三十。本末兼該。細大不遺。太弟太奇其才。動必見詢。○元以史天澤。趙璧。爲河南經略使。○壬子。淳祐十二年。元定宗后。及失烈門母。以厭禳事覺。並賜死。謫失烈門及其黨。於沒脫赤之地。○六月。元憲宗以中州漢地封同姓。命太弟。於汴京關中。自擇其一。姚樞曰。南京。河徙無常。土薄水淺。鹵生之不若關中。厥田上上。古名天府。陸海。太弟遂請關中。由是太弟有關中河南之地。癸丑。寶祐元年。四川制置使余玠卒。以余晦爲四川宣諭使。○元太弟忽必烈平大理國。○甲寅。寶祐二年。時余晦宣撫四川。以私恨誣奏利路安撫王惟忠潛通北境。大理陳大方承旨鍛成之。惟忠將斬於市。色不變。謂大方曰。吾死訴於天。既斬。血逆流而上。未幾。大方入朝。恍惚與惟忠還。遂卒。先是朝廷用彭大雅理蜀。甚有威名。重築重慶城。余玠遷蜀郡平曠之地。分治險要。如合州治釣魚山之類。在蜀二十年。民籍以安。至余晦。貪繆罔功。敗失要地。以和州守劉雄飛爲四川制置。胡頴每見淫祠。卽毀之。人謂之胡打鬼。經畧廣東。廣有僧寺。佛像中有巨蛇。時出享人祭祀。僧托之題疏。得數千緡。頴至。毀佛。擊蛇。其怪遂息。(字解)(哈歹)首かたい(鞨靺)捕へくるゝなり(不世出)代々でぬの意(盛己)自分の心をなき樣にするなり(二帝)堯舜(三王)禹と湯と文武なり文王は德あるも眞王にあらず王号を送りたるなり武王は眞王なれども文王に及ばず故に文武を合せて一となし四王を以て三王と云ふなり(菓)類則なり(緋該)かねそなはるなり(詢)相談なり(厭禳)祈りのろふなり(河徙)黃河は定まらず出水毎に川敷が變するなり(鹵)水に洗はれ石殘り作物の出來ぬ土地を云ふ(天府)天然の金庫(陸海)陸上の海として產物の多きを云ふ(鍛成)種々の手立てを以て非を作りなすこと(恍惚)うつとりとすること(繆)よりもたれること(貪繆)强慾にして失策多きを云ふ(要地)紫金城なり(淫祠)みだりに

立てたる社なり(胡打鬼)胡は姓なり打鬼とは鬼神を打ちくだくの意(疏疏)勸進帳に付け錢を集めること(講義)辛亥淳祐十一年元の憲宗の名は蒙哥と云ひ太祖の第四子なる拖雷の長子なり是れより以前に諸大臣ハ曲出の子なる失烈門を立てんとし久しく決定せざりしが此時に至り兀良哈歹は太祖の諸孫の中にて只憲宗はへりくだり慎み深きゆへ立つべきと云ひ夫れより大ひに闊帖兀阿闌の地に集會して位に即けり因て失烈門は服從せぬゆへ憲宗は諸王中に異謀ある者を疑して並びに捕へ縛し發頭人を引き出して殺し平らげたれば是れによりて始めて定まりたり余玠は大ひに元人を與元にて破れり元の憲宗は太弟なる忽必烈に命じて寧古漢地の民戶の事を總べ治めさせ役所を金蓮川に立てたり是れより以前に姚樞は蘇門に隱居し德道を以て自分の任とせしが太弟は召したり扨て樞ハ來り太弟の聰明にしてオハ世々なき所なるも自分の量見をなきものにして人の言葉を受け入れ是れより大事業をなすの見込みあるを見てそこで平日より學びたる所を盡くし數千言の書を作りて差出し先づ初めに古の二帝三王が學をするの本と國を治むるの順序と國を治め天下を太平にするの大筋を述べ類別して八目となせり夫れは我が身を修めること勉め學ぶこと賢者を尊ぶこと親類と親密にすること天命を恐れること人民を愛養すること善人を好むこと佞人を遠ざけることなり又次ぎに時政の弊害を述べ夫れは三十ヶ條とし本も末も兼ね備はり小も大も漏らさゞれば太弟ハ甚だ樞の才を珍らしきものと思ひともすれば屹度相談せり元は史天澤と趙璧を以て河南の經畧使となせり壬子淳祐十二年に元の憲宗は中洲なる漢地を以て同姓の者りのろいの事は發覺して並びに殺され失烈門及び其徒黨を沒脫赤の地に流せり其六月に元の憲宗は中洲なる漢地を以て同姓の者に與へ大名となせり因て太弟に命じ汴京と關中の中にて一ヶ處を撰み取らせたれば太弟ハ姚樞に問ひしに樞は南京は河道が移ること常の定まりなく土は痩せ水は淺くひかた石地が出來るゆへ關中に越すことなし關中は其田地は上の上にて古へは天府陸海と名づけたりと云へば太弟はとうとう關中を乞ひ是れより太弟は關中河南の地を所有となせり癸丑寶祐元年に四川の制置使なる余玠が死去したれば余晦を以て四川の宣論使となせり元の太弟なる忽必烈は大理國を平定せり甲寅寶祐二年に此時余晦は四川を宣撫し私事の恨より利路の安撫使なる王惟忠は內々元に通ずると雷り云ひ立て又大理なる陳大方も內意を受けて惟忠の罪を作れり扨て惟忠は市中にて切らるゝに臨み顏色は少しも變せず大方に向ひ我れは死して天に無實を訴へんと云ひしが已に切りたるとき血はさか流れして上れり後何程もなく大方は入朝しついうつとりとして惟忠と共に歸ると思ひとうとう死したり扨て是れより以前朝廷は彭大雅を用ひて蜀を治めさせしに甚だ盛光名譽ありて重ねて重慶城を築けり余玠は又蜀地の平らかに廣き地にわる守りを移して險阻要害の處を分れ守り合州の釣魚山に守りを置きたる樣にし蜀にあること二十年にて人民は倦りもたれば安心なり然るに余晦に至りては强慾にして過ち多く少しも手柄なく失敗して要害を失ひたれば和州の守なる劉雄飛を以て四川制置となせり扨て胡穎は妄りなる神社を見れば直きに毀つゆへ人は胡打鬼と云へり廣東の經畧使となりしが廣に僧寺あり其寺の佛像中に大ひなる蛇が居り時々出でゝ人の祭りを受けたれば僧は此蛇にかこづけ勸進帳に付け立て錢を集め數千緡を得たり然るに穎が至り其佛像をくだきて蛇を打ち殺したれば其あやしき事は夫れより止みたり

○丙辰寶祐四年高麗王細嵯甫雲南酋長摩合羅嵯及素州諸國朝于元○元憲宗欲建城市爲都會之所太弟忽必烈言劉秉忠精於天文地理之術乃命相宅秉忠以桓州東灤水北之龍岡爲吉乃命秉忠營之名曰開平府三年而畢功○丁巳寶祐五年元出師南征回鶻獻水精盆珍珠傘可直銀三萬餘錠憲宗曰方今百姓疲弊所急者錢耳朕獨有此何用却之○十月元兀良哈歹伐安南屠其城○戊午寶祐六年二月安南王傳國於長子光昺遣使以方物獻于元○元討回回哈里發平之九月憲宗親帥大軍入蜀攻苦竹隘宋守將楊立張實死之是時元人勢欲順流東下一軍自大理國斡服南來歷邕桂之境以至潭州一軍渡江圍鄂州○罷丁大全以吳潛爲左相即軍中拜賈似道爲右相趙葵樞密策應使杜庶兩淮制置夏貴總領舟師呂文德等乘風戰勝潛以向士璧守潭適南來二哥元帥遇宋候騎而死潭圍先解高達等守鄂似道駐漢陽爲鄂援○已未開慶元年元憲宗圍合州遣使招諭守將王堅堅殺使者固守拒之○七月元憲宗殂於釣魚山在位九年壽五十二後追謚曰桓肅皇帝憲宗剛明雄毅沈斷寡言不樂宴飲不好侈靡雖后妃亦不過制太宗末年群臣

擅權政出多門至憲宗凡詔旨必親起草更易數四然後行之御群臣甚嚴嘗諭曰汝輩若得朕奬諭即志氣驕逸災禍未有不隨至者汝輩其戒之時太弟進攻鄂州宋守將張勝堅守不下遂死之〔字解〕（棄州）棄丹に作る（相宅）土地を見立てること（珍珠傘）珍珠にて飾りたるかさなり（龍丁大金）此條い下の巳未の條と入れ替へるを可とす（候騎）物見の騎士なり（雄殺）すぐれ心強きこと（多門）多くの家な り（奬諭）すゝめさとすにてつまり褒るに當るなり

〔講義〕丙辰寶祐四年に高麗王なる綱鎧甫と雲南の酋長なる摩合羅鎧及び棄丹の諸國元に入朝せり元の憲宗は城市を立てゝ人民貨物の集合する場所を作らんと思ひたれば太弟なる紇必烈は劉秉忠に命じて都城を營作させ名を開平府と付に命じたれば秉忠は桓州の東なる滑水の北手の龍岡を以て吉地と云ひたればそこで秉忠に命じて都城を營作させ名を開平府と付げ三ヶ年にて成就せり丁巳寶祐五年に元は軍を出して南征したれば回鶻は水精の盆と珍珠の傘とを献せり其價は銀三万餘錠計りなれば憲宗は今に當り百姓は疲れ果て差し急ぐ所は錢計りなり我れ此樣なる物なるも何にせんと云ひ遣し戻せり其十月に元の兀良哈歹は安南を伐ちて其城を屠れり戊午寶祐六年の二月に安南王は國を長子なる光昌に傳へ而を退はし方物を元に献せり元は回々哈里發を討ちて平らげたり其九月に憲宗は自分にて大軍を引き連れ蜀に入り苦竹隘を攻めたるに宋の守りの大將なる楊立と張實とは打死せり此時元人は勢に乘じ流に從ふて東に下らんと欲し一軍は大理國なる騎服の南より來り邕桂の界を通りて潭州に來り一軍は江を渡りて鄂州を圍めり扨て丁大全を止め吳潛を以て左相となし又軍中に就て賈似道を拜して右相となし趙葵を樞密使となし杜庶を兩淮制置使となし夏貴は舟師を總領し呂文德をば風に乘して戰ひ勝ち潛は向士璧を以て潭を守らせたり丁度南より來れる元の二哥元帥は宋の候騎に遭ふて殺され潭の圍みは先づ解けたり高達なる人い鄂を守り似道は漢陽に止まり鄂の援けをなしたり已未開慶元年に元の憲宗は合州を圍み使をやりて守りの大將なる王堅を招き諭したれど堅は使者を殺して固く守り防げり其七月に元の憲宗は釣魚山にて死去せり在位は九年にて然は五十二なり後に追ひ送り名して桓肅皇帝と云へり憲宗は心ふはく明らかにすぐれてつよく落ち付て決斷力あり言葉は至て少なく酒宴や酒を飲むを樂まず皇后や妃とても制度に越へぬことなり扨て太宗の末年には群臣が權勢を勝手にし政事が多くの家より出でたるも憲宗に至りて い總ての詔りい屹度自分にて草稿を書き更めかへるまと度々にて然る後に發行せり又群臣を使ふには先づ嚴重にして或る時諭し其る達は若し我れが警めを聞きすとき は直ぐに志も氣も高振り安んし福は夫れに付て來らぬことはなるなり其方達は茲に氣を付けよと云へり時に太弟い進みて鄂州を攻めしに宋の守りの大將なる張勝は固く守りて下らずとうとう打死せり

○似道自漢陽至鄂督師而太弟忽必烈攻城益急城中死傷者至萬三千人似道大懼密遣宋京詣元營請稱臣納幣太弟不許會合州守王堅遣人走鄂以憲宗訃聞于似道似道再遣宋京往元營太弟亦聞阿里不哥欲襲尊號郝經曰若彼果稱遣詔便正位號下詔中原行赦江上欲歸得乎願大王以社稷爲念班師議和置輜重率輕騎而歸直造天都遣一軍逆大行靈舁收皇帝璽遣使召旭烈阿里不哥諸王會喪和林差官諸路安輯命王長子眞金鎮守燕都示以形勢則大寶有歸而社稷安矣太弟然之乃許似道和且約歲幣之數遂拔寨而去留張傑閻旺以偏師候湖南兀良哈歹之兵○庚申景定元年元世祖名忽必烈憲宗同母弟也憲宗既殂阿藍答兒渾都海等謀立世祖弟阿里不哥憲宗后聞之遣使馳至鄂請速還春三月至開平諸王大臣同勸進三讓乃即位○元兀良哈歹會張傑于鄂州帥師北還宋賈似道命夏貴敗其後軍于新生磯遂匿其議和稱臣納幣之事上表言鄂圍始解江面肅清宗社危而復安實萬世無疆之休帝以似道有再造功下詔褒美賞賚甚厚○元阿里不哥僭號于和林城曲○五月十九日元建元中統○造中統交鈔○元世祖自將討

阿里不哥。○元廉希憲大敗西軍于姑滅。斬阿藍答兒及渾都海。○元以梵僧八合思八爲國師。○元遣鄂經來尋盟。且徵前日請和之議。賈似道既還朝。使其客廖瞻中撰福華編。稱頌鄂功。朝廷不知其求和也。

〔字解〕（遣）阮思聰なり（阿里不哥）世祖の弟（正位號）天子の位に即くこと（班）引き上げる（道）至るなり（天都）燕なり（大行）往て還らざること（靈旱）棺なり（安輯）安んし治めること（長子）二子なり（大寶）天位なり（候）うかゝひまつの意（肅清）靜かに清きこと（無疆）限りなきこと（休）目出度きこと（再造）已に亡びんとせしを救ひ立てること（賚）賜なり（遣中統交鈔）是れハ元の事なり夫れに元の字を置かず曾先之の目は宋なしとす（講義）似道は漢陽より鄂に至りて軍を監督せり然るに太弟なる忽必烈は城を攻むること益す急なれば城中の打死怪我する者は一万三千人に及べり似道は大に恐れ宋京をやりて元の陣に行き臣と稱し歲幣を入れるを乞へり太弟は許さず此時合州の守なる王堅が人を遣はして鄂に赴き憲宗の死去を似道に知らせたれば似道は再び宋京をやりて元の陣に行かせり太弟も亦阿里不哥が帝位を續かんとするを聞けり此時那經は扨て彼れが果して帝位に上り詔りを中原に下して大赦を江上まで行ふに至れば歸らんと思ふも歸ることならず因て何卒大王は國家を以て心となし軍を引き上げて和議をなし小荷駄を殘し身輕なる騎兵を引き連れて歸り直ぐに燕京に至り一軍をやりて先帝の棺を迎へ皇帝の御印を取り入れ使者をやりて旭烈や阿里不哥の諸王を召し和林に會葬させ又官吏を諸路にやりて安んし治めさせ大王の二子なる眞金に命して燕京を鎮め守らせ形勢を張り示さば帝位は大王に落ち付き國家も安泰ならんと云へば太弟も尤もなりとしそこで似道に和議を許し其上歲幣の數を約束し夫れより取り手を引き上げて去り張傑と關旺とを留め片備を以て湖南の兀良哈歹の兵を候ひ待たせたり庚申歲定元年元の世祖の名は忽必烈と云ひ憲宗の同母弟なり憲宗は已に死去し阿藍答兒や渾都海なとは世祖の弟なる阿里不哥を立てんと企てしに憲宗の皇后は此事を聞き使をやり馳せて鄂に至り速かに歸るを乞へり世祖は春三月に開平に至りしに諸王大臣は共に勸め進めたれば世祖は三たび辭退して位に即けり扨て元の兀良哈歹ハ張傑と鄂州にて會し軍を引き連れて北に歸りたれば宋の賈似道ハ夏貴に命じて元の後軍を新生磯にて破りとうとう自分が和を請し臣と稱し幣を入るゝと云ひしことを隱し表を奉り鄂の圍みは始めて解け江面ハ靜かに清く國家ハ危くして又安くなり實に万世限りなき目出度きことなりと云へば帝は似道は國家再造の手柄あるを以て詔りを下して賞め物を賜ふこと甚だ厚かりし元の阿里不哥ハ和林の城曲にて帝と僭号せり其五月十九日に元は年号を中統と立て又中統交鈔なる紙幣を發行せり元の世祖は自分が大將となり阿里不哥を征伐せり元の廉希憲は大ひに阿里不哥の軍を姑滅にて破り阿藍答兒及び渾都海を切りたり元は佛僧なる八合思八を以て國師となせり元は那經を遣し來りて盟を重ねる前日和を乞ふの約束の履行を求めり扨て賈似道は已に朝に歸り家來なる廖瞻中に福華編と云ふ書物を編集させ鄂の戰功を賞め立てさせたり因て朝廷ハ似道が和を乞ひしことハ少しも知らざることなり

○元世祖既立。廉希憲請遣使以息兵講好。命軍北歸。俾恩威並著。世祖善之。而不得其人。王文統素忌郝經才德。乃遣經行。或謂經曰。盍以疾辭。經曰。自南北構難。江淮遺黎。弱者被俘略。壯者死原野。兵連禍結。斯亦久矣。聖上一視同仁。務通兩國之好。雖以微軀蹈不測之淵。苟能弭兵靖亂。活百萬生靈於鋒鏑之下。吾學爲有用矣。遂行。王文統陰諷李璮侵宋以沮撓之。欲假手以害經。經踰淮。賈似道懼姦謀呈露。遂以李璮爲辭。拘留經于眞州之忠勇軍營。驛吏防守嚴。於獄犴。介佐或不能堪。經語之曰。將命至此。死生進退。聽其在彼。守節不屈。盡其在我。豈能不忠不義。以辱中州士大夫乎。但公等不幸。須忍死以待。揆之天時人事。宋祚殆不遠矣。衆感其言。皆自振勵。帝聞有北使。謂宰執曰。北朝使來。事體當議。似道奏。和出彼謀。豈容一切輕徇。倘以交鄰國之道來。當令入見。賈似道忌害閫臣。兵退行打算費用法。欲以此汚之。向士璧。趙葵。史岩之。杜庶等。皆坐侵盜掩匿。罷官徵償。而士璧所償尤多。竟安置而死。復拘其妻婁而徵之。猶不能足。信州謝枋得以趙葵檄。